

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コリツカクイカホジシトヤマカクイカク 国立大学法人富山大学								
フリガナ大学の名称	トヤマカクイカクイカク 富山大学大学院 (University of Toyama Graduate School)								
大学本部の位置	富山県富山市五福3190								
大学の目的	本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	人文社会芸術総合研究科は、人文・社会・芸術に関わる諸分野の視点から「“人”と“地”の健康」を実現する高度専門家養成機関として貢献することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 人文学部 人間発達科学部 経済学部 芸術文化学部
	人文社会芸術総合研究科 [Graduate School of Humanities, Arts, and Social Sciences]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	富山市五福3190 高岡市二上町180	
	人文社会芸術総合専攻 [Department of Humanities, Arts, and Social Sciences]	2	46	-	92	修士（心理学） 【Master of Psychology】 修士（文学） 【Master of Arts】 修士（芸術文化学） 【Master of Art and Design】 修士（経済学） 【Master of Economics】 修士（経営学） 【Master of Business Administration】	令和4年4月 第1年次		
	計		46	-	92				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	○学生募集の停止 人間発達科学部（廃止） 発達教育学科 (△80) 人間環境システム学科 (△90) 人文科学研究科（廃止） 人文科学専攻 (△8) 人間発達科学研究科（廃止） 発達教育専攻 (△6) 発達環境専攻 (△6)								

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	経済学研究科 (廃止)		
	地域・経済政策専攻	(△ 6)	
	企業経営専攻	(△12)	
	芸術文化学研究科 (廃止)		
	芸術文化学専攻	(△ 8)	
	医学薬学教育部		
	医科学専攻 (廃止)	(△15)	
	看護学専攻 (廃止)	(△16)	
	薬科学専攻 (廃止)	(△35)	
	理工学教育部		
	数学専攻 (廃止)	(△ 8)	
	物理学専攻 (廃止)	(△12)	
	化学専攻 (廃止)	(△12)	
	生物学専攻 (廃止)	(△12)	
	地球科学専攻 (廃止)	(△10)	
	生物圏環境科学専攻 (廃止)	(△10)	
	電気電子システム工学専攻 (廃止)	(△33)	
	知能情報工学専攻 (廃止)	(△27)	
	機械知能システム工学専攻 (廃止)	(△33)	
	生命工学専攻 (廃止)	(△18)	
	環境応用化学専攻 (廃止)	(△22)	
	材料機能工学専攻 (廃止)	(△20)	
	○設置		
	[学部]		
	教育学部共同教員養成課程	(85)	(令和3年9月届出予定)
	[大学院]		
	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻 (M)	(46)	(令和3年8月届出予定)
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (M)	(66)	(令和3年8月届出予定)
	理工学研究科 理工学専攻 (M)	(288)	(令和3年8月届出予定)
	持続可能社会創成学環 (M)	(18)	(令和3年8月届出予定)
	医薬理工学環 (M)	(37)	(令和3年8月届出予定)
	○名称変更		
令和4年4月名称変更予定			
理学部			
生物圏環境科学科 → 自然環境科学科			
○入学定員変更			
人文学部			
人文学科[定員増]	(18)	(令和4年4月)	
経済学部			
経済学科[定員増]	(15)	(令和4年4月)	
経営学科[定員増]	(8)	(令和4年4月)	
経営法学科[定員増]	(7)	(令和4年4月)	
理学部			
数学科[定員減]	(△5)	(令和4年4月)	
生物学科[定員増]	(3)	(令和4年4月)	
生物圏環境科学科[定員増]	(5)	(令和4年4月)	
薬学部			
薬学科[定員増]	(15)	(令和4年4月)	
創薬科学科[定員減]	(△15)	(令和4年4月)	
工学部			
工学科[定員増]	(15)	(令和4年4月)	
都市デザイン学部			
都市・交通デザイン学科[定員増]	(14)	(令和4年4月)	
材料デザイン工科[定員増]	(5)	(令和4年4月)	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	人文社会芸術総合研究科	322科目	260科目	8科目	590科目	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
	新設	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻（修士課程）	教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
		総合医薬学研究科 総合医薬学専攻（修士課程）	66 (66)	50 (50)	21 (21)	0 (0)	137 (137)	0 (0)	26 (26)	
		理工学研究科 理工学専攻（修士課程）	68 (68)	50 (50)	10 (10)	5 (5)	133 (133)	0 (0)	40 (40)	
		研究科等連係課程実施基本組織 持続可能社会創成学環（修士課程）	91 (93)	63 (63)	17 (17)	29 (29)	200 (202)	0 (0)	34 (34)	
		連係協力研究科（Ⅰ） 人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術 総合専攻	<1> 【17】 (18)	<2> 【9】 (11)	<1> 【1】 (2)	<1> 【2】 (3)	<5> 【29】 (34)	<0> 【0】 (0)	<0> 【39】 (39)	
		連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻								
		研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環（修士課程）								
		連係協力研究科（Ⅰ） 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻	<0> 【50】 (50)	<2> 【23】 (25)	<0> 【7】 (7)	<3> 【3】 (6)	<5> 【83】 (88)	<0> 【0】 (0)	<0> 【80】 (80)	
	連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻									
	計	226 (228)	167 (167)	49 (49)	38 (38)	480 (482)	0 (0)	- (-)		
既設	教職実践開発研究科（専門職学位課程）		6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	
	計		6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	- (-)	
合計		232 (234)	173 (173)	52 (52)	38 (38)	495 (497)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		379人 (379)		63人 (63)		442人 (442)			
	技術職員		955 (955)		34 (34)		989 (989)			
	図書館専門職員		18 (18)		0 (0)		18 (18)			
	その他の職員		22 (22)		15 (15)		37 (37)			
	計		1,374 (1,374)		112 (112)		1,486 (1,486)			
校地等	区分		専用		共用		共用する他の学校等の専用		計	
	校舎敷地		518,141 m ²		-		-		518,141 m ²	
	運動場用地		105,572 m ²		-		-		105,572 m ²	
	小計		623,713 m ²		-		-		623,713 m ²	
	その他		89,909 m ²		-		-		89,909 m ²	
	合計		713,622 m ²		-		-		713,622 m ²	
校舎	専用		共用		共用する他の学校等の専用		計			
	228,130 m ² (228,130 m ²)		-		-		228,130 m ² (228,130 m ²)			
教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設	
	131室		238室		653室		21室 (補助職員14人)		3室 (補助職員0人)	
専任教員研究室	新設学部等の名称				室数					
	人文社会芸術総合研究科				135室					

※令和3年8月設置届出予定

※令和3年8月設置届出予定

※令和3年8月設置届出予定

(注)
<>の中の数は研究科等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員。
【】の中の数は研究科等連係課程実施基本組織と連係協力研究科等を兼ねる専任教員。

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	研究科単位での 特定不能なた め、大学全体の 数
		冊		種			点	点	点	
		(1,346,198 [424,333])		(23,029 [7,203])		(15,147 [13,627])	(18,448)	(37)	(0)	
	大学全体	1,346,198 [424,333] (1,346,198 [424,333])		23,029 [7,203] (23,029 [7,203])		15,147 [13,627] (15,147 [13,627])	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)	
	計	1,346,198 [424,333] (1,346,198 [424,333])		23,029 [7,203] (23,029 [7,203])		15,147 [13,627] (15,147 [13,627])	18,448 (18,448)	37 (37)	0 (0)	
図書館		面積		閲覧座席数			収納可能冊数			大学全体
		13,840 m ²		1,512			1,056,750			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体
		7,112 m ²		弓道場・武道館 プール・テニスコート						
経費の 見積り 及び 維持 方法 の概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 富山大学									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超 過 率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	人文学部						1.04		富山県富山市五福 3190番地	
	人文学科	4	170	3年次 7	694	学士 (文学)	1.04	昭和52		
	人間発達科学部						1.03		富山県富山市五福 3190番地	
	発達教育学科	4	80	-	320	学士 (教育学)	1.05	平成17		
	人間環境システム学科	4	90	-	360	学士 (教育学)	1.02	平成17		
	経済学部						-		富山県富山市五福 3190番地	
	(昼間主コース)						1.02			
	経済学科	4	120	3年次 4	488	学士 (経済学)	1.04	平成30		
	経営学科	4	100	3年次 4	408	学士 (経営学)	1.01	平成30		
	経営法学科	4	85	3年次 2	344	学士 (法学)	1.01	平成30		
	(夜間主コース)						1.03			
	経済学科	4	10	-	40	学士 (経済学)	1.07	平成30		
	経営学科	4	10	-	40	学士 (経営学)	1.02	平成30		
	経営法学科	4	10	-	40	学士 (法学)	1.00	平成30		
理学部						1.04		富山県富山市五福 3190番地		
数学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	昭和52			
物理学科	4	40	3年次 1	162	学士 (理学)	1.06	昭和52			
化学科	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	1.05	昭和52			

既設大学等の状況	生物学科	4	35	3年次 1	142	学士 (理学)	1.05	昭和52		
	地球科学科	4	-	-	-	学士 (理学)	-	昭和52		※平成30年度より学生募集停止
	生物圏環境科学科	4	30	3年次 1	122	学士 (理学)	1.05	平成5		
	医学部						1.00		富山県富山市杉谷 2630番地	
	医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.00	昭和50		
	看護学科	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	1.00	平成5		
	薬学部						1.03		富山県富山市杉谷 2630番地	
	薬学科	6	55	-	330	学士 (薬学)	1.04	平成18		
	創薬科学科	4	50	-	200	学士 (薬科学)	1.05	平成18		
	工学部						1.02		富山県富山市五福 3190番地	
	工学科	4	365	3年次 17	1,494	学士 (工学)	1.02	平成30		
	電気電子システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より学生募集停止
	知能情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より学生募集停止
	機械知能システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9		※平成30年度より学生募集停止
	生命工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より学生募集停止
	環境応用化学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より学生募集停止
	材料機能工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20		※平成30年度より学生募集停止
	芸術文化学部						1.04		富山県高岡市二上 町180番地	
	芸術文化学科	4	110	-	440	学士 (芸術文化学)	1.04	平成17		
	都市デザイン学部						1.04		富山県富山市五福 3190番地	
	地球システム科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.01	平成30		
	都市・交通デザイン学科	4	40	3年次 1	162	学士 (工学)	1.04	平成30		
	材料デザイン工学科	4	60	3年次 2	244	学士 (工学)	1.08	平成30		
	大学全体	-	1,770	56	7,527	-	-	-		
	人文科学研究科 (修士課程)						0.93		富山県富山市五福 3190番地	
	人文科学専攻	2	8	-	16	修士 (文学)	0.93	平成23		
	人間発達科学研究科 (修士課程)						0.83		富山県富山市五福 3190番地	
発達教育専攻	2	6	-	12	修士 (教育学)	0.58	平成23			
発達環境専攻	2	6	-	12	修士 (教育学)	1.08	平成23			

既設大学等の状況	経済学研究科						0.88		富山県富山市五福3190番地
	(修士課程)								
	地域・経済政策専攻	2	6	-	12	修士(経済学)	0.83	平成3	
	企業経営専攻	2	12	-	24	修士(経営学)	0.91	平成3	
	芸術文化学研究科						1.24		富山県高岡市二上町180番地
	(修士課程)								
	芸術文化学専攻	2	8	-	16	修士(芸術文化学)	1.24	平成23	
	生命融合科学教育部						0.57		
	(博士課程)								
	認知・情動脳科学専攻	4	9	-	36	博士(医学)	0.62	平成18	富山県富山市杉谷2630番地
	生体情報システム科学専攻	3	4	-	12	博士(薬科学、理学又は工学)	0.50	平成18	富山県富山市五福3190番地
	先端ナノ・バイオ科学専攻	3	4	-	12	博士(薬科学、理学又は工学)	0.25	平成18	同上
	医学薬学教育部						0.81		富山県富山市杉谷2630番地
	(修士課程)						0.19		
	医科学専攻	2	15	-	30	修士(医科学)	0.19	平成18	
	(博士前期課程)						1.00		
	看護学専攻	2	16	-	32	修士(看護学)	0.40	平成27	
	薬科学専攻	2	35	-	70	修士(薬科学)	1.28	平成22	
	(博士後期課程)						1.03		
	看護学専攻	3	3	-	9	博士(看護学)	0.88	平成27	
	薬科学専攻	3	8	-	24	博士(薬科学)	1.08	平成24	
(博士課程)						0.73			
生命・臨床医学専攻	4	18	-	72	博士(医学)	0.97	平成18		
東西統合医学専攻	4	7	-	28	博士(医学)	0.42	平成18		
薬学専攻	4	4	-	16	博士(薬学)	0.25	平成24		
理工学教育部						1.29		富山県富山市五福3190番地	
(修士課程)						1.30			
数学専攻	2	8	-	16	修士(理学)	0.93	平成18		
物理学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	0.91	平成18		
化学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.37	平成18		
生物学専攻	2	12	-	24	修士(理学)	1.41	平成18		
地球科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.05	平成18		
生物圏環境科学専攻	2	10	-	20	修士(理学)	1.20	平成18		
電気電子システム工学専攻	2	33	-	66	修士(工学)	1.19	平成18		
知能情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	1.60	平成18		

既設 大学等 の 状況	機械知能システム工学専攻	2	33	-	66	修士 (工学)	1.52	平成18	富山県富山市五福 3190番地
	生命工学専攻	2	18	-	36	修士 (工学)	1.10	平成24	
	環境応用化学専攻	2	22	-	44	修士 (工学)	1.09	平成24	
	材料機能工学専攻	2	20	-	40	修士 (工学)	1.60	平成24	
	(博士課程)						1.33		
	数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	-	15	博士 (理学又は工学)	1.66	平成18	
	ナノ新機能物質科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学又は工学)	1.66	平成18	
	新エネルギー科学専攻	3	3	-	9	博士 (理学又は工学)	0.88	平成18	
	地球生命環境科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学又は工学)	0.91	平成18	
	教職実践開発研究科 (専門職学位課程)						1.03		
教職実践開発専攻	2	14	-	28	教職修士 (専門職)	1.03	平成28		
大学院全体	-	416	-	943	-	-	-	-	
<p>名称： 附属病院 目的： 診療を通じて医学，薬学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和54年4月 規模等： 建物 45,302㎡</p> <p>名称： 和漢医薬学総合研究所 目的： 和漢薬に関する学理及びその応用の研究を行うことを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和49年6月（富山大学附置和漢薬研究所） 昭和53年6月（富山医科薬科大学附置和漢薬研究所） 規模等： 建物 3,486㎡</p> <p>名称： 附属図書館 目的： 大学の理念・目標に基づき，教育及び研究に必要な図書，雑誌，データベースその他の資料を収集し，管理し，職員及び学生の利用に供することを目的とする。 所在地： （中央図書館）富山市五福3190 （医薬学図書館）富山市杉谷2630 （芸術文化図書館）高岡市二上町180 設置年月： （中央図書館）昭和24年5月 （医薬学図書館）昭和50年10月 （芸術文化図書館）昭和62年3月 規模等： （中央図書館）4,557㎡ （医薬学図書館）3,285㎡ （芸術文化図書館）966㎡</p> <p>名称： 教育・学生支援機構 目的： アドミッションポリシーで求める人材の確保，教育の質保証及び教育の質の向上並びに学生の充実した修学・生活環境の構築を図るために必要な全学的な施策の推進，調整，支援及び諸課題への対応を総合的に行い，もって人材の育成に寄与する。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 平成27年4月 規模等： 建物 多目的施設・学生会館 2,996㎡の一部</p> <p>名称： 研究推進機構 目的： 富山大学における特色ある研究の推進と，多様な分野での研究の推進を支援するとともに，世界と地域に向けて研究成果を発信し，将来を担う人材の育成に寄与する。 所在地： 富山市五福3190，富山市杉谷2630 設置年月： 平成27年4月 規模等： 建物 15,655㎡</p>									

附属施設の概要

名称：	地域連携推進機構
目的：	社会人教育による市民生活の充実及び地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点としての機能を果たすことにより、地域社会の発展に寄与する。
所在地：	富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180
設置年月：	平成20年7月
規模等：	建物 769㎡
名称：	国際機構
目的：	国際化推進に係る事業を統括支援し、大学の国際化を推進することを目的としている。
所在地：	富山市五福3190
設置年月：	平成11年4月（留学生センター） 平成25年10月（国際交流センター） 平成30年4月（国際機構）
規模等：	建物 380㎡
名称：	総合情報基盤センター
目的：	大学における情報通信、情報処理及び情報共有のためのシステムを円滑かつ効率的に運用管理し、教育研究及びその他の諸活動を支援するとともに、地域社会の発展に資することを目的とする。
所在地：	富山市五福3190
設置年月：	平成8年5月（総合情報処理センター） 平成15年4月（総合情報基盤センター）
規模等：	建物 3,296㎡
名称：	環境安全推進センター
目的：	環境配慮活動及び安全衛生の推進、薬品管理、排水管理、廃棄物管理、作業環境管理、作業管理及びその指導・助言を行い、教育研究等に伴う環境に配慮した活動を推進することを目的とする。
所在地：	富山市五福3190
設置年月：	平成26年4月
規模等：	建物 459㎡
名称：	自然観察実習センター
目的：	大学の共同教育研究施設として野外教育（自然観察・栽培等）の実習に利用すること及び本学の関連領域における教育・研究などの材料を育成管理し、提供することを目的とする。
所在地：	富山市寺町字草山2639-1
設置年月：	昭和56年7月
規模等：	土地 33,208㎡
名称：	保健管理センター
目的：	富山大学における保健管理及び健康支援、これに関する研究及び教育を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。
所在地：	富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180
設置年月：	平成17年10月
規模等：	建物 941㎡
名称：	人間発達科学部附属小学校
目的：	義務教育として行われる普通教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。
所在地：	富山市五艘1300
設置年月：	昭和26年4月（教育学部附属小学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属小学校）
規模等：	建物 4,870㎡
名称：	人間発達科学部附属中学校
目的：	義務教育として行われる普通教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。
所在地：	富山市五艘1300
設置年月：	昭和26年4月（教育学部附属中学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属中学校）
規模等：	建物 7,845㎡

附属施設の概要	<p>名称： 人間発達科学部附属幼稚園</p> <p>目的： 幼児の保育を行うとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における幼児の保育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属幼稚園） 平成17年10月（人間発達科学部附属幼稚園）</p> <p>規模等： 建物 978㎡</p>
	<p>名称： 人間発達科学部附属特別支援学校</p> <p>目的： 知的障害に係る特別支援教育を施すとともに、人間発達科学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和51年4月（教育学部附属養護学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属養護学校） 平成19年10月（人間発達科学部附属特別支援学校）</p> <p>規模等： 建物 3,655㎡</p>
	<p>名称： 人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター</p> <p>目的： 教育臨床・学習環境・教育工学・環境教育の4つの部門からなり、人間発達科学部、他学部、他大学、学校、教育機関、生涯学習施設、企業などと連携しながら研究プロジェクトを推進し、教育実践及び教育臨床に関する理論的、実践的並びに学際的研究を総合的に行う。</p> <p>所在地： 富山市五福3190</p> <p>設置年月： 昭和57年4月（教育学部附属教育実践研究指導センター） 平成17年10月（人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター）</p> <p>規模等： 建物 531㎡</p>
	<p>名称： 薬学部附属薬用植物園</p> <p>目的： 薬用植物を栽培し、学術研究及び教育に資することを目的とする。</p> <p>所在地： 富山市杉谷2630</p> <p>設置年月： 昭和54年6月（富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園）</p> <p>規模等： 土地 13,334㎡</p>

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人富山大学 設置計画等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山大学				富山大学				
人文学部 人文学科		3年次 7	694	人文学部 人文学科	188	7	766	定員変更(18)
人間発達科学部 発達教育学科	80	-	320	人間発達科学部 発達教育学科	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
人間環境システム学科	90	-	360	人間環境システム学科	0	-	0	
経済学部 3年次				経済学部 3年次				
経済学科 昼間主コース	120	4	488	経済学科 昼間主コース	135	4	548	定員変更(15)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
経営学科 昼間主コース	100	4	408	経営学科 昼間主コース	108	4	440	定員変更(8)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
経営法学科 昼間主コース	85	2	344	経営法学科 昼間主コース	92	2	372	定員変更(7)
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	10	-	40	
理学部 3年次				理学部 3年次				
数学科	50	-	200	数学科	45	-	180	定員変更(△5)
物理学科	40	1	162	物理学科	40	1	162	
化学科	35	1	142	化学科	35	1	142	
生物学科	35	1	142	生物学科	38	1	154	定員変更(3)
生物圏環境科学科	30	1	122	自然環境科学科	35	1	142	定員変更(5) 学科名称変更
医学部 2年次				医学部 2年次				
医学科(6年制)	105	5	655	医学科(6年制)	105	5	655	
看護学科 3年次	80	10	340	看護学科 3年次	80	10	340	
薬学部 3年次				薬学部 3年次				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	70	-	420	定員変更(15)
創薬科学科	50	-	200	創薬科学科	35	-	140	定員変更(△15)
工学部 3年次				工学部 3年次				
工学科	365	17	1494	工学科	380	17	1554	定員変更(15)
芸術化学部 芸術文化学科	110	-	440	芸術化学部 芸術文化学科	110	-	440	
都市デザイン学部 3年次				都市デザイン学部 3年次				
地球システム科学科	40	-	160	地球システム科学科	40	-	160	
都市・交通デザイン学科	40	1	162	都市・交通デザイン学科	54	1	218	定員変更(14)
材料デザイン工学科	60	2	244	材料デザイン工学科	65	2	264	定員変更(5)
計	1,770	56	7,527	計	1,770	56	7,557	
富山大学大学院				富山大学大学院				
人文科学研究科 人文科学専攻(M)	8	-	16	人文科学研究科 人文科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
人間発達科学研究科 発達教育専攻(M)	6	-	12	人間発達科学研究科 発達教育専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
発達環境専攻(M)	6	-	12	発達環境専攻(M)	0	-	0	
経済学研究科 地域・経済政策専攻(M)	6	-	12	経済学研究科 地域・経済政策専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
企業経営専攻(M)	12	-	24	企業経営専攻(M)	0	-	0	
芸術化学研究科 芸術化学専攻(M)	8	-	16	芸術化学研究科 芸術化学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻(M)				人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻(M)	46	-	92	研究科の設置(設置届出)
				(うち、人文社会芸術総合専攻から持続 可能社会創成学環の内数とする入学定 員数及び収容定員数)	(8)	-	(16)	※1
生命融合科学教育部 認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	生命融合科学教育部 認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	
生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	
先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	
医学薬学教育部 医科学専攻(M)	15	-	30	医学薬学教育部 医科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
薬科学専攻(M)	35	-	70	薬科学専攻(M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
薬科学専攻(D)	8	-	24	薬科学専攻(D)	8	-	24	
生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	
東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	
薬学専攻(4年制D)	4	-	16	薬学専攻(4年制D)	4	-	16	
看護学専攻(D)	3	-	9	看護学専攻(D)	3	-	9	

教育課程等の概要															
(人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理	1①・1③	1			○									兼4 オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③	1			○			2						兼7 オムニバス・メディア・共同 (一部)
	地域共生社会特論	1②		1		○									兼1
	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	1②		1		○			2	1					兼3 オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○			1	1	4				オムニバス・メディア・共同 (一部)
	英語論文作成 I	1①・1③		1		○									兼2 共同 (一部)
	英語論文作成 II	1②・1④		1		○									兼2 共同 (一部)
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1						兼7 オムニバス・メディア・共同 (一部)
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○			1	1					オムニバス・メディア・共同 (一部)
	知的財産法	1②・1④		1		○									兼3 オムニバス・メディア
小計 (10科目)	—	2	8	0	—			6	2	4				兼24	
研究科共通科目	地域づくり特論	1②		1		○			2	2					オムニバス
	現代心理学特論	1①		1		○			1	1					オムニバス メディア
	日本文芸原典研究	1①		1		○					1				
	コミュニティビジネス特論	1②		1		○			1						集中
	人文・社会の数理	1②		1		○			2						共同
	地域共創特別演習 (PBL)	1③④		2		○				1	1				共同
	小計 (6科目)	—	0	7	0	—			6	4	2				
心理学プログラム専門科目	心理学特論 I	1①		1		○			1						
	心理学特論 II	1②		1		○			1						
	心理学特論 III	1①		1		○				1					
	心理学特論 IV	1②		1		○				1					
	心理学特論 V	1①		1		○				1					
	心理学特論 VI	1②		1		○				1					
	心理学特論演習 I	1①		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 II	1②		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 III	1③		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 IV	1④		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 V	2①		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 VI	2②		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 VII	2③		1		○	○		1	2					
	心理学特論演習 VIII	2④		1		○	○		1	2					
	心理学研究法 I	1①②		2		○	○		1	3					共同
	心理学研究法 II	1③④		2		○	○		1	3					共同
	保健医療分野に関する理論と支援の展開 I	1①		1		○									兼1
	保健医療分野に関する理論と支援の展開 II	1②		1		○									兼1
	福祉分野に関する理論と支援の展開 I	1③		1		○				1					メディア
	福祉分野に関する理論と支援の展開 II	1④		1		○				1					メディア
	教育分野に関する理論と支援の展開 I	1③		1		○					1				
教育分野に関する理論と支援の展開 II	1④		1		○					1					
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 I	1③		1		○					1					
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 II	1④		1		○					1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
心理学プログラム専門科目	人文科学系 産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1①		1		○				1							
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1②		1		○					1						
	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ	1①		1		○					1						
	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ	1②		1		○					1						
	心理支援に関する理論と実践Ⅰ	2①		1		○			1								
	心理支援に関する理論と実践Ⅱ	2②		1		○			1								
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ	2③		1		○					1						
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ	2④		1		○					1						
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ	2③		1		○					1						
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅱ	2④		1		○					1						
	心理実践実習Ⅰ	1通		2				○	1		4					共同	
	心理実践実習Ⅱ	2通		2				○	1		4					共同	
	心理実践実習A	1通		2				○	1								
	心理実践実習B	1～2通		2				○							兼1		
心理実践実習C	1～2通		2				○							兼1	共同		
	小計(39科目)	—	0	46	0		—		2	3	5					兼1	
特別研究	課題研究Ⅰ	2①②	2				○		2	3	4						
	課題研究Ⅱ	2③④	2				○		2	3	4						
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		2	3	4						
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系 思想文化科目群																
	哲学特論Ⅰ	1①		1		○				1							
	哲学特論Ⅱ	1②		1		○				1							
	哲学特論Ⅲ	1③		1		○				1							
	哲学特論Ⅳ	1④		1		○				1							
	哲学特論演習Ⅰ	1①		1			○			1							
	哲学特論演習Ⅱ	1②		1			○			1							
	哲学特論演習Ⅲ	1③		1			○			1							
	哲学特論演習Ⅳ	1④		1			○			1							
	人間学特論Ⅰ	1①		1		○			1								
	人間学特論Ⅱ	1②		1		○			1								
	人間学特論Ⅲ	1③		1		○			1								
	人間学特論Ⅳ	1④		1		○			1								
	人間学特論Ⅴ	1①		1		○				1							
	人間学特論Ⅵ	1②		1		○				1							
	人間学特論Ⅶ	1③		1		○				1							
	人間学特論Ⅷ	1④		1		○				1							
	人間学特論演習Ⅰ	1①		1			○		1	1							
	人間学特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	1							
	人間学特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	1							
	人間学特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	1							
	歴史文化科目群																
	日本史学特論Ⅰ	1①		1		○			1								
	日本史学特論Ⅱ	1②		1		○			1								
	日本史学特論Ⅲ	1③		1		○			1								
	日本史学特論Ⅳ	1④		1		○			1								
	日本史学特論Ⅴ	1①		1		○					1						
日本史学特論Ⅵ	1②		1		○					1							
日本史学特論Ⅶ	1③		1		○					1							
日本史学特論Ⅷ	1④		1		○					1							
日本史学特論Ⅸ	1①		1		○				1								
日本史学特論Ⅹ	1②		1		○				1								
日本史学特論演習Ⅰ	1①・③		1			○		1	1	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文・芸術プログラム専門科目	日本語学特論V	1①		1		○				1						
	日本語学特論VI	1②		1		○				1						
	日本語学特論VII	1③		1		○				1						
	日本語学特論VIII	1④		1		○				1						
	日本語学特論演習I	1①・③		1			○		1	1						
	日本語学特論演習II	1②・④		1			○		1	1						
	日本語学特論演習III	1③		1			○		1							
	日本語学特論演習IV	1④		1			○		1							
	日本文学特論I	1①		1			○		1							
	日本文学特論II	1②		1			○		1							
	日本文学特論III	1③		1			○		1							
	日本文学特論IV	1④		1			○		1							
	日本文学特論V	1①		1			○					1				
	日本文学特論VI	1②		1			○						1			
	日本文学特論VII	1③		1			○							1		
	日本文学特論VIII	1④		1			○								1	
	日本文学特論IX	1①		1			○			1						
	日本文学特論X	1②		1			○			1						
	日本文学特論XI	1③		1			○			1						
	日本文学特論XII	1④		1			○			1						
	日本文学特論演習I	1①・③		1				○		2			1			
	日本文学特論演習II	1②・④		1				○		2			1			
	日本文学特論演習III	1③		1				○		1			1			
	日本文学特論演習IV	1④		1				○		1			1			
	漢文学特論I	1①		1			○			1						
	漢文学特論II	1②		1			○			1						
	漢文学特論III	1③		1			○			1						
	漢文学特論IV	1④		1			○			1						
	東アジア言語文化科目群															
	朝鮮言語文化特論I	1①		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論II	1②		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論III	1③		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論IV	1④		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論V	1①		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論VI	1②		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論VII	1③		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論VIII	1④		1			○				1					
	朝鮮言語文化特論演習I	1①		1				○			2					
	朝鮮言語文化特論演習II	1②		1				○			2					
	朝鮮言語文化特論演習III	1③		1				○			2					
	朝鮮言語文化特論演習IV	1④		1				○			2					
	中国語学特論I	1③		1			○			1						
	中国語学特論II	1④		1			○			1						
	中国語学特論演習I	1①		1				○		1						
	中国語学特論演習II	1②		1				○		1						
	中国語学特論演習III	1③		1				○		1						
	中国語学特論演習IV	1④		1				○		1						
	中国文学特論I	1①		1			○			1						
	中国文学特論II	1②		1			○			1						
	中国文学特論III	1①		1			○			1						
中国文学特論IV	1②		1			○			1							
中国文学特論V	1③		1			○			1							
中国文学特論VI	1④		1			○			1							
中国文学特論VII	1①		1			○				1						
中国文学特論VIII	1②		1			○				1						
中国文学特論IX	1③		1			○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文・芸術プログラム専門科目	中国文学特論X	1④		1		○				1							
	中国文学特論演習 I	1①		1			○		2	1							
	中国文学特論演習 II	1②		1			○		2	1							
	中国文学特論演習 III	1③		1			○		2	1							
	中国文学特論演習 IV	1④		1			○		2	1							
	英米言語文化科目群																
	英語学特論 I	1①		1		○				1							
	英語学特論 II	1②		1		○				1							
	英語学特論 III	1③		1		○				1							
	英語学特論 IV	1④		1		○				1							
	英語学特論演習 I	1①		1			○			1							
	英語学特論演習 II	1②		1			○			1							
	英語学特論演習 III	1③		1			○			1							
	英語学特論演習 IV	1④		1			○			1							
	英語文学特論 I	1①		1		○				1							
	英語文学特論 II	1②		1		○				1							
	英語文学特論演習 I	1③		1			○			1							
	英語文学特論演習 II	1④		1			○			1							
	英文学特論 I	1①		1		○			1								
	英文学特論 II	1②		1		○			1								
	英文学特論演習 I	1③		1			○		1								
	英文学特論演習 II	1④		1			○		1								
	イギリス言語文化特論 I	1①		1		○					1						
	イギリス言語文化特論 II	1②		1		○					1						
	イギリス言語文化特論 III	1③		1		○					1						
	イギリス言語文化特論 IV	1④		1		○					1						
	イギリス言語文化特論 V	1①		1		○			1								
	イギリス言語文化特論 VI	1②		1		○			1								
	イギリス言語文化特論 VII	1③		1		○			1								
	イギリス言語文化特論 VIII	1④		1		○			1								
	イギリス言語文化特論演習 I	1①		1			○		1	1							
	イギリス言語文化特論演習 II	1②		1			○		1	1							
	イギリス言語文化特論演習 III	1③		1			○		1	1							
	イギリス言語文化特論演習 IV	1④		1			○		1	1							
	アメリカ文化特論 I	1①		1		○					1						
	アメリカ文化特論 II	1②		1		○					1						
	アメリカ文化特論演習 I	1③		1			○				1						
	アメリカ文化特論演習 II	1④		1			○				1						
	アメリカ言語文化特論 I	1①		1		○			1								
	アメリカ言語文化特論 II	1②		1		○			1								
	アメリカ言語文化特論 III	1③		1		○			1								
	アメリカ言語文化特論 IV	1④		1		○			1								
	アメリカ言語文化特論 V	1①		1		○						1					
	アメリカ言語文化特論 VI	1②		1		○						1					
	アメリカ言語文化特論 VII	1③		1		○						1					
	アメリカ言語文化特論 VIII	1④		1		○						1					
	アメリカ言語文化特論演習 I	1①		1			○		1	1							
	アメリカ言語文化特論演習 II	1②		1			○		1	1							
	アメリカ言語文化特論演習 II	1③		1			○		1	1							
	アメリカ言語文化特論演習 IV	1④		1			○		1	1							
ヨーロッパ言語文化科目群																	
ドイツ言語文化特論 I	1①		1		○			1									
ドイツ言語文化特論 II	1②		1		○			1									
ドイツ言語文化特論 III	1③		1		○			1									
ドイツ言語文化特論 IV	1④		1		○			1									
ドイツ言語文化特論 V	1①		1		○					1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
人文・芸術プログラム専門科目	ドイツ言語文化特論Ⅵ	1②		1		○				1							
	ドイツ言語文化特論Ⅶ	1③		1		○				1							
	ドイツ言語文化特論Ⅷ	1④		1		○				1							
	ドイツ言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1	1							
	ドイツ言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	1							
	ドイツ言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	1							
	ドイツ言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	1							
	フランス言語文化特論Ⅰ	1①		1		○			1								
	フランス言語文化特論Ⅱ	1②		1		○			1								
	フランス言語文化特論Ⅲ	1③		1		○			1								
	フランス言語文化特論Ⅳ	1④		1		○			1								
	フランス言語文化特論Ⅴ	1①		1		○				1							
	フランス言語文化特論Ⅵ	1②		1		○				1							
	フランス言語文化特論Ⅶ	1③		1		○				1							
	フランス言語文化特論Ⅷ	1④		1		○				1							
	フランス言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1	1							
	フランス言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	1							
	フランス言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	1							
	フランス言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	1							
	ロシア言語文化特論Ⅰ	1①		1		○			1								
	ロシア言語文化特論Ⅱ	1②		1		○			1								
	ロシア言語文化特論Ⅲ	1③		1		○			1								
	ロシア言語文化特論Ⅳ	1④		1		○			1								
	ロシア言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1								
	ロシア言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1								
	ロシア言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○		1								
ロシア言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1									
小計(276科目)		—	0	276	0			—	27	20	4						
芸術文化学系	芸術文化科目群																
	平面表現特別演習A	1①②		2			○				1						
	平面表現特別演習B	1③④		2			○				1						
	平面表現特別演習C	2①②		2			○				1						
	平面表現特別演習D	2①②		2			○				1						
	立体表現特別演習A	1③④		2			○				1						
	立体表現特別演習B	1③④		2			○				1						
	立体表現特別演習C	2①②		2			○				1						
	立体表現特別演習D	2①②		2			○				1						
	像情報処理特論	1③		2		○										兼1	
	像情報処理特論演習	1④		2			○									兼1	
	デジタルアート特論演習A	1③④		2			○		1								
	デジタルアート特論演習B	2①②		2			○		1								
	漆工芸特別演習A	1①②		2			○				1						
	漆工芸特別演習B	1③④		2			○		1								
	漆工芸特別演習C	2①②		2			○				1						
	漆工芸特別演習D	2①②		2			○		1								
	木材工芸特別演習A	1②		2			○			1							
	木材工芸特別演習B	1③④		2			○				1						
	木材工芸特別演習C	2①		2			○			1							
	金属工芸特別演習A	1①		2			○			1							
	金属工芸特別演習B	1③		2			○			1							
	金属工芸特別演習C	2①		2			○			1							
	金属工芸特別演習D	2①		2			○			1							
	材料共生学特論	1②		2		○			1								
	材料共生学特論演習	1③		2			○		1								
デザインマネジメント特論演習	2①②		2			○			1								
デザイン特別演習A	1①		2			○			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文・芸術プログラム専門科目	デザイン特別演習B	1③		2			○		1						オムニバス 共同 共同 共同、集中 共同、集中 共同、集中
	デザイン特別演習C	2①②		2			○				1				
	建築計画特論	1④		2		○					1				
	建築計画特論演習	2①②		2			○				1				
	建築設計特論	1②		2		○			1	1					
	建築設計特論演習A	1①②		2			○			1					
	建築設計特論演習B	1③④		2			○		1						
	建築設計特論演習C	2①②		2			○		1	1					
	構造設計特論	1③		2		○			1						
	構造設計特論演習	2①②		2			○		1						
	働態学特論	1②		2			○		1						
	働態学特論演習	1③		2			○		1						
	建築再生設計特論	1①		2			○				1				
	建築再生設計特論演習	1③④		2			○				2				
	建築設計実務実習Ⅰ	1休			6			○	1	2					
	建築設計実務実習Ⅱ	1休			6			○	1	2					
	建築設計実務実習Ⅲ	1休			2			○	1	2					
	美学特論演習Ⅰ	1②		2			○				1				
	美学特論演習Ⅱ	1③		2			○				1				
	伝統文化特論	1①		2			○		1						
	伝統文化特論演習	1④		2			○		1						
	文化資源特論	1②		2			○				1				
	文化資源特論演習	1④		2			○				1				
	風景資源特論	1③		2			○		1						
	風景資源特論演習	2①		2			○		1						
	日本・東洋美術史特論	1①		2			○				1				
	日本・東洋美術史特論演習	1③		2			○				1				
	現代美術特論	1①		2			○					1			
	現代美術特論演習	1③		2			○					1			
	芸術文化学Ⅰ	1①②		2			○		9	10	8				
	芸術文化学Ⅱ	1③④		2			○		9	10	8				
	小計(58科目)	—	0	110	14		—		9	10	9			兼1	
	特別研究	課題研究Ⅰ	2①②	2				○		36	27	12			
課題研究Ⅱ		2③④	2				○		36	27	12				
小計(2科目)		—	4	0	0		—		36	27	12				
共創経済プログラム専門科目	基盤科目														
	政治経済学特論Ⅰ	1①③		1			○				1				
	政治経済学特論Ⅱ	1②④		1			○				1				
	現代経済理論特論Ⅰ	1①③		1			○				1				
	現代経済理論特論Ⅱ	1②④		1			○				1				
	日本経済史特論Ⅰ	1①③		1			○				1				
	日本経済史特論Ⅱ	1②④		1			○				1				
	計量経済学特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	計量経済学特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	発展科目														
	応用経済学特論Ⅰ	1①③		1			○				1				
	応用経済学特論Ⅱ	1②④		1			○				1				
	環境産業特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	環境産業特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	地域社会学特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	地域社会学特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	社会調査法特論Ⅰ	1①③		1			○	※	1					※演習	
社会調査法特論Ⅱ	1②④		1			○	※	1					※演習		
地域の産業と企業特論Ⅰ	1①③		1			○		1							
地域の産業と企業特論Ⅱ	1②④		1			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共創経済プログラム専門科目	経済学系														
	応用計量経済学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	金融の計量経済分析演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	金融の計量経済分析演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	金融論演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	金融論演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	財政学演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	財政学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	公共・政治経済学演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	公共・政治経済学演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	国際経済学演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	国際経済学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	政治学・政策過程演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	政治学・政策過程演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	刑事法演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	刑事法演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	刑事訴訟法演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	刑事訴訟法演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	刑法演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	刑法演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	小計(92科目)		—	0	92	0		—	14	9	1				
経営学系	基盤科目														
	経営学特論Ⅰ	1①③	1				○		1						
	経営学特論Ⅱ	1②④	1				○		1						
	経営組織特論Ⅰ	1①③		1			○			1					
	経営組織特論Ⅱ	1②④		1			○			1					
	マーケティング特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	マーケティング特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	財務会計特論Ⅰ	1①③		1			○			1					
	財務会計特論Ⅱ	1②④		1			○			1					
	情報システム特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	情報システム特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	発展科目														
	国際経営特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	国際経営特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	消費者行動特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	消費者行動特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	多国籍企業特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	多国籍企業特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	アントレプレナーシップ特論	1①③		1			○		1						
	スポーツマネジメント特論Ⅰ	1①③		1			○			1					
	スポーツマネジメント特論Ⅱ	1②④		1			○			1					
	原価計算特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	原価計算特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	管理会計特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	管理会計特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	コストマネジメント特論Ⅰ	1①③		1			○			1					
	コストマネジメント特論Ⅱ	1②④		1			○			1					
	オペレーションズ・リサーチ特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	オペレーションズ・リサーチ特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	数理計画法特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	数理計画法特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	経営数学特論Ⅰ	1①③		1			○				1				
	経営数学特論Ⅱ	1②④		1			○				1				
	民法Ⅰ特論-A	1①③		1			○		1						
民法Ⅰ特論-B	1②④		1			○		1							
民法Ⅱ特論-A	1①③		1			○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共創経済プログラム専門科目	経営学系	商法演習Ⅰ	1③	1			○			1						
		商法演習Ⅱ	1④	1			○			1						
		税法演習Ⅰ	1③	1			○			1						
		税法演習Ⅱ	1④	1			○			1						
		会社法演習Ⅰ	1③	1			○			1						
		会社法演習Ⅱ	1④	1			○			1						
		金融取引法演習Ⅰ	1③	1			○		1							
		金融取引法演習Ⅱ	1④	1			○		1							
		小計(97科目)	—	2	95	0		—		14	8	2				
	デザイン系	デザインマネジメント特論演習	2①②		2			○			1					
デザイン特別演習A		1①		2			○		1							
デザイン特別演習B		1③		2			○				1					
デザイン特別演習C		2①②		2			○									
文化資源特論		1②		2		○				1						
文化資源特論演習		1④		2			○			1						
	小計(6科目)	—	0	12	0		—		1	3	1					
特別研究	課題研究Ⅰ	2①②	2				○		28	10						
	課題研究Ⅱ	2③④	2				○		28	10						
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		28	10						
合計(590科目)		—	16	646	14		—		66	50	21				兼26	
学位又は称号	修士(心理学) 修士(文学) 修士(芸術文化学) 修士(経済学) 修士(経営学)	学位又は学科の分野				文学関係 美術関係 経済学関係										

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
修了要件及び履修方法						授業期間等											
<p>心理学プログラム【修士（心理学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：2単位 心理学プログラム専門科目：① 20単位以上選択 ② 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>人文・芸術プログラム【修士（文学），修士（芸術文化学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：4単位修得 ○修士（文学） 人文・芸術プログラム専門科目： ① 人文科学系から1つの科目群を選択し， その中から8単位選択必修 ② ①の単位を含め，人文科学系から12単位 以上選択 ③ 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>○修士（芸術文化学） 人文・芸術プログラム専門科目： ① 芸術文化学系の科目から芸術文化学研究 I・IIを含め，12単位以上選択 ② 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>共創経済プログラム【修士（経済学），修士（経営学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：4単位修得 ○修士（経済学） 共創経済プログラム専門科目： ① 経済学系の科目のうち，基盤科目から現代 経済理論特論I・IIもしくは政治経済学特 論I・IIを含む4単位以上，発展科目から 4単位以上，実践科目から2単位以上選択 ② 他系科目及び他プログラム科目から4単位 以上選択 ③ 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>○修士（経営学） 共創経済プログラム専門科目： ① 経営学系の科目のうち，基盤科目から必修 2単位を含む4単位以上，発展科目から4 単位以上，実践科目から2単位以上選択 ② 他系科目及び他プログラム科目から4単位 以上選択 ③ 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p>						1学年の学期区分							4期				
						1学期の授業期間							8週				
						1時限の授業時間							90分				

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
(人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理	1①・1③	1			○									兼4 オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③	1			○			2						兼7 オムニバス・メディア・共同（一部）
	地域共生社会特論	1②		1		○									兼1
	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	1②		1		○			2	1					兼3 オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○			1	1	4				兼3 オムニバス・メディア・共同（一部）
	英語論文作成Ⅰ	1①・1③		1		○									兼2 共同（一部）
	英語論文作成Ⅱ	1②・1④		1		○									兼2 共同（一部）
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1						兼7 オムニバス・メディア・共同（一部）
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○			1	1					兼1 オムニバス・メディア・共同（一部）
知的財産法	1②・1④		1		○									兼3 オムニバス・メディア	
小計（10科目）	—	—	2	8	0	—	—	—	6	2	4	0		兼25	
研究科共通科目	地域づくり特論	1②		1		○			2	2					オムニバス
	現代心理学特論	1①		1		○			1	1					オムニバス メディア
	日本文芸原典研究	1①		1		○					1				
	コミュニティビジネス特論	1②		1		○			1						集中
	人文・社会の数理	1②		1		○			2						共同
小計（5科目）	—	0	5	0	—	—	—	6	3	1					
心理学プログラム専門科目	人文科学系														
	心理学特論Ⅰ	1①		1		○			1						
	心理学特論Ⅱ	1②		1		○			1						
	心理学特論Ⅲ	1①		1		○				1					
	心理学特論Ⅳ	1②		1		○				1					
	心理学特論Ⅴ	1①		1		○				1					
	心理学特論Ⅵ	1②		1		○				1					
	心理学特論演習Ⅰ	1①		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅴ	2①		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅵ	2②		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅶ	2③		1			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅷ	2④		1			○		1	2					
	心理学研究法Ⅰ	1①②		2			○		1	3					共同
	心理学研究法Ⅱ	1③④		2			○		1	3					共同
	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1①		1		○									兼1
	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1②		1		○									兼1
	福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1③		1		○				1					メディア
福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1④		1		○				1					メディア	
教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1③		1		○					1					
教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1④		1		○					1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
心理学 プログラム 専門科目	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1③		1		○					1					
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1④		1		○					1					
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1①		1		○			1							
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	1②		1		○					1					
	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ	1①		1		○					1					
	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ	1②		1		○					1					
	心理支援に関する理論と実践Ⅰ	2①		1		○			1							
	心理支援に関する理論と実践Ⅱ	2②		1		○			1							
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ	2③		1		○					1					
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ	2④		1		○					1					
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ	2③		1		○					1					
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅱ	2④		1		○					1					
	心理実践実習Ⅰ	1通		2				○	1		4				共同	
	心理実践実習Ⅱ	2通		2				○	1		4				共同	
	心理実践実習A	1通		2				○	1							
	心理実践実習B	1～2通		2				○						兼1		
	心理実践実習C	1～2通		2				○				3			共同	
	小計（39科目）	—	0	46	0	—			2	3	5			兼1		
	特別 研究	課題研究Ⅰ	2①②	2				○		2	3	4				
		課題研究Ⅱ	2③④	2				○		2	3	4				
小計（2科目）		—	4	0	0	—			2	3	4					
人文・ 芸術 プログラム 専門科目	思想文化科目群															
	哲学特論Ⅰ	1①		1		○				1						
	哲学特論Ⅱ	1②		1		○				1						
	哲学特論Ⅲ	1③		1		○				1						
	哲学特論Ⅳ	1④		1		○				1						
	哲学特論演習Ⅰ	1①		1			○			1						
	哲学特論演習Ⅱ	1②		1			○			1						
	哲学特論演習Ⅲ	1③		1			○			1						
	哲学特論演習Ⅳ	1④		1			○			1						
	人間学特論Ⅰ	1①		1		○			1							
	人間学特論Ⅱ	1②		1		○			1							
	人間学特論Ⅲ	1③		1		○			1							
	人間学特論Ⅳ	1④		1		○			1							
	人間学特論Ⅴ	1①		1		○				1						
	人間学特論Ⅵ	1②		1		○				1						
	人間学特論Ⅶ	1③		1		○				1						
	人間学特論Ⅷ	1④		1		○				1						
	人間学特論演習Ⅰ	1①		1			○		1	1						
	人間学特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	1						
	人間学特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	1						
	人間学特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	1						
	歴史文化科目群															
	日本史学特論Ⅰ	1①		1		○			1							
	日本史学特論Ⅱ	1②		1		○			1							
	日本史学特論Ⅲ	1③		1		○			1							
日本史学特論Ⅳ	1④		1		○			1								
日本史学特論Ⅴ	1①		1		○					1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系														
	日本史学特論Ⅵ	1②		1		○						1			
	日本史学特論Ⅶ	1③		1		○						1			
	日本史学特論Ⅷ	1④		1		○						1			
	日本史学特論Ⅸ	1①		1		○					1				
	日本史学特論Ⅹ	1②		1		○					1				
	日本史学特論演習Ⅰ	1①・③		1			○			1	1	1			
	日本史学特論演習Ⅱ	1②・④		1				○		1	1	1			
	日本史学特論演習Ⅲ	1③		1				○		1		1			
	日本史学特論演習Ⅳ	1④		1				○		1		1			
	東洋史学特論Ⅰ	1①		1			○			1					
	東洋史学特論Ⅱ	1②		1			○			1					
	東洋史学特論Ⅲ	1③		1			○			1					
	東洋史学特論Ⅳ	1④		1			○			1					
	東洋史学特論演習Ⅰ	1①		1				○		1					
	東洋史学特論演習Ⅱ	1②		1				○		1					
	東洋史学特論演習Ⅲ	1③		1				○		1					
	東洋史学特論演習Ⅳ	1④		1				○		1					
	西洋史学特論Ⅰ	1①		1			○			1					
	西洋史学特論Ⅱ	1②		1			○			1					
	西洋史学特論Ⅲ	1①		1			○			1					
	西洋史学特論Ⅳ	1②		1			○			1					
	西洋史学特論Ⅴ	1①		1			○				1				
	西洋史学特論Ⅵ	1②		1			○				1				
	西洋史学特論Ⅶ	1①		1			○				1				
	西洋史学特論Ⅷ	1②		1			○				1				
	西洋史学特論Ⅸ	1①		1			○			1					
	西洋史学特論Ⅹ	1②		1			○			1					
	西洋史学特論演習Ⅰ	1①・③		1				○		3	2				
	西洋史学特論演習Ⅱ	1②・④		1				○		3	2				
	西洋史学特論演習Ⅲ	1③		1				○		2	2				
	西洋史学特論演習Ⅳ	1④		1				○		2	2				
	考古学特論Ⅰ	1①		1			○			1					
	考古学特論Ⅱ	1②		1			○			1					
	考古学特論Ⅲ	1③		1			○			1					
	考古学特論Ⅳ	1④		1			○			1					
	考古学特論Ⅴ	1①		1			○			1					
	考古学特論Ⅵ	1②		1			○			1					
	考古学特論Ⅶ	1③		1			○			1					
	考古学特論Ⅷ	1④		1			○			1					
	考古学特論演習Ⅰ	1①		1				○		2					
	考古学特論演習Ⅱ	1②		1				○		2					
	考古学特論演習Ⅲ	1③		1				○		2					
	考古学特論演習Ⅳ	1④		1				○		2					
	行動社会科目群														
	言語学特論Ⅰ	1①		1			○			1					
言語学特論Ⅱ	1②		1			○			1						
言語学特論Ⅲ	1③		1			○			1						
言語学特論Ⅳ	1④		1			○			1						
言語学特論Ⅴ	1①		1			○				1					
言語学特論Ⅵ	1②		1			○				1					
言語学特論Ⅶ	1③		1			○				1					
言語学特論Ⅷ	1④		1			○				1					
言語学特論演習Ⅰ	1①		1				○		1	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
人文・芸術 プログラム 専門科目	言語学特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	1					
	言語学特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	1					
	言語学特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	1					
	社会学特論Ⅰ	1①		1		○			1						
	社会学特論Ⅱ	1②		1		○			1						
	社会学特論Ⅲ	1③		1		○			1						
	社会学特論Ⅳ	1④		1		○			1						
	社会学特論Ⅴ	1①		1		○			1						
	社会学特論Ⅵ	1②		1		○			1						
	社会学特論Ⅶ	1③		1		○			1						
	社会学特論Ⅷ	1④		1		○			1						
	社会学特論Ⅸ	1①		1		○				1					
	社会学特論Ⅹ	1②		1		○				1					
	社会学特論演習Ⅰ	1①・③		1			○		2	1					
	社会学特論演習Ⅱ	1②・④		1			○		2	1					
	社会学特論演習Ⅲ	1③		1			○		2						
	社会学特論演習Ⅳ	1④		1			○		2						
	国際関係特論Ⅰ	1①		1		○				1					
	国際関係特論Ⅱ	1②		1		○				1					
	国際関係特論Ⅲ	1③		1		○				1					
	国際関係特論Ⅳ	1④		1		○				1					
	国際関係特論演習Ⅰ	1①		1			○			1					
	国際関係特論演習Ⅱ	1②		1			○			1					
	国際関係特論演習Ⅲ	1③		1			○			1					
	国際関係特論演習Ⅳ	1④		1			○			1					
	社会文化科目群														
	人文地理学特論Ⅰ	1①		1		○				1					
	人文地理学特論Ⅱ	1②		1		○				1					
	人文地理学特論Ⅲ	1③		1		○				1					
	人文地理学特論Ⅳ	1④		1		○				1					
	人文地理学特論Ⅴ	1①		1		○					1				
	人文地理学特論Ⅵ	1②		1		○					1				
	人文地理学特論Ⅶ	1③		1		○					1				
	人文地理学特論Ⅷ	1④		1		○					1				
	人文地理学特論Ⅸ	1①		1		○				1					
	人文地理学特論Ⅹ	1②		1		○				1					
	人文地理学特論演習Ⅰ	1①・③		1			○		2	1					
	人文地理学特論演習Ⅱ	1②・④		1			○		2	1					
	人文地理学特論演習Ⅲ	1③		1			○		1	1					
	人文地理学特論演習Ⅳ	1④		1			○		1	1					
	文化人類学特論Ⅰ	1①		1		○				1					
文化人類学特論Ⅱ	1②		1		○				1						
文化人類学特論Ⅲ	1③		1		○				1						
文化人類学特論Ⅳ	1④		1		○				1						
文化人類学特論Ⅴ	1①		1		○					1					
文化人類学特論Ⅵ	1②		1		○					1					
文化人類学特論Ⅶ	1③		1		○					1					
文化人類学特論Ⅷ	1④		1		○					1					
文化人類学特論演習Ⅰ	1①		1			○		1	1						
文化人類学特論演習Ⅱ	1②		1			○		1	1						
文化人類学特論演習Ⅲ	1①		1			○		1	1						
文化人類学特論演習Ⅳ	1②		1			○		1	1						
スポーツ文化史特論Ⅰ	1①		1		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文・芸術 プログラム 専門科目	スポーツ文化史特論Ⅱ	1②		1		○			1						
	スポーツ文化史特論演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	スポーツ文化史特論演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	日本語学文化科目群														
	日本語学特論Ⅰ	1①		1		○			1						
	日本語学特論Ⅱ	1②		1		○			1						
	日本語学特論Ⅲ	1③		1		○			1						
	日本語学特論Ⅳ	1④		1		○			1						
	日本語学特論Ⅴ	1①		1		○				1					
	日本語学特論Ⅵ	1②		1		○				1					
	日本語学特論Ⅶ	1③		1		○				1					
	日本語学特論Ⅷ	1④		1		○				1					
	日本語学特論演習Ⅰ	1①・③		1			○			1	1				
	日本語学特論演習Ⅱ	1②・④		1			○			1	1				
	日本語学特論演習Ⅲ	1③		1			○			1					
	日本語学特論演習Ⅳ	1④		1			○			1					
	日本文学特論Ⅰ	1①		1		○				1					
	日本文学特論Ⅱ	1②		1		○				1					
	日本文学特論Ⅲ	1③		1		○				1					
	日本文学特論Ⅳ	1④		1		○				1					
	日本文学特論Ⅴ	1①		1		○					1				
	日本文学特論Ⅵ	1②		1		○					1				
	日本文学特論Ⅶ	1③		1		○					1				
	日本文学特論Ⅷ	1④		1		○					1				
	日本文学特論Ⅸ	1①		1		○				1					
	日本文学特論Ⅹ	1②		1		○				1					
	日本文学特論Ⅺ	1③		1		○				1					
	日本文学特論Ⅻ	1④		1		○				1					
	日本文学特論演習Ⅰ	1①・③		1			○			2		1			
	日本文学特論演習Ⅱ	1②・④		1			○			2		1			
	日本文学特論演習Ⅲ	1③		1			○			1		1			
	日本文学特論演習Ⅳ	1④		1			○			1		1			
	漢文学特論Ⅰ	1①		1		○				1					
	漢文学特論Ⅱ	1②		1		○				1					
	漢文学特論Ⅲ	1③		1		○				1					
	漢文学特論Ⅳ	1④		1		○				1					
	東アジア言語文化科目群														
	朝鮮言語文化特論Ⅰ	1①		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅱ	1②		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅲ	1③		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅳ	1④		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅴ	1①		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅵ	1②		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅶ	1③		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論Ⅷ	1④		1		○					1				
	朝鮮言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○				2				
	朝鮮言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○				2				
朝鮮言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○				2					
朝鮮言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○				2					
中国語学特論Ⅰ	1③		1		○				1						
中国語学特論Ⅱ	1④		1		○				1						
中国語学特論演習Ⅰ	1①		1			○			1						
中国語学特論演習Ⅱ	1②		1			○			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文・芸術プログラム専門科目	中国語学特論演習Ⅲ	1③		1			○		1							
	中国語学特論演習Ⅳ	1④		1			○		1							
	中国文学特論Ⅰ	1①		1		○			1							
	中国文学特論Ⅱ	1②		1		○			1							
	中国文学特論Ⅲ	1①		1		○			1							
	中国文学特論Ⅳ	1②		1		○			1							
	中国文学特論Ⅴ	1③		1		○			1							
	中国文学特論Ⅵ	1④		1		○			1							
	中国文学特論Ⅶ	1①		1		○				1						
	中国文学特論Ⅷ	1②		1		○				1						
	中国文学特論Ⅸ	1③		1		○				1						
	中国文学特論Ⅹ	1④		1		○				1						
	中国文学特論演習Ⅰ	1①		1				○		2	1					
	中国文学特論演習Ⅱ	1②		1				○		2	1					
	中国文学特論演習Ⅲ	1③		1				○		2	1					
	中国文学特論演習Ⅳ	1④		1				○		2	1					
	英米言語文化科目群															
	英語学特論Ⅰ	1①		1			○				1					
	英語学特論Ⅱ	1②		1			○				1					
	英語学特論Ⅲ	1③		1			○				1					
	英語学特論Ⅳ	1④		1			○				1					
	英語学特論演習Ⅰ	1①		1				○			1					
	英語学特論演習Ⅱ	1②		1				○			1					
	英語学特論演習Ⅲ	1③		1				○			1					
	英語学特論演習Ⅳ	1④		1				○			1					
	英語文学特論Ⅰ	1①		1			○				1					
	英語文学特論Ⅱ	1②		1			○				1					
	英語文学特論演習Ⅰ	1③		1				○			1					
	英語文学特論演習Ⅱ	1④		1				○			1					
	英文学特論Ⅰ	1①		1			○			1						
	英文学特論Ⅱ	1②		1			○			1						
	英文学特論演習Ⅰ	1③		1				○		1						
	英文学特論演習Ⅱ	1④		1				○		1						
	イギリス言語文化特論Ⅰ	1①		1			○				1					
	イギリス言語文化特論Ⅱ	1②		1			○				1					
	イギリス言語文化特論Ⅲ	1③		1			○				1					
	イギリス言語文化特論Ⅳ	1④		1			○				1					
	イギリス言語文化特論Ⅴ	1①		1			○			1						
	イギリス言語文化特論Ⅵ	1②		1			○			1						
	イギリス言語文化特論Ⅶ	1③		1			○			1						
	イギリス言語文化特論Ⅷ	1④		1			○			1						
	イギリス言語文化特論演習Ⅰ	1①		1				○		1	1					
	イギリス言語文化特論演習Ⅱ	1②		1				○		1	1					
	イギリス言語文化特論演習Ⅲ	1③		1				○		1	1					
	イギリス言語文化特論演習Ⅳ	1④		1				○		1	1					
アメリカ文化特論Ⅰ	1①		1			○				1						
アメリカ文化特論Ⅱ	1②		1			○				1						
アメリカ文化特論演習Ⅰ	1③		1				○			1						
アメリカ文化特論演習Ⅱ	1④		1				○			1						
アメリカ言語文化特論Ⅰ	1①		1			○			1							
アメリカ言語文化特論Ⅱ	1②		1			○			1							
アメリカ言語文化特論Ⅲ	1③		1			○			1							
アメリカ言語文化特論Ⅳ	1④		1			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文・芸術プログラム専門科目	アメリカ言語文化特論Ⅴ	1①		1		○						1				
	アメリカ言語文化特論Ⅵ	1②		1		○						1				
	アメリカ言語文化特論Ⅶ	1③		1		○						1				
	アメリカ言語文化特論Ⅷ	1④		1		○						1				
	アメリカ言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1			1				
	アメリカ言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1			1				
	アメリカ言語文化特論演習Ⅱ	1③		1			○		1			1				
	アメリカ言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1			1				
	ヨーロッパ言語文化科目群															
	ドイツ言語文化特論Ⅰ	1①		1		○			1							
	ドイツ言語文化特論Ⅱ	1②		1		○			1							
	ドイツ言語文化特論Ⅲ	1③		1		○			1							
	ドイツ言語文化特論Ⅳ	1④		1		○			1							
	ドイツ言語文化特論Ⅴ	1①		1		○					1					
	ドイツ言語文化特論Ⅵ	1②		1		○					1					
	ドイツ言語文化特論Ⅶ	1③		1		○					1					
	ドイツ言語文化特論Ⅷ	1④		1		○					1					
	ドイツ言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1		1					
	ドイツ言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1		1					
	ドイツ言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○		1		1					
	ドイツ言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1		1					
	フランス言語文化特論Ⅰ	1①		1		○			1							
	フランス言語文化特論Ⅱ	1②		1		○			1							
	フランス言語文化特論Ⅲ	1③		1		○			1							
	フランス言語文化特論Ⅳ	1④		1		○			1							
	フランス言語文化特論Ⅴ	1①		1		○					1					
	フランス言語文化特論Ⅵ	1②		1		○					1					
	フランス言語文化特論Ⅶ	1③		1		○					1					
	フランス言語文化特論Ⅷ	1④		1		○					1					
	フランス言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1		1					
	フランス言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1		1					
	フランス言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○		1		1					
	フランス言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1		1					
	ロシア言語文化特論Ⅰ	1①		1		○			1							
	ロシア言語文化特論Ⅱ	1②		1		○			1							
	ロシア言語文化特論Ⅲ	1③		1		○			1							
	ロシア言語文化特論Ⅳ	1④		1		○			1							
	ロシア言語文化特論演習Ⅰ	1①		1			○		1		1					
	ロシア言語文化特論演習Ⅱ	1②		1			○		1		1					
	ロシア言語文化特論演習Ⅲ	1③		1			○		1		1					
	ロシア言語文化特論演習Ⅳ	1④		1			○		1		1					
	小計 (272科目)		—	0	272	0			—		27	20	3			
特別研究	課題研究Ⅰ	2①②	2					○		27	17	3				
	課題研究Ⅱ	2③④	2					○		27	17	3				
	小計 (2科目)	—	4	0	0			—		27	17	3				
共創経済プログラム専門科目	経済学系															
	基盤科目															
	政治経済学特論Ⅰ	1①③		1		○					1					
	政治経済学特論Ⅱ	1②④		1		○					1					
	現代経済理論特論Ⅰ	1①③		1		○					1					
	現代経済理論特論Ⅱ	1②④		1		○					1					
日本経済史特論Ⅰ	1①③		1		○					1						
日本経済史特論Ⅱ	1②④		1		○					1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共創 経済 プログラム 専門 科目	計量経済学特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	計量経済学特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	発展科目														
	応用経済学特論Ⅰ	1①③		1		○				1					
	応用経済学特論Ⅱ	1②④		1		○				1					
	環境産業特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	環境産業特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	地域社会学特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	地域社会学特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	社会調査法特論Ⅰ	1①③		1		○		※	1						※演習
	社会調査法特論Ⅱ	1②④		1		○		※	1						※演習
	地域の産業と企業特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	地域の産業と企業特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	地域経済のマクロ分析特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	地域経済のマクロ分析特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	中国対外経済政策特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	中国対外経済政策特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	社会保障特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	社会保障特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	応用計量経済学特論Ⅰ	1①③		1		○		※	1						※演習
	応用計量経済学特論Ⅱ	1②④		1		○		○	1						※講義
	金融の計量経済分析特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	金融の計量経済分析特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	金融論特論Ⅰ	1①③		1		○				1					
	金融論特論Ⅱ	1②④		1		○				1					
	財政学特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	財政学特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	公共・政治経済学特論Ⅰ	1①③		1		○				1					
	公共・政治経済学特論Ⅱ	1②④		1		○				1					
	国際経済学特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	国際経済学特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	政治制度・政策過程特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	政治制度・政策過程特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	刑事法特論Ⅰ	1①③		1		○			1						
	刑事法特論Ⅱ	1②④		1		○			1						
	刑事訴訟法特論Ⅰ	1①③		1		○				1					
	刑事訴訟法特論Ⅱ	1②④		1		○				1					
	刑法特論Ⅰ	1①③		1		○				1					
	刑法特論Ⅱ	1②④		1		○				1					
	実践科目														
政治経済学演習Ⅰ	1③		1				○		1						
政治経済学演習Ⅱ	1④		1				○		1						
応用経済学演習Ⅰ	1③		1				○		1						
応用経済学演習Ⅱ	1④		1				○		1						
現代経済理論演習Ⅰ	1③		1				○		1						
現代経済理論演習Ⅱ	1④		1				○		1						
日本経済史演習Ⅰ	1③		1				○		1						
日本経済史演習Ⅱ	1④		1				○		1						
環境産業演習Ⅰ	1③		1				○		1						
環境産業演習Ⅱ	1④		1				○		1						
地域社会学演習Ⅰ	1③		1				○		1						
地域社会学演習Ⅱ	1④		1				○		1						
社会調査法演習Ⅰ	1③		1				○		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共創 経済 プログラム 専門 科目	社会調査法演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	地域の産業と企業演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	地域の産業と企業演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	地域システム演習Ⅰ	1①		1			○				1				
	地域システム演習Ⅱ	1②		1			○				1				
	地域活性化演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	地域活性化演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	地域経済のマクロ分析演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	地域経済のマクロ分析演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	中国対外経済政策演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	中国対外経済政策演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	社会保障演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	社会保障演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	計量経済学演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	計量経済学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	応用計量経済学演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	応用計量経済学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	金融の計量経済分析演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	金融の計量経済分析演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	金融論演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	金融論演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	財政学演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	財政学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	公共・政治経済学演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	公共・政治経済学演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	国際経済学演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	国際経済学演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	政治学・政策過程演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	政治学・政策過程演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	刑事法演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	刑事法演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	刑事訴訟法演習Ⅰ	1③		1			○			1					
刑事訴訟法演習Ⅱ	1④		1			○			1						
刑法演習Ⅰ	1③		1			○			1						
刑法演習Ⅱ	1④		1			○			1						
小計(92科目)	—	—	0	92	0		—		14	9	1				
経営 学系	基盤科目														
	経営学特論Ⅰ	1①③	1				○		1						
	経営学特論Ⅱ	1②④	1				○		1						
	経営組織特論Ⅰ	1①③		1			○			1					
	経営組織特論Ⅱ	1②④		1			○			1					
	マーケティング特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	マーケティング特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	財務会計特論Ⅰ	1①③		1			○			1					
	財務会計特論Ⅱ	1②④		1			○			1					
	情報システム特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	情報システム特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	発展科目														
	国際経営特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
	国際経営特論Ⅱ	1②④		1			○		1						
	消費者行動特論Ⅰ	1①③		1			○		1						
消費者行動特論Ⅱ	1②④		1			○		1							
多国籍企業特論Ⅰ	1①③		1			○		1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共創 経済 プログラム 専門科目	管理会計演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	管理会計演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	財務会計演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	財務会計演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	コストマネジメント演習Ⅰ	1③		1			○			1					
	コストマネジメント演習Ⅱ	1④		1			○			1					
	オペレーションズ・リサーチ演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	オペレーションズ・リサーチ演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	数理計画法演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	数理計画法演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	経営数学演習Ⅰ	1③		1			○				1				
	経営数学演習Ⅱ	1④		1			○				1				
	民法Ⅰ演習-A	1③		1			○		1						
	民法Ⅰ演習-B	1④		1			○		1						
	民法Ⅱ演習-A	1③		1			○		1						
	民法Ⅱ演習-B	1④		1			○		1						
	民法Ⅲ演習-A	1③		1			○				1				
	民法Ⅲ演習-B	1④		1			○				1				
	国際私法演習Ⅰ	1③		1			○				1				
	国際私法演習Ⅱ	1④		1			○				1				
	労働法演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	労働法演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	商法演習Ⅰ	1③		1			○				1				
	商法演習Ⅱ	1④		1			○				1				
	税法演習Ⅰ	1③		1			○				1				
	税法演習Ⅱ	1④		1			○				1				
	会社法演習Ⅰ	1③		1			○				1				
	会社法演習Ⅱ	1④		1			○				1				
	金融取引法演習Ⅰ	1③		1			○		1						
	金融取引法演習Ⅱ	1④		1			○		1						
	小計（97科目）	—	—	2	95	0	—	—	—	14	8	2			
	特別 研究	課題研究Ⅰ	2①②	2				○		28	10				
課題研究Ⅱ		2③④	2				○		28	10					
小計（2科目）		—	4	0	0	—	—	—	28	10					
合計（521科目）		—	16	518	0	—	—	—	52	38	15			兼25	
学位又は称号	修士（心理学） 修士（文学） 修士（経済学） 修士（経営学）		学位又は学科の分野				文学関係 経済学関係								

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
修了要件及び履修方法						授業期間等											
<p>心理学プログラム【修士（心理学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：2単位 心理学プログラム専門科目：① 20単位以上選択 ② 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>人文・芸術プログラム【修士（文学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：4単位修得 ○修士（文学） 人文・芸術プログラム専門科目： ① 人文科学系から1つの科目群を選択し、 その中から8単位選択必修 ② ①の単位を含め、人文科学系から12単位 以上選択 ③ 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>共創経済プログラム【修士（経済学）、修士（経営学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：4単位修得 ○修士（経済学） 共創経済プログラム専門科目： ① 経済学系の科目のうち、基盤科目から現代 経済理論特論Ⅰ・Ⅱもしくは政治経済学特 論Ⅰ・Ⅱを含む4単位以上、発展科目から 4単位以上、実践科目から2単位以上選択 ② 他系科目及び他プログラム科目から4単位 以上選択 ③ 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p> <p>○修士（経営学） 共創経済プログラム専門科目： ① 経営学系の科目のうち、基盤科目から必修 2単位を含む4単位以上、発展科目から4 単位以上、実践科目から2単位以上選択 ② 他系科目及び他プログラム科目から4単位 以上選択 ③ 特別研究4単位必修 計30単位以上修得</p>						1学年の学期区分							4期				
						1学期の授業期間							8週				
						1時限の授業時間							90分				

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院 共通科目	研究倫理	1①・1③	1			○									兼4 オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③	1			○			2						兼7 オムニバス・メディア・共同(一部)
	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	1②		1		○			2	1					兼3 オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○			1	1	4				オムニバス・メディア・共同(一部)
	データサイエンス特論	1①		1		○			1						兼7 オムニバス・メディア・共同(一部)
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○			1	1					兼1 オムニバス・メディア・共同(一部)
	知的財産法	1②・1④		1		○									兼3 オムニバス・メディア
小計(7科目)	—		2	5	0	—	—	—	6	2	4	0			兼24
研究 科 共通	地域づくり特論	1②		1		○			2	2					オムニバス
	現代心理学特論	1①		1		○			1	1					オムニバス メディア
	地域共創特別演習(PBL)	1③④		2			○			1	1				共同
小計(3科目)	—		0	4	0	—	—	—	3	3	1				
人文・芸術 プログラム 専攻科目	人文科学系	社会文化科目群													
	スポーツ人類学特論Ⅰ	1①		1		○					1				
	スポーツ人類学特論Ⅱ	1②		1		○					1				
	スポーツ人類学特論演習Ⅰ	1③		1			○				1				
	スポーツ人類学特論演習Ⅱ	1④		1			○				1				
小計(4科目)	—		0	4	0	—	—	—	0	0	1				
芸術文化系	芸術文化科目群														
平面表現特別演習A	1①②			2		○					1				
平面表現特別演習B	1③④			2		○					1				
平面表現特別演習C	2①②			2		○					1				
平面表現特別演習D	2①②			2		○					1				
立体表現特別演習A	1③④			2		○					1				
立体表現特別演習B	1③④			2		○					1				
立体表現特別演習C	2①②			2		○					1				
立体表現特別演習D	2①②			2		○					1				
像情報処理特論	1③			2		○									兼1
像情報処理特論演習	1④			2			○								兼1
デジタルアート特論演習A	1③④			2			○		1						
デジタルアート特論演習B	2①②			2			○		1						
漆工芸特別演習A	1①②			2			○				1				
漆工芸特別演習B	1③④			2			○		1						
漆工芸特別演習C	2①②			2			○				1				
漆工芸特別演習D	2①②			2			○		1						
木材工芸特別演習A	1②			2			○			1					
木材工芸特別演習B	1③④			2			○				1				
木材工芸特別演習C	2①			2			○			1					
金属工芸特別演習A	1①			2			○			1					
金属工芸特別演習B	1③			2			○			1					
金属工芸特別演習C	2①			2			○			1					
金属工芸特別演習D	2①			2			○			1					
材料共生学特論	1②			2			○		1						
材料共生学特論演習	1③			2			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人文・芸術プログラム専門科目	デザインマネジメント特論演習	2①②		2			○			1						
	デザイン特別演習 A	1①		2			○			1						
	デザイン特別演習 B	1③		2				○		1						
	デザイン特別演習 C	2①②		2				○				1				
	建築計画特論	1④		2			○					1				
	建築計画特論演習	2①②		2				○				1				
	建築設計特論	1②		2			○			1	1					オムニバス
	建築設計特論演習 A	1①②		2				○			1					
	建築設計特論演習 B	1③④		2				○		1						
	建築設計特論演習 C	2①②		2				○		1	1					共同
	構造設計特論	1③		2				○		1						
	構造設計特論演習	2①②		2					○	1						
	働態学特論	1②		2				○		1						
	働態学特論演習	1③		2					○	1						
	建築再生設計特論	1①		2				○			1					
	建築再生設計特論演習	1③④		2					○		2					共同
	建築設計実務実習 I	1休			6				○	1	2					共同、集中
	建築設計実務実習 II	1休			6				○	1	2					共同、集中
	建築設計実務実習 III	1休			2				○	1	2					共同、集中
	美学特論演習 I	1②		2					○		1					
	美学特論演習 II	1③		2					○		1					
	伝統文化特論	1①		2				○		1						
	伝統文化特論演習	1④		2					○	1						
	文化資源特論	1②		2				○			1					
	文化資源特論演習	1④		2					○		1					
	風景資源特論	1③		2				○		1						
	風景資源特論演習	2①		2					○	1						
	日本・東洋美術史特論	1①		2				○			1					
	日本・東洋美術史特論演習	1③		2					○		1					
	現代美術特論	1①		2				○				1				
現代美術特論演習	1③		2					○			1					
芸術文化学研究 I	1①②		2					○	9	10	8					
芸術文化学研究 II	1③④		2					○	9	10	8					
	小計 (58科目)	—	0	110	14			—	9	10	9				兼1	
特別研究	課題研究 I	2①②	2					○	9	10	9					
	課題研究 II	2③④	2					○	9	10	9					
	小計 (2科目)	—	4	0	0			—	9	10	9					
共創経済プログラム専門科目	デザインマネジメント特論演習	2①②		2				○		1						
	デザイン特別演習 A	1①		2				○		1						
	デザイン特別演習 B	1③		2				○	1							
	デザイン特別演習 C	2①②		2				○			1					
	文化資源特論	1②		2			○			1						
	文化資源特論演習	1④		2				○		1						
	小計 (6科目)	—	0	12	0			—	1	3	1					
合計 (80科目)			—	6	135	14		—	16	13	10				兼25	
学位又は称号	修士 (芸術文化学)		学位又は学科の分野				美術関係									

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
修了要件及び履修方法						授業期間等								
人文・芸術プログラム【修士（芸術文化学）】 大学院共通科目：必修科目2単位を含め4単位修得 研究科共通科目：4単位修得 ○修士（芸術文化学） 人文・芸術プログラム専門科目： ① 芸術文化学系の科目から芸術文化学研究 I・IIを含め、12単位以上選択 ② 特別研究4単位必修 計30単位以上修得						1学年の学期区分				4期				
						1学期の授業期間				8週				
						1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要														
(人文科学研究科 人文科学専攻) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	哲学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	哲学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	哲学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	哲学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	哲学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1	1				
	哲学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1	1				
	人間学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	人間学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	人間学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	人間学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	人間学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1	1				
	人間学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1	1				
	日本史学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	日本史学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	日本史学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	日本史学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	日本史学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1					
	日本史学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1					
	東洋史学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	東洋史学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	東洋史学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	東洋史学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	東洋史学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1					
	東洋史学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1					
	西洋史学特論Ⅰ	1前		2		○				2				
	西洋史学特論Ⅱ	1後		2		○				2				
	西洋史学特論演習Ⅰ	1前		2			○			2				
	西洋史学特論演習Ⅱ	1後		2			○			2				
	西洋史学特論演習Ⅲ	2前		2			○			2				
	西洋史学特論演習Ⅳ	2後		2			○			2				
	考古学特論Ⅰ	1前		2		○			2					
	考古学特論Ⅱ	1後		2		○			2					
	考古学特論演習Ⅰ	1前		2			○		2					
	考古学特論演習Ⅱ	1後		2			○		2					
	考古学特論演習Ⅲ	2前		2			○		2					
	考古学特論演習Ⅳ	2後		2			○		2					
	国際文化特論Ⅰ	1前		2					3					
	国際文化特論Ⅱ	1後		2					3					
	国際文化特論演習Ⅰ	1前		2					3					
	国際文化特論演習Ⅱ	1後		2					3					
国際文化特論演習Ⅲ	2前		2					3						
国際文化特論演習Ⅳ	2後		2					3						
言語学特論Ⅰ	1前		2		○			3	1					
言語学特論Ⅱ	1後		2		○			3	1					
言語学特論演習Ⅰ	1前		2			○		3	1					
言語学特論演習Ⅱ	1後		2			○		3	1					
言語学特論演習Ⅲ	2前		2			○		3	1					
言語学特論演習Ⅳ	2後		2			○		3	1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	心理学特論Ⅰ	1前		2		○			1	2					
	心理学特論Ⅱ	1後		2		○			1	2					
	心理学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1	2					
	心理学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1	2					
	社会学特論Ⅰ	1前		2		○			2						
	社会学特論Ⅱ	1後		2		○			2						
	社会学特論演習Ⅰ	1前		2			○		2						
	社会学特論演習Ⅱ	1後		2			○		2						
	社会学特論演習Ⅲ	2前		2			○		2						
	社会学特論演習Ⅳ	2後		2			○		2						
	国際関係特論Ⅰ	1前		2		○					1				
	国際関係特論Ⅱ	1後		2		○					1				
	国際関係特論演習Ⅰ	1前		2			○				1				
	国際関係特論演習Ⅱ	1後		2			○				1				
	国際関係特論演習Ⅲ	2前		2			○				1				
	国際関係特論演習Ⅳ	2後		2			○				1				
	人文地理学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	人文地理学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	人文地理学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1	1					
	人文地理学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1					
	人文地理学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1	1					
	人文地理学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1	1					
	文化人類学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	文化人類学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	文化人類学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1	1					
	文化人類学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1					
	文化人類学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1	1					
	文化人類学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1	1					
	日本語学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	日本語学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	日本語学特論Ⅲ	2前		2		○			1						
	日本語学特論Ⅳ	2後		2		○			1						
	日本語学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1						
	日本語学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1						
	日本語学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1						
	日本語学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1						
	日本文学特論Ⅰ	1前		2		○			1		1				
	日本文学特論Ⅱ	1後		2		○			1		1				
	日本文学特論Ⅲ	2前		2		○			1		1				
	日本文学特論Ⅳ	2後		2		○			1		1				
	日本文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1		1				
	日本文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1		1				
	日本文学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1		1				
	日本文学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1		1				
朝鮮言語文化特論Ⅰ	1前		2		○				2						
朝鮮言語文化特論Ⅱ	1後		2		○				2						
朝鮮言語文化特論演習Ⅰ	1前		2			○			2						
朝鮮言語文化特論演習Ⅱ	1後		2			○			2						
朝鮮言語文化特論演習Ⅲ	2前		2			○			2						
朝鮮言語文化特論演習Ⅳ	2後		2			○			2						
中国語学特論Ⅰ	1前		2		○			1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	中国語学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	中国語学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1					
	中国語学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1					
	中国語学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1					
	中国語学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1					
	中国文学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	中国文学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	中国文学特論演習Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	中国文学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	中国文学特論演習Ⅲ	2前		2			○		1	1				
	中国文学特論演習Ⅳ	2後		2			○		1	1				
	英語学特論Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	英語学特論Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	英語学特論演習Ⅰ	1前		2				○	1	1				
	英語学特論演習Ⅱ	1後		2				○	1	1				
	英語学特論演習Ⅲ	2前		2				○	1	1				
	英語学特論演習Ⅳ	2後		2				○	1	1				
	イギリス言語文化特論Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	イギリス言語文化特論Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	イギリス言語文化特論演習Ⅰ	1前		2				○	1	1				
	イギリス言語文化特論演習Ⅱ	1後		2				○	1	1				
	イギリス言語文化特論演習Ⅲ	2前		2				○	1	1				
	イギリス言語文化特論演習Ⅳ	2後		2				○	1	1				
	アメリカ言語文化特論Ⅰ	1前		2			○		2					
	アメリカ言語文化特論Ⅱ	1後		2			○		2					
	アメリカ言語文化特論演習Ⅰ	1前		2				○	2					
	アメリカ言語文化特論演習Ⅱ	1後		2				○	2					
	アメリカ言語文化特論演習Ⅱ	2前		2				○	2					
	アメリカ言語文化特論演習Ⅳ	2後		2				○	2					
	ドイツ語学特論Ⅰ	1前		2			○		1	1				
	ドイツ語学特論Ⅱ	1後		2			○		1	1				
	ドイツ語学特論演習Ⅰ	1前		2				○	1	1				
	ドイツ語学特論演習Ⅱ	1後		2				○	1	1				
	ドイツ語学特論演習Ⅲ	2前		2				○	1	1				
	ドイツ語学特論演習Ⅳ	2後		2				○	1	1				
	ドイツ文学特論Ⅰ	1前		2			○		1					
	ドイツ文学特論Ⅱ	1後		2			○		1					
	ドイツ文学特論演習Ⅰ	1前		2				○	1					
	ドイツ文学特論演習Ⅱ	1後		2				○	1					
	ドイツ文学特論演習Ⅲ	2前		2				○	1					
	ドイツ文学特論演習Ⅳ	2後		2				○	1					
	フランス言語文化特論Ⅰ	1前		2			○		1	1				
フランス言語文化特論Ⅱ	1後		2			○		1	1					
フランス言語文化特論演習Ⅰ	1前		2				○	1	1					
フランス言語文化特論演習Ⅱ	1後		2				○	1	1					
フランス言語文化特論演習Ⅲ	2前		2				○	1	1					
フランス言語文化特論演習Ⅳ	2後		2				○	1	1					
ロシア言語文化特論Ⅰ	1前		2			○		1						
ロシア言語文化特論Ⅱ	1後		2			○		1						
ロシア言語文化特論演習Ⅰ	1前		2				○	1						
ロシア言語文化特論演習Ⅱ	1後		2				○	1						
ロシア言語文化特論演習Ⅲ	2前		2				○	1						
ロシア言語文化特論演習Ⅳ	2後		2				○	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	課題研究Ⅰ	1前	2				○		29	15	1			
	課題研究Ⅱ	1後	2				○		29	15	1			
	課題研究Ⅲ	2前	2				○		29	15	1			
	課題研究Ⅳ	2後	2				○		29	15	1			
	小計(158科目)	—	8	308	0		—		29	17	1			
合計(158科目)		—	8	308	0		—		29	17	1			
学位又は称号	修士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係							
修了要件及び履修方法							授業期間等							
必修科目8単位を含めて30単位以上修得し、かつ学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない							1学年の学期区分				2期			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要														
(経済学研究科 企業経営専攻)【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	経営組織論特殊研究	1前		2		○				1				
	経営組織論演習	1・2通		8			○			1				
	経営戦略論特殊研究	1前		2		○					1			
	経営戦略論演習	1・2通		8			○				1			
	財務会計論特殊研究	1後		2		○				1				
	人的資源管理特殊研究	1前		2		○			1					
	人的資源管理演習	1・2通		8			○		1					
	比較経営論特殊研究	1後		2		○			1					
	比較経営論演習	1・2通		8			○		1					
	国際経営論特殊研究	1前		2		○			1					
	国際経営論演習	1・2通		8			○		1					
	マーケティング論特殊研究	1前		2		○			1					
	マーケティング論演習	1・2通		8			○		1					
	消費者行動論特殊研究	1前		2		○			1					
	消費者行動論演習	1・2通		8			○		1					
	原価計算論特殊研究	1前		2		○			1					
	原価計算論演習	1・2通		8			○		1					
	管理会計論特殊研究	1後		2		○			1					
	管理会計論演習	1・2通		8			○		1					
	コストマネジメント特殊研究	1前		2		○				1				
	コストマネジメント演習	1・2通		8			○			1				
	多国籍企業論特殊研究	1前		2		○			1					
	多国籍企業論演習	1・2通		8			○		1					
	ホレーションズ・リサーチ特殊研究	1後		2		○			1					
	ホレーションズ・リサーチ演習	1・2通		8			○		1					
	情報システム論特殊研究	1前		2		○			1					
	情報システム論演習	1・2通		8			○		1					
	数理計画法特殊研究	1前		2		○			1					
	数理計画法演習	1・2通		8			○		1					
	経営数学特殊研究	1後		2		○					1			
	民法Ⅰ特殊研究	1前		2		○			1					
	民法Ⅰ演習	1・2通		8			○		1					
	民法Ⅱ特殊研究	1前		2		○			1					
	民法Ⅱ演習	1・2通		8			○		1					
	国際民事訴訟法特殊研究	1後		2		○				1				
	国際民事訴訟法演習	1・2通		8			○			1				
	金融取引法特殊研究	1前		2		○			1					
	金融取引法演習	1・2通		8			○		1					
	労働法特殊研究	1後		2		○			1					
	労働法演習	1・2通		8			○		1					
	商法特殊研究	1後		2		○				1				
	商法演習	1・2通		8			○			1				
	外国経営・法律書研究	1後		2		○			15	5	2			
小計(43科目)	—	—	0	206	0				15	5	2	0	0	
共通科目	国内インターンシップⅠ	1・2前・後		1				○	15	5	2			
	国内インターンシップⅡ	1・2前・後		2				○	15	5	2			
	国際インターンシップⅠ	1・2前・後		1				○	15	5	2			
	国際インターンシップⅡ	1・2前・後		2				○	15	5	2			
	アカデミックライティング	1前		2		○								兼1
小計(5科目)	—	—	0	8	0				15	5	2	0	0	
合計(48科目)		—	—	0	214	0			15	5	2	0	0	兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	修士（経営学）		学位又は学科の分野			経済学関係								
修了要件及び履修方法						授業期間等								
所属する専攻の所定の授業科目について、指導教員による演習科目8単位を含めて30単位以上修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			16週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要														
（経済学研究科 地域・経済政策専攻）【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻科目	政治経済学特殊研究	1前		2		○								
	政治経済学演習	1・2通		8			○					1		
	応用経済学特殊研究	1前		2		○						1		
	応用経済学演習	1・2通		8			○					1		
	現代経済理論特殊研究	1後		2		○						1		
	東アジアの経済開発特殊研究	1後		2		○				1				
	東アジアの経済開発演習	1・2通		8			○			1				
	日本経済史特殊研究	1後		2		○						1		
	日本経済史演習	1・2通		8			○					1		
	環境産業論特殊研究	1後		2		○				1				
	環境産業論演習	1・2通		8			○			1				
	地域社会学特殊研究	1後		2		○				1				
	地域社会学演習	1・2通		8			○			1				
	社会調査法特殊研究	1前		2		○				1				
	社会調査法演習	1・2通		8			○			1				
	地域の産業と企業特殊研究	1後		2		○				1				
	地域の産業と企業演習	1・2通		8			○			1				
	地域経済のマクロ分析特殊研究	1前		2		○				1				
	地域経済のマクロ分析演習	1・2通		8			○			1				
	中国対外経済政策特殊研究	1前		2		○				1				
	中国対外経済政策演習	1・2通		8			○			1				
	ロシア経済特殊研究	1前		2		○				1				
	ロシア経済演習	1・2通		8			○			1				
	社会保障特殊研究	1後		2		○				1				
	社会保障演習	1・2通		8			○			1				
	計量経済学特殊研究	1前		2		○				1				
	計量経済学演習	1・2通		8			○			1				
	応用計量経済学特殊研究	1後		2		○				1				
	応用計量経済学演習	1・2通		8			○			1				
	金融の計量経済分析特殊研究	1前		2		○				1				
	金融の計量経済分析演習	1・2通		8			○			1				
	金融論特殊研究	1前		2		○					1			
	財政学特殊研究	1後		2		○				1				
	財政学演習	1・2通		8			○			1				
	公共・政治経済学特殊研究	1前		2		○					1			
	公共・政治経済学演習	1・2通		8			○				1			
	国際経済学特殊研究	1前		2		○				1				
	国際経済学演習	1・2通		8			○			1				
	政治学特殊研究	1前		2		○				1				
	政治学演習	1・2通		8			○			1				
	憲法特殊研究	1後		2		○				1				
	憲法演習	1・2通		8			○			1				
	環境法特殊研究	1前		2		○					1			
	環境法演習	1・2通		8			○				1			
	刑事法特殊研究	1前		2		○				1				
	刑事法演習	1・2通		8			○			1				
	刑事訴訟法特殊研究	1前		2		○					1			
	刑法特殊研究	1前		2		○					1			
	開発法学特殊研究	1前		2		○					1			
	開発法学演習	1・2通		8			○				1			
	外国経済・法律書研究	1後		2		○				17	10			
小計（51科目）		—	0	240	0				17	10	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	国内インターンシップⅠ	1・2前・後		1				○	17	10					兼1
	国内インターンシップⅡ	1・2前・後		2				○	17	10					
	国際インターンシップⅠ	1・2前・後		1				○	17	10					
	国際インターンシップⅡ	1・2前・後		2				○	17	10					
	アカデミックライティング	1前		2		○									
小計(5科目)		—	0	8	0				17	10	0	0	0		
合計(56科目)		—	0	248	0				17	10	0	0	0	兼1	
学位又は称号	修士(経済学)		学位又は学科の分野				経済学関係								
修了要件及び履修方法							授業期間等								
所属する専攻の所定の授業科目について、指導教員による演習科目8単位を含めて30単位以上修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			16週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要														
(芸術文化学研究科 芸術文化学専攻)【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	<造形表現> 造形表現特論	1前		2		○			1		2			オムニバス
	<工芸> 工芸技術特論	1前		2		○		1						
	<建築・デザイン> デザイン学特論	1前		2		○		1						
	<芸術文化論> 芸術文化学特論	1前	6	2		○			1					
	人間学特論	1前		2		○							兼1	
	国際文化関係特論	1前		2		○							兼1	
	地域社会学特論	1後		2		○							兼1	
	小計(7科目)	—	6	14	0	—	—	3	1	2				
専門科目	<造形表現> 平面表現特別演習A	1前		2			○				1			オムニバス
	平面表現特別演習B	1後		2			○				1			
	平面表現特別演習C	2前		2			○				1			
	平面表現特別演習D	2前		2			○				1			
	立体表現特別演習A	1後		2			○				1			
	立体表現特別演習B	1前		2			○		1					
	立体表現特別演習C	1後		2			○		1		1			
	像情報処理特論	1前		2		○				1				
	像情報処理特論演習	1後		2			○			1				
	デジタルアート特論演習	1後		2			○		1					
	<工芸> 漆工芸特別演習A	1前		2			○		1					
	漆工芸特別演習B	1後		2			○		1					
	漆工芸特別演習C	2前		2			○		1					
	漆工芸特別演習D	2前		2			○		1					
	漆工芸特別演習E	1後		2			○				1			
	木材工芸特別演習A	1前		2			○			1				
	木材工芸特別演習B	1後		2			○				1			
	木材工芸特別演習C	2前		2			○			1				
	金属工芸特別演習A	1前		2			○			1				
	金属工芸特別演習B	1後		2			○			1				
	金属工芸特別演習C	2前		2			○			1				
	材料共生学特論	1前		2		○			1					
	材料共生学特論演習	1後		2			○		1					
	<建築・デザイン> デザインマネジメント特論演習	2前		2			○			1				
	デザイン特別演習A	1前		2			○			1				
	デザイン特別演習B	1後		2			○		1					
	デザイン特別演習C	2前		2			○				1			
	建築計画特論	1後		2		○					1			
	建築計画特論演習	2前		2			○				1			
	建築設計特論	1前		2		○			1	1				
	建築設計特論演習A	1前		2			○			1				
	建築設計特論演習B	1後		2			○		1					
	建築設計特論演習C	2前		2			○		1	1				
構造設計特論	1後		2		○			1						
構造設計特論演習	2前		2			○		1						
働態学特論	1前		2			○		1						
働態学特論演習	1後		2			○		1						
建築再生設計特論	1前		2		○				1					
建築再生設計特論演習	1後		2			○			2					
建築設計実務実習I	1通			6			○	1	2				共同、集中	
建築設計実務実習II	1通			6			○	1	2				共同、集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	建築設計実務実習Ⅲ 〈芸術文化論〉	1通			2			○	1	2					共同、集中
	美学特論演習Ⅰ	1前		2			○			1					
	美学特論演習Ⅱ	1後		2			○			1					
	伝統文化特論	1前		2		○			1						
	伝統文化特論演習	1後		2			○		1						
	国際文化関係特論演習	1後		2			○								兼1
	文化資源特論	1前		2		○				1					
	文化資源特論演習	1後		2			○			1					
	自然風景特論	1後		2			○		1						
	自然風景特論演習	2前		2			○		1						
	日本・東洋美術史特論	1前		2			○								
	日本・東洋美術史特論演習	1後		2			○			1					
	現代美術特論	1前		2			○						1		
	現代美術特論演習	1後		2			○						1		
	小計 (55科目)	—	0	104	14		—		11	11	9				兼1
特別研究	課題研究Ⅰ	1通	4					○	11	11	8				
	課題研究Ⅱ	2通	4					○	10	11	8				
	小計 (2科目)	—	8	0	0		—		11	11	8				
合計 (64科目)		—	14	118	14		—		11	11	9				兼3
学位又は称号		修士 (芸術文化学)			学位又は学科の分野			美術関係							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
<p>本研究科に2年以上在学し、上表に掲げる授業科目より、共通科目において2つ以上の科目群から6単位を必修単位として修得し、必修として修得した共通科目以外の共通科目又は専門科目から選択科目として16単位以上修得し、特別研究必修8単位の修得を含め、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本課程の目的に応じ修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。</p> <p>なお、指導教員と相談のうえ、上表に掲げる授業科目以外の他研究科の授業科目からの履修も認め、その履修により修得した単位は、選択科目として6単位まで修了要件に含めることができるものとする。</p> <p>(履修科目の登録の上限：30単位(年間))</p>								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文学部人文学科）【基礎となる学部】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教養 教育 科目	哲学のすすめ	1前・後		2		○			1	1					兼1
	人間と倫理	1前・後		2		○			1	1					兼1
	こころの科学	1前・後		2		○				1					兼3
	現代と教育	1前・後		2		○									兼7
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○			2						兼2
	東洋の歴史と社会	1前		2		○			1						
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○			2	1					兼1
	日本文学	1前・後		2		○			1		1				兼3
	外国文学	1前・後		2		○			1						兼2
	言語と文化	1前・後		2		○			1	2					兼3
	音楽	1前・後		2		○									兼2
	美術	1前・後		2		○									兼13
	言語表現	1前・後		2			○								兼2
	治療の文化史	1前・後		2		○									兼1
異文化間コミュニケーション	1後		2		○									兼1	
異文化理解	1前		2		○									兼1	
小計（16科目）		-	0	32	0	-	-	10	6	1	0	0		兼39	
社会 科学 系	現代社会論	1前・後		2		○			1						兼4
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼3
	国家と市民	1前・後		2		○									兼3
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼3
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼3
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼5
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼5
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼3
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼3
	地域の経済と社会・文化	1前		2		○				1					兼1
	小計（10科目）		-	0	20	0	-	-	1	1	0	0	0		兼30
自然 科学 系	地球と環境	1前・後		2		○									兼2
	生命の世界	1前・後		2		○									兼6
	物理の世界	1前・後		2		○									兼2
	化学物質の世界	1前・後		2		○									兼3
	自然と情報の数理	1前・後		2		○									兼3
	社会と情報の数理	1前		2		○									兼1
	技術の世界	1後		2		○									兼1
	材料の科学	1前		2		○									兼1
	生活の科学	1前		2		○									兼2
	コンピュータの話	1前・後		2		○									兼2
	デザインと生物	1後		2		○									兼4
小計（11科目）		-	0	22	0	-	-	0	0	0	0	0		兼28	
医療・ 健康 科学 系	医療心理学	1前		2		○									兼1
	認知科学	1後		2		○									兼1
	脳科学入門	1後		2		○									兼2
	免疫学入門	1前		2		○									兼1
	身近な医学	1後		2		○									兼1
	障害とアクセシビリティ	1前		2		○									兼1
	医療と地域社会	1後		2		○									兼1
小計（7科目）		-	0	14	0	-	-	0	0	0	0	0		兼6	
総合 科目 系	環境	1前		2		○									兼1
	ジェンダー	1前・後		2		○			1						
	技術と社会	1前・後		2		○									兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	総合科目系														
	現代文化	1後		2		○			1						
	人権と福祉	1前・後		2		○									兼1
	環日本海	1前		2		○									兼1
	科学と社会	1前・後		2		○									兼2
	アカデミック・デザイン	1後		2		○			1						兼1
	ビジネス思考	1後		2		○									兼1
	平和学入門	1前		2		○									兼1
	東アジア共同体論－政治・経済・文化－	1後		2		○									兼1
	新聞投稿に挑戦	1後		2		○									兼1
	富山から考える震災・復興学	1後		2		○									兼1
	環境と安全管理	1前		2		○									兼1
	万葉学	1前		2		○									兼1
	日本海学	1後		2		○									兼1
	富山大学学	1後		2		○				1					
	とやま地域学	1前		2		○									兼1
	時事的問題	1前		2		○									兼1
	災害救援ボランティア論	1後		2		○									兼1
	感性をはぐくむ	1前		2		○									兼1
	日本事情／芸術文化	1後		2		○									兼1
	日本事情／自然社会	1前		2		○									兼1
学士力・人間力基礎	1前		2		○									兼1	
富山学	1前		2		○									兼1	
地域ライフプラン	1前		2		○									兼1	
産業観光学	1後		2		○									兼1	
富山のものづくり概論	1後		2		○									兼1	
富山の地域づくり	1前		2		○				1					兼2	
小計 (29科目)		-	0	58	0	-			3	1	0	0	0		兼25
外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1			○			2	2					兼15
	英語リテラシーⅡ-A	1後	1			○			2		1				兼18
	英語コミュニケーションⅠ-A	1前	1			○									兼15
	英語コミュニケーションⅡ-A	1後	1			○									兼17
	ドイツ語基礎Ⅰ	1前		1		○									兼4
	ドイツ語基礎Ⅱ	1後		1		○									兼3
	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1前		1		○									兼4
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1後		1		○									兼4
	フランス語基礎Ⅰ	1前・後		1		○			1	1					
	フランス語基礎Ⅱ	1前・後		1		○			1	1					
	フランス語コミュニケーションⅠ	1前		1		○			1	1					兼3
	フランス語コミュニケーションⅡ	1前・後		1		○			1	1					兼3
	中国語基礎Ⅰ	1前・後		1		○			3	1					兼5
	中国語基礎Ⅱ	1前・後		1		○			3	1					兼5
	中国語コミュニケーションⅠ	1前		1		○									兼5
	中国語コミュニケーションⅡ	1後		1		○									兼5
	朝鮮語基礎Ⅰ	1前		1		○					1				
	朝鮮語基礎Ⅱ	1後		1		○					2				
	朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前		1		○					1				兼1
	朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後		1		○					1				兼1
	ロシア語基礎Ⅰ	1前		1		○			2						
	ロシア語基礎Ⅱ	1後		1		○			1						
	ロシア語コミュニケーションⅠ	1前		1		○									兼1
	ロシア語コミュニケーションⅡ	1後		1		○									兼1
	日本語リテラシーⅠ	1前		1		○									兼1
	日本語リテラシーⅡ	1後		1		○			1						兼1
日本語コミュニケーションⅠ	1前		1		○									兼1	
日本語コミュニケーションⅡ	1後		1		○									兼2	
発展多言語演習ドイツ語	1前			1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	外国語系 発展多言語演習中国語 発展多言語演習ラテン語Ⅰ 発展多言語演習ラテン語Ⅱ 日本語コミュニケーションⅢ 日本語リテラシーⅢ 日本語／専門研究 日本語／ビジネス	1前			1		○								兼1
		1前			1		○								兼1
		1後			1		○								兼1
		1前			1		○								兼1
		1後			1		○								兼1
		1前			1		○			1					兼1
		1後			1		○								兼1
	-	4	24	8	-			13	7	1	1	0	兼64		
保健体育系	健康・スポーツ／講義 健康・スポーツ／実技	1後	1			○								兼7	
		1前・後	1					○						兼15	
	-	2	0	0	-			0	0	0	0	0	兼16		
情報処理系	情報処理一A 応用情報処理	1前・後	2			○								兼20	
		1後		2			○							兼5	
	-	2	2	0	-			0	0	0	0	0	兼22		
専門科目	哲学概論	1・2・3・4後		2		○			1	1					
	倫理思想	2・3・4前		2		○			1	1				オムニバス	
	宗教思想	1・2・3・4後		2		○			1						
	西洋思想史Ⅰa	2・3・4後		2		○			1					隔年	
	西洋思想史Ⅱa	2・3・4前		2		○			1					隔年	
	西洋思想史Ⅲ	2・3・4前		2		○				1				隔年	
	西洋思想史Ⅳ	2・3・4後		2		○				1				隔年	
	東洋思想史	2・3・4前		2		○			1						
	現代と思想	1・2・3・4後		2		○				1					
	芸術文化論（美術史）	2・3・4休		2		○								兼1 隔年	
	西洋古典語(1)	2・3・4前		2		○			1						
	西洋古典語(2)	2・3・4後		2		○			1						
	哲学講読Ⅰ	1・2・3・4後		2			○		1						
	哲学講読Ⅱ	1・2・3・4後		2			○			1					
	人間学講読	1・2・3・4後		2			○		1	1					
	哲学特殊講義	2・3・4後		2		○			1	1					
	人間学特殊講義	2・3・4前		2		○				1					
	哲学演習Ⅰa	2・3・4前		2			○		1					隔年	
	哲学演習Ⅰb	2・3・4前		2			○		1					隔年	
	哲学演習Ⅰc	2・3・4前		2			○			1				隔年	
	哲学演習Ⅱa	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	哲学演習Ⅱb	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	哲学演習Ⅱc	2・3・4後		2			○			1				隔年	
	人間学演習Ⅰa	2・3・4前		2			○		1					隔年	
	人間学演習Ⅰb	2・3・4前		2			○			1				隔年	
	人間学演習Ⅰc	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	人間学演習Ⅰd	2・3・4後		2			○			1				隔年	
	人間学演習Ⅰe	2・3・4前		2			○		1					隔年	
	人間学演習Ⅰf	2・3・4前		2			○			1				隔年	
	人間学演習Ⅰg	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	人間学演習Ⅰh	2・3・4後		2			○			1				隔年	
	人間学演習Ⅰi	2・3・4前		2			○		1					隔年	
人間学演習Ⅰj	2・3・4前		2			○			1				隔年		
人間学演習Ⅰk	2・3・4後		2			○		1					隔年		
人間学演習Ⅰl	2・3・4後		2			○			1				隔年		
人間学演習Ⅱa	3・4前		2			○		1	1				共同・隔年		
人間学演習Ⅱb	3・4後		2			○		1	1				共同・隔年		
人間学演習Ⅱc	3・4前		2			○		1	1				共同・隔年		
人間学演習Ⅱd	3・4後		2			○		1	1				共同・隔年		
日本史基礎演習	1・2・3・4後		2			○		1							
東洋史基礎演習	1・2・3・4後		2			○		1							
西洋史基礎演習	1・2・3・4後		2			○			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専 門 科 目	考古学基礎演習	1・2・3・4後		2				○		1							
	日本史概説 I	2・3・4前		2				○		1							
	東洋史概説 I	2・3・4前		2				○		1							
	西洋史概説 I	2・3・4前		2				○			1						
	考古学概論	2・3・4前		2				○		2		1					
	史学概論	2・3・4前		2				○		2		1				オムニバス	
	日本史概説 II	2・3・4後		2				○		1							
	日本特殊講義(A)	2・3・4後		2			○			1						兼1	隔年
	日本特殊講義(B)	2・3・4後		2			○										隔年
	日本特殊講義(C)	2・3・4前		2			○			1							隔年
	日本史演習(a)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	日本史演習(b)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	日本史演習(c)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	日本史演習(d)	2・3・4後		2					○							兼1	隔年
	日本史演習(e)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	日本史演習(f)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	日本史演習(g)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	日本史演習(h)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	日本史実習(a)	2・3・4前		1						○	1						隔年
	日本史実習(b)	2・3・4後		1						○	1						隔年
	古文学実習(a)	2・3・4前		1						○	1						隔年
	古文学実習(b)	2・3・4後		1						○	1						隔年
	古文学実習(c)	2・3・4前		1						○	1						隔年
	古文学実習(d)	2・3・4後		1						○	1						隔年
	東洋史特殊講義	2・3・4後		2			○				1						隔年
	東洋史演習(a)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	東洋史演習(b)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	東洋史演習(c)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	東洋史演習(d)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	東洋史講読(a)	2・3・4後		2			○				1						隔年
	東洋史講読(b)	2・3・4後		2			○				1						隔年
	東洋史実習(a)	2・3・4前		1						○	1						隔年
	東洋史実習(b)	2・3・4前		1						○	1						隔年
	西洋史概説 II	2・3・4後		2				○				1					
	西洋史特殊講義A	2・3・4後		2				○				1					
	西洋史特殊講義B	2・3・4前		2				○				1					
	西洋史演習(a)	2・3・4後		2					○			1					隔年
	西洋史演習(b)	2・3・4前		2					○		1						隔年
	西洋史演習(c)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	西洋史演習(d)	2・3・4前		2					○			1					隔年
	西洋史演習(e)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	西洋史演習(f)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	西洋史演習(g)	2・3・4前		2					○			1					隔年
	西洋史演習(h)	2・3・4後		2					○		1						隔年
	西洋史講読(a)	2・3・4後		2					○			1					隔年
	西洋史講読(b)	2・3・4前		2					○			1					隔年
	西洋史実習(a)	2・3・4後		1						○	1						隔年
	西洋史実習(b)	2・3・4後		1						○		1					隔年
	考古学特殊講義A	2・3・4前		2			○				1						隔年
	考古学特殊講義B	2・3・4前		2			○				1						隔年
考古学特殊講義C	2・3・4後		2			○				1						隔年	
考古学特殊講義D	2・3・4後		2			○				1						隔年	
考古学演習(1)	3・4前		2					○		1							
考古学演習(2)	3・4後		2					○		1							
考古学演習(3)	4前		2					○		1							
考古学演習(4)	4後		2					○		1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	考古学講読	2・3・4後		2				○		1						
	考古学実習(1)	2・3・4前		2					○	1						
	考古学実習(2)	2・3・4後		2					○	1						
	考古学実習(3)	3・4前		2					○	1						
	心理学概論Ⅰ	1・2・3・4後		2			○			1	2	3				オムニバス
	心理学概論Ⅱ	2・3・4前		2			○			1	2	3				オムニバス
	心理学実験Ⅰ	2・3・4前		2						1	2	3				共同
	心理学実験Ⅱ	2・3・4後		2						1	2	3				共同
	心理学実験Ⅲ	3・4前		2						1	2	3				共同
	心理学実験Ⅳ	3・4後		2			○			1	2	3				共同
	心理学統計法	2・3・4前		2			○					1				
	心理学研究法Ⅰ	3・4前		2			○			1	2	3				オムニバス
	心理学研究法Ⅱ	3・4前		2			○			1	2	3				オムニバス
	心理学特殊講義(A)	2・3・4後		2			○					2				隔年
	心理学特殊講義(B)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	心理学特殊講義(C)	2・3・4前		2			○					1				隔年
	心理学特殊講義(D)	2・3・4前		2			○				1					隔年
	心理学特殊講義(E)	2・3・4後		2			○					1				隔年
	心理学特殊講義(F)	2・3・4後		2			○				1					隔年
	心理学演習(A)	2・3・4前		2					○				1			隔年
	心理学演習(B)	2・3・4後		2					○	1						隔年
	心理学演習(C)	2・3・4前		2					○		1					隔年
	心理学演習(D)	2・3・4後		2					○			2				隔年
	心理学演習(E)	2・3・4前		2					○		1					隔年
	心理学演習(F)	2・3・4後		2					○			1				隔年
	社会文化演習	2・3・4前		4					○	3	2					オムニバス
	社会文化特殊講義(a)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	社会文化特殊講義(b)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	社会文化特殊講義(c)	2・3・4後		2			○				1					隔年
	社会文化特殊講義(d)	2・3・4後		2			○				1					隔年
	社会文化特殊講義(e)	2・3・4後		2			○				1					隔年
	社会文化特殊講義(f)	2・3・4後		2			○			1						隔年
	国際関係論概論	1・2・3・4後		2			○				1					
	社会学概論	1・2・3・4後		2			○			1						
	人文地理学概論	1・2・3・4後		2			○				1					
	文化人類学概論	1・2・3・4後		2			○			1						
	社会文化講読(a)	2・3・4後		2					○	1						隔年
	社会文化講読(b)	2・3・4後		2					○	1						隔年
	社会文化講読(c)	2・3・4前		2					○		1					隔年
	社会文化講読(d)	2・3・4後		2					○		1					隔年
	社会文化講読(e)	2・3・4前		2					○		1					隔年
	社会文化講読(f)	2・3・4前		2					○	1						隔年
	国際関係論演習(a)	2・3・4前		2					○		1		1			共同
	国際関係論演習(b)	2・3・4後		2					○		1		1			共同
	国際関係論演習(c)	2・3・4前		2					○		1		1			共同
	国際関係論演習(d)	2・3・4後		2					○		1		1			共同
	国際関係論フィールド演習(1)	2・3・4前		2					○		1					
国際関係論フィールド演習(2)	2・3・4後		2					○		1						
国際関係論フィールド演習(3)	3・4前		2					○		1		1			共同	
国際関係論フィールド演習(4)	3・4後		2					○		1		1			共同	
社会学演習(a)	3・4前		2					○	2						共同・隔年	
社会学演習(b)	3・4後		2					○	2						共同・隔年	
社会学演習(c)	3・4前		2					○	2			1			共同・隔年	
社会学演習(d)	3・4後		2					○	2			1			共同・隔年	
社会学フィールド演習(a)	2・3・4前		2					○	1							
社会学フィールド演習(b)	2・3・4後		2					○	2						共同	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 科目	社会学フィールド演習(c)	2・3・4前		2				○		2						共同
	社会学フィールド演習(d)	2・3・4後		2				○		2						共同
	人文地理学演習(a)	2・3・4後		2				○			1					隔年
	人文地理学演習(b)	2・3・4前		2				○		1						
	人文地理学演習(c)	2・3・4後		2				○			1					
	地理情報科学(GIS)実習	2・3・4前		2					○			1				
	人文地理学フィールド演習(1)	2・3・4前		2				○		1						
	人文地理学フィールド演習(2)	2・3・4後		2				○		1						
	人文地理学フィールド演習(3)	3・4前		2				○		1	1					共同
	人文地理学フィールド演習(4)	3・4後		2				○		1	1					共同
	人文地理学講読(a)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	人文地理学講読(b)	2・3・4後		2				○			1					隔年
	人文地理学特殊講義(a)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	人文地理学特殊講義(b)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	文化人類学演習(a)	2・3・4前		2				○							兼1	隔年
	文化人類学演習(b)	2・3・4前		2				○			1					隔年
	文化人類学演習(c)	2・3・4後		2				○		1	1					隔年
	文化人類学フィールド演習(1)	2・3・4前		4				○		1	1					共同
	文化人類学フィールド演習(2)	2・3・4後		4				○		1	1					共同
	文化人類学フィールド演習(3)	3・4前		4				○		1	1					共同
	文化人類学フィールド演習(4)	3・4後		4				○		1	1					共同
	統計学(1)	2・3・4前		2			○								兼2	
	統計学(2)	2・3・4後		2			○								兼2	
	社会調査法(a)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	社会調査法(b)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	社会調査法(c)	2・3・4後		2			○			1						隔年
	社会調査法(d)	2・3・4後		2			○			1						隔年
	地誌学	2・3・4後		2			○								兼1	
	自然地理学	1・2・3・4休		2			○								兼1	
	国際関係論(政治学)	2・3・4後		2			○								兼1	
	民俗学	1・2・3・4休		2			○								兼1	隔年
	自然人類学	1・2・3・4休		2			○								兼1	隔年
	人と法	2・3・4後		2			○								兼1	
	コミュニケーション論	2・3・4前		2			○			3	1					オムニバス
	言語学概論Ⅰ	1・2・3・4後		2			○				1					
	言語学概論Ⅱ	2・3・4前		2			○			1						
	音声学Ⅰ	2・3・4前		2			○				1					
	音声学Ⅱ	2・3・4後		2			○				1					
	言語学演習(a)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	言語学演習(b)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	言語学演習(c)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	言語学演習(d)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	言語学演習(e)	2・3・4前		2				○			1					隔年
	言語学演習(f)	2・3・4後		2				○			1					隔年
	言語学講読	2・3・4前		2				○		1	1					隔年
音声学演習	2・3・4後		2				○			1					隔年	
言語学特殊講義	2・3・4前		2			○				1					隔年	
日本語文法研究法	2・3・4前		2			○			1							
日本語史と書記	2・3・4後		2			○			1							
日本語教育学概論	2・3・4前		2			○			1							
日本語教育学特殊講義	2・3・4後		2			○			1						隔年	
日本語教育学実践法	2・3・4後		2			○			1						隔年	
東アジア言語文化特殊講義(a)	2・3・4前		2			○			1						隔年	
東アジア言語文化特殊講義(b)	2・3・4前		2			○			1						隔年	
東アジア言語文化特殊講義(c)	2・3・4前		2			○				1					隔年	
日本語学演習Ⅰ(a)	2・3・4前		2				○		1						隔年	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専門 科目	日本語学演習Ⅰ(b)	2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本語学演習Ⅱ(a)	2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	日本語学演習Ⅱ(b)	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	日本語学演習Ⅱ(c)	2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	日本語学演習Ⅱ(d)	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	日本語学講読Ⅰ(a)	2・3・4前		2			○		1						隔年
	日本語学講読Ⅰ(b)	2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本語学講読Ⅱ(a)	2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	日本語学講読Ⅱ(b)	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	日本語学講読Ⅱ(c)	2・3・4前		2			○							兼1	隔年
	日本語学講読Ⅱ(d)	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	日本語学特殊講義(a)	2・3・4前		2			○		1						隔年
	日本語学特殊講義(b)	2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本語学特殊講義(c)	2・3・4後		2			○							兼1	隔年
	日本語学概論A	1・2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本語学概論B	1・2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本文学演習Ⅰ(a)	2・3・4前		2				○	1						隔年
	日本文学演習Ⅰ(b)	2・3・4前		2				○	1						隔年
	日本文学演習Ⅱ(a)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	日本文学演習Ⅱ(b)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	日本文学演習Ⅱ(c)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	日本文学演習Ⅱ(d)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	日本文学演習Ⅱ(e)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	日本文学演習Ⅱ(f)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	日本文学講読Ⅰ(a)	2・3・4前		2				○	1						隔年
	日本文学講読Ⅰ(b)	2・3・4後		2				○	1						隔年
	日本文学講読Ⅰ(c)	2・3・4前		2				○	1						隔年
	日本文学講読Ⅱ(a)	2・3・4前		2				○	1						隔年
	日本文学講読Ⅱ(b)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	日本文学講読Ⅱ(c)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	日本文学講読Ⅱ(d)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	日本文学講読Ⅱ(e)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	日本文学特殊講義Ⅰ(a)	2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本文学特殊講義Ⅰ(b)	2・3・4前		2			○		1						隔年
	日本文学特殊講義Ⅰ(c)	2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本文学特殊講義Ⅰ(d)	2・3・4前		2			○		1						隔年
	日本文学特殊講義Ⅱ(a)	2・3・4後		2			○				1				隔年
	日本文学史Ⅰ(a)	1・2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本文学史Ⅰ(b)	1・2・3・4後		2			○		1						隔年
	日本文学史Ⅰ(c)	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	日本文学史Ⅱ	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	朝鮮言語文化演習(a)	2・3・4後		2				○		2					共同・隔年
	朝鮮言語文化演習(b)	2・3・4後		2				○		2					共同・隔年
	朝鮮言語文化演習(c)	2・3・4後		2				○		2					共同・隔年
	朝鮮言語文化演習(d)	2・3・4後		2				○		2					共同・隔年
朝鮮言語文化演習(e)	2・3・4後		2				○		2					共同・隔年	
朝鮮言語文化演習(f)	2・3・4後		2				○		2					共同・隔年	
朝鮮言語文化講読(a)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
朝鮮言語文化講読(b)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
朝鮮言語文化講読(c)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
朝鮮言語文化講読(d)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
朝鮮言語文化講読(e)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
朝鮮言語文化講読(f)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
朝鮮言語文化特殊講義(a)	2・3・4前		2			○		1						隔年	
朝鮮言語文化特殊講義(b)	2・3・4前		2			○		1						隔年	
朝鮮言語文化特殊講義(c)	2・3・4前		2			○		1						隔年	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 科目	朝鮮言語文化概論(a)	2・3・4前		2		○				1					隔年
	朝鮮言語文化概論(b)	2・3・4前		2		○				1					隔年
	朝鮮言語文化概論(c)	2・3・4前		2		○				1					隔年
	朝鮮語演習(a)	1・2・3・4後		2			○			1					隔年
	朝鮮語演習(b)	1・2・3・4後		2			○			1					隔年
	実践朝鮮語演習(a)	2・3・4前		2			○			1					隔年
	実践朝鮮語演習(b)	2・3・4後		2			○			1					隔年
	実践朝鮮語演習(c)	2・3・4前		2			○			1					隔年
	実践朝鮮語演習(d)	2・3・4後		2			○			1					隔年
	実践朝鮮語演習(e)	2・3・4前		2			○			1					隔年
	実践朝鮮語演習(f)	2・3・4後		2			○			1					隔年
	朝鮮学入門	1・2・3・4後		2			○			2					隔年 オムニバス
	中国言語文化演習(a)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	中国言語文化演習(b)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	中国言語文化演習(c)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	中国言語文化演習(d)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	中国言語文化演習(e)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	中国言語文化演習(f)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	中国言語文化講読(a)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	中国言語文化講読(b)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	中国言語文化講読(c)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	中国言語文化講読(d)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	中国言語文化講読(e)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	中国言語文化講読(f)	2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国言語文化特殊講義(a)	2・3・4前		2			○				1				隔年
	中国言語文化特殊講義(b)	2・3・4前		2			○				1				隔年
	中国言語文化特殊講義(c)	2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国言語文化特殊講義(d)	2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国文学概論Ⅰa	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国文学概論Ⅰb	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国文学概論Ⅱa	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国文学概論Ⅱb	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国語学概論(a)	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国語学概論(b)	1・2・3・4後		2			○				1				隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(a)	2・3・4前		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(b)	2・3・4前		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(c)	2・3・4後		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(d)	2・3・4後		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(e)	2・3・4前		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(f)	2・3・4前		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(g)	2・3・4後		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(会話)(h)	2・3・4前		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(作文)(a)	2・3・4前		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(作文)(b)	2・3・4後		1				○						兼1	隔年
	中国語コミュニケーション(作文)(c)	2・3・4後		1				○						兼1	隔年
中国語コミュニケーション(作文)(d)	2・3・4後		1				○						兼1	隔年	
書道	2・3・4前		2					○					兼1	隔年	
英語学概論	1・2・3・4後		2			○				1				隔年	
イギリス文学概論	1・2・3・4後		2			○				1				隔年	
イギリス文学史	2・3・4前		2			○				1				隔年	
アメリカ文学史	2・3・4後		2			○				1				隔年	
英米文化論	2・3・4前		2			○				2				隔年 オムニバス	
英語学講読Ⅰa	2・3・4前		2				○			1				隔年	
イギリス言語文化講読Ⅰa	2・3・4後		2				○			1				隔年	
イギリス言語文化講読Ⅰb	2・3・4前		2				○			1				隔年	
アメリカ言語文化講読Ⅰa	2・3・4前		2				○			1				隔年	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	アメリカ言語文化講読Ⅰb	2・3・4前		2				○		1						
	英語学講読Ⅱa	3・4前		2				○			1					
	イギリス言語文化講読Ⅱa	3・4前		2				○			1					
	イギリス言語文化講読Ⅱb	3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化講読Ⅱa	3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化講読Ⅱb	3・4前		2				○		1						
	英語学演習Ⅰa	2・3・4後		2				○			1					
	イギリス言語文化演習Ⅰa	2・3・4後		2				○			1					
	イギリス言語文化演習Ⅰb	2・3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化演習Ⅰa	2・3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化演習Ⅰb	2・3・4後		2				○		1						
	英語学演習Ⅱa	3・4後		2				○			1					
	イギリス言語文化演習Ⅱa	3・4後		2				○			1					
	イギリス言語文化演習Ⅱb	3・4前		2				○		1						
	アメリカ言語文化演習Ⅱa	3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化演習Ⅱb	3・4後		2				○		1						
	英語学特殊講義a	2・3・4後		2				○			1					
	イギリス言語文化特殊講義a	2・3・4前		2				○			1					
	イギリス言語文化特殊講義b	2・3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化特殊講義a	2・3・4後		2				○		1						
	アメリカ言語文化特殊講義b	2・3・4後		2				○		1						
	英語コミュニケーション(作文)Ⅰa	2・3・4前		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(作文)Ⅰb	2・3・4後		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(会話)ⅠA	2・3・4前		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(会話)ⅠB	2・3・4後		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(作文)Ⅱa	3・4前		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(作文)Ⅱb	3・4後		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(会話)Ⅱa	3・4前		1					○							兼1
	英語コミュニケーション(会話)Ⅱb	3・4後		1					○							兼1
	ヨーロッパ言語文化特殊講義(a)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	ヨーロッパ言語文化特殊講義(b)	2・3・4後		2				○		1	1					隔年
	ヨーロッパ言語文化特殊講義(c)	2・3・4後		2				○		1	1					隔年
	基礎ドイツ語	1		2				○		1						
	基礎フランス語	1		2				○		1	1					
	基礎ロシア語	1		2				○		1						
	ドイツ言語文化特殊講義(a)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	ドイツ言語文化特殊講義(b)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ドイツ言語文化特殊講義(c)	2・3・4後		2				○			1					隔年
	ドイツ言語文化特殊講義(d)	2・3・4前		2				○			1					隔年
	ドイツ文化論(a)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	ドイツ文化論(b)	2・3・4後		2				○		1						隔年
	ドイツ語学概論	2・3・4前		2				○			1					隔年
	ドイツ文学史(a)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ドイツ文学史(b)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ドイツ文学史(c)	2・3・4前		2				○		1						隔年
ドイツ言語文化演習Ⅰ(a)	2・3・4前		2					○	1							
ドイツ言語文化演習Ⅰ(b)	2・3・4前		2					○		1						
ドイツ言語文化演習Ⅱ(a)	3・4後		2					○	1							
ドイツ言語文化演習Ⅱ(b)	3・4後		2					○		1						
ドイツ言語文化講読Ⅰ(a)	2・3・4後		2					○	1							
ドイツ言語文化講読Ⅰ(b)	2・3・4前		2					○		1						
ドイツ言語文化講読Ⅱ(a)	3・4前		2					○	1							
ドイツ言語文化講読Ⅱ(b)	3・4前		2					○		1						
ドイツ語コミュニケーション(作文)Ⅰ(a)	2・3・4前		1					○							兼1	
ドイツ語コミュニケーション(作文)Ⅰ(b)	2・3・4後		1					○							兼1	
ドイツ語コミュニケーション(作文)Ⅱ(a)	3・4前		1					○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	ドイツ語コミュニケーション(作文)Ⅱ(b)	3・4後		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅰ(a)	2・3・4前		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅰ(b)	2・3・4前		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅰ(c)	2・3・4後		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅰ(d)	2・3・4後		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅱ(a)	3・4前		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅱ(b)	3・4前		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅱ(c)	3・4後		1			○								兼1	
	ドイツ語コミュニケーション(会話)Ⅱ(d)	3・4後		1			○								兼1	
	フランス言語文化特殊講義(a)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	フランス言語文化特殊講義(b)	2・3・4後		2			○			1						隔年
	フランス言語文化特殊講義(c)	2・3・4前		2			○				1					隔年
	フランス言語文化特殊講義(d)	2・3・4後		2			○				1					隔年
	フランス文化論(a)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	フランス文化論(b)	2・3・4前		2			○			1						隔年
	フランス文学史(a)	2・3・4後		2			○			1						隔年
	フランス文学史(b)	2・3・4後		2			○			1						隔年
	フランス言語文化演習Ⅰ	2・3・4前		2				○			1					
	フランス言語文化演習Ⅱ	2・3・4前		2				○			1					
	フランス言語文化演習Ⅲ	3・4前		2				○		1						
	フランス言語文化演習Ⅳ	3・4後		2				○		1						
	フランス言語文化講読Ⅰ	2・3・4前		2				○			1					
	フランス言語文化講読Ⅱ	2・3・4後		2				○			1					
	フランス言語文化講読Ⅲ	3・4前		2				○		1						
	フランス言語文化講読Ⅳ	3・4後		2				○		1						
	実践フランス語演習Ⅰ	2・3・4前		2				○							兼1	
	実践フランス語演習Ⅱ	2・3・4後		2				○							兼1	
	実践フランス語演習Ⅲ	3・4前		2				○							兼1	
	実践フランス語演習Ⅳ	3・4後		2				○							兼1	
	フランス語演習Ⅰ	2・3・4前		2				○		1						
	フランス語演習Ⅱ	2・3・4後		2				○		1						
	フランス語演習Ⅲ	3・4前		2				○			1					
	フランス語演習Ⅳ	3・4後		2				○			1					
	ロシア言語文化特殊講義(a)	2・3・4前		2				○							兼1	隔年
	ロシア言語文化特殊講義(b)	2・3・4後		2				○							兼1	隔年
	ロシア言語文化特殊講義(c)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ロシア文化論(a)	2・3・4前		2				○							兼1	隔年
	ロシア文化論(b)	2・3・4後		2				○							兼1	隔年
	ロシア語学概論(a)	2・3・4前		2				○							兼1	
	ロシア語学概論(b)	2・3・4後		2				○							兼1	
	ロシア文学史(a)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ロシア文学史(b)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ロシア文学史(c)	2・3・4前		2				○		1						隔年
	ロシア言語文化演習Ⅰ(a)	2・3・4後		2				○		1						
	ロシア言語文化演習Ⅱ(a)	3・4前		2				○		1						
ロシア言語文化講読Ⅰ(a)	2・3・4前		2				○		1							
ロシア言語文化講読Ⅱ(a)	3・4後		2				○		1							
実践ロシア語演習Ⅰ(a)	2・3・4前		2				○							兼1		
実践ロシア語演習Ⅰ(b)	2・3・4後		2				○							兼1		
実践ロシア語演習Ⅱ(a)	3・4前		2				○							兼1		
実践ロシア語演習Ⅱ(b)	3・4後		2				○							兼1		
ヨーロッパ言語文化実習Ⅰ	2・3・4前		1					○	1							
ヨーロッパ言語文化実習Ⅱ	2・3・4後		1					○	1							
基礎ゼミナール	1前	2					○		25	17	4					
思想・歴史文化入門	1前		2				○		8	4					オムニバス	
行動・社会文化入門	1前		2				○		5	5	3				オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	言語文化入門	1前		2		○			16	8	1				オムニバス 兼1 兼1 兼8 オムニバス 兼5 オムニバス 兼13 オムニバス 兼1 兼1 兼42
	日本文化論演習	2・3・4後		2			○		1						
	日本語表現法	2・3・4前		2		○			1						
	生涯学習概論	2・3・4前		2		○									
	博物館概論	2・3・4前		2		○									
	博物館経営論	2・3・4後		2		○			1						
	博物館資料論	2・3・4後		2		○			3						
	博物館資料保存論	3・4後		2		○			2						
	博物館展示論	2・3・4後		2		○			3						
	博物館教育論	3・4前		2		○									
	博物館情報・メディア論	3・4前		2		○									
	博物館実習	4通		3				○	1						
	キャリア・デザイン	2・3・4前		2		○			1						
	キャリア・デザイン演習	2・3・4後		2			○		1						
	インターンシップⅠ	2・3・4通		2				○	1						
	インターンシップⅡ	2・3・4通		2				○	1						
	海外語学研修Ⅰ	1・2・3・4休		1			○		1						
	海外語学研修Ⅱ	1・2・3・4休		1			○		1						
	海外語学研修Ⅲ	1・2・3・4休		1			○		1						
	海外語学研修Ⅳ	1・2・3・4休		1			○		1						
卒業研究	4通		10			○		29	17	4					
小計 (455科目)		-	12	869	0		-	29	17	4	1	0		兼42	
合計 (568科目)		-	20	1,041	8		-	29	17	4	1	0		兼290	
学位又は称号	学士 (文学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
1. 教養教育科目 24単位以上 必修科目：8単位 選択科目：16単位以上 (人文科学系から2単位以上, 社会科学系から2単位以上, 自然科学系, 医療・健康科学系から4単位以上, 総合科目系から4単位以上, 外国語系から4単位それぞれ修得。地域志向科目1科目2単位を含むこと。)							1学年の学期区分			2期					
2. 専門科目 84単位以上 必修科目：12単位 選択科目：72単位以上							1学期の授業期間			15週					
3. 自由選択科目 16単位以上 合計124単位以上修得 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1時限の授業時間			90分					

(注)

- 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は, 各授業科目について, 該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし, 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち, 臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を, 連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。

- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
- (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
（富山大学人間発達科学部発達教育学科）【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文科学系	哲学のすすめ	1前・後		2		○								兼1	
	人間と倫理	1前・後		2		○								兼1	
	こころの科学	1前・後		2		○								兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○								兼2	
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○								兼1	
	日本文学	1前・後		2		○								兼1	
	外国文学	1前・後		2		○								兼1	
	言語と文化	1前・後		2		○								兼1	
	音楽	1前・後		2		○								兼1	
	美術	1前・後		2		○				1					
	言語表現	1前・後		2				○						兼1	
	治療の文化史	1前・後		2			○							兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2			○							兼1	
	異文化理解	1前・後		2			○				1				外国人留学生限定
小計（15科目）		—	0	30	0	—			1	1	0	0	0	兼13	—
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○								兼1	
	国家と市民	1前・後		2		○								兼1	
	経済生活と法	1前・後		2		○								兼1	
	市民生活と法	1前・後		2		○								兼1	
	はじめての経済学	1前・後		2		○								兼1	
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○								兼1	
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○								兼1	
	市場と企業の関係	1前・後		2		○								兼1	
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○								兼1	
小計（10科目）		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—
自然科学系	地球と環境	1前・後		2		○								兼2	
	生命の世界	1前・後		2		○								兼2	
	物理の世界	1前・後		2		○								兼2	
	化学物質の世界	1前・後		2		○								兼2	
	自然と情報の数理	1前・後		2		○								兼1	
	社会と情報の数理	1前・後		2		○								兼1	
	技術の世界	1前・後		2		○								兼2	
	材料の科学	1前・後		2		○								兼3	
	生活の科学	1前・後		2		○								兼1	
	コンピュータの話	1前・後		2		○								兼2	
	デザインと生物	1前・後		2		○								兼1	
小計（11科目）		—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼19	—
医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2		○								兼1	
	概説医療心理学	1前・後		1		○								兼1	
	認知科学	1前・後		2		○								兼1	
	脳科学入門	1前・後		2		○								兼1	
	生命科学入門	1前・後		1		○								兼2	
	免疫学入門	1前・後		2		○								兼1	
	身近な医学	1前・後		2		○								兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○				1					
	医療と地域社会	1前・後		2		○								兼2	
小計（9科目）		—	0	16	0	—			1	0	0	0	0	兼7	—
総合科目系	環境	1前・後		2		○								兼1	
	ジェンダー	1前・後		2		○								兼1	
	技術と社会	1前・後		2		○								兼2	
	現代文化	1前・後		2		○								兼1	
	人権と福祉	1前・後		2		○				1					
	環日本海	1前・後		2		○								兼1	
	科学と社会	1前・後		2		○								兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○								兼1	
	ビジネス思考	1前・後		2		○								兼1	
	平和学入門	1前・後		2		○								兼1	
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合科目系	新聞投稿に挑戦	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定	
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1		
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1		
	万葉学	1前・後		2		○									兼1		
	日本海学	1前・後		2		○									兼1		
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1		
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1		
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1		
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○				1							
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1		
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1		
	富山学	1前・後		2		○									兼1		
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼2		
	産業観光学	1前・後		2		○									兼2		
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼2		
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼2		
	小計 (29科目)	—		0	58	0		—		0	2	0	0	0	兼29		—
	教養教育科目	外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1			○									
英語リテラシーⅡ-A			1後	1			○									兼7	
英語コミュニケーションⅠ-A			1前	1			○									兼7	
英語コミュニケーションⅡ-A			1後	1			○									兼7	
ドイツ語基礎Ⅰ			1前		1		○									兼1	
ドイツ語基礎Ⅱ			1後		1		○									兼1	
ドイツ語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼1	
ドイツ語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼1	
フランス語基礎Ⅰ			1前		1		○									兼1	
フランス語基礎Ⅱ			1後		1		○									兼1	
フランス語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼1	
フランス語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼1	
中国語基礎Ⅰ			1前		1		○									兼1	
中国語基礎Ⅱ			1後		1		○									兼1	
中国語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼1	
中国語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼1	
朝鮮語基礎Ⅰ			1前		1		○									兼1	
朝鮮語基礎Ⅱ			1後		1		○									兼1	
朝鮮語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼1	
朝鮮語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼1	
ロシア語基礎Ⅰ			1前		1		○									兼1	
ロシア語基礎Ⅱ			1後		1		○									兼1	
ロシア語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼1	
ロシア語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼1	
日本語リテラシーⅠ			1前		1		○									兼2	
日本語リテラシーⅡ			1後		1		○									兼2	
日本語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼2	
日本語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼2	
発展多言語演習ドイツ語			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習中国語			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅰ	2前			1		○								兼1			
発展多言語演習ラテン語Ⅱ	2後			1		○								兼1			
日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○								兼1			
日本語リテラシーⅢ	2前			1		○								兼1			
日本語／専門研究	2後			1		○								兼1			
日本語／ビジネス	2後			1		○								兼1			
小計 (36科目)	—		4	24	8		—		0	0	0	0	0	兼26	—		
保健体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後		1		○									兼1	—	
	健康・スポーツ／実技	1前		1				○							兼1		
小計 (2科目)		—		2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—	
情報処理系	情報処理	1前		2		○									兼4	—	
	応用情報処理	1後		2			○								兼1		
小計 (2科目)		—		2	2	0		—		0	0	0	0	0	兼4	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎 科目	基礎ゼミナール	1前	2					○			4	3	1			兼8	
	発達科学概論	1前	2					○									
	小計(2科目)	—	4	0	0			—			4	3	1	0	0	兼8	—
専門共通 科目	インストラクショナルデザイン	3前		2			○									兼2	
	インターンシップ	3前		2					○			2	1			兼3	
	ボランティア体験	3前		2					○			2	1			兼3	
	小計(3科目)	—	0	6	0			—			0	2	1	0	0	兼5	—
科目 共通 専門	教育心理学	1前	2				○						1				
	子どもとのふれあい体験	1~4通		6					○		2	5	1			兼4	
	教員実地研究	4前		2					○		1						
	小計(3科目)	—	2	8	0			—			2	5	2	0	0	兼4	—
教職 実践に 関する 科目	幼児教育実習	2・3通		7					○		1						
	初等教育実習	2・3通		7					○		1						
	特別支援学校教育実習	4通		3					○								
	教職実践演習(幼・小・中・高)	4後		2					○				1			兼1	
	小計(4科目)	—	0	19	0			—			1	0	1	0	0	兼1	—
教育心理 領域 科目	生徒・進路指導論	2後	2				○					1	1				
	教育相談	2前	2				○					1	1				
	心理学研究法	1後	2				○						1				
	心理学実験法	2前	2				○										
	心理統計学	2前	2				○			1							
	心理学ゼミナール	3通	4					○		1	2	2					
	学習心理学	2後		2			○						1				
	教育の方法と技術	3前	2				○							1		兼1	
	発達臨床心理学	2前		2			○							1			
	青年心理学	2後		2			○					1					
	臨床心理学	2前		2			○					1					
	カウンセリング	2後		2				○				1					
	臨床心理実習	3通		2					○			1	1				
	プロジェクトマネジメント	3通		2				○					1				
	心理学特別講義	3前		2				○			1	2	2				
	小計(15科目)	—	16	16	0			—			1	2	2	0	0	兼1	—
学 科 専 門 科 目	国語(書写を含む。)	1後		2			○									兼2	
	社会	2後		2			○					1				兼5	オムニバス
	算数	2前		2			○									兼1	
	理科	2前		2			○									兼4	オムニバス
	生活	2前		2			○				1						
	音楽	2後		2			○									兼1	
	図画工作	2後		2			○				1					兼1	オムニバス
	家庭	2前		2			○				1						
	体育	1前		2			○						1				
	英語	2後		2			○									兼3	オムニバス
	国語科教育論	2前		2			○						1				
	社会科教育論	2後		2			○				1						
	算数科教育論	2後		2			○				1						
	理科教育論	2後		2			○					1					
	生活科教育論	2後		2			○					1					
	音楽科教育論	3前		2			○					1	1				
	図画工作科教育論	3前		2			○				1						
	家庭科教育論	2後		2							1						
	体育科教育論	2前		2									1				
	英語科教育論	3前		2												兼1	
	教育の思想と歴史	1後		2										1			
	教育哲学	2前			2									1			
	教職と教育	1前		2							1						
	学校の制度と経営	2後		2							1						
	教育法規	2前			2						1						
	学校文化論	2後			2									1			
	教育課程論	2前		1										1			
	道徳教育論	3前		2										1			
	総合的な学習の時間教育論	3前		2												兼1	
	特別活動論	2前		1										1			
	学校インターンシップ	1通			2						4	2	1				兼1
	地域教材研究(富山学)	1後		2							1		1				
	地域交流活動論	2後			2				○		1						
	学校教育ゼミナールⅠ	3前			1				○		6	2	5				
	学校教育ゼミナールⅡ	3後		1					○		6	2	5				
	小計(35科目)	—	35	31	0			—			6	2	5	0	0	兼20	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	学 科 専 門 科 目 発 達 福 祉 領 域 科 目	特別支援教育概論	1後	2		○			1	3					オムニバス
		障害児教育総論	1後	2		○			1	2					集中・オムニバス
		特別支援教育学Ⅰ	1後	2		○				1					集中
		特別支援教育学Ⅱ	2前	2		○				1					
		知的障害児の心理Ⅰ	2前	2		○			1						
		知的障害児の心理Ⅱ	4前	2		○			1						
		知的障害児の生理・病理Ⅰ	2後	2		○			1						
		知的障害児の生理・病理Ⅱ	4後	2		○			1						
		肢体不自由児の心理・生理・病理	3前	2		○			1						
		病弱児の心理・生理・病理	3後	2		○			1						
		知的障害教育総論	3前	2		○				1					
		知的障害児の教育Ⅰ	2後	2		○				1					
		知的障害児の教育Ⅱ	3前	2		○				1					
		知的障害児の教育診断臨床Ⅰ	3前	2				○		1	2				
		知的障害児の教育診断臨床Ⅱ	3前	2				○			1				
		知的障害児の教育診断臨床Ⅲ	3前	2				○			1				
		肢体不自由児の教育	3前	2			○								兼1 集中
		病弱児の教育	3後	2			○								兼1 集中
		特別支援教育研究法	3後	2				○		1	2				
		軽度発達障害児教育総論	3後	2			○				1				
		重複障害児教育総論	3後	2			○								兼1 集中
		幼児教育カリキュラム論	3後	2			○				1				
		保育内容総論	2後	2	2			○			1				
		保育内容(健康)	2後	2	2			○							兼2
		保育内容(人間関係)	2前	2	2			○		1					
		保育内容(環境)	3前	2	2			○		1					集中
		保育内容(言葉)	2前	2	2			○			1				
		保育内容(表現)	2後	2	2			○		1	1				
		保育の指導法	2前	2	2			○			1				
		表現技術(音楽表現)	2前	2	2			○		1					
		表現技術(ピアノ奏法)	2後	1	1			○			1				
		幼児理解と相談支援	1後	2	2			○		1					
		社会福祉学概論	1後	2	2		○				1				
		ソーシャルワーク論	3前	2	2		○				1				
		地域共生論	2後	2	2		○				1				
		就労支援論	2後	2	2		○				1				
		保育原理	2後	2	2		○				1				
		子育て支援	3後	1	1			○			1				
		社会的養護Ⅰ	3前	2	2			○			1				
		社会的養護Ⅱ	3後	1	1			○			1				
		児童福祉論	2後	2	2		○				1				
		保育者論	2前	2	2		○				1				
		保育の心理学	2前	2	2		○			1					
		子ども家庭支援の心理学	3前	2	2		○			1					
		子どもの理解と援助	2後	1	1			○		1					
		臨床発達心理学	2前	2	2		○			1					
		子どもの食と栄養	2前	2	2			○			1				兼1
		子どもの保健	2後	2	2		○			1					
		子どもの健康と安全	2後	1	1			○		1					
		子育てネットワーク論	3後	2	2		○				1				
		障害児保育	3後	2	2			○			1				
		乳児保育Ⅰ	2前	2	2			○			1				
		乳児保育Ⅱ	2後	1	1			○			1				
		発達福祉統計学	3前	2	2		○			1					
		表現技術(身体表現)	2後	1	1			○							兼1
		表現技術(言語・造形表現)	2前	2	2			○		1	1				
表現技術(歌唱法)	3前	1	1			○		1							
地域子育て支援法	4前	2	2		○			1							
地域子育て支援論演習	4後	2	2			○		1							
保育実習Ⅰ	4通	4	4				○	2	1						
保育実習Ⅱ	4通	2	2				○	2	1						
保育実習Ⅲ	4通	2	2				○	2	1						
保育実習指導Ⅰ	4通	2	2				○	2	1						
保育実習指導Ⅱ	4通	1	1				○	2	1						
保育実習指導Ⅲ	4通	1	1				○	2	1						
保育実践演習	3通	2	2				○	2	1						
発達福祉演習	3通	4	4				○	3	5						
小計(67科目)	—	8	120	0				3	7	0	0	0	兼6	—	
特別研究	4通	6	6	0			○	10	10	7					
小計(1科目)	—	6	0	0				10	10	7	0	0		—	
合計(244科目)	—	79	372	8				10	10	7	0	0	兼12	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																																								
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手																																									
学位又は称号	学士（教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係																																																
卒業要件及び履修方法						授業期間等																																																
卒業に必要な単位数 124単位以上 (履修科目の登録の上限：50単位（年間）)						1 学年の学期区分			2期																																													
						1 学期の授業期間			15週																																													
						1 時限の授業時間			90分																																													
<p>1. 教養教育科目 22単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 人文科学系</td> <td rowspan="3">} 10単位以上 (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系から</td> </tr> <tr> <td>(2) 社会科学系</td> </tr> <tr> <td>(3) 自然科学系</td> </tr> <tr> <td>(4) 総合科目系</td> <td>2単位以上</td> </tr> <tr> <td>(5) 外国語系</td> <td>6単位以上</td> </tr> <tr> <td>(6) 保健体育系</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>(7) 情報処理系</td> <td>2単位</td> </tr> </table> <p>2. 専門科目</p> <p>[教育心理コース] 82単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 学部共通科目</td> <td>6単位</td> </tr> <tr> <td>(2) 学科共通科目</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>(3) 自コース領域科目及び関連科目</td> <td>68単位以上</td> </tr> <tr> <td>(4) 特別研究</td> <td>6単位</td> </tr> </table> <p>[学校教育コース] 78単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 学部共通科目</td> <td>4単位</td> </tr> <tr> <td>(2) 学科共通科目</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>(3) 自コース領域科目及び関連科目</td> <td>66単位以上</td> </tr> <tr> <td>(4) 特別研究</td> <td>6単位</td> </tr> </table> <p>[発達福祉コース] 66単位以上</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 学部共通科目</td> <td>6単位</td> </tr> <tr> <td>(2) 学科共通科目</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td>(3) 自コース領域科目及び関連科目</td> <td>52単位以上</td> </tr> <tr> <td>(4) 特別研究</td> <td>6単位</td> </tr> </table> <p>3. 自由選択</p> <p>本学部の専門科目及び他学部の専門科目の中から修得する。 (教養教育科目の単位を10単位まで含むことができる。)</p> <table border="0"> <tr> <td>[教育心理コース]</td> <td>20単位以上</td> </tr> <tr> <td>[学校教育コース]</td> <td>24単位以上</td> </tr> <tr> <td>[発達福祉コース]</td> <td>36単位以上</td> </tr> </table>													(1) 人文科学系	} 10単位以上 (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系から	(2) 社会科学系	(3) 自然科学系	(4) 総合科目系	2単位以上	(5) 外国語系	6単位以上	(6) 保健体育系	2単位	(7) 情報処理系	2単位	(1) 学部共通科目	6単位	(2) 学科共通科目	2単位	(3) 自コース領域科目及び関連科目	68単位以上	(4) 特別研究	6単位	(1) 学部共通科目	4単位	(2) 学科共通科目	2単位	(3) 自コース領域科目及び関連科目	66単位以上	(4) 特別研究	6単位	(1) 学部共通科目	6単位	(2) 学科共通科目	2単位	(3) 自コース領域科目及び関連科目	52単位以上	(4) 特別研究	6単位	[教育心理コース]	20単位以上	[学校教育コース]	24単位以上	[発達福祉コース]	36単位以上
(1) 人文科学系	} 10単位以上 (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系から																																																					
(2) 社会科学系																																																						
(3) 自然科学系																																																						
(4) 総合科目系	2単位以上																																																					
(5) 外国語系	6単位以上																																																					
(6) 保健体育系	2単位																																																					
(7) 情報処理系	2単位																																																					
(1) 学部共通科目	6単位																																																					
(2) 学科共通科目	2単位																																																					
(3) 自コース領域科目及び関連科目	68単位以上																																																					
(4) 特別研究	6単位																																																					
(1) 学部共通科目	4単位																																																					
(2) 学科共通科目	2単位																																																					
(3) 自コース領域科目及び関連科目	66単位以上																																																					
(4) 特別研究	6単位																																																					
(1) 学部共通科目	6単位																																																					
(2) 学科共通科目	2単位																																																					
(3) 自コース領域科目及び関連科目	52単位以上																																																					
(4) 特別研究	6単位																																																					
[教育心理コース]	20単位以上																																																					
[学校教育コース]	24単位以上																																																					
[発達福祉コース]	36単位以上																																																					

教育課程等の概要															
（富山大学人間発達科学部人間環境システム学科）【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○								兼1	
	人間と倫理	1前・後	2		○									兼1	
	こころの科学	1前・後	2		○									兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後	2		○									兼2	
	東洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1	
	日本文学	1前・後	2		○									兼1	
	外国文学	1前・後	2		○									兼1	
	言語と文化	1前・後	2		○									兼1	
	音楽	1前・後	2		○									兼1	
	美術	1前・後	2		○									兼1	
	言語表現	1前・後	2		○		○							兼1	
	治療の文化史	1前・後	2		○									兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後	2		○									兼1	
	異文化理解	1前・後	2		○									兼1	
	小計（15科目）	—	0	30	0	—				0	0	0	0	0	兼15
	社会科学系	現代社会論	1前・後	2		○									兼1
	日本国憲法	1前・後	2		○										兼1
	国家と市民	1前・後	2		○										兼1
	経済生活と法	1前・後	2		○										兼1
	市民生活と法	1前・後	2		○										兼1
	はじめての経済学	1前・後	2		○										兼1
	産業と経済を学ぶ	1前・後	2		○										兼1
	経営資源のとりえ方	1前・後	2		○										兼1
	市場と企業の関係	1前・後	2		○										兼1
	地域の経済と社会・文化	1前・後	2		○										兼1
	小計（10科目）	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	兼9
	自然科学系	地球と環境	1前・後	2		○									兼2
	生命の世界	1前・後	2		○										兼2
	物理の世界	1前・後	2		○										兼2
	化学物質の世界	1前・後	2		○										兼2
	自然と情報の数理	1前・後	2		○										兼1
	社会と情報の数理	1前・後	2		○										兼1
	技術の世界	1前・後	2		○										兼2
	材料の科学	1前・後	2		○										兼3
	生活の科学	1前・後	2		○					1					兼2
	コンピュータの話	1前・後	2		○										兼2
	デザインと生物	1前・後	2		○										兼1
	小計（11科目）	—	0	22	0	—				0	1	0	0	0	兼18
	医療・健康科学系	医療心理学	1前・後	2		○									兼1
	概説医療心理学	1前・後	1		○										兼1
	認知科学	1前・後	2		○										兼1
	脳科学入門	1前・後	2		○										兼1
	生命科学入門	1前・後	1		○										兼2
	免疫学入門	1前・後	2		○										兼1
身近な医学	1前・後	2		○										兼1	
障害とアクセシビリティ	1前・後	2		○										兼1	
医療と地域社会	1前・後	2		○										兼2	
小計（9科目）	—	0	16	0	—				0	0	0	0	0	兼8	
総合科目系	環境	1前・後	2		○									兼1	
ジェンダー	1前・後	2		○										兼1	
技術と社会	1前・後	2		○										兼2	
現代文化	1前・後	2		○										兼1	
人権と福祉	1前・後	2		○										兼1	
環日本海	1前・後	2		○										兼1	
科学と社会	1前・後	2		○										兼1	
アカデミック・デザイン	1前・後	2		○										兼1	
ビジネス思考	1前・後	2		○										兼1	
平和学入門	1前・後	2		○					1					兼1	
東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後	2		○										兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合科目系	新聞投稿に挑戦	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定	
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1		
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1		
	万葉学	1前・後		2		○									兼1		
	日本海学	1前・後		2		○									兼1		
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1		
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1		
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1		
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○									兼1		
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1		
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1		
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1		
	富山学	1前・後		2		○									兼1		
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼2		
	産業観光学	1前・後		2		○									兼2		
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼2		
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼2		
	小計 (29科目)	—	0	58	0	—	—	—	—	0	1	0	0	0	兼23		—
	教養教育科目	外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1			○			1	1					兼5
英語リテラシーⅡ-A			1後	1			○			1	1				兼5		
英語コミュニケーションⅠ-A			1前	1			○			2					兼5		
英語コミュニケーションⅡ-A			1後	1			○			2					兼5		
ドイツ語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1		
ドイツ語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1		
ドイツ語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1		
ドイツ語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1		
フランス語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1		
フランス語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1		
フランス語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1		
フランス語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1		
中国語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1		
中国語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1		
中国語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1		
中国語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1		
朝鮮語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1		
朝鮮語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1		
朝鮮語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1		
朝鮮語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1		
ロシア語基礎Ⅰ			1前		1		○								兼1		
ロシア語基礎Ⅱ			1後		1		○								兼1		
ロシア語コミュニケーションⅠ			1前		1		○								兼1		
ロシア語コミュニケーションⅡ			1後		1		○								兼1		
日本語リテラシーⅠ			1前		1		○									兼2	
日本語リテラシーⅡ			1後		1		○									兼2	
日本語コミュニケーションⅠ			1前		1		○									兼2	
日本語コミュニケーションⅡ			1後		1		○									兼2	
発展多言語演習ドイツ語			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習中国語			2前			1		○								兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅰ	2前			1		○								兼1			
発展多言語演習ラテン語Ⅱ	2後			1		○								兼1			
日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○								兼1			
日本語リテラシーⅢ	2前			1		○								兼1			
日本語／専門研究	2後			1		○								兼1			
日本語／ビジネス	2後			1		○								兼1			
小計 (36科目)	—	4	24	8	—	—	—	—	2	1	0	0	0	兼23	—		
保健・体育系	健康・スポーツ／講義	1前・後	1			○									兼1	—	
	健康・スポーツ／実技	1前	1					○							兼1		
小計 (2科目)	—	2	0	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—		
情報処理系	情報処理	1前	2			○									兼4	—	
	応用情報処理	1後	2				○								兼1		
	小計 (2科目)	—	2	2	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	基礎ゼミナール	1前	2					○		4						
	発達科学概論	1前	2				○			5	2	1			兼4	
	小計(2科目)	—	4	0	0			—		8	2	1	0	0	兼4	—
専門共通科目	インストラクショナルデザイン	3前		2			○			1		1				
	インターンシップ	3前		2					○	2	1				兼3	
	ボランティア体験	3前		2					○	2	1				兼3	
	小計(3科目)	—	0	6	0			—		3	2	2	0	0	兼3	—
学科共通専門科目	地域スポーツ概論	2後		2			○				1					
	地域と健康	3後		2			○								兼1	
	社会学概論	1後		2			○								兼1	
	環境科学入門	1前		2			○			1	1					
	平和学	2前		2			○				1					
	ネットワークリテラシー	1前		2			○			1						
	カラーコーディネート論	2前		2			○			1						
	社会問題研究	3前		2			○				1					
	教育時事問題研究	3後		2			○				1					
	児童文学	1前		2			○			1						
	ことばとコミュニケーション	2後		2			○				1					
小計(11科目)	—	0	22	0			—		4	4	0	0	0	兼2	—	
学科専門科目	スポーツ文化論	2後		2			○			1						
	スポーツ心理学	2後		2			○				1					
	スポーツ社会学	2後	2				○				1					
	スポーツ史	2後	2				○			1						
	ハイオメガニクス	2前	2				○			1						
	運動生理学	1後	2				○			1						
	解剖学	1後		2			○								兼1	
	スポーツ栄養学	2後		2			○					1				
	スポーツと発育発達	3前		2			○					1				
	学校と健康	2後		2			○								兼1	
	スポーツ指導論	3後	2				○				1					
	スポーツ運動学	2後		2			○				1					
	スポーツマネジメント	3前	2				○				1					
	スポーツ技術・戦術論	3後		2			○			1						
	メンタルマネジメント	3前		2			○				1					
	救急法	2前		2			○								兼1	
	野外活動実習	1後		1					○	1	3					
	ダンス	1後		2					○			1				
	体操	2後		2					○		1					
	器械運動	1前	1	2					○		1					
	陸上競技	2前	1	2					○		1					
	バレーボール	2前	1	2					○		1					
	バスケットボール	2後	1	2					○		1					
	サッカー	2前		1					○		1					
	ソフトボール	1前		2					○						兼1	
	テニス	1前		3					○		1					
	ハンドボール	1後		1					○		1					
武道	1前	1	2					○						兼1		
水泳	1前	1	2					○		1				兼1		
ゴルフ	2前		3					○		1						
地域スポーツゼミナール	3通	4						○		1	3	1				
小計(31科目)	—	22	47	0			—		2	3	1	0	0	兼4	—	
環境社会デザイン領域科目	環境科学技術実験	2後		1				○		1	3	1				
	科学技術社会論	2前		2			○				1					
	科学ジャーナリズム論	1後		2			○				1					
	環境とエネルギー	2前		2			○				1					
	環境測定と誤差	2前		2			○				1					
	熱とエントロピー	3後		2			○				1					
	基礎物理学実験	2前		1					○		1					
	環境物理学実験	3後		1					○		1					
	化学物質の機能と環境	2後		2			○			1						
	物性化学概論	2前		2			○				1					
	生活環境化学	3前		2			○				1					
	基礎化学実験	2前		1					○		1					
	化学計測実験	3後		1					○		1					
基礎生物学	2後		2			○					1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専 門 科 目	環 境 社 会 デ ザ イ ン 領 域 科 目	生命科学	2前	2		○				1								
		環境社会生物学	3後	2		○				1								
		基礎生命科学実験	2後	1					○	1								
		生命科学実験	3後	1					○	1								
		地球表層変動学	2前	2			○					1						
		地球材料学	2後	2			○					1						
		全地球史	2後	2			○					1						
		基礎地球学実験	2前	1						○		1						
		地球地域学実験	3前	1						○		1						
		栽培技術実習	2前	2						○	1							
		住環境論	2前	2			○				1							
		生活工学	2後	2			○				1							
		都市景観論	2後	2			○				1							
		栄養学	2前	2			○					1						
		食環境論	3前	2			○					1						
		子育てネットワーク論	3後	2			○									兼1		
		地球市民社会論	2前	2			○					1						
		国際政治学	3前	2			○					1						
		人間安全保障論	3後	2			○					1						
		地球社会学演習	3後	2					○			1						
		自然環境地理学	3前	2			○						1					
		地理情報学	2前	2			○				1							
		世界環境地理学	2前	2			○				1							
		人間社会の地理学	2前	2			○				1							
		比較地域論	2後	2			○				1							
		地理学フィールドワーク	3前	2						○	1							
		地理学演習	3後	2					○		1						兼1	
		地域経済論	2前	2			○											
		環境と行政	2後	2			○				1							
		環境と人権	2後	2			○				1							
		法学	2後	2			○				1							
		法学演習	3後	2					○		1							
		日本社会史概論	2前	2			○					1						
		近世日本史	2前	2			○					1						
		基礎地域史	2後	2			○					1						
		歴史情報資料学	2後	2			○					1						
		日本史演習	3後	2					○			1						
		環境歴史学	2前	2			○				1							
		世界システム概論	2前	2			○				1							
		ヨーロッパ地域史論	2前	2			○				1							
		外国史演習	3後	2					○		1							
		哲学	2前	2			○									兼1		
		社会調査法	2後	2			○									兼1		
		東洋史概論	2前	2			○									兼1		
		プロジェクト研究	2後	2					○		5	6	1					
		ゼミナール	3通	2					○		5	6	1					
		小計(60科目)		—	4	107	0			—	5	6	1	0	0	兼5	—	
		人 間 環 境 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 領 域 科 目	英語コミュニケーション実践Ⅰ	2前		2		○									兼1	
			英語コミュニケーション実践Ⅱ	2後		2		○									兼1	
			パブリック・スピーキング	2前		2		○									兼1	
			コミュニケーション・リーディング	3前		2		○									兼1	
			コミュニケーション・ライティング	3後		2		○									兼1	
			マスメディア英語	2前		2		○				1						
			英語集中演習	1後	2					○		1						
			行動としての英語コミュニケーション	2前		2		○				1						
			英語学	2前		2		○				1						
			コミュニケーション音声学	2後		2		○				1						
			異文化理解・交流	2後		2		○					1					
			異文化コミュニケーション論	3前		2		○					1					
			アメリカ文学	3前		2		○					1					
イギリス文学	3前			2		○				1								
現代アメリカ文学	3後			2		○					1							
現代イギリス文学	3後		2		○				1									
社会言語学	2後		2		○					1								
日本語運用基礎論	2前		2		○					1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専 門 科 目	現代文章表現法	2後		2		○				1							
	日本文学概論	2後		2		○				1							
	日本文学研究法	2前		2		○				1							
	テクニカル・ライティング	1後	2			○				1							
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅰ	3前		2		○				1							
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅱ	3前		2		○				1							
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅲ	3後		2		○				1							
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅳ	3前		2		○					1						
	情報コミュニケーション学特別講義Ⅴ	3後		2		○					1						
	アルゴリズムとデータ構造	2後		2		○					1						
	数理システム概論	1後		2		○					1						
	線形システム概論	1後		2		○					1						
	情報代数学	2前		2		○					1						
	情報幾何学	2後		2		○						1					
	情報幾何学演習	3後		2			○				1						
	応用数学	3前		2			○					1					
	数理解析	2前		2			○					1					
	情報数学	2前		2			○				1						
	情報数学演習	2前		2				○			1						
	モデル化とシミュレーション	3後		2			○									兼1	
	基本統計	2後		2			○				1						
	確率論	3前		2			○					1					
	情報集中演習	2前		2				○			1	1					
	コンテンツデザイン概論	2前		2			○				1						
	コンテンツデザイン演習	2後		2				○			1						
	メディア史	2前		2			○				1						
	メディア芸術論	2後		2			○				1						
	メディアデータ編集法	1後		2			○				2						
	マルチメディアシステム	3前		2			○				1						
	マルチメディアシステム演習	3前		2				○			1						
	メディアコミュニケーション概論	1後		2			○				1						
	メディアコミュニケーション演習	2前		2				○			1						
	コンピュータ音楽概論	2前		2			○									兼2	
	コンピュータ音楽演習	2後		2				○			1					兼1	
	プロジェクトマネジメント	3通		2			○				1						
	ゼミナール	3通		4				○			5	3					
	小計(54科目)		—	6	104	0					8	3	0	0	0	兼6	—
	特別研究		4通	6						○	15	12	2				
	小計(1科目)		—	6	0	0					15	12	2	0	0		
	合計(276科目)			—	50	458	8				15	12	2	0	0	兼110	—
	学位又は称号		学士(教育学)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
	卒業要件及び履修方法							授業期間等									
	卒業に必要な単位数 124単位以上 (履修科目の登録の上限: 50単位(年間))							1学年の学期区分		2期							
								1学期の授業期間		15週							
								1時限の授業時間		90分							
	1. 教養教育科目 22単位以上																
	(1) 人文科学系 } 10単位以上																
	(2) 社会科学系 } (ただし、人文科学系から2単位以上、社会科学系から2単位以上、自然科学系																
	(3) 自然科学系 } から																
	(4) 総合科目系 2単位以上																
	(5) 外国語系 6単位以上																
	(6) 保健体育系 2単位																
	(7) 情報処理系 2単位																
	2. 専門科目																
〔地域スポーツコース〕 61単位以上																	
(1) 学部共通科目 6単位																	
(2) 学科共通科目 8単位																	
(3) 自コース領域科目及び関連科目 41単位以上																	
(4) 特別研究 6単位																	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	[環境社会デザインコース]	55単位以上													
	(1) 学部共通科目	6単位													
	(2) 学科共通科目	8単位													
	(3) 自コース領域科目及び関連科目	35単位以上													
	(4) 特別研究	6単位													
	[人間情報コミュニケーションコース]	56単位以上													
	(1) 学部共通科目	6単位													
	(2) 学科共通科目	8単位													
	(3) 自コース領域科目及び関連科目	36単位以上													
	(4) 特別研究	6単位													
	3. 自由選択														
	本学部の専門科目及び他学部の専門科目の中から修得する。 (教養教育科目の単位を10単位まで含むことができる。)														
	[地域スポーツコース]	41単位以上													
	[環境社会デザインコース]	47単位以上													
	[人間情報コミュニケーションコース]	46単位以上													

教育課程等の概要															
(経済学部 経済学科(昼間主コース)) 【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼3
	人間と倫理	1前・後	2		○										兼3
	こころの科学	1前・後	2		○										兼4
	現代と教育	1前・後	2		○										兼7
	日本の歴史と社会	1前・後	2		○										兼5
	東洋の歴史と社会	1前	2		○										兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
	日本文学	1前・後	2		○										兼6
	外国文学	1前・後	2		○										兼4
	言語と文化	1前・後	2		○										兼4
	音楽	1前・後	2		○										兼2
	美術	1前・後	2		○										兼13
	言語表現	1前・後	2				○								兼2
	治療の文化史	1前・後	2				○								兼1
	異文化間コミュニケーション	1後	2				○								兼1
	異文化理解	1前	2				○								兼1
	小計(16科目)	-	0	32	0	-			0	0	0	0	0	兼57	
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○									兼4
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼3
	国家と市民	1前・後		2		○									兼3
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼3
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼3
	はじめての経済学	1前・後		2		○			3	2					
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○			4		1				兼1
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼3
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼3
	地域の経済と社会・文化	1前		2		○									兼2
	小計(10科目)	-	0	32	0	-			7	1	1	0	0	兼22	
自然科学系	地球と環境	1前・後		2		○									兼2
	生命の世界	1前・後		2		○									兼7
	物理の世界	1前・後		2		○									兼2
	化学物質の世界	1前・後		2		○									兼3
	自然と情報の数理	1前・後		2		○									兼5
	社会と情報の数理	1前		2		○									兼1
	技術の世界	1後		2		○									兼2
	材料の科学	1前		2		○									兼1
	生活の科学	1前		2		○									兼2
	コンピュータの話	1前・後		2		○									兼2
	デザインと生物	1後		2		○									4
	小計(11科目)	-	0	22	0	-			0	0	0	0	0	兼31	
医療・健康科学系	医療心理学	1前		2		○									兼1
	認知科学	1後		2		○									兼1
	脳科学入門	1後		2		○									兼2
	免疫学入門	1前		2		○									兼1
	身近な医学	1後		2		○									兼1
	障害とアクセシビリティ	1前		2		○									兼1
	医療と地域社会	1後		2		○									兼1
	小計(7科目)	-	0	14	0	-			0	0	0	0	0	兼6	
総合科目系	環境	1前		2		○									兼1
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1
	技術と社会	1前・後		2		○									兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	外国語系	発展多言語演習ラテン語Ⅰ	1前		1		○								兼1			
		発展多言語演習ラテン語Ⅱ	1後		1		○								兼1			
		日本語コミュニケーションⅢ	1前		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		日本語リテラシーⅢ	1後		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		日本語／専門研究	1前		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		日本語／ビジネス	1後		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		小計(36科目)	-	4	24	8				0	0	0	0	0		兼71		
	保健体育系	健康・スポーツ／講義	1後	1			○									兼7		
		健康・スポーツ／実技	1前・後	1					○							兼14		
		小計(2科目)	-	2	0	0				0	0	0	0	0		兼21		
情報処理系	情報処理-A	1前・後	2			○				1					兼10			
	応用情報処理	1後		2			○								兼5			
	小計(2科目)	-	2	2	0				0	1	0	0	0		兼11			
専門科目	学部共通科目	初年次教育	1-①②	2			○			2	1				兼5	オムニバス		
		入門ゼミナール	1-③④		2			○		5	2	1						
		基礎数学	1-①②③④		2			○								兼2		
		現代経済入門	1-①②	2			○			2	1						オムニバス	
		経済学入門	1-③④	2			○			3	1							
		経営学入門	1-①②	2			○									兼3	オムニバス	
		会計学入門	1-③④	2			○									兼3		
		入門法学Ⅰ	1-①②	2			○									兼2		
		入門法学Ⅱ	1-③④	2			○									兼2		
		小計(9科目)	-	14	4	0				9	3	1	0	0		兼13		
	基礎科目	基礎ゼミナール	2-①②	2				○		15	6	1				兼21		
		小計(1科目)	-	2	0	0				15	6	1	0	0		兼21		
		発展科目	専門ゼミナールⅠ	2-③④	2				○		15	6	1				兼21	
			専門ゼミナールⅡ	3-①②	2				○		15	6	1				兼21	
			専門ゼミナールⅢ	3-③④	2				○		15	6	1				兼21	
			専門ゼミナールⅣ	4-①②	2				○		15	6	1				兼21	
			卒業研究	4-③④	2				○		15	6	1				兼21	
			卒業論文	4-③④	2				○		15	6	1				兼21	
			自由ゼミナールⅠ	2-③④		2			○		15	6	1				兼21	
自由ゼミナールⅡ			3-①②		2			○		15	6	1				兼21		
自由ゼミナールⅢ	3-③④			2			○		15	6	1				兼21			
自由ゼミナールⅣ	4-①②			2			○		15	6	1				兼21			
小計(12科目)	-	12	12	0				15	6	1	0	0		兼21				
社会連携科目	リテラシー特殊講義	2・3-①②③④		1			○								兼1			
	キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④		2			○								兼1			
	地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④		2			○								兼1			
	地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④		2				○							兼1			
	地域政策特殊講義	2・3-①②③④		2			○		1									
	地域政策特殊演習	2・3-①②③④		2				○	1									
	国内インターンシップⅠ	3-④		1					15	6	1				兼35			
	国内インターンシップⅡ	3-④		2					15	6	1				兼35			
	国際インターンシップⅠ	3-④		1					15	6	1				兼35			
	国際インターンシップⅡ	3-④		2					15	6	1				兼35			
小計(10科目)	-	0	17	0				15	6	1	0	0		兼38				
学科科目	基礎科目	【自学科科目】																
		ミクロ経済学Ⅰ-A	2・3-①③		2			○		2								
		ミクロ経済学Ⅰ-B	2・3-②④		2				○		2							
		マクロ経済学Ⅰ-A	2・3-①③		2				○			1	1					
		マクロ経済学Ⅰ-B	2・3-②④		2				○			1	1					
		政治経済学-A	2・3-①③		2				○			1						
政治経済学-B	2・3-②④		2				○			1								

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	基礎科目 社会経済学概論	2・3-①②③④		2		○				1					
	社会政策-A	2・3-①③		2		○			1						
	社会政策-B	2・3-②④		2		○			1						
	農業政策-A	2・3-①③		2		○									兼1
	農業政策-B	2・3-②④		2		○									兼1
	労働経済論-A	2・3-①③		2		○									兼1
	労働経済論-B	2・3-②④		2		○									兼1
	社会調査論	2・3-①②③④		2		○			1						
	経済史総論-A	2・3-①③		2		○				1					
	経済史総論-B	2・3-②④		2		○				1					
	西洋経済史-A	2・3-①③		2		○									兼1
	西洋経済史-B	2・3-②④		2		○									兼1
	日本経済史-A	2・3-①③		2		○					1				
	日本経済史-B	2・3-②④		2		○					1				
	社会学総論-A	2・3-①③		2		○				2					
	社会学総論-B	2・3-②④		2		○				2					
	産業社会学	2・3-①②③④		2		○				1					
	地域社会学	2・3-①②③④		2		○				1					
	日本産業論-A	2・3-①③		2		○				1					
	日本産業論-B	2・3-②④		2		○				1					
	国際経済学-A	2・3-①③		2		○				1					
	国際経済学-B	2・3-②④		2		○				1					
	開発経済学-A	2・3-①③		2		○				1					
	開発経済学-B	2・3-②④		2		○				1					
	地域経済論-A	2・3-①③		2		○				1					
	地域経済論-B	2・3-②④		2		○				1					
	財政学-A	2・3-①③		2		○				1	1				
	財政学-B	2・3-②④		2		○				1	1				
	金融機関論	2・3-①②③④		2		○				1					
	統計学-A	2・3-①③		2		○				2					
	統計学-B	2・3-②④		2		○				2					
	【他学科科目】														
	経営学と経済学で出る数学	2・3-①②③④		2		○									兼2
	経営戦略論-A	2・3-①③		2		○									兼1
	経営戦略論-B	2・3-②④		2		○									兼1
	経営組織論-A	2・3-①③		2		○									兼1
	経営組織論-B	2・3-②④		2		○									兼1
	人的資源管理-A	2・3-①③		2		○									兼1
	人的資源管理-B	2・3-②④		2		○									兼1
	流通論-A	2・3-①③		2		○									兼1
	流通論-B	2・3-②④		2		○									兼1
	マーケティング論-A	2・3-①③		2		○									兼1
マーケティング論-B	2・3-②④		2		○									兼1	
貿易論-A	2・3-①③		2		○									兼1	
貿易論-B	2・3-②④		2		○									兼1	
簿記論-A	2・3-①③		2		○									兼1	
簿記論-B	2・3-②④		2		○									兼1	
財務会計論-A	2・3-①③		2		○									兼1	
財務会計論-B	2・3-②④		2		○									兼1	
原価計算論-A	2・3-①③		2		○									兼1	
原価計算論-B	2・3-②④		2		○									兼1	
ファイナンスの基礎	2・3-①②③④		2		○									兼2	
経営数学-A	2・3-①③		2		○									兼1	
経営数学-B	2・3-②④		2		○									兼1	
情報システム論-A	2・3-①③		2		○									兼1	
情報システム論-B	2・3-②④		2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	学 科 科 目 基 礎 科 目	消費者行動論-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		消費者行動論-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		ゲーム分析-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		ゲーム分析-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		オペレーションズ・リサーチ-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		オペレーションズ・リサーチ-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		憲法Ⅰ(人権)-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		憲法Ⅰ(人権)-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		憲法Ⅱ(統治機構)-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		憲法Ⅱ(統治機構)-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		刑法総論-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		刑法総論-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		刑法各論-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		刑法各論-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		民法総則-A	2・3-①	2		○									兼5		
		民法総則-B	2・3-②	2	2	○									兼5		
		物権法-A	2・3-①③	2		○									兼5		
		物権法-B	2・3-②④	2		○									兼5		
		債権法Ⅰ(総論)-A	2・3-①	2		○									兼5		
		債権法Ⅰ(総論)-B	2・3-②	2		○									兼5		
		債権法Ⅱ(各論)-A	2・3-③	2		○									兼5		
		債権法Ⅱ(各論)-B	2・3-④	2		○									兼5		
		会社法-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		会社法-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		小計(85科目)		—	0	170	0	—			13	4	1	0	0	兼29	
		発展科目	【自学科科目】	ミクロ経済学Ⅱ-A	2-③・3-①③	2		○			1	1					
				ミクロ経済学Ⅱ-B	2-④・3-②④	2		○			1	1					
				マクロ経済学Ⅱ-A	2-③・3-①③	2		○			1	1					
				マクロ経済学Ⅱ-B	2-④・3-②④	2		○			1	1					
				景気循環論	2・3-①②③④	2		○			1						
				調査データ解析	2・3-①②③④	2		○			1						
				質的調査法	2・3-①②③④	2		○			1						
				ロシア経済論-A	2・3-①③	2		○									兼1
				ロシア経済論-B	2・3-②④	2		○									兼1
				アジア経済論-A	2・3-①③	2		○			1						
				アジア経済論-B	2・3-②④	2		○			1						
国際マクロ経済学	2・3-①②③④			2		○			1								
環境経済学-A	2・3-①③			2		○			1								
環境経済学-B	2・3-②④			2		○			1								
環境政策論-A	2・3-①③			2		○									兼1		
環境政策論-B	2・3-②④			2		○									兼1		
産業経済学	2・3-①②③④			2		○									兼1		
地方財政論-A	2・3-①③			2		○			1								
地方財政論-B	2・3-②④			2		○			1								
金融論Ⅰ-A	2・3-①③			2		○			1								
金融論Ⅰ-B	2・3-②④			2		○			1								
金融論Ⅱ-A	2-③・3-①③			2		○				1							
金融論Ⅱ-B	2-④・3-②④			2		○				1							
証券市場論	2・3-①②③④			2		○			1								
計量経済学-A	2・3-①③			2		○			2								
計量経済学-B	2・3-②④			2		○			2								
経済情報処理	2・3-①②③④			2		○			3								
【他学科科目】																	
	経営史-A			2・3-①③	2		○									兼1	
	経営史-B			2・3-②④	2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 科目	発展 科目	国際経営論-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		国際経営論-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		比較経営論-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		比較経営論-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		コーポレート・ファイナンス-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		コーポレート・ファイナンス-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		経営システム-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		経営システム-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		管理会計論-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		管理会計論-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		経営モデル分析	2・3-①②③④	2		○									兼1		
		国際マーケティング論	2・3-①②③④	2		○									兼1		
		会計情報システム論	2・3-①②③④	2		○									兼1		
		行政法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		行政法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		税法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		税法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		刑事訴訟法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		刑事訴訟法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		政治学-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		政治学-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		環境法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		環境法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		家族法	2・3-①②③④	2		○									兼5		
		金融取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		金融取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		民事訴訟法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		民事訴訟法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		民事執行法	2・3-①②③④	2		○									兼1		
		商法総則・商行為法-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		商法総則・商行為法-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		手形小切手法	2・3-①②③④	2		○									兼2		
		経済法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		経済法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		労働法 I-A	2・3-①	2		○									兼1		
		労働法 I-B	2・3-②	2		○									兼1		
		労働法 II-A	2・3-③	2		○									兼1		
		労働法 II-B	2・3-④	2		○									兼1		
		国際取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1		
		国際取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1		
		国際私法	2・3-①②③④	2		○									兼1		
		小計 (70科目)		—	0	140	0	—			12	2	0	0	0	兼26	
		アド バン ス・ プロ グラ ム 科 目	国際 ビジ ネス	●アドバンスト・プログラム 【プログラムコア科目】													
				国際経済学-A	2・3-①③	2		○			1						
				国際経済学-B	2・3-②④	2		○			1						
				開発経済学-A	2・3-①③	2		○			1						
				開発経済学-B	2・3-②④	2		○			1						
				経営戦略論-A	2・3-①③	2		○									兼1
				経営戦略論-B	2・3-②④	2		○									兼1
				国際経営論-A	2・3-①③	2		○									兼1
				国際経営論-B	2・3-②④	2		○									兼1
				貿易論-A	2・3-①③	2		○									兼1
				貿易論-B	2・3-②④	2		○									兼1
		国際マーケティング論	2・3-①②	2		○									兼1		
		国際取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	アドバンス・プログラム科目 国際ビジネス	国際取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		国際私法	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		【社会連携科目】														
		リテラシー特殊講義	2・3-①②③④	1		○									兼1	
		キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④	2			○								兼1	
		地域政策特殊講義	2・3-①②③④	2			○			1						
		地域政策特殊演習	2・3-①②③④	2				○		1						
		国内インターンシップ I	3-④	1					○	15	6	1			兼35	
		国内インターンシップ II	3-④	2					○	15	6	1			兼35	
		国際インターンシップ I	3-④	1					○	15	6	1			兼35	
		国際インターンシップ II	3-④	2					○	15	6	1			兼35	
	【プログラム演習】															
	プログラム演習 I	2-③④	2				○		1					兼2	オムニバス	
	プログラム演習 II	3通年	2				○		1					兼2	オムニバス	
	小計 (26科目)		—	0	49	0			—	15	6	1			兼38	
	金融・財務	【プログラムコア科目】														
		金融論 I-A	2・3-①③	2			○			1						
		金融論 I-B	2・3-②④	2			○			1						
金融論 II-A		2-③・3-①③	2			○				1						
金融論 II-B		2-④・3-②④	2			○				1						
コーポレート・ファイナンス-A		2・3-①③	2			○								兼1		
コーポレート・ファイナンス-B		2・3-②④	2			○								兼1		
財務会計論-A		2・3-①③	2			○								兼1		
財務会計論-B		2・3-②④	2			○								兼1		
管理会計論-A		2・3-①③	2			○								兼1		
管理会計論-B		2・3-②④	2			○								兼1		
金融取引法-A		2・3-①③	2			○								兼1		
金融取引法-B		2・3-②④	2			○								兼1		
会社法-A		2・3-①③	2			○								兼2		
会社法-B		2・3-②④	2			○								兼2		
【社会連携科目】																
リテラシー特殊講義		2・3-①②③④	1			○								兼1		
キャリア・デザイン特殊講義		2・3-①②③④	2			○								兼1		
地域ビジネス特殊講義		2・3-①②③④	2			○								兼1		
地域ビジネス特殊演習		2・3-①②③④	2				○							兼1		
地域政策特殊講義	2・3-①②③④	2				○		1								
地域政策特殊演習	2・3-①②③④	2					○	1								
国内インターンシップ I	3-④	1					○	15	6	1			兼35			
国内インターンシップ II	3-④	2					○	15	6	1			兼35			
国際インターンシップ I	3-④	1					○	15	6	1			兼35			
国際インターンシップ II	3-④	2					○	15	6	1			兼35			
【プログラム演習】																
プログラム演習 I	2-③④	2				○		1					兼2	オムニバス		
プログラム演習 II	3通年	2				○		1					兼2	オムニバス		
小計 (26科目)		—	0	49	0			—	15	6	1			兼40		
行政マネジメント	【プログラムコア科目】															
	地域経済論-A	2・3-①③	2			○			1							
	地域経済論-B	2・3-②④	2			○			1							
	財政学-A	2・3-①③	2			○			1	1						
	財政学-B	2・3-②④	2			○			1	1						
	経営組織論-A	2・3-①③	2			○								兼1		
	経営組織論-B	2・3-②④	2			○								兼1		
	人的資源管理-A	2・3-①③	2			○								兼1		
人的資源管理-B	2・3-②④	2			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 アドバンス・プログラム科目	情報システム論-A	2・3-①③		2		○									兼1
	情報システム論-B	2・3-②④		2		○									兼1
	行政法-A	2・3-①③		2		○									兼1
	行政法-B	2・3-②④		2		○									兼1
	政治学-A	2・3-①③		2		○									兼1
	政治学-B	2・3-②④		2		○									兼1
	【社会連携科目】														
	リテラシー特殊講義	2・3-①②③④		1		○									兼1
	キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④		2		○									兼1
	地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④		2		○									兼1
	地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④		2			○								兼1
	地域政策特殊講義	2・3-①②③④		2		○			1						
	地域政策特殊演習	2・3-①②③④		2			○		1						
	国内インターンシップ I	3-④		1				○	15	6	1				兼35
	国内インターンシップ II	3-④		2				○	15	6	1				兼35
	国際インターンシップ I	3-④		1				○	15	6	1				兼35
	国際インターンシップ II	3-④		2				○	15	6	1				兼35
【プログラム演習】															
プログラム演習 I	2-③④		2			○		1						兼2 オムニバス	
プログラム演習 II	3通年		2			○		1						兼2 オムニバス	
小計 (26科目)		-	0	49	0	-		15	6	1	0	0		兼38	
合計 (299科目)			-	36	513	8	-	15	6	1	0	0		兼277	
学位又は称号		学士 (経済学)		学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>教養教育科目を24単位以上修得、専門教育科目104単位以上を含めて、128単位以上を修得すること。ただし、専門教育科目には必修科目28単位、選択必修科目16単位を含む。(履修科目の登録の上限：40単位(年間))</p> <p>【履修方法】</p> <p>1. 教養教育科目</p> <p>・「人文科学系」、「社会科学系」、「自然科学系」、「医療・健康科学系」、「総合科目系」</p> <p>以下の条件を満たして合計12単位以上(ただし、地域志向科目を1科目以上含むこと)</p> <p>「人文科学系」から4単位以上を選択必修</p> <p>「自然科学系」及び「医療・健康科学系」から4単位以上を選択必修</p> <p>「総合科目系」から2単位以上を選択必修(学士力・人間力基礎を除く)</p> <p>*教養教育科目における「社会科学系」科目は、社会科学領域の各分野における教員が、当該分野の考え方や現代的意義について講義するもので、例えば学問的な体系にはあまりとらわれず、日常生活で法律問題に遭遇しそうな場面の解説等、社会人として最低限理解しておく必要がある内容等を学ぶよう設計している。</p> <p>*「社会科学系」科目の履修により、今後、専門教育で学ぶ内容についても関心を高め、導入的な知識を得ることも可能であるため、選択必修単位として最大2単位まで修得することを認める。</p> <p>ただし、教養教育科目と専門教育科目の位置づけや内容の違いをシラバスや新入生オリエンテーションで周知するとともに、必ずしも教養教育の選択必修科目として社会科学系科目を修得することを要しないことを併せて周知、指導する。</p> <p>・「外国語系」、「保健体育系」、「情報処理系」</p> <p>「外国語系」から8単位(英語4単位と英語以外の外国語4単位)</p> <p>「保健体育系」から2単位(講義・実技を各1単位)</p> <p>「情報処理系」から2単位(情報処理)</p>							1 学年の学期区分					4 期			
<p>2. 専門教育科目</p> <p>専門教育科目は、①～⑥の要件単位を含め、合計で104単位以上を修得する。</p> <p>①初年次教育2単位必修</p> <p>②導入科目(現代経済入門、経済学入門、経営学入門、会計学入門、入門法学I、入門法学II)12単位必修</p> <p>③基礎ゼミナール2単位、専門ゼミナール8単位、卒業論文4単位、必修</p> <p>④専門科目(基礎)のうち16単位選択必修</p> <p>⑤所属する学科の専門科目40単位以上修得</p> <p>⑥所属する履修コース科目を40単位以上修得</p> <p>*教養教育科目については、全学において実施するため2学期制としている。</p>							1 学期の授業期間					8 週			
							1 時限の授業時間					90分			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
（経済学部 経営学科（昼間主コース））【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼3
	人間と倫理	1前・後	2		○										兼3
	こころの科学	1前・後	2		○										兼4
	現代と教育	1前・後	2		○										兼7
	日本の歴史と社会	1前・後	2		○										兼5
	東洋の歴史と社会	1前	2		○										兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
	日本文学	1前・後	2		○										兼6
	外国文学	1前・後	2		○										兼4
	言語と文化	1前・後	2		○										兼4
	音楽	1前・後	2		○										兼2
	美術	1前・後	2		○										兼13
	言語表現	1前・後	2				○								兼2
	治療の文化史	1前・後	2				○								兼1
	異文化間コミュニケーション	1後	2				○								兼1
	異文化理解	1前	2				○								兼1
	小計（16科目）	-	0	32	0	-			0	0	0	0	0	兼57	
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○									兼4
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼3
	国家と市民	1前・後		2		○									兼3
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼3
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼3
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼5
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼5
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○			2	1					
	市場と企業の関係	1前・後		2		○			2		1				
	地域の経済と社会・文化	1前		2		○									兼2
	小計（10科目）	-	0	20	0	-			4	1	1	0	0	兼26	
自然科学系	地球と環境	1前・後		2		○									兼2
	生命の世界	1前・後		2		○									兼7
	物理の世界	1前・後		2		○									兼2
	化学物質の世界	1前・後		2		○									兼3
	自然と情報の数理	1前・後		2		○									兼5
	社会と情報の数理	1前		2		○			1						
	技術の世界	1後		2		○									兼2
	材料の科学	1前		2		○									兼1
	生活の科学	1前		2		○									兼2
	コンピュータの話	1前・後		2		○									兼2
	デザインと生物	1後		2		○									兼4
	小計（11科目）	-	0	22	0	-			0	0	0	0	0	兼30	
医療・健康科学系	医療心理学	1前		2		○									兼1
	認知科学	1後		2		○									兼1
	脳科学入門	1後		2		○									兼2
	免疫学入門	1前		2		○									兼1
	身近な医学	1後		2		○									兼1
	障害とアクセシビリティ	1前		2		○									兼1
	医療と地域社会	1後		2		○									兼1
	小計（7科目）	-	0	14	0	-			0	0	0	0	0	兼6	
総合科目系	環境	1前		2		○									兼1
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1
	技術と社会	1前・後		2		○									兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	総合科目系	現代文化		2		○			1						兼1	
	人権と福祉	1前・後		2		○				兼1						
	環日本海	1前		2		○										
	科学と社会	1前・後		2		○				兼2						
	アカデミック・デザイン	1後		2		○				兼2						
	ビジネス思考	1後		2		○				兼1						
	平和学入門	1前		2		○				兼1						
	東アジア共同体論－政治・経済・文化	1後		2		○				兼1						
	新聞投稿に挑戦	1後		2		○				兼1						
	富山から考える震災・復興学	1後		2		○				兼1						
	環境と安全管理	1前		2		○				兼1						
	万葉学	1前		2		○				兼1						
	日本海学	1後		2		○				兼1						
	富山大学学	1後		2		○				兼1						
	とやま地域学	1前		2		○				兼1						
	時事的問題	1前		2		○				兼1						
	災害救援ボランティア論	1後		2		○				兼1						
	感性をはぐくむ	1前		2		○				兼1						
	日本事情／芸術文化	1後		2		○				兼1						
	日本事情／自然社会	1前		2		○				兼1						
	富山学	1前		2		○				兼1						
	地域ライフプラン	1前		2		○				兼1						
	産業観光学	1後		2		○				兼1						
	富山のものづくり概論	1後		2		○				兼1						
	富山の地域づくり	1前		2		○				兼2						
	小計 (28科目)		-	0	56	0	-	-		1	0	0	0	0	0	兼28
	外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1			○									兼11
英語リテラシーⅡ-A		1後	1			○								兼13		
英語コミュニケーションⅠ-A		1前	1			○								兼11		
英語コミュニケーションⅡ-A		1後	1			○								兼10		
ドイツ語基礎Ⅰ		1前		1		○								兼6		
ドイツ語基礎Ⅱ		1後		1		○								兼6		
ドイツ語コミュニケーションⅠ		1前		1		○								兼6		
ドイツ語コミュニケーションⅡ		1後		1		○								兼5		
フランス語基礎Ⅰ		1前・後		1		○								兼2		
フランス語基礎Ⅱ		1前・後		1		○								兼2		
フランス語コミュニケーションⅠ		1前		1		○								兼4		
フランス語コミュニケーションⅡ		1前・後		1		○								兼5		
中国語基礎Ⅰ		1前・後		1		○								兼10		
中国語基礎Ⅱ		1前・後		1		○								兼9		
中国語コミュニケーションⅠ		1前		1		○								兼5		
中国語コミュニケーションⅡ		1後		1		○								兼5		
朝鮮語基礎Ⅰ		1前		1		○								兼1		
朝鮮語基礎Ⅱ		1後		1		○								兼2		
朝鮮語コミュニケーションⅠ		1前		1		○								兼2		
朝鮮語コミュニケーションⅡ		1後		1		○								兼2		
ロシア語基礎Ⅰ		1前		1		○								兼2		
ロシア語基礎Ⅱ		1後		1		○								兼1		
ロシア語コミュニケーションⅠ		1前		1		○								兼2		
ロシア語コミュニケーションⅡ		1後		1		○								兼1		
日本語リテラシーⅠ		1前		1		○								兼1	外国人留学生限定	
日本語リテラシーⅡ		1後		1		○								兼1	外国人留学生限定	
日本語コミュニケーションⅠ		1前		1		○								兼1	外国人留学生限定	
日本語コミュニケーションⅡ	1後		1		○								兼2	外国人留学生限定		
発展多言語演習ドイツ語	1前			1		○								兼1		
発展多言語演習中国語	1前			1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
教養教育科目	外国語系	発展多言語演習ラテン語Ⅰ	1前		1		○								兼1			
		発展多言語演習ラテン語Ⅱ	1後		1		○								兼1			
		日本語コミュニケーションⅢ	1前		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		日本語リテラシーⅢ	1後		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		日本語／専門研究	1前		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		日本語／ビジネス	1後		1		○								兼1	外国人留学生限定		
		小計(36科目)	-	4	24	8				0	0	0	0	0		兼71		
	保健体育系	健康・スポーツ／講義	1後	1			○									兼7		
		健康・スポーツ／実技	1前・後	1					○							兼14		
		小計(2科目)	-	2	0	0				0	0	0	0	0		兼21		
情報処理系	情報処理-A	1前・後	2			○			1						兼10			
	応用情報処理	1後		2			○								兼5			
	小計(2科目)	-	2	2	0				1	0	0	0	0		兼10			
専門科目	学部共通科目	初年次教育	1-①②	2			○			1	2				兼5	オムニバス		
		入門ゼミナール	1-③④		2			○		7		2						
		基礎数学	1-①②③④		2			○		2								
		現代経済入門	1-①②	2			○									兼3	オムニバス	
		経済学入門	1-③④	2			○									兼4		
		経営学入門	1-①②	2			○			1	1	1					オムニバス	
		会計学入門	1-③④	2			○			1	2							
		入門法学Ⅰ	1-①②	2			○									兼2		
		入門法学Ⅱ	1-③④	2			○									兼2		
		小計(9科目)	-	14	4	0				11	3	3	0	0		兼10		
	基礎科目	基礎ゼミナール	2-①②	2				○		11	3	3				兼26		
		小計(1科目)	-	2	0	0				11	3	3				兼26		
		発展科目	専門ゼミナールⅠ	2-③④	2				○		11	3	3				兼26	
			専門ゼミナールⅡ	3-①②	2				○		11	3	3				兼26	
			専門ゼミナールⅢ	3-③④	2				○		11	3	3				兼26	
			専門ゼミナールⅣ	4-①②	2				○		11	3	3				兼26	
			卒業研究	4-③④	2				○		11	3	3				兼26	
			卒業論文	4-③④	2				○		11	3	3				兼26	
			自由ゼミナールⅠ	2-③④		2			○		11	3	3				兼26	
			自由ゼミナールⅡ	3-①②		2			○		11	3	3				兼26	
自由ゼミナールⅢ	3-③④			2			○		11	3	3				兼26			
自由ゼミナールⅣ	4-①②			2			○		11	3	3				兼26			
外国書講読Ⅰ	2・3-①②		2			○								兼2				
外国書講読Ⅱ	2・3-③④		2			○								兼5				
小計(12科目)	-	12	12	0				11	3	3	0	0		兼27				
社会連携科目	リテラシー特殊講義	2・3-①②③④		1			○								兼1			
	キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④		2			○								兼1			
	地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④		2			○								兼1			
	地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④		2				○							兼1			
	地域政策特殊講義	2・3-①②③④		2			○								兼1			
	地域政策特殊演習	2・3-①②③④		2				○							兼1			
	国内インターンシップⅠ	3-④		1				○	11	3	3				兼40			
	国内インターンシップⅡ	3-④		2				○	11	3	3				兼40			
	国際インターンシップⅠ	3-④		1				○	11	3	3				兼40			
	国際インターンシップⅡ	3-④		2				○	11	3	3				兼40			
小計(10科目)	-	0	17	0				11	3	3	0	0		兼44				
学科科目	基礎科目	【自学科科目】																
		経営学と経済学で出る数学	2・3-①②③④		2			○		2								
		経営戦略論-A	2・3-①③		2			○				1						
		経営戦略論-B	2・3-②④		2			○				1						
		経営組織論-A	2・3-①③		2			○			1							
		経営組織論-B	2・3-②④		2			○			1							
人的資源管理-A	2・3-①③		2			○		1										

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 科目	基礎科目 人的資源管理-B	2・3-②④		2		○			1								
	流通論-A	2・3-①③		2		○					1						
	流通論-B	2・3-②④		2		○					1						
	マーケティング論-A	2・3-①③		2		○			1								
	マーケティング論-B	2・3-②④		2		○			1								
	貿易論-A	2・3-①③		2		○			1								
	貿易論-B	2・3-②④		2		○			1								
	簿記論-A	2・3-①③		2		○				1							
	簿記論-B	2・3-②④		2		○				1							
	財務会計論-A	2・3-①③		2		○											兼1
	財務会計論-B	2・3-②④		2		○											兼1
	原価計算論-A	2・3-①③		2		○					1						
	原価計算論-B	2・3-②④		2		○					1						
	ファイナンスの基礎	2・3-①②③④		2		○				2							
	経営数学-A	2・3-①③		2		○						1					
	経営数学-B	2・3-②④		2		○						1					
	情報システム論-A	2・3-①③		2		○				1							
	情報システム論-B	2・3-②④		2		○				1							
	消費者行動論-A	2・3-①③		2		○				1							
	消費者行動論-B	2・3-②④		2		○				1							
	ゲーム分析-A	2・3-①③		2		○											兼1
	ゲーム分析-B	2・3-②④		2		○											兼1
	オペレーションズ・リサーチ-A	2・3-①③		2		○				1							
	オペレーションズ・リサーチ-B	2・3-②④		2		○				1							
	【他学科科目】																
	ミクロ経済学 I-A	2・3-①③		2		○											兼2
	ミクロ経済学 I-B	2・3-②④		2		○											兼2
	マクロ経済学 I-A	2・3-①③		2		○											兼2
	マクロ経済学 I-B	2・3-②④		2		○											兼2
	政治経済学-A	2・3-①③		2		○											兼1
	政治経済学-B	2・3-②④		2		○											兼1
	社会経済学概論	2・3-①②③④		2		○											兼1
	社会政策-A	2・3-①③		2		○											兼1
	社会政策-B	2・3-②④		2		○											兼1
	農業政策-A	2・3-①③		2		○											兼1
	農業政策-B	2・3-②④		2		○											兼1
	労働経済論-A	2・3-①③		2		○											兼1
	労働経済論-B	2・3-②④		2		○											兼1
	社会調査論	2・3-①②③④		2		○											兼1
	経済史総論-A	2・3-①③		2		○											兼2
	経済史総論-B	2・3-②④		2		○											兼2
	西洋経済史-A	2・3-①③		2		○											兼1
	西洋経済史-B	2・3-②④		2		○											兼1
	日本経済史-A	2・3-①③		2		○											兼1
	日本経済史-B	2・3-②④		2		○											兼1
	社会学総論-A	2・3-①③		2		○											兼2
社会学総論-B	2・3-②④		2		○											兼2	
産業社会学	2・3-①②③④		2		○											兼1	
地域社会学	2・3-①②③④		2		○											兼1	
日本産業論-A	2・3-①③		2		○											兼1	
日本産業論-B	2・3-②④		2		○											兼1	
国際経済学-A	2・3-①③		2		○											兼1	
国際経済学-B	2・3-②④		2		○											兼1	
開発経済学-A	2・3-①③		2		○											兼1	
開発経済学-B	2・3-②④		2		○											兼1	
地域経済論-A	2・3-①③		2		○											兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 科目	基礎 科目	地域経済論-B		2		○									兼1		
		財政学-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		財政学-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		金融機関論	2・3-①②③④	2		○									兼1		
		統計学-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		統計学-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		憲法Ⅰ(人権)-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		憲法Ⅰ(人権)-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		憲法Ⅱ(統治機構)-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		憲法Ⅱ(統治機構)-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		刑法総論-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		刑法総論-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		刑法各論-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		刑法各論-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		民法総則-A	2・3-①	2		○									兼5		
		民法総則-B	2・3-②	2		○									兼5		
		物権法-A	2・3-①③	2		○									兼5		
		物権法-B	2・3-②④	2		○									兼5		
		債権法Ⅰ(総論)-A	2・3-①	2		○									兼5		
		債権法Ⅰ(総論)-B	2・3-②	2		○									兼5		
		債権法Ⅱ(各論)-A	2・3-③	2		○									兼5		
		債権法Ⅱ(各論)-B	2・3-④	2		○									兼5		
		会社法-A	2・3-①③	2		○									兼2		
		会社法-B	2・3-②④	2		○									兼2		
		小計(85科目)		-	0	170	0	-			7	3	3	0	0	兼33	
		専門 科目	発展 科目	【自学科科目】													
				経営史-A	2・3-①③	2		○									兼1
経営史-B	2・3-②④			2		○									兼1		
国際経営論-A	2・3-①③			2		○				1					兼1		
国際経営論-B	2・3-②④			2		○				1							
比較経営論-A	2・3-①③			2		○				1							
比較経営論-B	2・3-②④			2		○				1							
コーポレート・ファイナンス-A	2・3-①③			2		○				1							
コーポレート・ファイナンス-B	2・3-②④			2		○				1							
経営システム-A	2・3-①③			2		○					1						
経営システム-B	2・3-②④			2		○					1						
管理会計論-A	2・3-①③			2		○				1							
管理会計論-B	2・3-②④			2		○				1							
経営モデル分析	2・3-①②③④			2		○				1							
国際マーケティング論	2・3-①②③④			2		○				1							
会計情報システム論	2・3-①②③④			2		○				1							
【他学科科目】																	
ミクロ経済学Ⅱ-A	2-③・3-①③			2		○										兼1	
ミクロ経済学Ⅱ-B	2-④・3-②④			2		○										兼1	
マクロ経済学Ⅱ-A	2-③・3-①③			2		○										兼2	
マクロ経済学Ⅱ-B	2-④・3-②④			2		○										兼2	
景気循環論	2・3-①②③④			2		○										兼1	
調査データ解析	2・3-①②③④			2		○										兼1	
質的調査法	2・3-①②③④			2		○										兼1	
ロシア経済論-A	2・3-①③			2		○										兼1	
ロシア経済論-B	2・3-②④			2		○										兼1	
アジア経済論-A	2・3-①③			2		○										兼1	
アジア経済論-B	2・3-②④	2		○										兼1			
国際マクロ経済学	2・3-①②③④	2		○										兼1			
環境経済学-A	2・3-①③	2		○										兼1			
環境経済学-B	2・3-②④	2		○										兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	発展科目	環境政策論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		環境政策論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		産業経済学	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		地方財政論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		地方財政論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		金融論 I-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		金融論 I-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		金融論 II-A	2-③・3-①③	2		○									兼1	
		金融論 II-B	2-④・3-②④	2		○									兼1	
		証券市場論	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		計量経済学-A	2・3-①③	2		○									兼2	
		計量経済学-B	2・3-②④	2		○									兼2	
		経済情報処理	2・3-①②③④	2		○									兼2	
		行政法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		行政法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		税法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		税法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		刑事訴訟法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		刑事訴訟法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		政治学-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		政治学-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		環境法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		環境法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		家族法	2・3-①②③④	2		○									兼5	
		金融取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		金融取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		民事訴訟法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		民事訴訟法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		民事執行法	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		商法総則・商行為法-A	2・3-①③	2		○									兼2	
		商法総則・商行為法-B	2・3-②④	2		○									兼2	
		手形小切手法	2・3-①②③④	2		○									兼2	
		経済法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		経済法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		労働法 I-A	2・3-①	2		○									兼1	
		労働法 I-B	2・3-②	2		○									兼1	
		労働法 II-A	2・3-③	2		○									兼1	
		労働法 II-B	2・3-④	2		○									兼1	
		国際取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		国際取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		国際私法	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		小計 (70科目)	-	0	140	0	-			6	0	1	0	0	兼35	
	アドバンス・プログラム科目	国際ビジネス	●アドバンス・プログラム 【プログラムコア科目】													
			国際経済学-A	2・3-①③	2		○									兼1
			国際経済学-B	2・3-②④	2		○									兼1
			開発経済学-A	2・3-①③	2		○									兼1
			開発経済学-B	2・3-②④	2		○									兼1
			経営戦略論-A	2・3-①③	2		○					1				
			経営戦略論-B	2・3-②④	2		○					1				
			国際経営論-A	2・3-①③	2		○				1					
			国際経営論-B	2・3-②④	2		○				1					
			貿易論-A	2・3-①③	2		○				1					
			貿易論-B	2・3-②④	2		○				1					
			国際マーケティング論	2・3-①②	2		○				1					
		国際取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	アドバンス・プログラム科目 国際ビジネス	国際取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		国際私法	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		【社会連携科目】														
		リテラシー特殊講義	2・3-①②③④	1		○									兼2	
		キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④	2		○			1						兼2	
		地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④	2		○			1						兼2	
		地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④	2			○								兼1	
		地域政策特殊講義	2・3-①②③④	2			○								兼2	
		地域政策特殊演習	2・3-①②③④	2				○							兼1	
		国内インターンシップ I	3-④	1					○	11	3	3			兼38	
		国内インターンシップ II	3-④	2					○	11	3	3			兼38	
		国際インターンシップ I	3-④	1					○	11	3	3			兼38	
		国際インターンシップ II	3-④	2					○	11	3	3			兼38	
		【プログラム演習】														
プログラム演習 I	2-③④	2				○		1					兼2	オムニバス		
プログラム演習 II	3通年	2				○		1					兼2	オムニバス		
小計 (26科目)		—	0	49	0	—	—	11	3	3			兼39			
金融・財務	【プログラムコア科目】	金融論 I-A	2・3-①③	2		○								兼1		
		金融論 I-B	2・3-②④	2		○								兼1		
		金融論 II-A	2-③・3-①③	2		○								兼1		
		金融論 II-B	2-④・3-②④	2		○								兼1		
		コーポレート・ファイナンス-A	2・3-①③	2		○			1							
		コーポレート・ファイナンス-B	2・3-②④	2		○			1							
		財務会計論-A	2・3-①③	2		○			1							
		財務会計論-B	2・3-②④	2		○			1							
		管理会計論-A	2・3-①③	2		○			1							
		管理会計論-B	2・3-②④	2		○			1							
		金融取引法-A	2・3-①③	2		○								兼1		
		金融取引法-B	2・3-②④	2		○								兼1		
		会社法-A	2・3-①③	2		○								兼2		
		会社法-B	2・3-②④	2		○								兼2		
【社会連携科目】																
リテラシー特殊講義	2・3-①②③④	1		○									兼2			
キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④	2		○			1						兼2			
地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④	2		○			1						兼2			
地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④	2			○								兼1			
地域政策特殊講義	2・3-①②③④	2			○								兼2			
地域政策特殊演習	2・3-①②③④	2				○							兼1			
国内インターンシップ I	3-④	1					○	11	3	3			兼38			
国内インターンシップ II	3-④	2					○	11	3	3			兼38			
国際インターンシップ I	3-④	1					○	11	3	3			兼38			
国際インターンシップ II	3-④	2					○	11	3	3			兼38			
【プログラム演習】																
プログラム演習 I	2-③④	2				○		1					兼2	オムニバス		
プログラム演習 II	3通年	2				○		1					兼2	オムニバス		
小計 (26科目)		—	0	49	0	—	—	11	3	3			兼39			
行政マネジメント	【プログラムコア科目】	地域経済論-A	2・3-①③	2		○								兼1		
		地域経済論-B	2・3-②④	2		○								兼1		
		財政学-A	2・3-①③	2		○								兼2		
		財政学-B	2・3-②④	2		○								兼2		
		経営組織論-A	2・3-①③	2		○			1							
		経営組織論-B	2・3-②④	2		○			1							
		人的資源管理-A	2・3-①③	2		○			1							
		人的資源管理-B	2・3-②④	2		○			1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 アドバンス・プログラム科目	情報システム論-A	2・3-①③		2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 兼2 兼1 兼2 兼1 兼38 兼38 兼38 兼38 兼2 オムニバス 兼2 オムニバス 兼39	
	情報システム論-B	2・3-②④		2		○			1							
	行政法-A	2・3-①③		2		○										
	行政法-B	2・3-②④		2		○										
	政治学-A	2・3-①③		2		○										
	政治学-B	2・3-②④		2		○										
	【社会連携科目】															
	リテラシー特殊講義	2・3-①②③④		1		○										
	キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④		2		○			1							
	地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④		2		○			1							
	地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④		2			○									
	地域政策特殊講義	2・3-①②③④		2		○										
	地域政策特殊演習	2・3-①②③④		2			○									
	国内インターンシップ I	3-④		1				○	11	3	3					
	国内インターンシップ II	3-④		2				○	11	3	3					
	国際インターンシップ I	3-④		1				○	11	3	3					
	国際インターンシップ II	3-④		2				○	11	3	3					
【プログラム演習】																
プログラム演習 I	2-③④		2			○		1								
プログラム演習 II	3通年		2			○		1								
小計 (26科目)		-	0	49	0	-	-	11	3	3						
合計 (299科目)			-	36	513	8	-	12	3	3	0	0	兼282			
学位又は称号		学士 (経営学)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>教養教育科目を24単位以上修得、専門教育科目104単位以上を含めて、128単位以上を修得すること。ただし、専門教育科目には必修科目28単位、選択必修科目16単位を含む。(履修科目の登録の上限：40単位(年間))</p> <p>【履修方法】</p> <p>1. 教養教育科目</p> <p>・「人文科学系」、「社会科学系」、「自然科学系」、「医療・健康科学系」、「総合科目系」</p> <p>以下の条件を満たして合計12単位以上(ただし、地域志向科目を1科目以上含むこと)</p> <p>「人文科学系」から4単位以上を選択必修</p> <p>「自然科学系」及び「医療・健康科学系」から4単位以上を選択必修</p> <p>「総合科目系」から2単位以上を選択必修(学士力・人間力基礎を除く)</p> <p>*教養教育科目における「社会科学系」科目は、社会科学領域の各分野における教員が、当該分野の考え方や現代的意義について講義するもので、例えば学問的な体系にはあまりとらわれず、日常生活で法律問題に遭遇しそうな場面の解説等、社会人として最低限理解しておく必要がある内容等を学ぶよう設計している。</p> <p>*「社会科学系」科目の履修により、今後、専門教育で学ぶ内容についても関心を高め、導入的な知識を得ることも可能であるため、選択必修単位として最大2単位まで修得することを認める。</p> <p>ただし、教養教育科目と専門教育科目の位置づけや内容の違いをシラバスや新入生オリエンテーションで周知するとともに、必ずしも教養教育の選択必修科目として社会科学系科目を修得することを要しないことを併せて周知、指導する。</p> <p>・「外国語系」、「保健体育系」、「情報処理系」</p> <p>「外国語系」から8単位(英語4単位と英語以外の外国語4単位)</p> <p>「保健体育系」から2単位(講義・実技を各1単位)</p> <p>「情報処理系」から2単位(情報処理)</p>							1 学年の学期区分							4 期		
							1 学期の授業期間							8 週		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
2. 専門教育科目 専門教育科目は、①～⑥の要件単位を含め、合計で104単位以上を修得する。 ①初年次教育2単位必修 ②導入科目（現代経済入門、経済学入門、経営学入門、会計学入門、入門法学I、入門法学II）12単位必修 ③基礎ゼミナール2単位、専門ゼミナール8単位、卒業論文4単位、必修 ④専門科目（基礎）のうち16単位選択必修 ⑤所属する学科の専門科目40単位以上修得 ⑥所属する履修コース科目を40単位以上修得 *教養教育科目については、全学において実施するため2学期制としている。			1 時限の授業時間						90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(経済学部 経営法学科(昼間主コース)) 【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼3
	人間と倫理	1前・後	2		○										兼3
	こころの科学	1前・後	2		○										兼4
	現代と教育	1前・後	2		○										兼7
	日本の歴史と社会	1前・後	2		○										兼5
	東洋の歴史と社会	1前	2		○										兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
	日本文学	1前・後	2		○										兼6
	外国文学	1前・後	2		○										兼4
	言語と文化	1前・後	2		○										兼4
	音楽	1前・後	2		○										兼2
	美術	1前・後	2		○										兼13
	言語表現	1前・後	2				○								兼2
	治療の文化史	1前・後	2			○									兼1
	異文化間コミュニケーション	1後	2			○									兼1
	異文化理解	1前	2			○									兼1
	小計(16科目)	-	0	32	0	-			0	0	0	0	0	兼57	
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○			1						兼3
	日本国憲法	1前・後		2		○				2					兼1
	国家と市民	1前・後		2		○			1	2					
	経済生活と法	1前・後		2		○			1	1					兼1
	市民生活と法	1前・後		2		○			1		1				兼1
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼5
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼5
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼3
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼3
	地域の経済と社会・文化	1前		2		○									兼2
	小計(10科目)	-	0	20	0	-			5	6	1	0	0	兼22	
自然科学系	地球と環境	1前・後		2		○									兼2
	生命の世界	1前・後		2		○									兼7
	物理の世界	1前・後		2		○									兼2
	化学物質の世界	1前・後		2		○									兼3
	自然と情報の数理	1前・後		2		○									兼5
	社会と情報の数理	1前		2		○									兼1
	技術の世界	1後		2		○									兼2
	材料の科学	1前		2		○									兼1
	生活の科学	1前		2		○									兼2
	コンピュータの話	1前・後		2		○									兼2
	デザインと生物	1後		2		○									兼4
	小計(11科目)	-	0	22	0	-			0	0	0	0	0	兼31	
医療・健康科学系	医療心理学	1前		2		○									兼1
	認知科学	1後		2		○									兼1
	脳科学入門	1後		2		○									兼2
	免疫学入門	1前		2		○									兼1
	身近な医学	1後		2		○									兼1
	障害とアクセシビリティ	1前		2		○									兼1
	医療と地域社会	1後		2		○									兼1
	小計(7科目)	-	0	14	0	-			0	0	0	0	0	兼6	
総合科目系	環境	1前		2		○									兼1
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1
	技術と社会	1前・後		2		○									兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	総合科目系	現代文化	1後	2		○									兼1	
	人権と福祉	1前・後	2			○									兼1	
	環日本海	1前	2			○									兼1	
	科学と社会	1前・後	2			○									兼2	
	アカデミック・デザイン	1後	2			○									兼2	
	ビジネス思考	1後	2			○									兼1	
	平和学入門	1前	2			○									兼1	
	東アジア共同体論－政治・経済・文化	1後	2			○									兼1	
	新聞投稿に挑戦	1後	2			○									兼1	
	富山から考える震災・復興学	1後	2			○									兼1	
	環境と安全管理	1前	2			○									兼1	
	万葉学	1前	2			○									兼1	
	日本海学	1後	2			○									兼1	
	富山大学学	1後	2			○									兼1	
	とやま地域学	1前	2			○									兼1	
	時事的問題	1前	2			○									兼1	
	災害救援ボランティア論	1後	2			○									兼1	
	感性をはぐくむ	1前	2			○									兼1	
	日本事情／芸術文化	1後	2			○									兼1	
	日本事情／自然社会	1前	2			○									兼1	
	富山学	1前	2			○									兼1	
	地域ライフプラン	1前	2			○									兼1	
	産業観光学	1後	2			○									兼1	
	富山のものづくり概論	1後	2			○									兼1	
	富山の地域づくり	1前	2			○									兼2	
	小計 (28科目)		-	0	56	0		-		0	0	0	0	0	0	兼32
	外国語系	英語リテラシーⅠ-A	1前	1			○				1					兼10
		英語リテラシーⅡ-A	1後	1			○					1				兼12
英語コミュニケーションⅠ-A		1前	1			○									兼11	
英語コミュニケーションⅡ-A		1後	1			○									兼10	
ドイツ語基礎Ⅰ		1前	1			○									兼6	
ドイツ語基礎Ⅱ		1後	1			○									兼6	
ドイツ語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼6	
ドイツ語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼5	
フランス語基礎Ⅰ		1前・後	1			○									兼2	
フランス語基礎Ⅱ		1前・後	1			○									兼2	
フランス語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼4	
フランス語コミュニケーションⅡ		1前・後	1			○									兼5	
中国語基礎Ⅰ		1前・後	1			○									兼10	
中国語基礎Ⅱ		1前・後	1			○									兼9	
中国語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼5	
中国語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼5	
朝鮮語基礎Ⅰ		1前	1			○									兼1	
朝鮮語基礎Ⅱ		1後	1			○									兼2	
朝鮮語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼2	
朝鮮語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼2	
ロシア語基礎Ⅰ		1前	1			○									兼2	
ロシア語基礎Ⅱ		1後	1			○									兼1	
ロシア語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼2	
ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	1			○									兼1		
日本語リテラシーⅠ	1前	1			○									兼1		
日本語リテラシーⅡ	1後	1			○									兼1		
日本語コミュニケーションⅠ	1前	1			○									兼1		
日本語コミュニケーションⅡ	1後	1			○									兼2		
発展多言語演習ドイツ語	1前			1		○								兼1		
発展多言語演習中国語	1前			1		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	外国語系	発展多言語演習ラテン語Ⅰ	1前		1		○								兼1
		発展多言語演習ラテン語Ⅱ	1後		1		○								兼1
		日本語コミュニケーションⅢ	1前		1		○								兼1 外国人留学生限定
		日本語リテラシーⅢ	1後		1		○								兼1 外国人留学生限定
		日本語／専門研究	1前		1		○								兼1 外国人留学生限定
		日本語／ビジネス	1後		1		○								兼1 外国人留学生限定
		小計(36科目)	-	4	24	8				0	1	1	0	0	兼69
	保健体育系	健康・スポーツ／講義	1後	1			○								兼7
		健康・スポーツ／実技	1前・後	1					○						兼14
		小計(2科目)	-	2	0	0				0	0	0	0	0	兼21
情報処理系	情報処理-A	1前・後	2			○								兼11	
	応用情報処理	1後		2			○							兼5	
	小計(2科目)	-	2	2	0				0	0	0	0	0	兼11	
専門科目	学部共通科目	初年次教育	1-①②	2			○			1	1				兼6 オムニバス
		入門ゼミナール	1-③④		2			○		3	3				
		基礎数学	1-①②③④		2			○							兼2
		現代経済入門	1-①②	2			○								兼3 オムニバス
		経済学入門	1-③④	2			○								兼3
		経営学入門	1-①②	2			○								兼3 オムニバス
		会計学入門	1-③④	2			○								兼3
		入門法学Ⅰ	1-①②	2			○			1	1				
		入門法学Ⅱ	1-③④	2			○			1	1				
	小計(9科目)	-	14	4	0				3	5	0	0	0	兼17	
	基礎科目	基礎ゼミナール	2-①②	2				○		7	9	1			
		小計(1科目)	-	2	0	0				7	9	1	0	0	0
	発展科目	専門ゼミナールⅠ	2-③④	2				○		7	9	1			
		専門ゼミナールⅡ	3-①②	2				○		7	9	1			
		専門ゼミナールⅢ	3-③④	2				○		7	9	1			
		専門ゼミナールⅣ	4-①②	2				○		7	9	1			
		卒業研究	4-③④	2				○		7	9	1			
卒業論文		4-③④	2				○		7	9	1				
自由ゼミナールⅠ		2-③④		2			○		7	9	1			兼38	
自由ゼミナールⅡ		3-①②		2			○		7	9	1			兼38	
自由ゼミナールⅢ		3-③④		2			○		7	9	1			兼38	
自由ゼミナールⅣ		4-①②		2			○		7	9	1			兼38	
外国書講読Ⅰ		2・3-①②		2			○							兼2	
外国書講読Ⅱ	2・3-③④		2			○							兼4		
小計(12科目)	-	12	12	0				7	9	1	0	0	兼38		
社会連携科目	リテラシー特殊講義	2・3-①②③④		1			○		1	1					
	キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④		2			○							兼1	
	地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④		2			○							兼3	
	地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④		2				○						兼1	
	地域政策特殊講義	2・3-①②③④		2			○							兼2	
	地域政策特殊演習	2・3-①②③④		2				○						兼1	
	国内インターンシップⅠ	3-④		1				○	7	9	1			兼38	
	国内インターンシップⅡ	3-④		2				○	7	9	1			兼38	
	国際インターンシップⅠ	3-④		1				○	7	9	1			兼38	
	国際インターンシップⅡ	3-④		2				○	7	9	1			兼38	
小計(10科目)	-	0	17	0				7	9	1	0	0	兼40		
学科科目	基礎科目	【自学科科目】													
		憲法Ⅰ(人権)-A	2・3-①③		2			○		1	1				
		憲法Ⅰ(人権)-B	2・3-②④		2			○		1	1				
		憲法Ⅱ(統治機構)-A	2・3-①③		2			○		1	1				
		憲法Ⅱ(統治機構)-B	2・3-②④		2			○		1	1				
		刑法総論-A	2・3-①③		2			○		1	1				
刑法総論-B	2・3-②④		2			○		1	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 科目	基礎科目	刑法各論-A		2		○			1	1					
		刑法各論-B		2		○			1	1					
		民法総則-A		2		○			2	2	1				
		民法総則-B		2		○			2	2	1				
		物権法-A		2		○			2	2	1				
		物権法-B		2		○			2	2	1				
		債権法Ⅰ(総論)-A		2		○			2	2	1				
		債権法Ⅰ(総論)-B		2		○			2	2	1				
		債権法Ⅱ(各論)-A		2		○			2	2	1				
		債権法Ⅱ(各論)-B		2		○			2	2	1				
		会社法-A		2		○				2					
		会社法-B		2		○				2					
		【他学科科目】													
		ミクロ経済学Ⅰ-A		2		○									兼3
		ミクロ経済学Ⅰ-B		2		○									兼3
		マクロ経済学Ⅰ-A		2		○									兼2
		マクロ経済学Ⅰ-B		2		○									兼2
		政治経済学-A		2		○									兼1
		政治経済学-B		2		○									兼1
		社会経済学概論		2		○									兼1
		社会政策-A		2		○									兼1
		社会政策-B		2		○									兼1
		農業政策-A		2		○									兼1
		農業政策-B		2		○									兼1
		労働経済論-A		2		○									兼1
		労働経済論-B		2		○									兼1
		社会調査論		2		○									兼1
		経済史総論-A		2		○									兼2
		経済史総論-B		2		○									兼2
		西洋経済史-A		2		○									兼1
		西洋経済史-B		2		○									兼1
		日本経済史-A		2		○									兼1
		日本経済史-B		2		○									兼1
		社会学総論-A		2		○									兼2
		社会学総論-B		2		○									兼2
		産業社会学		2		○									兼1
		地域社会学		2		○									兼1
		日本産業論-A		2		○									兼1
		日本産業論-B		2		○									兼1
		国際経済学-A		2		○									兼1
		国際経済学-B		2		○									兼1
		開発経済学-A		2		○									兼1
		開発経済学-B		2		○									兼1
		地域経済論-A		2		○									兼1
		地域経済論-B		2		○									兼1
	財政学-A		2		○									兼2	
	財政学-B		2		○									兼2	
	金融機関論		2		○									兼1	
	統計学-A		2		○									兼2	
	統計学-B		2		○									兼2	
	経営学と経済学で出る数学		2		○									兼2	
	経営戦略論-A		2		○									兼1	
	経営戦略論-B		2		○									兼1	
	経営組織論-A		2		○									兼1	
	経営組織論-B		2		○									兼1	
	人的資源管理-A		2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 科目	基礎 科目	人的資源管理-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		流通論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		流通論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		マーケティング論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		マーケティング論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		貿易論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		貿易論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		簿記論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		簿記論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		財務会計論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		財務会計論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		原価計算論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		原価計算論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		ファイナンスの基礎	2・3-①②③④	2		○										兼2	
		経営数学-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		経営数学-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		情報システム論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		情報システム論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		消費者行動論-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		消費者行動論-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		ゲーム分析-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		ゲーム分析-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		オペレーションズ・リサーチ-A	2・3-①③	2		○										兼1	
		オペレーションズ・リサーチ-B	2・3-②④	2		○										兼1	
		小計 (85科目)	-	0	170	0			-	4	6	1	0	0		兼36	
		発展 科目	【自学科科目】	行政法-A	2・3-①③	2		○									
	行政法-B			2・3-②④	2		○										
	税法-A			2・3-①③	2		○										
	税法-B			2・3-②④	2		○										
	刑事訴訟法-A			2・3-①③	2		○										
	刑事訴訟法-B			2・3-②④	2		○										
	政治学-A			2・3-①③	2		○			1							
	政治学-B			2・3-②④	2		○			1							
	環境法-A			2・3-①③	2		○				1						
	環境法-B			2・3-②④	2		○				1						
	家族法			2・3-①②③④	2		○			2	2	1					
金融取引法-A	2・3-①③			2		○			1								
金融取引法-B	2・3-②④			2		○			1								
民事訴訟法-A	2・3-①③			2		○				1							
民事訴訟法-B	2・3-②④			2		○				1							
民事執行法	2・3-①②③④			2		○				1							
商法総則・商行為法-A	2・3-①③			2		○				2							
商法総則・商行為法-B	2・3-②④			2		○				2							
手形小切手法	2・3-①②③④			2		○				2							
経済法-A	2・3-①③			2		○										兼1	
経済法-B	2・3-②④			2		○										兼1	
労働法 I-A	2・3-①			2		○			1								
労働法 I-B	2・3-②			2		○			1								
労働法 II-A	2・3-③			2		○			1								
労働法 II-B	2・3-④			2		○			1								
国際取引法-A	2・3-①③			2		○										兼1	
国際取引法-B	2・3-②④			2		○										兼1	
国際私法	2・3-①②③④	2		○				1									
【他学科科目】																	
ミクロ経済学 II-A	2-③・3-①③	2		○										兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	発展科目	マイクロ経済学Ⅱ-B	2-④・3-②④	2		○									兼1	
	学科科目	マクロ経済学Ⅱ-A	2-⑤・3-①③	2		○									兼2	
	発展科目	マクロ経済学Ⅱ-B	2-④・3-②④	2		○									兼2	
	発展科目	景気循環論	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	調査データ解析	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	質的調査法	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	ロシア経済論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	ロシア経済論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	アジア経済論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	アジア経済論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	国際マクロ経済学	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	環境経済学-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	環境経済学-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	環境政策論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	環境政策論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	産業経済学	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	地方財政論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	地方財政論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	金融論Ⅰ-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	金融論Ⅰ-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	金融論Ⅱ-A	2-⑤・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	金融論Ⅱ-B	2-④・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	証券市場論	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	計量経済学-A	2・3-①③	2		○									兼2	
	発展科目	計量経済学-B	2・3-②④	2		○									兼2	
	発展科目	経済情報処理	2・3-①②③④	2		○									兼3	
	発展科目	経営史-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	経営史-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	国際経営論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	国際経営論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	比較経営論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	比較経営論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	コーポレート・ファイナンス-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	コーポレート・ファイナンス-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	経営システム-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	経営システム-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	管理会計論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
	発展科目	管理会計論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	発展科目	経営モデル分析	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	国際マーケティング論	2・3-①②③④	2		○									兼1	
	発展科目	会計情報システム論	2・3-①②③④	2		○									兼1	
		小計 (70科目)	-	0	140	0	-			5	8	1	0	0	兼28	
	アドバンス・プログラム科目	国際ビジネス	●アドバンス・プログラム 【プログラムコア科目】													
		国際ビジネス	国際経済学-A	2・3-①③	2		○									兼1
		国際ビジネス	国際経済学-B	2・3-②④	2		○									兼1
		国際ビジネス	開発経済学-A	2・3-①③	2		○									兼1
		国際ビジネス	開発経済学-B	2・3-②④	2		○									兼1
		国際ビジネス	経営戦略論-A	2・3-①③	2		○									兼1
		国際ビジネス	経営戦略論-B	2・3-②④	2		○									兼1
		国際ビジネス	国際経営論-A	2・3-①③	2		○									兼1
		国際ビジネス	国際経営論-B	2・3-②④	2		○									兼1
		国際ビジネス	貿易論-A	2・3-①③	2		○									兼1
	国際ビジネス	貿易論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
	国際ビジネス	国際マーケティング論	2・3-①②	2		○									兼1	
	国際ビジネス	国際取引法-A	2・3-①③	2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	アドバンス・プログラム科目 国際ビジネス	国際取引法-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		国際私法	2・3-①②③④	2		○				1						
		【社会連携科目】														
		リテラシー特殊講義	2・3-①②③④	1		○				1	1					
		キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④	2		○										兼1
		地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④	2		○										兼3
		地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④	2				○								兼1
		地域政策特殊講義	2・3-①②③④	2			○									兼2
		地域政策特殊演習	2・3-①②③④	2				○								兼1
		国内インターンシップ I	3-④	1					○	7	9	1				兼38
		国内インターンシップ II	3-④	2					○	7	9	1				兼38
		国際インターンシップ I	3-④	1					○	7	9	1				兼38
		国際インターンシップ II	3-④	2					○	7	9	1				兼38
		【プログラム演習】														
プログラム演習 I	2-③④	2					○		1					兼2		
プログラム演習 II	3通年	2					○		1					兼2		
小計 (26科目)		—	0	49	0		—	7	9	1	0	0		兼39		
金融・財務	【プログラムコア科目】	金融論 I-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		金融論 I-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		金融論 II-A	2-③・3-①③	2		○									兼1	
		金融論 II-B	2-④・3-②④	2		○									兼1	
		コーポレート・ファイナンス-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		コーポレート・ファイナンス-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		財務会計論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		財務会計論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		管理会計論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		管理会計論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		金融取引法-A	2・3-①③	2		○				1						
		金融取引法-B	2・3-②④	2		○				1						
		会社法-A	2・3-①③	2		○					2					
		会社法-B	2・3-②④	2		○					2					
【社会連携科目】																
リテラシー特殊講義	2・3-①②③④	1		○				1	1							
キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④	2		○										兼1		
地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④	2		○										兼3		
地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④	2				○								兼1		
地域政策特殊講義	2・3-①②③④	2			○									兼2		
地域政策特殊演習	2・3-①②③④	2				○								兼1		
国内インターンシップ I	3-④	1					○	7	9	1				兼38		
国内インターンシップ II	3-④	2					○	7	9	1				兼38		
国際インターンシップ I	3-④	1					○	7	9	1				兼38		
国際インターンシップ II	3-④	2					○	7	9	1				兼38		
【プログラム演習】																
プログラム演習 I	2-③④	2					○		1					兼2		
プログラム演習 II	3通年	2					○		1					兼2		
小計 (26科目)		—	0	49	0		—	7	9	1				兼39		
行政マネジメント	【プログラムコア科目】	地域経済論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		地域経済論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		財政学-A	2・3-①③	2		○									兼2	
		財政学-B	2・3-②④	2		○									兼2	
		経営組織論-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		経営組織論-B	2・3-②④	2		○									兼1	
		人的資源管理-A	2・3-①③	2		○									兼1	
		人的資源管理-B	2・3-②④	2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目 アドバンス・プログラム科目	情報システム論-A	2・3-①③		2		○									兼1
	情報システム論-B	2・3-②④		2		○									兼1
	行政法-A	2・3-①③		2		○				1					
	行政法-B	2・3-②④		2		○				1					
	政治学-A	2・3-①③		2		○				1					
	政治学-B	2・3-②④		2		○				1					
	【社会連携科目】														
	リテラシー特殊講義	2・3-①②③④		1		○				1	1				
	キャリア・デザイン特殊講義	2・3-①②③④		2		○									兼1
	地域ビジネス特殊講義	2・3-①②③④		2		○									兼3
	地域ビジネス特殊演習	2・3-①②③④		2			○								兼1
	地域政策特殊講義	2・3-①②③④		2		○									兼2
	地域政策特殊演習	2・3-①②③④		2			○								兼1
	国内インターンシップⅠ	3-④		1				○	7	9	1				兼38
	国内インターンシップⅡ	3-④		2				○	7	9	1				兼38
	国際インターンシップⅠ	3-④		1				○	7	9	1				兼38
	国際インターンシップⅡ	3-④		2				○	7	9	1				兼38
【プログラム演習】															
プログラム演習Ⅰ	2-③④		2			○			1					兼2	
プログラム演習Ⅱ	3通年		2			○			1					兼2	
小計(26科目)		-	0	49	0	-	-	7	9	1	0	0		兼39	
合計(299科目)			-	36	513	8	-	7	9	1	0	0		兼279	
学位又は称号		学士(法学)		学位又は学科の分野			法学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<p>教養教育科目を24単位以上修得、専門教育科目104単位以上を含めて、128単位以上を修得すること。ただし、専門教育科目には必修科目28単位、選択必修科目16単位を含む。(履修科目の登録の上限：40単位(年間))</p> <p>【履修方法】</p> <p>1. 教養教育科目</p> <p>・「人文科学系」、「社会科学系」、「自然科学系」、「医療・健康科学系」、「総合科目系」</p> <p>以下の条件を満たして合計12単位以上(ただし、地域志向科目を1科目以上含むこと)</p> <p>「人文科学系」から4単位以上を選択必修</p> <p>「自然科学系」及び「医療・健康科学系」から4単位以上を選択必修</p> <p>「総合科目系」から2単位以上を選択必修(学士力・人間力基礎を除く)</p> <p>*教養教育科目における「社会科学系」科目は、社会科学領域の各分野における教員が、当該分野の考え方や現代的意義について講義するもので、例えば学問的な体系にはあまりとらわれず、日常生活で法律問題に遭遇しそうな場面の解説等、社会人として最低限理解しておく必要がある内容等を学ぶよう設計している。</p> <p>*「社会科学系」科目の履修により、今後、専門教育で学ぶ内容についても関心を高め、導的な知識を得ることも可能であるため、選択必修単位として最大2単位まで修得することを認める。</p> <p>ただし、教養教育科目と専門教育科目の位置づけや内容の違いをシラバスや新入生オリエンテーションで周知するとともに、必ずしも教養教育の選択必修科目として社会科学系科目を修得することを要しないことを併せて周知、指導する。</p> <p>・「外国語系」、「保健体育系」、「情報処理系」</p> <p>「外国語系」から8単位(英語4単位と英語以外の外国語4単位)</p> <p>「保健体育系」から2単位(講義・実技を各1単位)</p> <p>「情報処理系」から2単位(情報処理)</p>							1学年の学期区分					4期			
							1学期の授業期間					8週			

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
2. 専門教育科目 専門教育科目は、①～⑥の要件単位を含め、合計で104単位以上を修得する。 ①初年次教育2単位必修 ②導入科目（現代経済入門、経済学入門、経営学入門、会計学入門、入門法学I、入門法学II）12単位必修 ③基礎ゼミナール2単位、専門ゼミナール8単位、卒業論文4単位、必修 ④専門科目（基礎）のうち16単位選択必修 ⑤所属する学科の専門科目40単位以上修得 ⑥所属する履修コース科目を40単位以上修得 *教養教育科目については、全学において実施するため2学期制としている。			1 時限の授業時間						90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(芸術文化学部芸術文化学科)【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼3
	人間と倫理	1前・後	2		○										兼3
	こころの科学	1前・後	2		○										兼4
	現代と教育	1前・後	2		○										兼7
	日本の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
	東洋の歴史と社会	1前	2		○										兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後	2		○										兼4
	日本文学	1前・後	2		○										兼5
	外国文学	1前・後	2		○					1					兼2
	言語と文化	1前・後	2		○										兼4
	音楽	1前・後	2		○				1						兼1
	美術	1前・後	2		○				3	2	5	1			兼2
	言語表現	1前・後	2				○								兼2
	治療の文化史	1前・後	2				○								兼1
	異文化間コミュニケーション	1後	2				○								兼1
異文化理解	1前	2				○								兼1	
小計(16科目)	-	0	32	0	-				4	3	5	1	0	兼44	
社会科学系	現代社会論	1前・後	2		○										兼5
	日本国憲法	1前・後	2		○										兼3
	国家と市民	1前・後	2		○										兼3
	経済生活と法	1前・後	2		○										兼3
	市民生活と法	1前・後	2		○										兼3
	はじめての経済学	1前・後	2		○										兼5
	産業と経済を学ぶ	1前・後	2		○										兼5
	経営資源のとりえ方	1前・後	2		○										兼3
	市場と企業の関係	1前・後	2		○										兼3
	地域の経済と社会・文化	1前	2		○										兼2
小計(10科目)	-	0	20	0	-				0	0	0	0	0	兼33	
自然科学系	地球と環境	1前・後	2		○										兼2
	生命の世界	1前・後	2		○										兼6
	物理の世界	1前・後	2		○										兼2
	化学物質の世界	1前・後	2		○				1						兼2
	自然と情報の数理	1前・後	2		○										兼3
	社会と情報の数理	1前	2		○										兼1
	技術の世界	1後	2		○										兼2
	材料の科学	1前	2		○										兼1
	生活の科学	1前	2		○										兼2
	コンピュータの話	1前・後	2		○										兼2
デザインと生物	1後	2		○				1		1				兼2	
小計(11科目)	-	0	22	0	-				2	0	1	0	0	兼31	
理系基礎教育系	微分積分I-E	1前	2												兼1
	線形代数I-E	1前	2												兼1
	小計(2科目)	-	0	4	0	-				0	0	0	0	0	兼2
医療・健康科学系	医療心理学	1前	2		○										兼1
	概説医療心理学	1前	1		○										兼1
	認知科学	1後	2		○										兼1
	脳科学入門	1後	2		○										兼2
	生命科学入門	1前	1		○										兼1
	免疫学入門	1前	2		○										兼1
	身近な医学	1後	2		○										兼1
	障害とアクセシビリティ	1前	2		○										兼1
医療と地域社会	1後	2		○										兼1	
小計(9科目)	-	0	16	0	-				0	0	0	0	0	兼7	
総合科目系	環境	1前	2		○										兼1
	ジェンダー	1前・後	2		○										兼1
	技術と社会	1前・後	2		○										兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	総合科目系	現代文化	1後	2		○			1							兼1
	人権と福祉	1前・後	2			○										兼1
	環日本海	1前	2			○										兼2
	科学と社会	1前・後	2			○										兼1
	アカデミック・デザイン	1後	2			○			1							兼1
	ビジネス思考	1後	2			○										兼1
	平和学入門	1前	2			○										兼1
	東アジア共同体論－政治・経済・文化－	1後	2			○			1							兼1
	新聞投稿に挑戦	1後	2			○										兼1
	富山から考える震災・復興学	1後	2			○				1						兼1
	環境と安全管理	1前	2			○										兼1
	万葉学	1前	2			○			1							兼1
	日本海学	1後	2			○										兼1
	富山大学学	1後	2			○										兼1
	とやま地域学	1前	2			○										兼1
	時事的問題	1前	2			○			1							兼1
	災害救援ボランティア論	1後	2			○										兼1
	感性をはぐくむ	1前	2			○										兼1
	日本事情／芸術文化	1後	2			○										兼1
	日本事情／自然社会	1前	2			○										兼1
	学士力・人間力基礎		2													
	富山学	1前	2			○										兼1
	地域ライフプラン	1前	2			○										兼1
	産業観光学	1後	2			○										兼1
	富山のものづくり概論	1後	2			○										兼1
	富山の地域づくり	1前	2			○										兼2
	小計 (29科目)		-	0	58	0				5	1	0	0	0		兼26
	外国語系	英語リテラシーⅠ－E	1前	1			○			1	1					
		英語リテラシーⅡ－E	1後	1			○			1	1					
英語コミュニケーションⅠ－E		1前	1			○									兼1	
英語コミュニケーションⅡ－E		1後	1			○									兼1	
ドイツ語基礎Ⅰ		1前	1			○									兼6	
ドイツ語基礎Ⅱ		1後	1			○									兼5	
ドイツ語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼6	
ドイツ語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼5	
フランス語基礎Ⅰ		1前・後	1			○									兼2	
フランス語基礎Ⅱ		1前・後	1			○									兼2	
フランス語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼5	
フランス語コミュニケーションⅡ		1前・後	1			○									兼5	
中国語基礎Ⅰ		1前・後	1			○									兼9	
中国語基礎Ⅱ		1前・後	1			○									兼9	
中国語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼5	
中国語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼5	
朝鮮語基礎Ⅰ		1前	1			○									兼1	
朝鮮語基礎Ⅱ		1後	1			○									兼2	
朝鮮語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼2	
朝鮮語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼2	
ロシア語基礎Ⅰ		1前	1			○									兼2	
ロシア語基礎Ⅱ		1後	1			○									兼1	
ロシア語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼1	
ロシア語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼1	
日本語リテラシーⅠ		1前	1			○									兼1	外国人留学生限定
日本語リテラシーⅡ		1後	1			○									兼1	外国人留学生限定
日本語コミュニケーションⅠ		1前	1			○									兼1	外国人留学生限定
日本語コミュニケーションⅡ		1後	1			○									兼2	外国人留学生限定
発展多言語演習ドイツ語		1前			1		○									兼1
発展多言語演習中国語		1前			1		○									兼1
発展多言語演習ラテン語Ⅰ	1前			1		○									兼1	
発展多言語演習ラテン語Ⅱ	1後			1		○									兼1	
日本語コミュニケーションⅢ	1前			1		○									兼1	外国人留学生限定
日本語リテラシーⅢ	1後			1		○									兼1	外国人留学生限定

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	外国語系	日本語／専門研究	1前		1			○							兼1	外国人留学生限定	
		日本語／ビジネス	1後		1			○							兼1	外国人留学生限定	
		小計 (36科目)	-	4	24	8		-		1	1	0	0	0	兼43		
	保健体育系	健康・スポーツ／講義	1後		1			○				1				兼6	
		健康・スポーツ／実技	1前・後	1								1				兼14	
		小計 (2科目)	-	1	1	0		-		0	0	1	0	0	兼16		
情報処理科	情報処理一C	1前・後	2				○								兼2		
	小計 (1科目)	-	2	0	0		-		0	0	0	0	0	兼2			
専門教育科目	芸文基礎科目	基礎科目1群	芸文基礎演習A	1前	2				○		2	2					オムニバス
		芸文基礎演習D	1後		2				○		1	1					オムニバス・共同
		博物館概論	2前		2			○				1	1			兼2	共同
		地域再生論	2後		2			○									共同
		ジェンダーと創作	3前		2			○				1					
		美学	2前		2			○				1					
		日本美術史	2前		2			○				1					
		西洋美術史	2前		2			○					1				
		芸術デザイン史	3後		2			○						1			
		文学と芸術	2後		2			○				1			1		
		地球環境と人間	2前		2			○			1						
		材料の科学 (プラスチック)	2前		2			○			1						
		材料の科学 (塗料)	3前		2			○			1						
		材料の科学 (金属材料)	2後		2			○			1						
		構造計画	2前		2			○			1						
		住居論	2前		2			○								兼1	
		生活と環境	2前		2			○								兼1	オムニバス
		建築と文化	1後		2			○			1	2	1				
		西洋建築史	2前		2			○								兼1	
		素材と技術 (金属・無機材料)	2前		2			○			1						
		人間工学概論	2前		2			○			1						
		働き方学	4前		2			○			1						
		小計 (22科目)	-	2	42	0		-		6	7	2	1	0	兼4		
	基礎科目2群	芸文基礎演習B	1前		2				○		2	1	5				オムニバス・共同
		芸文基礎演習C	1後		2				○		2	4	2				オムニバス・共同
		芸文総合演習A	2前		2				○		3	1	5	1			オムニバス・共同
		芸文総合演習B	2前		2				○			2	2				オムニバス・共同
芸文総合演習C (シェルター)		2前		2				○			2	1				共同	
芸文総合演習D		2前		2				○		2	1	1				オムニバス	
CG基礎演習		1前		2				○			1						
CG入門演習 (3D)		2前		2				○			1	2					
デザインのためのデータ活用実習		3後		2					○	1							
プレゼンテーション演習		1後		2					○		1						
まちづくり		2前		2			○					1					
色彩基礎演習		2前		2				○		1	1					オムニバス	
身体文化論演習		3前		2				○				1					
人と空間		1前		2				○		1							
インターンシップ実習		1通		2						1							
	小計 (15科目)	-	0	30	0		-		8	7	10	1	0				
基礎科目3群	プログラミング基礎演習	1後		2				○									
	デジタルコンテンツ	2前		2			○			1							
	デジタルコンテンツ演習	2後		2				○			1						
	コンピュータグラフィックス	3前		2			○				1						
	Web演習 I	2前		2				○			1						
	Web演習 II	2後		2				○			1						
	English for Art I	2前		2				○				2				オムニバス	
	English for Art II	2前		1									1			兼1	
	English for Art III	2後		1													
	図学・製図実習	1後		2							2						
	小計 (10科目)	-	0	18	0		-		0	3	2	1	0	兼1			
コース特色科目	展示演習	3通		2				○			2	4	1			オムニバス・共同	
	造形芸術基礎演習	2後		2				○		1		2				共同	
	彫刻実習A	2後		2								2				共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 コース特色科目 美術・工芸関連	彫刻実習B	3前		2				○								共同	
	造形芸術実習A	3後		2				○	1		4					オムニバス・共同	
	造形芸術実習B	3後		2				○	1		4					オムニバス・共同	
	造形芸術実習C	4前		2				○	1		4					オムニバス・共同	
	絵画基礎演習A	2後		2				○			2					共同	
	絵画基礎演習B	2後		2				○			2					共同	
	絵画技法・材料演習	2後		2				○			2					共同	
	絵画実習A	3前		2				○			2					共同	
	絵画実習B	3前		2				○			2					共同	
	工芸基礎演習(金工)	2後		2				○		1						共同	
	工芸基礎演習(漆工)	2後		2				○		2	1	1				共同	
	工芸技法・材料	2後		2			○			1	1	1				オムニバス	
	工芸実習(金工)A	2後		2					○		1						
	工芸実習(金工)B	3前		2					○		1						
	工芸実習(金工)C	3前		2					○		1						
	工芸実習(金工)D	3後		2					○		2					共同	
	工芸実習(漆工)A	2後		2					○	1							
	工芸実習(漆工)B	3前		2					○	1							
	工芸実習(漆工)C	3前		2					○		1						
	工芸実習(漆工)D	3後		2					○	1							
	工芸実習(漆工)E	3後		2					○			1	1			共同	
	メディアアート基礎演習	2後		2					○	1			1			共同	
	メディアアート演習A	2後		2					○				1				
	メディアアート演習B	3前		2					○	1							
	メディアアート演習C	3前		2					○	1							
	メディアアート演習D	3後		2					○	1							
	メディアアート演習E	4前		2					○	1							
	小計(30科目)		—	0	60	0			—	3	3	6	2	0			
	デザイン関連	デザイン概論	2後	2					○	1	1	1					オムニバス
		コミュニケーションデザイン概論	2後		2				○		2	1					オムニバス
デザイン基礎(ビジュアルデザイン演習)		2後		2				○		1	1					共同	
デザイン基礎(プロダクトデザイン演習)		2後		2				○	1	1						共同	
デザイン基礎(クラフトデザイン演習)		2後		2				○	1		1					共同	
デザインマネジメント概論		3前		2				○		1							
デザイン展開(ビジュアルデザイン実習)		3前		2					○	1	1					共同	
デザイン展開(プロダクトデザイン実習)		3前		2					○	1	1					共同	
デザイン展開(クラフトデザイン実習)		3前		2					○	1		1				共同	
デザインプロジェクトA(デザインマネジメント)		3後		2					○		1						
デザインプロジェクトB(クラフトデザイン)		3後		2					○		1						
デザインプロジェクトC(家具)		3後		2					○			1					
デザインプロジェクトD(ビジュアルデザイン)		3後		2					○			1					
デザインプロジェクトE(トランスポートデザイン)		3後		2					○	1							
デザインプロジェクトF(食器)	3後		2					○	1								
デザインプロジェクトG(サインデザイン)	3後		2					○		1	1				共同		
小計(16科目)		—	2	30	0			—	2	3	2		0				
建築デザイン関連	材料力学	2後		2				○							兼1		
	建築インテリア構法	2後		2				○	1	1						オムニバス	
	木質建築材料実験	2後		2											兼1		
	建築材料	2後		2				○	1								
	建築構造	3前		2				○	1								
	構造力学1	3前		2				○	1								
	構造力学2	3後		2				○	1								
	木質構造実習(木造軸組住宅)	3前		2					○	1							
	環境工学	2後		2				○								兼1	
	環境工学設計演習	3後		2				○								兼1	
	建築設備	3前		2				○								兼1	
	建築計画	2後		2				○			1						
	建築法規	3前		2				○			1						
	建築生産	3後		2				○								兼1	
	建築再生実測演習	3前		2					○		2					共同	
空間デザインC(戸建住宅)	2後		2					○	1	2	1				共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	コース特色科目 建築デザイン関連	空間デザインD (集合住宅)	2後	2					○	1	2					共同 共同 共同 共同 兼1 兼5
		空間デザインE (非木造の特殊建築物)	3前	2					○	1	1	1				
		空間デザインF (建築再生)	3後	2					○	1	1	1				
		空間デザインG (複合建築)	3後	2					○	1	1					
		近・現代建築意匠	2後	2			○			1			1			
		CADを用いた建築プレゼンテーション	2後	2				○			1					
		日本・東洋建築史	3前	2				○						1		
		建築論	3後	2				○								
		暮らしとインテリア	3前	2				○								
		小計 (25科目)	—	0	50	0			—		2	2	1	1	0	
地域キュレーション関連	地域キュレーション演習	3後	2					○	3	3	1					
	文化財分析法	3前		2			○		1							
	文化政策概論	2後		2			○			1						
	文化政策各論	3前		2			○			1						
	文化政策論演習	3後		2				○		1						
	美学各論	2後		2			○			1						
	美学演習A	3前		2				○		1						
	美学演習B	3後		2				○		1						
	東洋美術史	2後		2			○			1						
	日本・東洋美術史演習	3後		2				○		1						
	アート・マネジメント概論	2後		2			○				1					
	アート・マネジメント演習	3前		2				○			1					
	伝統文化論	2後		2			○			1						
	地域文化調査演習	3前		2				○		1						
伝統文化論演習	3後		2				○		1							
風景資源論演習	3前		2				○		1							
風景資源論A	2後		2			○			1							
風景資源論B	3後		2			○			1							
小計 (18科目)	—	2	34	0			—		3	3	1	0	0			
卒業研究制作	卒業研究・制作	4通	8						11	13	11					
小計 (1科目)	—	8	0	0			—		11	13	11	0	0			
合計 (253科目)			—	21	441	8		—	11	13	11	3	0	兼219		
学位又は称号		学士 (芸術文化学)			学位又は学科の分野			美術関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業要件単位							区分ごとに最低限必要な単位数									
124単位	教養教育科目: 28単位以上	人文科学系	:4単位					1学年の学期区分	2学期							
		社会科学系	:4単位													
		自然科学系	:4単位													
		医療・健康科学系														
		総合科目系	:4単位													
		外国語系	:6単位 (必修4単位を含む)													
		理系基盤教育系	:0単位													
		保健体育系	:1単位 (必修)													
情報処理系	:2単位 (必修)															
専門教育科目: 86単位以上	芸文基礎科目	:32単位					1学期の授業期間	15週								
	コース特色科目	:30単位														
	卒業研究・制作	:8単位														

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	<p>【専門教育科目の履修方法】</p> <p>芸文基礎科目32単位以上、コース特色科目30単位以上、卒業研究・制作8単位を修得すること。</p> <p>専門教育科目芸文基礎科目は、必修科目2単位、選択必修科目8単位、選択科目22単位以上を修得すること。なお、選択科目のうち、芸文基礎演習B～Dから4単位、芸文総合演習A～Dから4単位を選択必修科目とする。</p> <p>専門教育科目コース特色科目は、本学部は、1学科4コース制であり、同一授業科目がコースにより、「必修」や「選択必修」又は「選択」に分かれている。</p> <p>美術・工芸コース 選択必修科目10単位、選択科目20単位以上 デザインコース 必修科目2単位、選択必修科目8単位、選択科目20単位以上 建築デザインコース 選択必修科目10単位、選択科目20単位以上 地域キュレーションコース 必修科目2単位、選択必修科目8単位、選択科目20単位以上</p>												1 時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
（人文社芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通 科目	研究倫理	<p>（概要）研究者には分野を問わず，研究倫理を守ることが求められる。研究に従事する者に求められる倫理，規範意識，科学の社会的責任，研究費の取扱い等について理解させることを目的とする。</p> <p>（オムニバス形式／全8回）</p> <p>（161 中村 征樹（非常勤講師）／1回） 研究不正の防止と責任ある研究活動 （150 沖野 浩二／1回） 研究活動における情報管理上の注意点，プライバシー保護 （146 宮島 光志／1回） 研究活動における生命倫理 （142 豊岡 尚樹／5回） 公的研究費の取り扱い，データの扱いと共同研究のルール，オーサーシップ等（eラーニング教材利用）</p>	オムニバス
	科学技術と持続可能社会	<p>（概要）科学技術の発展により，私たちは高度な文明を築き，豊かな生活を送ることができるようになった。その一方で，科学技術の利用による様々な社会問題や環境問題が生じ，私たちは科学技術がもたらす負の側面にも正面向き合わざるを得ない状況にある。これらの様々な課題を解決し，私たちの生活をより豊かで持続可能な形にするためには，新しい科学技術や利用法が必要である。この授業では，過去から現在に至る科学技術の発展による我々の生活の変化を知り，それに伴い経済，社会，環境にどのような課題が生じてきたのかを考え，科学技術が達成すべき未来を描くことの重要性を探究し，そしてこのような課題を解決するためにどのような新しい科学技術とその利用方法が必要なのかについて理解を深める。</p> <p>（オムニバス形式／全8回）</p> <p>（160 岸本 充生（非常勤講師）／1回） 科学技術イノベーションをめぐる課題 （162 平川 秀幸（非常勤講師）／1回） 科学技術と社会のコミュニケーションの課題 （149 池田 文佑／1回） 科学技術とグローバル・ガバナンス／エシックス （66 龍 世祥／1回） 産業革命と社会システムの変革，持続可能社会の形成 （138 稲寺 秀邦／1回） イタイイタイ病の歴史から学ぶ持続可能社会 （7 上原 雄史／1回） 都市と建築の相互性に基づいた現代建築の重層化する必要性の理解。 （148 和田 直也・157 Shishir Sharmin／1回）（共同） 熱帯地域における経済発展・森林断片化と新興感染症問題 （141 張 勁／1回） 海洋と陸域の水・物質循環の今と今後の適応策</p>	オムニバス 共同（一部）
	地域共生社会特論	<p>我が国で行われてきた地域の相互援助や家族同士の助け合いなど，家庭・地域・職場などの生活場面において支えあいの機能が存在していた。今日の社会保障制度はそのような社会背景のもとに構築されてきている。現代的に考えると高齢化・人口減などの課題に対して，従来のシステムでは対応しきれない状況が現れてきている。人々が生活する，地域社会でこそ，その生活を支えられる新たなシステムが必要とされている。そこで「地域共生社会」をどのように構築すべきかを現代社会の課題ととらえ，その実証的検証を踏まえた考察を試み，制度や分野の枠組みを超えた地域社会想像を考察するものである。</p> <p>超少子高齢社会を見据えながら，地域共生社会の構築方法を，グローバルな視点と多文化共生の観点も含めて理解し，社会の在り方を考察しながら，新しい公共の構築を理解できることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	<p>(概要) コミュニケーション能力として「他者の考えを理解し、自らも情報発信する能力を身に付けている。また、適切な手段や言語を使い、多様な人々との意思疎通と協働を可能にする能力を身に付けている」ことを前提に、基盤的な確認をする。またコミュニケーションの内容と構造の分析方法も学び、研究・論文作成に必要なコミュニケーション技術獲得方法についても教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(63 山崎 けい子/1回)：コミュニケーションの概念 (145 堀 悦郎/2回)：コミュニケーションの内容・成立要件、病的コミュニケーション (143 袴田 優子/1回)：医療的コミュニケーション (147 八塚 美樹/1回)：共感的な他者とのコミュニケーション (9 内田 和美/1回)：ヒト・モノ・コトとのコミュニケーション (116 尾山 真/2回)：自身のコミュニケーションを理解し、研究指導者との良好なコミュニケーション</p>	オムニバス
	アート・デザイン思考	<p>(概要) アート思考とデザイン思考についての理解を深めるとともに、STEAM教育を含む社会におけるアート・デザインの役割についての考察を深める科目。アート思考はアーティストの思考法を取り入れることであり、デザイン思考はデザイナーの思考法を取り入れることである。アートとデザインが異なるようにアート思考とデザイン思考も異なるが、変動が激しく先が見え難く、様々な問題が複雑に絡み合う現代社会においては、これらの視点が役立つとされる。本授業では、これらの視点を学ぶとともに、アート思考とデザイン思考を身につけてゆく。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(68 有田 行男・129 長田 堅二郎・134 松田 愛/2回) (共同) アート思考とデザイン思考、社会におけるアート・デザインの役割～創造の観点から～ (68 有田 行男/1回) アートとデザインの周辺・アートとデザインの融合 (134 松田 愛/1回) 社会におけるアートの役割～キュレーションの観点から～ (129 長田 堅二郎/1回) 社会におけるアートの役割～アートマーケットの観点から～ (9 内田 和美/1回) 社会におけるデザインの役割～プロダクトデザインの観点から～ (119 岡本 知久/1回) 社会におけるデザインの役割～ビジュアルデザインの観点から～ (136 藪谷 祐介/1回) 社会におけるアート・デザインの役割～まちづくりの観点から～</p>	オムニバス共同 (一部)
	英語論文作成 I	<p>科学論文や技術報告書を正しい英語で分かりやすく書くための文法的な基礎知識を身につける。論文等にかかれた英文の構造を分析して正しく読み取ることができるようにする。 英作文の基礎となる文型をしっかり身につける。即ち、能動態の文を受動態に、受動態の文を能動態に変えることができるようにする。</p>	共同 (一部)
	英語論文作成 II	<p>科学論文や技術報告書を正しい英語で分かりやすく書くための文法的な基礎知識を身につける。論文等にかかれた英文の構造を分析して正しく読み取ることができるようにする。 関係代名詞と分詞構文を正しく使えるようにする。関係代名詞では主格、目的格、所有格、前置詞付きの関係代名詞をできるように、また制限用法と非制限用法の違いを知る。正しい句読点(ピリオド、コンマ、セミコロン、コロンの使い方を知る。一つの文は長くしないほうが良い(20単語以内)ということを知る。理工系特有の数値、数量、数式の表現を身につける。</p>	共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	データサイエンス特論	<p>(概要) 最初に、多様なデータ解析の実務で汎用的に利用されている機械学習の基礎を確認し、その後、機械学習の要素技術を確実・安全に運用するために必要となる数理解析の理論と技術を学修する。そして、革新的な進化を遂げている生命情報の話題を理解することで、データサイエンスによって大きく変容していく学術分野の事例を研究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(142 豊岡 尚樹・58 モヴシュク オレクサンダー/1回) 全体総括 (58 モヴシュク オレクサンダー/1回) 最新機械学習の基本と仕組み (155 春木 孝之/1回) データサイエンス基礎 (教師なし学習) (156 参沢 匡将/1回) データサイエンス基礎 (教師あり学習) (144 藤田 安啓/1回) 数学とデータサイエンス (153 長岡 亮/1回) データサイエンスのための情報セキュリティ技術 (151 奥 牧人/1回) 生命情報学とデータサイエンス (140 中條 大輔/1回) 医療データを用いた医学的知見の創出</p>	オムニバス共同 (一部)
	大学院生のためのキャリア形成	<p>(概要) 将来、職業人としての経験を重ねていくための道標を提供する科目である。キャリア開発やキャリア形成は膨大な蓄積を伴う学問分野であるが、本講義では学術的な研究ではなく、大学院生が自らのキャリアを考えるためのツールと言う視点から、実践を交えつつキャリア形成を巡る理論を学ぶ。</p> <p>達成目標は以下のとおり。</p> <p>① 組織、社会との関わりの中で、自らのキャリア形成に対する展望を自律的に得ることができる。</p> <p>② 組織のマネジメントで必要とされるキャリア開発の基本的な考え方を身に付けている。</p> <p>③ 受講生自身が、自らのキャリアに対する考え方の成長を実感できる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(47 中村 和之/1回) 全体総括及び社会・経済状況の概説 (116 尾山 真/2回) 自己分析・環境分析等に関する手法、キャリア形成理論 (47 中村 和之・116 尾山 真/5回) (共同) 大学院修了者の講演を参考にした履修者同士によるグループ討論、周囲の人へのインタビュー・発表</p>	オムニバス共同 (一部)
	知的財産法	<p>(概要) 理工系出身者の多くが研究開発に従事、他の分野においても各種知的財産を抜きにはビジネス構築ができない時代となった。我が国の国家戦略としての知財の重要性を理解し、各自の今後の活動に活かすことのできるツールとして知的財産についての理解を深める。</p> <p>知的財産の基本的な知識と技術を修得し、社会における知的財産と産業における産業財産権の意義や役割を理解、産業の発展を図り活用する能力および知的財産創造サイクルを回す考え方を育成する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(159 大谷 嘉一 (非常勤講師) /4回) 知的財産権の基礎 (知的財産制度の概要、特許権・実用新案権・意匠権・商標権等・著作権等各知的財産の詳細、グローバルな権利としての知的財産の側面) (158 赤坂 彰彦 (非常勤講師) /3回) 知的財産権の実際 (特許明細書の構成・内容、先行技術調査・検索、不正競争防止法等) (139 田端 俊英/1回) 知的財産権の実際 (地域企業における知的財産活用の事例を紹介に基づく業界による違い・特徴)</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	地域づくり特論	<p>(概要) まちづくり・地域づくりは様々な学問分野で取り上げられる研究分野、実践活動である。近年、地域に関するさまざまなデータが得られるようになり、エビデンスに基づく地域づくりが可能となりつつある。ビッグデータを活用した地域づくりから、都市農村社会やコミュニティビジネスまで、すべて地域づくりといえる。この授業では地域づくりをビッグデータなどの量的なデータとともに、人々の個性的なデータから地域を分析する手法を学ぶ。 (オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 大西宏治/5回) 地理空間情報や流域地域の見方とまちづくりへの活用、地域づくりワークショップ運営 (15 奥敬一/1回) 農山村の地域資源と地域づくり (90 鈴木晃志郎/1回) 地理空間情報の質的データと量的データの分析手法 (108 安嶋是晴/1回) 地域産業と地域づくり</p>	オムニバス
	現代心理学特論	<p>(概要) 人文社会芸術総合研究科に共通して理解しておくべき、人間の普遍的・基礎的な心理メカニズムについて、現代心理学的な観点から解説する。心理学の研究領域は極めて広範囲に及ぶが、本講義では、現代において特に関心が寄せられているテーマを取り上げて解説する。具体的には、人間の意識や認知のメカニズムといった普遍的な問題に対して、現代ではどのような実証(実験)的研究が行なわれているかを概観し、基礎的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(27 佐藤 徳/4回) 社会認知科学に関する分野を中心として、特に自己感覚に関する現代的な研究を解説する。 (93 坪見 博之/4回) 認知心理学に関する分野を中心として、特に記憶に関する現代的な研究を解説する。</p>	オムニバスメディア
	日本文芸原典研究	<p>本授業では江戸時代に生まれた多様な文芸のなかでも、現代の漫画の源流ともいえる黄表紙や文中に絵文字が登場する仕方咄、トリックアートのような寄せ絵から浮世絵に至るまで江戸庶民の遊び心が横溢したさまざまなイラストを備えた作品を取り上げ、翻刻と注釈、挿絵の分析をおこなうとともに、書誌・出版・作者・画工・文化的背景といった様々な観点から検討を加えてゆく。</p>	
	コミュニティビジネス特論	<p>コミュニティビジネスは、地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むものであり、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化に寄与するものと期待されています(経済産業省)。コミュニティビジネス特論では、ケーススタディや地域コミュニティへの参加を通じて、地域の課題について地域資源を活用し、持続性のあるビジネスや起業などにより、解決しする考え方を学ぶ。</p>	集中
	人文・社会の数理	<p>人文・社会を専攻する上で必要になる数学の基礎を扱う。ベクトル、線形関数、行列の基本性質から始めて、最小二乗法による最適化問題までを扱う。必要に応じて、微分の基礎についても学ぶ。 具体的には、ベクトル、線形関数、ノルム、クラスタリング、線形独立、線形連立方程式、逆行列、最小二乗法、多目的最小二乗法、制約付き最小二乗法について学ぶ。</p>	共同
	地域共創特別演習 (PBL)	<p>【授業の狙いとカリキュラム上の位置付け】 ・実践的能力(起動力、分析力、提案力、調整力、実行力、評価力)を育成する科目として、実際の地域課題をテーマとしたPBL形式の演習授業とする。 ・専門が異なる研究科生が混在するチームを編成し、お互いの能力を最大化するためのチームビルディング(役割分担、情報共有、意見調整、活動の統合など)と協働を学ぶ。 【達成目標】 ・実践的能力(起動力、分析力、提案力、調整力、実行力、評価力)を伸ばす。(授業開始時の自己評価との比較において) ・プロジェクトを遂行できる力(計画の立案、チームビルディング、日程管理、予算管理、品質管理)を身につける。 【授業計画】 実際の地域課題に対し、チームで課題解決や地域共創のための仕組みや活動を提案する。提案においては何らかの形で実際にトライアルを行い、社会実装に向けての課題を整理した上での最終報告とする。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学プログラム専門科目 人文科学系	心理学特論 I	社会認知科学について、特に意識・自己・行為と知覚・身体・他者理解などに焦点を当てながら、国際的論文や専門書を材料に、社会認知科学の基礎的な問題について解説する。また、これらのテーマに共通した社会認知科学的実験方法・実験データの分析方法についても合わせて考える。各テーマでは、研究動向の解説に加え、ディスカッションも行うことで、受講生の理解を深めるとともに、受講生が進める研究にも役立つ着想を得ることを目標とする。	
	心理学特論 II	心理学特論Iと関連して、社会認知科学について、特に意識・自己・行為と知覚・身体・他者理解などに焦点を当てながら、主に国際的論文や専門書を材料に、最新の研究動向を踏まえた諸問題を解説する。また、これらのテーマに共通した社会認知科学的実験方法・実験データの分析方法についても合わせて考える。各テーマでは、研究動向の解説に加え、ディスカッションも行うことで、受講生の理解を深めるとともに、受講生が進める研究にも役立つ着想を得ることを目標とする。	
	心理学特論 III	社会心理学について、特に自己過程・社会的認知・対人的相互作用過程などに焦点を当てながら、国内外の論文や専門書を材料に、最新の研究動向を踏まえた諸問題を解説する。また、これらのテーマに共通した社会心理学的な研究手法・データの解析方法についても合わせて考える。各テーマでは、研究動向の解説に加え、ディスカッションも行うことで、受講生の理解を深めるとともに、受講生が進める研究にも役立つ着想を得ることを目標とする。	
	心理学特論 IV	集団力学について、特にリーダーシップ・メンバーシップ・社会的影響・集団間関係などに焦点を当てながら、国内外の論文や専門書を材料に、最新の研究動向を踏まえた諸問題を解説する。また、これらのテーマに共通した集団を対象とした研究手法・データの解析方法についても合わせて考える。各テーマでは、研究動向の解説に加え、ディスカッションも行うことで、受講生の理解を深めるとともに、受講生が進める研究にも役立つ着想を得ることを目標とする。	
	心理学特論 V	認知心理学について、特に知覚・認識・記憶などの認知過程に焦点を当てながら、国際的論文や専門書を材料に認知心理学の諸問題を解説する。また、これらのテーマに共通した認知心理学的実験方法・実験データの分析方法についても合わせて考える。各テーマでは、研究動向の解説に加え、ディスカッションも行うことで、受講生の理解を深めるとともに、受講生が進める研究にも役立つ着想を得ることを目標とする。	
	心理学特論 VI	認知神経科学について、特に知覚・認識・記憶などの認知過程に焦点を当てながら、国際的論文や専門書を材料に認知神経科学の諸問題を解説する。また、これらのテーマに共通した認知神経科学的実験方法・実験データの分析方法についても合わせて考える。各テーマでは、研究動向の解説に加え、ディスカッションも行うことで、受講生の理解を深めるとともに、受講生が進める研究にも役立つ着想を得ることを目標とする。	
	心理学特論演習 I	知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化に関する基礎的な心理学的現象と諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている現象と問題について扱う。受講生は、これらのトピックに関して専門書を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が心理学研究を進めるための基礎的知見を得ることを目標とする。 (27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、基礎的な現象と諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている現象と問題について扱う。 (82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化に関する社会心理学的現象と諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている現象と問題について取り上げる。 (93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認識・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、基礎的な現象と諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている現象と問題について扱う。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 プログラム 専門科目	人文 科学系	心理学特論演習Ⅱ	<p>心理学特論演習Ⅰと関連して、知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化に関する心理学的現象と現代的な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で注目されている高度な諸問題について考える。受講生は、これらのトピックに関する最近の国際的論文を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が高度な心理学研究を進めるための知見を得ることを目標とする。</p> <p>(27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、現代的な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で注目されている高度な諸問題について考える。</p> <p>(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化に関する社会心理学的現象と現代的な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で注目されている高度な諸問題について取り上げる。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認識・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、現代的な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で注目されている高度な諸問題について考える。</p>	
		心理学特論演習Ⅲ	<p>知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化を扱う際に必要となる心理学的実験方法の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている心理学的実験方法について考える。受講生は、これらのトピックに関して専門書を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が心理学研究を進めるための基礎的知見を得ることを目標とする。</p> <p>(27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、実験方法の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている実験方法について扱う。</p> <p>(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化を研究対象とする際に必要となる社会心理学的研究手法の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられている社会心理学的実験方法について取り上げる。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認識・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、実験方法の基礎的な諸問題を考える。</p>	
		心理学特論演習Ⅳ	<p>心理学特論演習Ⅲと関連して、知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化を扱う際に必要となる心理学的実験方法の高度な諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で重視されている新たな心理学的実験方法について考える。受講生は、これらのトピックに関する最近の国際的論文を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が高度な心理学研究を進めるための知見を得ることを目標とする。</p> <p>(27 佐藤 徳) 為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、実験方法の高度な諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で重視されている新たな心理学的実験方法について考える。</p> <p>(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化を研究対象とする際に必要となる社会心理学的研究手法の高度な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で重視されている新たな研究手法について取り上げる。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認識・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、実験方法の高度な諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で重視されている新たな心理学的実験方法について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学プログラム専門科目	心理学特論演習V	<p>知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化を扱う際に必要となる心理学的データ解析の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられているデータ解析方法について考える。受講生は、これらのトピックに関して専門書を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が心理学研究を進めるための基礎的知見を得ることを目標とする。</p> <p>(27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、データ解析の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられているデータ解析方法について扱う。</p> <p>(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化を研究対象とする際に必要となる社会心理学的データ解析の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられているデータ解析方法について取り上げる。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認知・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、データ解析の基礎的な諸問題を考える。本演習は特に、古典的でありながら現代でも重要だと考えられているデータ解析方法について扱う。</p>	
	心理学特論演習VI	<p>心理学特論演習Vと関連して、知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化を扱う際に必要となる心理学的データ解析の高度な諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で重視されている新たな解析手法について考える。受講生は、これらのトピックに関する最近の国際的論文を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が高度な心理学研究を進めるための知見を得ることを目標とする。</p> <p>(27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、データ解析の高度な諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で重視されている新たな解析手法について考える。</p> <p>(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化を研究対象とする際に必要となる社会心理学的データ解析の高度な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で重視されている新たなデータ解析方法について取り上げる。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認知・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、データ解析の高度な諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で重視されている新たな解析手法について考える。</p>	
	心理学特論演習VII	<p>知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化を扱う際に必要となるデータの解析結果の心理学的解釈についての諸問題を考える。本演習は特に、古典的な研究結果の解釈や考察の現代的諸問題への適用可能性について考える。受講生は、これらのトピックに関して専門書を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それらを通じて、受講生が心理学研究を進めるための基礎的知見を得ることを目標とする。</p> <p>(27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、データ解析結果の心理学的解釈にかかわる諸問題を考える。本演習は特に、古典的な研究結果の解釈や考察の現代的諸問題への適用可能性について考える。</p> <p>(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化を研究対象とする際に必要となるデータの解析結果の社会心理学的解釈についての諸問題を考える。本演習は特に、古典的な社会心理学的研究の結果の解釈や考察の現代的諸問題への適用可能性について取り上げる。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認知・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、データ解析結果の心理学的解釈にかかわる諸問題を考える。本演習は特に、古典的な研究結果の解釈や考察の現代的諸問題への適用可能性について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学プログラム専門科目	心理学特論演習Ⅷ	心理学特論演習Ⅶと関連して、知覚・認知・生理・社会などの心理学的分野に関して、個人の認知と行動化を扱う際に必要となるデータの解析結果の心理学的解釈についての諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で提唱されている理論構築の元となるデータの解析結果の解釈や考察について考える。受講生は、これらのトピックに関する最近の国際的論文を輪読し、内容のプレゼンテーションを行う。また、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。それを通じて、受講生が高度な心理学研究を進めるための知見を得ることを目標とする。	
		(27 佐藤 徳) 行為と知覚・自己・身体などのテーマに関して、認知神経科学的観点から、データの解析結果の心理学的解釈にかかわる諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で提唱されている理論構築の元となるデータの解析結果の解釈について考える。	
		(82 黒川 充流) 個人の認知やその行動化を研究対象とする際に必要となるデータの解析結果の社会心理学的解釈について、比較的高度な諸問題を考える。本演習では特に、最近の研究で提唱されている理論構築の元となるデータの解析結果の解釈や考察について取り上げる。	
		(93 坪見 博之) ヒトを中心に、知覚・認知・記憶などの認知過程に関して、認知心理学と認知神経科学的観点から、データの解析結果の心理学的解釈にかかわる諸問題を考える。本演習は特に、最近の研究で提唱されている理論構築の元となるデータの解析結果の解釈について考える。	
	心理学研究法Ⅰ	心理学研究を進める上では、自らの研究を遂行するだけではなく、同分野の研究者や幅広い社会に向けて、研究計画の意義を的確に説明する技能を身につけることが必要である。本演習では、この技能を向上させることを目的に、受講生の現在の研究課題に沿って研究計画書類を執筆して発表を行い、受講生全員でディスカッションを行う。また、教員からもフィードバックを受けながら計画提案の修正を行い、それらを通じて、説明技能を向上させることを目的とする。	共同
	心理学研究法Ⅱ	心理学研究を進める上では、自らの研究を遂行するだけではなく、同分野の研究者や幅広い社会に向けて、研究成果を効果的にプレゼンテーションする技能を身につけることが必要である。本演習では、この技能を向上させることを目的に、受講生の現在の研究課題に沿って研究発表を行い、受講生全員でディスカッションを行う。また、教員からもフィードバックを受けながら研究発表資料の修正を行い、それらを通じて、プレゼンテーション技能を向上させることを目的とする。	共同
	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	本講義では、保健医療分野における臨床実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、以下の3つによって達成される：1) 医療現場における一般的な基礎知識、2) 医療現場における実践、そして3) 精神神経科領域での実践。Ⅰでは、1) に焦点を当て、主要な身体疾患の症候と診断、保健医療分野に関わる法規と制度等について学び、一般的な医学・医療に関する基礎知識を習得する。	
	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	本講義では、保健医療分野における臨床実践に必要な基礎知識を習得することを目的とする。具体的には、以下の3つによって達成される：1) 医療現場における一般的な基礎知識、2) 医療現場における実践、そして3) 精神神経科領域での実践。Ⅱでは、2) および3) について扱い、予診の取り方、診療録の書き方、多職種連携、チーム医療、精神疾患の徴候と診断・評価および治療、集団・個人に対する心理支援、薬物療法に関する基礎知識等について習得する。	
福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	福祉の対象への理解を深めることをねらいとして、保護者のいない児童や虐待児、障害児等の社会的養護を必要とする子どもや、その他の福祉サービスが必要とする者（子どもだけでなく成人者を含む）がおかれている状況やその背景要因について、統計資料や事例を用いて学習する。加えて、福祉現場がおかれている状況や課題への理解を深めることをねらいとして、福祉現場で働く者のメンタルヘルスの現状や課題について、文献や事例を用いて学ぶ。		
福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	本講義では福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰの学びをふまえ、支援の展開に関する知識及び技術の習得をめざす。福祉現場における心理支援の必要性への理解を深めるとともに、および福祉現場において提供されている心理支援の内容や方法を、実践例等を用いた演習も取り入れつつ習得する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学プログラム専門科目	人文科学系 教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	本講義では、教育現場における心理的支援を行うための知見について学ぶ。特に、教育現場で課題となる具体的な問題（例、いじめ、不登校、虐待等）について取り上げ、その背景も含めて多角的に捉える視点を身につける。本講義は「教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ」につながる内容であり、「視点を広げる」方向性で展開する。なお、各テーマにおいて、受講生による調べ学習や発表、グループディスカッションなども取り入れ、「話し合う力」も養成する。	
	教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	本講義では、教育現場における心理的支援を行うための知見について学ぶ。その際、「理論的であるとは実践的である」をキーワードに、実践を導くための理論的視座を中心に講義する。具体的には、国際的論文や専門書を題材に、子どもの認知や発達、集団内のグループダイナミクスなどについて深く理解する。本講義は「教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ」につながる内容であり、「視点を深める」方向性で展開する。なお、各テーマにおいて、受講生による調べ学習や発表、グループディスカッションなども取り入れ、「話し合う力」も養成する。	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	本授業では、非行・犯罪の現状、法制度、再犯リスクのアセスメントや処遇（治療）、被害者支援等について概説する。また、臨床現場で用いられている認知面接や司法面接などを紹介し、体験的に学ぶ。これらを通じて、司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について理解し、概説できる知識と技能を習得することを目標とする。	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	本授業では、司法・犯罪の臨床現場で用いられている、認知行動療法に基づく矯正プログラムなどを紹介し、体験的に学ぶ。さらに、家庭内紛争の実情と心理職に求められる役割について解説する。これらを通じて、司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践について、より高度な知識と技能を習得することを目標とする。	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	産業・労働分野における心理学的理論についての講義を行う。産業組織における個人のあり方や人間関係、集団過程や労働環境等に関する基本的な理論を概説し、理解を深める。具体的には、産業・労働分野における人的資源管理やモチベーション、リーダーシップやチームワーク、安全衛生やワークライフバランス等について説明し、公認心理師の実践に必要な産業・労働分野における理論的観点を修得することを目標とする。	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	産業・労働分野における心理学的理論や公認心理師が理解しておかなければならない法規や制度についての講義を行う。また、メンタルヘルスに関する基本的な理論をふまえて、組織マネジメントや職場のメンタルヘルスマネジメントにおいて必要な技術について演習を交えて理解を深める。具体的には、産業・労働分野における心理臨床の問題とその背景、ストレス理論と理解の方法（ストレスチェックを含む）、産業・労働分野におけるカウンセリングの歴史や専門家の役割等について説明する。さらに、カウンセリングやストレスマネジメントの実践についてロールプレイと解説を通して学ぶ。	
	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ	心理アセスメントは、診断や治療方針の決定に必要な情報収集、障害の程度、治療効果判定、精神鑑定、職場や学校での適応度の評価など、さまざまな場面で行われる。本科目では、心理アセスメントに必要な行動観察、査定面接（インタビュー面接、生活史面接）、各種心理検査（知能検査、神経心理学的検査、パーソナリティ検査）、症状評価（半構造化面接法）について、心理的支援を必要とするクライアントへの実践を通して、依頼目的に応じたテストバッテリーの組み方、実施手順、アセスメントで得られた情報の包括的理解、総合所見の書き方、フィードバックの方法を修得することを到達目標とする。	
	心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ	本科目では、「心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ」の発展編として、投影法について講義と演習を行い、非構造的刺激状況におかれたクライアントが、自身の欲求・情動・感情などを反応の中に映し出す過程について理解を深める。投影法検査開発の歴史、スコアリングの果たす役割、心理検査としての信頼性・妥当性、施行時に生じている心理過程、実施手順を講義形式で学び、学生同士で検査者体験をしたのち、心理的支援を必要とするクライアントへの実践を通して、検査結果の分析（ストレス状況下での耐性、病態水準の査定、行動化の予測など）、報告書の書き方、フィードバックの仕方と活用方法の修得を到達目標とする。	
心理支援に関する理論と実践Ⅰ	心理支援に関する理論と実践Ⅰ・Ⅱでは、心理療法の諸理論と技法を作用機序の観点から統合的に理解し、心理に関する支援を要する者の特性やニーズに応じた支援方法が適切に選択できるようになることを目指す。本講義では特に、力動論について、その人間理解や症状形成理解および技法論に焦点をあてて学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学プログラム専門科目	人文科学系		
	心理支援に関する理論と実践Ⅱ	心理支援に関する理論と実践Ⅰ・Ⅱでは、心理療法の諸理論と技法を作用機序の観点から統合的に理解し、心理に関する支援を要する者の特性やニーズに応じた支援方法が適切に選択できるようになることを目指す。本講義では特に、(1)行動論・認知論やその他の代表的な心理療法と比較しながら概観する。さらに(2)各理論を用いた事例論文の検討を通して、アセスメントからアプローチの選択、終結までの展開について学修する。	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ	本授業では、家族関係や地域等、関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について概説する。その上で、これらの理論や方法を、心理に関する相談、助言、指導等に活用できるように、事例検討やロールプレイを行う。これらを通じて、理論や方法を体験的に学び、実践的な能力を身につけるとともに、個人だけでなく家族等を視野に入れることの有用性を理解することを目指す。	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ	本授業では、集団療法等、集団へのアプローチに焦点を当てた心理支援の理論と方法について概説する。その上で、これらの理論や方法を、心理に関する相談、助言、指導等に活用できるように、ロールプレイと解説を行う。これらを通じて、理論や方法を体験的に学び、個人だけでなく集団へのアプローチの有用性を理解した上で、実践的な能力を身につけることを目標とする。	
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ	本授業の目的は、心理学の知見を「心の健康」という実生活上の課題解決やその支援に役立てるにあたっての基礎的な素養を身につけることである。具体的には、心の健康の重要性や、現代における課題を理解したうえで、その支援に関する周辺領域を含めた諸理論を学び、臨床支援に関する知見を習得することを目指す。さらに、学んだ理論や技法をロールプレイなどの実践によって体験し、その工夫や応用についてもディスカッションすることで、心の健康を支援するにあたっての基礎的な視野を広げることを目指す。	
	心の健康教育に関する理論と実践Ⅱ	本授業の目的は、心理学の知見を「心の健康」という実生活上の課題解決やその支援に役立てるにあたってのより高度な素養を身につけることである。具体的には、心の健康の重要性や、現代における課題を理解したうえで、その支援に関する周辺領域を含めた諸理論を学び、臨床支援に関する知見を習得することを目指す。さらに、学んだ理論や技法をロールプレイなどの実践によって体験し、その工夫や応用についてもディスカッションすることで、より臨床現場の実態に即した、心の健康を支援するにあたっての基礎的な視野を広げることを目指す。	
	心理実践実習Ⅰ	学内の心理臨床施設において、ケース担当に向けた準備を行いながら、事例検討会やスーパービジョンに参加し、討論を行う。後半にはケースを担当する。これらを通して、以下の事項に関する理解と技術の基礎を修得することを目指す。①支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④他職種連携及び地域連携、⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習Ⅱ	学内の心理臨床施設においてケースを担当し、それについて事例検討会やスーパービジョン等で検討する。これらを通して、以下の事項に関するより高度な専門性を修得することを目指す。①支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④他職種連携及び地域連携、⑤公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習A	公認心理師に求められる知識及び技能の修得を目的とし、教育等の分野の施設において実習する。このことを通して心理に関する支援を要する者に対して、以下の5つが自立して実践できる能力を獲得する。①要支援者への心理支援技能の修得、②心理検査、地域支援等の知識及び技能の修得、③理解とニーズの把握及び支援計画の作成、④チームアプローチ、⑤多職種連携及び地域連携。	
心理実践実習B	富山大学附属病院の神経精神科において実習を行う。これにより、要支援者等に関する知識及び技能、理解とニーズの把握、支援計画の策定の基礎を体験的に学ぶ。また、同時期に臨床実習を行っている医学部医学科の学生と協働することにより、チームアプローチや多職種連携について実践し、理解を深める。		
心理実践実習C	富山大学附属病院等での実習および福祉、司法・犯罪、産業・労働分野等の実習を組み合わせながら年間を通して継続的な実習を行う。まず、実習への心構えを形成し、知識と実践をつなげる。さらに実習を通して、各自の課題を明確化し、課題に応じた学修を積み重ねる。これらを通して、①要支援者等に関する知識及び技能、②要支援者等の理解とニーズの把握及び支援計画の実際、③チームアプローチのありかた、④他職種連携及び地域連携、⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務を学ぶ。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学プログラム専門科目	課題研究 I	<p>(概要) 修士論文の作成に必要な、心理学研究を進める上で必要な専門知識や手法等の習得を目的とした研究指導を行う。</p> <p>(27 佐藤 徳) 社会的認知機能に関して、社会認知科学・社会認知神経科学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(82 黒川 光流) 対人的相互作用過程あるいは集団過程に関して、社会心理学・集団力学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトの認知機能に関して、認知心理学・認知神経科学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(23 喜田 裕子) 臨床心理学における諸課題や支援過程、技法論に関して、特に統合的心理療法の観点から研究指導を行う。</p> <p>(95 西館 有沙) 福祉分野の課題について、心理学の知見を活用する、もしくは心理学的な手法を用いる研究の指導を行う。</p> <p>(118 飯島 有哉) こどもやその支援者を中心とした心理社会的な課題に関して、臨床心理学・認知行動科学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(123 近藤 龍彰) 主に幼児期・児童期の発達に関して、発達心理学的手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(125 直原 康光) 司法・犯罪心理学の観点から、家族、親子、非行等に関する研究指導を行う。</p> <p>(126 重松 潤) 臨床心理学、特に認知臨床心理学・認知療法・認知行動療法・思春期・青年期の心理的問題に関する研究指導を行う。</p>	
	課題研究 II	<p>(概要) 修士論文の完成に向け、心理学研究を進める上で必要な専門知識や手法等の習得を目的とした研究指導を行う。</p> <p>(27 佐藤 徳) 社会的認知機能に関して、社会認知科学・社会認知神経科学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(82 黒川 光流) 対人的相互作用過程あるいは集団過程に関して、社会心理学・集団力学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(93 坪見 博之) ヒトの認知機能に関して、認知心理学・認知神経科学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(23 喜田 裕子) 臨床心理学における諸課題や支援過程、技法論に関して、特に統合的心理療法の観点から研究指導を行う。</p> <p>(95 西館 有沙) 福祉分野の課題について、心理学の知見を活用する、もしくは心理学的な手法を用いる研究の指導を行う。</p> <p>(118 飯島 有哉) こどもやその支援者を中心とした心理社会的な課題に関して、臨床心理学・認知行動科学の手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(123 近藤 龍彰) 主に幼児期・児童期の発達に関して、発達心理学的手法を用いた研究の指導を行う。</p> <p>(125 直原 康光) 司法・犯罪心理学の観点から、家族、親子、非行等に関する研究指導を行う。</p> <p>(126 重松 潤) 臨床心理学、特に認知臨床心理学・認知療法・認知行動療法・思春期・青年期の心理的問題に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	哲学特論Ⅰ	心理学や認知科学、人工知能など現代諸科学の分野においても新しい展開が期待される、抽象と概念形成をめぐる問題について、西洋哲学史の観点から原典資料を踏まえつつ考察する。1①学期では、アリストテレスが活躍した古代から、デカルトが登場する近世までを扱う。なお、1①学期から1④学期まで、一貫したテーマをもとに時代順に考察していくので、哲学特論Ⅱ、哲学特論Ⅲ、哲学特論Ⅳを続けて受講することが望ましい。	
	哲学特論Ⅱ	心理学や認知科学、人工知能など現代諸科学の分野においても新しい展開が期待される、抽象と概念形成をめぐる問題について、西洋哲学史の観点から考察する。その際、扱う哲学者の原典を踏まえながら、哲学的主題を考察していく。1②学期では、ロックから、スピノザ、ライプニッツ、パークリ、そしてヒュームが登場するまでの初期近代西洋哲学を扱う。なお、1①学期から1④学期まで、一貫したテーマをもとに時代順に考察していくので、哲学特論Ⅰを受講していること、および、哲学特論Ⅲ、哲学特論Ⅳを続けて受講することが望ましい。	
	哲学特論Ⅲ	心理学や認知科学、人工知能など現代諸科学の分野においても新しい展開が期待される、抽象と概念形成をめぐる問題について、西洋哲学史の観点から考察する。その際、扱う哲学者の原典を踏まえながら、哲学的主題を考察していく。1③学期では、カントからフッサールが登場するまでの近代西洋哲学を扱う。なお、1①学期から1④学期まで、一貫したテーマをもとに時代順に考察していくので、哲学特論Ⅰ、哲学特論Ⅱを受講していること、および、哲学特論Ⅳを続けて受講することが望ましい。	
	哲学特論Ⅳ	心理学や認知科学、人工知能など現代諸科学の分野においても新しい展開が期待される、抽象と概念形成をめぐる問題について、西洋哲学史の観点から考察する。その際、扱う哲学者の原典を踏まえながら、哲学的主題を考察していく。1④学期では、現代における抽象と概念形成をめぐる問題を扱う。なお、1①学期から1④学期まで、一貫したテーマをもとに時代順に考察していくので、哲学特論Ⅰ、哲学特論Ⅱ、哲学特論Ⅲを続けて受講していることが望ましい。	
	哲学特論演習Ⅰ	リチャード・アーサーの『ライプニッツ』(Richard T.W. Arthur, Leibniz, Polity Press, 2014)を読み、ライプニッツの思想について哲学的に検討していく。西洋哲学の研究では、外国語で研究書を読むことが必須であり、その準備も兼ねている。なお、哲学特論演習Ⅱを続けて受講することが望ましい。	
	哲学特論演習Ⅱ	リチャード・アーサーの『ライプニッツ』(Richard T.W. Arthur, Leibniz, Polity Press, 2014)を読み、ライプニッツの思想について哲学的に検討していく。西洋哲学の研究では、外国語で研究書を読むことが必須であり、その準備も兼ねている。なお、哲学特論演習Ⅰを事前に受講していることが望ましい。	
	哲学特論演習Ⅲ	最近の研究書を題材に、連続体の概念について検討する。テキストにはG. Hellman & S. Shapiro, The Varieties of Continua, Oxford University Press, 2018を用いる。また、副読本として参考書に挙げた最新の研究書などを適宜参照する。なお、哲学特論演習Ⅳを続けて受講することが望ましい。	
	哲学特論演習Ⅳ	最近の研究書を題材に、連続体の概念について検討する。テキストにはG. Hellman & S. Shapiro, The Varieties of Continua, Oxford University Press, 2018を用いる。また、副読本として参考書に挙げた最新の研究書などを適宜参照する。なお、哲学特論演習Ⅰを事前に受講していることが望ましい。	
	人間学特論Ⅰ	江戸中期の儒学者、荻生徂徠の思想を取り上げる。近世における思想状況を押さえた上で、徂徠の著書、『辨道』『辯名』『学則』などに見られる、「聖人の道」や「人間の本性」をめぐる問題、養い、社会の在り方などについて、考察する。加えて、徂徠と他の思想家との比較、たとえば「道」や「人性」の捉え方において伊藤仁斎と比較したり、テキスト読解の方法論において国学との比較を試みる。この作業を通して、徂徠学の意義を客観的に考察する。	
	人間学特論Ⅱ	江戸中期の儒学者、荻生徂徠の弟子太宰春台の『辨道書』を精読することにより、「道」をめぐる儒学者と国学者を巻き込んで展開した「道」の論争の意義について考察する。必要に応じて、『辨道書』を論難した賀茂真淵『国意考』なども読む。最初に、「道」をめぐる論争について思想的に概観した後、春台が『辨道書』で明らかにしようとしている「聖人の道」の意義を読み解く。また、その際に比較されている仏教や神道について、春台の解釈の特徴を明らかにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	人間学特論Ⅲ	日本近世において『論語』がいかに読まれてきたかを概観したうえで、古学派の儒学者、伊藤仁斎の『論語古義』を取り上げ、それを精読することを通じて、仁斎が『論語』の学問体系において重要視した事項を検討する。「仁」、「仁者」、「忠恕」、「道」といった主要概念の理解の仕方、及びそこにみられる人間観や世界観を、古注や新注、荻生徂徠の『論語徴』などと比較しながら、明らかにする。この作業を通じて、経書を読むことの意味（普遍的真理の探究）をも探る。	
	人間学特論Ⅳ	本授業では、人間学特論Ⅲの内容を受けて、さらに伊藤仁斎の『論語古義』を読み進める。合わせて、仁斎の他の著書『童子問』や『語孟字義』、『孟子』の注釈書である『孟古義』も精読することで、特論Ⅲで確認した内容を補強する。『論語』と『孟子』を仁斎がどのように読み、その自らの学問体系を構築したかについて考察する。その際、特論Ⅲで確認した他の思想家の思想も再確認した上で、仁斎の思想の独自性、思想史上の意義などについても考察する。	
	人間学特論Ⅴ	現象学および現象学的人間学の名著、エトムント・フッサール『デカルト的省察』の読解と概説をつうじて、現象学および現象学的人間学の理解を深め、哲学書の有機的な読み方と実践面での論じ方を習得する。	
	人間学特論Ⅵ	人間学特論Ⅴに引き続き、現象学および現象学的人間学の名著、エトムント・フッサール『デカルト的省察』の読解と概説をつうじて、現象学および現象学的人間学の理解を深め、理解を深め、哲学書の有機的な読み方と実践面での論じ方を習得する。	
	人間学特論Ⅶ	現象学および現象学的人間学の源流の一冊、イマヌエル・カント『判断力批判』の読解と概説をつうじて、現象学および現象学的人間学の理解を深め、そこから得られた知見を修士論文の作成にフィードバックする。	
	人間学特論Ⅷ	人間学特論Ⅶに引き続き、現象学および現象学的人間学の源流の一冊、イマヌエル・カント『判断力批判』の読解と概説をつうじて、現象学および現象学的人間学の理解を深め、そこから得られた知見を修士論文の作成にフィードバックする。	
	人間学特論演習Ⅰ	<p>(概要) 特定の著作物を精読し、議論することで、哲学・人間学における知識を深める。</p> <p>(37 田畑 真美) 本授業では、江戸前期の儒学者貝原益軒の最晩年の著作、『大疑録』、特に前半の巻之上を精読する。益軒が朱子学の世界観のどの部分に疑義を唱えているのか、その姿勢を正確に読み解くとともに、批判の対象である朱子学の理論も合わせて検討する。いずれにしても経書の一である『易経』をいかに解釈するか、その姿勢において両者の違いを精密なテキスト分析を通じて試みる。また、益軒の経書や朱子学に対する姿勢を通じて、古学派の儒学者との共通点をもあぶり出す。</p> <p>(85 澤田 哲生) 現代フランスを代表する現象学者、マルク・リシール (1943-2015) の『現象学入門』(『マルク・リシール現象学入門』、ナカニシヤ出版、2020年、L'écart et le rien. Conversations avec Sacha Carlson, Jérôme Millon, 2015) を精読することで、文献読解の能力を高めるとともに、現象学の基礎概念、その思想史における位置づけと人間学および倫理的な方向性、さらには現代の諸問題への応用可能性を説明する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	人間学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 人間学特論演習Ⅰに引き続き、特定の著作物を精読し、議論することで、哲学・人間学における知識を更に深める。</p> <p>(37 田畑 真美) 本授業では、人間学特論演習Ⅰを受けて、さらに益軒の思想全体から益軒の朱子学理解や益軒自身の世界観の検討を、『大疑録』巻之下の精読を通じて試みる。益軒自身の世界観や価値観については、その著作、『養生訓』において「氣」（「陰陽」）の捉え方や、『自娛集』の朱子学の概念についての言説なども合わせて読みながら、検討する。人間学特論演習Ⅰで確認した前半の内容とあわせて総合的に、益軒が朱子学に対して示す理解や姿勢を明らかにするとともに、その同時代における思想的意義を検討する。</p> <p>(85 澤田 哲生) 人間学特論演習Ⅰに引き続き、現代フランスを代表する現象学者、マルク・リシール（1943-2015）の『現象学入門』（『マルク・リシール現象学入門』、ナカニシヤ出版、2020年、L' écart et le rien. Conversations avec Sacha Carlson, Jérôme Millon, 2015）を精読することで、文献読解の能力を高めるとともに、現象学の基礎概念、その思想史における位置づけと人間学のおよび倫理的な方向性、さらには現代の諸問題への応用可能性を説明する。</p>	
	人間学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 人間学特論演習Ⅱに引き続き、特定の著作物を精読し、議論することで、哲学・人間学における知識を更に深める。</p> <p>(37 田畑 真美) 本授業では、日本中世の仏教説話（『発心集』、『今昔物語集』）の分析を通して、人間存在が自身の生や死、及び自らが身を置く世界をどのように捉えていたかを考察する。自己の在り方のみならず、他者との関わり方といった倫理的な観点から考察する。むろん、根底にある浄土思想等、日本中世の人々の精神の核となっている仏教理論の正確な理解を、分析の前提とする。あくまで、人間存在の価値観や世界観を読み解く対象として、仏教説話を分析する研究手法も、身につける。</p> <p>(85 澤田 哲生) 現代フランスを代表する現象学者、マルク・リシール（1943-2015）の『現象学入門』（『マルク・リシール現象学入門』、ナカニシヤ出版、2020年、L' écart et le rien. Conversations avec Sacha Carlson, Jérôme Millon, 2015）を精読することで、文献読解の能力を高めるとともに、現象学の基礎概念、その思想史における位置づけと人間学のおよび倫理的な方向性、さらには現代の諸問題への応用可能性を説明する。</p>	
	人間学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 人間学特論演習Ⅲに引き続き、特定の著作物を精読し、議論することで、哲学・人間学における知識を更に深める。</p> <p>(37 田畑 真美) 本授業では、人間学特論演習Ⅲの内容を受け、さらに日本中世の仏教説話の分析を試みる。今回は、テーマを神仏習合という事象に焦点を当てる。というのは、日本における超越者の捉え方や信の在り方を分析するにあたり、近代以前まで根強く存在した神仏習合の現象は大いに示唆を与えるからである。『沙石集』という、当時の重層的な宗教的背景が分かるような説話からいくつかを選び、日本人における超越者観を読み解き、その整理分析を目指す。</p> <p>(85 澤田 哲生) 現代フランスを代表する現象学者、マルク・リシール（1943-2015）の『現象学入門』（『マルク・リシール現象学入門』、ナカニシヤ出版、2020年、L' écart et le rien. Conversations avec Sacha Carlson, Jérôme Millon, 2015）を精読することで、文献読解の能力を高めるとともに、現象学の基礎概念、その思想史における位置づけと人間学のおよび倫理的な方向性、さらには現代の諸問題への応用可能性を説明する。</p>	
	日本史学特論Ⅰ	<p>日本古代史の専門知識と研究方法を会得させるために、担当教員の専門研究の内容について講義を行う。本講義では、古代の仏教史をテーマとする。僧尼令の検討を行くとともに、特に行基に関する基本史料のうつ菅原寺の記録の再検討を行い、その生涯について講義する。</p>	
日本史学特論Ⅱ	<p>日本史学特論Ⅰに引き続いて、日本古代史の専門知識と研究方法を会得させるために講義を行う。 本講義では、近年、富山で出土した草仮名墨書土器について詳細に検討するとともに、その出土遺跡の性格について仮説を提示し、出土仮名資料全般のなかでの位置づけを試みる。</p>		
日本史学特論Ⅲ	<p>地域史研究について、専門知識と研究方法を会得させるために講義を行う。 本講義では、北陸道を舞台として、江戸時代の武士の交通の実態と意義について、数点の加賀藩士の道中日記を解説しながら考察する。また、受け入れる側の宿場の本陣の史料として、信州牟礼宿加賀屋の記録も取り上げる。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系		
	日本史学特論Ⅳ	日本史学特論Ⅳに引き続き、地域史研究についての専門知識と研究方法を会得させるために講義を行う。 本講義では、江戸時代の交通の実態と意義について、信濃の松代藩士の伊勢参宮の2種の道中記をもとに検討する。同史料と真田家文書により、大名家中の伊勢参宮システムの具体像を明らかにする。	
	日本史学特論Ⅴ	日本中世史の専門知識と研究方法を会得させるために、講義を行う。本講義では、承久の乱について講義する。承久の乱とは、承久3年(1221)に後鳥羽院が鎌倉幕府執権北条義時の追討を命じるも、合戦に敗れ、隠岐に流された事件である。中世の公武関係史に関わる様々な論点を取り上げる。	
	日本史学特論Ⅵ	日本史学特論Ⅴに引き続き、日本中世史の専門知識と研究方法を会得させるために講義を行う。本講義では、文献資料の原本・実物・複製の意義について講義する。資料体の生成や保管・伝来、複製品の特徴や限界を適切に理解することが、テキストの解釈を深める上でも必須であることを意識して、古文書学や書誌学の専門用語について解説を加える。	
	日本史学特論Ⅶ	寺院史研究についての専門知識と研究方法を会得させるために講義を行う。本講義では、かつて天台宗寺門派の門跡寺院で、現在は本山修験宗総本山である聖護院門跡を取り上げる。寺院には、世俗社会の諸制度を反映する側面と、宗教に根差す独特の側面とがあったことを、寺の内外に伝来する様々な史料に即して検討する。	
	日本史学特論Ⅷ	地域性を帯びた寺院史・宗教史についての専門知識と研究方法を会得させるために講義を行う。本講義では、洛陽三十三所観音巡礼の歴史的展開について、諸資料をもとに検討する。一定地域内の札所を巡礼するという信仰形態、洛中洛外の地域性、本尊や寺地・寺宝の移転など、西国三十三所との比較を踏まえて検討する。	
	日本史学特論Ⅸ	日本史学、とりわけ日本近世史に関する専門的研究内容を学ぶ。その際、研究に示された歴史的事項と現代社会の問題との接点にも意識を向ける。テーマは、その時々々の研究動向や社会状況をふまえて設定する。テーマに関するいくつかのトピックを教員が提示・解説した上で参加者による意見交換を行ったり、特定の文献を講読したりする。日本史学特論Ⅹに接続するものである。	
	日本史学特論Ⅹ	日本史学特論Ⅸに引き続き、日本史学、とりわけ日本近世史に関する専門的研究内容を学ぶ。その際、研究に示された歴史的事項と現代社会の問題との接点にも意識を向ける。テーマは、その時々々の研究動向や社会状況をふまえて設定する。テーマに関するいくつかのトピックを教員が提示・解説した上で参加者による意見交換を行ったり、特定の文献を講読したりする。日本史学特論Ⅸを前提としたものであり、さらにさまざまな側面から近世村落史を捉える。	
日本史学特論演習Ⅰ	(概要) 専門研究を行ううえで必要な史料読解力を身につけるため、史料講読を行う。 (31 鈴木 景二) 本演習では『令集解』のうち、職員令をテキストとして、国司や郡司などの地方官に関する規定を精読し、律令国家の列島支配システムの特徴を追及する。 (130 長村 祥知) 本演習では平安末・鎌倉前期の主要史料である九条兼実の日記『玉葉』をテキストとする。治承3年(1179)11月政変と院政・撰関家、治承4年(1180)源頼朝・木曾義仲の挙兵、治承5年(1181)の平清盛の死、同5年の横田河原合戦などを取り上げる。 (94 中村 只吾) 日本史研究(文献史学)の主な素材である(特に近世)の解説を行う。いくつかの古文書(複写)について、調査・報告担当者を決めて輪読する。また、本学図書館における所蔵文書(原本)の閲覧も考えている。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系	日本史学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 日本史学特論演習Ⅰに引き続き、専門研究を行ううえで必要な史料読解力を身につけるため、史料講読を行う。</p> <p>(31 鈴木 景二) 本演習では日本史学特論演習Ⅰに引き続き、『令集解』の儀制令をテキストとする。帝王の称号、親王の扱いなどの規定を手掛かりとして、律令国家のなかでの天皇の位置づけや皇親の身分秩序などを検討する。</p> <p>(130 長村 祥知) 本演習では、日本史学特論演習Ⅰに引き続き、九条兼実の日記『玉葉』をテキストとする。寿永元年(1182)の皇嘉門院追善、寿永元年(1182)の貴族社会と叙位除目、寿永2年(1183)の平家の都落ち、十月宣旨、元暦元年(1184)の宇治川合戦、一ノ谷合戦などを取り上げる。</p> <p>(94 中村 只吾) 日本史学特論演習Ⅰに引き続き、日本史研究(文献史学)の主な素材である(特に近世)の解読を行う。いくつかの古文書(複写)について、調査・報告担当者を決めて輪読する。また、本学図書館における所蔵文書(原本)の閲覧も考えている。</p>	
	日本史学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 日本史学特論演習Ⅱに引き続き、専門研究を行ううえで必要な史料読解力を身につけるため、史料講読を行う。</p> <p>(31 鈴木 景二) 本演習では、摂関時代の基本史料である『小右記』をテキストとする。それにより平安貴族社会についての知識を得るとともに、同書の多様な記載事項から受講者各自の関心に基づく論点を見出すせるように努める。</p> <p>(130 長村 祥知) 本演習では、『吾妻鏡』をテキストとする。承久3年(1221)の京における伊賀光季追討、鎌倉方北陸道・東山道・東海道軍の上洛、尾張・美濃の合戦、宇治・勢多など京周辺諸所の合戦、京方張本公卿、御家人による張本公卿の処刑などを取り上げる。</p>		
	日本史学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 日本史学特論演習Ⅲに引き続き、専門研究を行ううえで必要な史料読解力を身につけるため、史料講読を行う。</p> <p>(31 鈴木 景二) 本演習では、日本史学特論演習Ⅲに引き続き、平安時代の儀式書である藤原公任の『北山抄』をテキストとする。その読解を通じて、王朝儀式に関する知識を得るとともに、近年の儀式研究のあり方をも再検討する。</p> <p>(130 長村 祥知) 本演習では、日本史学特論演習Ⅲに引き続き、『吾妻鏡』をテキストとする。承久3年(1221)のうち、後藤基清ら西面祇候の御家人、後鳥羽院の出家、踐祚を認め後高倉院政の開始、東国御家人の西国守護補任、京方所領の没収、藤原秀康の行方などを取り上げる。</p>		
	東洋史学特論Ⅰ	<p>「東洋史からアジア史へー桑原隲藏と宮崎市定ー」 那珂通世が先鞭をつけ桑原隲藏が創始した東洋史学は、桑原に師事した宮崎市定に至り名実ともにアジア史へと発展を遂げた。この講義では、桑原がどのようにして東洋史学を創出していったのか、またこの新たな学問分野をいかなる方法論にもとづくものとして確立していったのかを丹念にたどる。そして桑原の学問を継承した宮崎がこれをアジア史へと発展させていく一方で、中国では日本の東洋史学に着想を得て中国史学を構想していく過程を論じ、今後の東洋史学の在り方を考える。</p>		
	東洋史学特論Ⅱ	<p>「内藤湖南の中国近世論」 東洋史学の泰斗・内藤湖南が唱えた唐と宋の間に中世から近世への画期があるとする学説は現在もお内外の学界で支持され続けている。しかし、彼が宋代の近世の始まりと見なす一方で、宋末から元にかけて明清を通じて変わらぬ社会のかたちができたと主張しているにもかかわらず、これまでの「唐宋変革論」ではほとんど顧みられることがなかった。そこでこの講義では、内藤湖南の近世論を原点に立ち返って繙くとともに、清末から民国という湖南が現実に生きた時代、つまり彼が近世の終焉と位置づけた時代の中国との歴史的接点をもあわせて探っていききたい。</p>		
	東洋史学特論Ⅲ	<p>「近世中国の法と社会秩序Ⅰー家族と財産ー」 中国には「人治」はあっても「法治」はなく、法律はあっても無きがごときものという議論をよく耳にする。確かに中国の掲げる法治主義とは本当に法治主義と言えるのか、「法の支配」の有無を含めてこれを疑問視する声は少なくない。しかし、私たちはこの種の違和感を云々する前に、中国における法の実態やルール感覚をありのままに捉え、それがいかにしてかたちづられてきたものなのかをまず問い直す必要がある。そこでこの講義では、近世中国の家族と財産に焦点を合わせ、法として実定されてはいなくても、人々に揺るがぬルールと意識されてきた社会規範の実像を明らかにする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	東洋史学特論Ⅳ	「近世中国の法と社会秩序Ⅱ—紛争と犯罪—」 この講義は、東洋史特論Ⅴの内容を引き継ぐもので、家族の内部や他の家族との間に財産や生業をめぐるもめごとが生じたとき、近世中国の人々はこれにどのように対処してきたかという問題に焦点をあわせて論を進める。実際、この種のもめごととは法として実定されてはいない領域に立ち入る事柄がふつうであるにもかかわらず、多くの人々は好んで国家の司法に解決を求め、国家は時にはこれを犯罪行為として扱いながら、むしろ積極的に関与してきた。そこにはどのような社会規範がはたらき、もめごとを解決へと導いていったのか、具体的な事例に即して説明することが目的である。	
	東洋史学特論演習Ⅰ	「伝統中国の史学思想Ⅰ—『史記』と『漢書』—」 司馬遷の『史記』と班固の『漢書』は中国における総合的組織的な歴史記述のはじまりとされる。だがその反面、『漢書』は『史記』のような通史であることをやめて断代史のかたちをとるなど、顕著な違いを見せている。これは世界を解釈する原理を「道」の連続性ではなく、儒教的な秩序原理に求めた結果ながら、そこには私たちが意識する歴史記述とはかなり異なる思想がはたらいていた。この授業では、そうした彼らの思想を端的に物語る文章を通じて伝統中国の史学思想を検証する。	
	東洋史学特論演習Ⅱ	伝統中国の史学思想Ⅱ—史部の成立と歴史観の発展— 漢代までは儒家の学問の一分野としか見られてこなかった史学は、六朝時代に歴史事実の記述であると同時に価値規範を示す倫理学として独立する。その結果、『史記』も『漢書』も史書の典型と認識され、つづく唐宋時代には史学の方法論が確立するが、その背景には『春秋』こそ史学の精髓とする意識がはたらいていた。この授業では、こうした学問の変化に関わる代表的な著作をいくつかとりあげ、その内容を精査しながら、中国における史学のなりたちと性格を改めて検証する。	
	東洋史学特論演習Ⅲ	明末清初の地方統治構想—郡県論と封建論— 清朝考証学の創始者・顧炎武の著述から地方統治に関わる部分を重点的に読解・分析し、明末清初の中国社会が抱えていた課題と当時の知識人たちがこれにどう向かい合っていたかを考察する。とくに「郡県論」全7編と「生員論」全3編は、中国の専制王朝を支えてきた「郡県制」の行き詰まりを打開して、中国社会を再生しようとするものだっただけに、ある種の地方分権論として主要な分析対照となる。	
	東洋史学特論演習Ⅳ	近代中国の政治構想—共和か専制か— 清朝が日清戦争と義和団事件に相継いで敗北したことは、列強による中国分割という恐怖を中国人に強く抱かせるとともに、旧来の政治体制の部分的な手直しでは中国の存続を保つことはできないという意識が急速に広がった。近代中国の政治改革はまさにこうした危機感を背景に始まるものだったが、この授業では伝統的な封建論と郡県論という枠組みを超えて、共和か専制かをめぐって展開された主要な論文を読み解きながら、近代中国における体制選択がいかなるかたちで進んでいったのかを検証するとともに、これが現代中国にどのような影響を及ぼすものだったのかを考える。	
	西洋史学特論Ⅰ	国民国家が現実に成立したのは18世紀末のアメリカ独立とフランス革命を契機としており、この体制はその後19世紀から20世紀の間に世界中に拡散した。この授業では、国民国家、帝国、ナショナリズムに関する理論を、ナショナリズム論の「古典」から最新の研究まで、いくつかの文献を読みながら学んでいく。	
	西洋史学特論Ⅱ	「ロシアの歴史とは、植民の歴史である」とも言われるように、ロシア帝国は、その前身であるモスクワ大公国時代から、周辺地域へ支配領域を拡大し続けてきた。それに伴い、多様な文化・宗教・言語等をもつ人々もロシア帝国の中に組み込まれてきた。広大な領土に様々な人々が暮らす「多民族帝国」でありながら、同時にロシア帝国は、とりわけ19世紀末以降、国家統合を進める動きが強まり、帝国内で「ロシア化政策」が推進されてきた。ロシア革命後のソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連）では、社会主義の理念に基づく市民的ネイションの構築とナショナリズムの無害化が試みられていた。この授業では、国民国家・帝国・ナショナリズムについて、19世紀から20世紀のロシア帝国とソ連を事例に学んでいく。	
	西洋史学特論Ⅲ	アメリカ合衆国の「ジェンダーの歴史」に関する学術論文を講読し、その論文の背景知識について解説し、論文の内容について受講者で議論を行う。それによって歴史文化的な知識を深めるとともに、先行研究を整理して最新の研究成果を把握し、問題設定の仕方、資料の収集及び利用方法、問題の分析と論理展開の方法などの技法を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	西洋史学特論Ⅳ	アメリカ合衆国の「身体と医療の歴史」に関する学術論文を講読し、その論文の背景知識について解説し、論文の内容について受講者で議論を行う。それによって歴史文化的な知識を深めるとともに、先行研究を整理して最新の研究成果を把握し、問題設定の仕方、資料の収集及び利用方法、問題の分析と論理展開の方法などの技法を習得する。	
	西洋史学特論Ⅴ	西洋史の史料論に関する文献を講読する。専門研究をすすめるうえで、一次史料の扱いには細心の注意が必要である。本講義では史料論に関する研究論集を読み進めることで、史料と歴史研究の問題について考える。	
	西洋史学特論Ⅵ	スウェーデン史に関する文献を講読する。専門研究をすすめるうえでは、研究テーマに関連する分野以外の研究にも幅広く触れる必要がある。本講義では、専門書を読み進めつつ関連する研究・文献についても言及し、専門的知識の深化をはかる。	
	西洋史学特論Ⅶ	フランス近現代史のいくつかのテーマに関する最新の研究成果を踏まえ、19世紀以降のフランス社会が直面してきた分化と統合をめぐる歴史的事象について学ぶ。それによって、現代フランス社会の成り立ちを理解するとともに、専門的な研究手法の習得と歴史学的な思考力の涵養をねらいとする。	
	西洋史学特論Ⅷ	西洋史学特論Ⅶに引き続き、フランス近現代史に関する最新の研究成果を踏まえ、19世紀以降のフランス社会が直面してきた分化と統合をめぐる歴史的事象について学ぶ。それによって、現代フランス社会の成り立ちを理解するとともに、専門的な研究手法の習得と歴史学的な思考力の涵養をねらいとする。	
	西洋史学特論Ⅸ	イタリアを主たる対象としながら、西欧社会史・環境史研究上の議論を認識・理解したうえで、特に都市環境という視点を含めた様々な側面から社会のイメージを把握できること、現代の都市社会を考察する上でそれらの認識を活用できるようになることを狙いとする。前半では西欧の都市社会をめぐる歴史研究上の議論や方法論を理解し、近年の研究における関心の方向性を理解する。後半では具体的に中世イタリア都市の置かれていた社会的・地政学的環境を学修する。	
	西洋史学特論Ⅹ	イタリアを主たる対象としながら、西欧社会史・環境史研究上の議論を認識・理解したうえで、特に都市環境という視点を含めた様々な側面から社会のイメージを把握できること、現代の都市社会を考察する上でそれらの認識を活用できるようになることを狙いとする。最初に中世イタリア史研究を中心に西欧の都市社会をめぐる歴史研究上の議論や、近年の研究における関心の方向性を理解する。続けて、中世イタリアの都市社会の特徴を自治とソニアビリテという観点から論じ、都市社会の捉え方を検討する。	
	西洋史特論演習Ⅰ	(概要) テーマを定め、それに関する文献や史料を読み解き、その内容について議論することにより、西洋史に関する専門的知識を深める。 (2 青木 恭子) 帝政ロシア社会史に関する研究書「Boris Mironov, A Social History of Imperial Russia, 1700-1917. 第1巻」を講読し、読み、その内容について発表することを通して、西洋近代史に関する理解と知識を深める。 (16 小野 直子) アメリカ史に関する一次史料(植民地時代から南北戦争期)を読解し、その歴史的な位置付けを考察する。 (75 入江 幸二) 近年刊行されたスウェーデン史に関する洋書を読み進めることで、通史的知識と専門的知識の深化を図る。 (104 南 祐三) 西洋現代史におけるいくつかの研究テーマを取り上げ、利用される史料や研究視角の展開を解説しつつ、それぞれのテーマに関する歴史像の変遷について議論する。 (42 徳橋 曜) 中・近世イタリアを主たる対象に、西欧都市社会史をめぐる欧語文献について講読を行い、演習形式の授業を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	西洋史学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 西洋史特論演習Ⅰに引き続き、テーマを定め、それに関する文献や史料を読み解き、その内容について議論することにより、西洋史に関する専門的知識を深める。</p> <p>(2 青木 恭子) 帝政ロシア社会史に関する研究書「Boris Mironov, A Social History of Imperial Russia, 1700-1917. 第2巻」を講読し、読み、その内容について発表することを通して、西洋近代史に関する理解と知識を深める。</p> <p>(16 小野 直子) 西洋史特論演習Ⅰに引き続き、アメリカ史に関する一次史料(革新主義時代から冷戦終結後)を読解し、その歴史的な位置付けを考察する。</p> <p>(75 入江 幸二) 西洋史特論演習Ⅰに引き続き、スウェーデン史に関する洋書を講読し、通史的知識と専門的知識の更なる深化を図る。</p> <p>(104 南 祐三) 西洋史特論演習Ⅰに引き続き、西洋現代史におけるいくつかの研究テーマを取り上げ、利用される史料や研究視角の展開を解説しつつ、それぞれのテーマに関する歴史像の変遷について議論する。</p> <p>(42 徳橋 曜) 西洋史特論演習Ⅰに引き続き、中・近世イタリアを主たる対象に、西欧都市社会史をめぐる欧語文献について講読を行い、演習形式の授業を行う。</p>	
	西洋史学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 西洋史特論演習Ⅱに引き続き、テーマを定め、それに関する文献や史料を読み解き、その内容について議論することにより、西洋史に関する専門的知識を深める。</p> <p>(2 青木 恭子) 帝国と国民統合に関する研究書「Stefan Berger and Akexei Miller (eds.), Nationalizing Empires」を読み進め、その内容に関する発表と討論を行うことにより、帝国とナショナリズムに関する理解を深める。</p> <p>(16 小野 直子) テーマを定め、そのテーマに即した一次史料を選定する。それを読解して、その歴史的な位置付けを考察する。</p> <p>(75 入江 幸二) 西洋史特論演習Ⅱに引き続き、スウェーデン史に関する洋書を講読し、通史的知識と専門的知識の深化を図る。</p> <p>(104 南 祐三) 西洋史特論演習Ⅱに引き続き、西洋現代史におけるいくつかの研究テーマを取り上げ、利用される史料や研究視角の展開を解説しつつ、それぞれのテーマに関する歴史像の変遷について議論する。</p>	
	西洋史学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 西洋史特論演習Ⅲに引き続き、テーマを定め、それに関する文献や史料を読み解き、その内容について議論することにより、西洋史に関する専門的知識を深める。</p> <p>(2 青木 恭子) 西洋史特論演習Ⅲに引き続き、帝国と国民統合に関する研究書「Stefan Berger and Akexei Miller (eds.), Nationalizing Empires」を読み進め、その内容に関する発表と討論を行うことにより、帝国とナショナリズムに関する理解を深める。</p> <p>(16 小野 直子) 西洋史特論演習Ⅲに引き続き、テーマを定め、そのテーマに即した一次史料を選定する。それを読解して、その歴史的な位置付けを考察する。</p> <p>(75 入江 幸二) 西洋史特論演習Ⅲに引き続き、スウェーデン史に関する洋書を講読し、通史的知識と専門的知識の深化を図る。</p> <p>(104 南 祐三) 西洋史特論演習Ⅲに引き続き、西洋現代史におけるいくつかの研究テーマを取り上げ、利用される史料や研究視角の展開を解説しつつ、それぞれのテーマに関する歴史像の変遷について議論する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	考古学特論Ⅰ	時期区分や暦年代、集落、生業、交易、祭祀、墳墓、集団関係、階層性、都市と国家の起源など考古学の研究方法や各時代の全体像を考える上で重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、時代概要や時期区分、暦年代などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、着目点などによって異なる分析方法や論証過程の違いなどを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。	
	考古学特論Ⅱ	時期区分や暦年代、集落、生業、交易、祭祀、墳墓、集団関係、階層性、都市と国家の起源など考古学の研究方法や各時代の全体像を考える上で重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、生業や集落、交易などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、着目点などによって異なる分析方法や論証過程の違いなどを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。	
	考古学特論Ⅲ	時期区分や暦年代、集落、生業、交易、祭祀、墳墓、集団関係、階層性、都市と国家の起源など考古学の研究方法や各時代の全体像を考える上で重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、祭祀や墳墓、集団関係などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、着目点などによって異なる分析方法や論証過程の違いなどを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。	
	考古学特論Ⅳ	時期区分や暦年代、集落、生業、交易、祭祀、墳墓、集団関係、階層性、都市と国家の起源など考古学の研究方法や各時代の全体像を考える上で重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、階層性、都市と国家の起源、東アジア的視点からみた研究などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、着目点などによって異なる分析方法や論証過程の違いなどを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。	
	考古学特論Ⅴ	考古学研究の基礎である考古資料論に関する論文の精読を通じて、考古資料の基本的な性格、考古資料に対する視点、考え方について整理し、理解を深める。考古学特論Ⅴでは、考古学全般を対象とした資料論をテキストとする。	
	考古学特論Ⅵ	考古学研究の基礎である考古資料論に関する論文の精読を通じて、考古資料の基本的な性格、考古資料に対する視点、考え方について整理し、理解を深める。考古学特論Ⅵでは、考古学全般および先史考古学を対象とした資料論をテキストとする。	
	考古学特論Ⅶ	考古学研究の基礎である考古資料論に関する論文の精読を通じて、考古資料の基本的な性格、考古資料に対する視点、考え方について整理し、理解を深める。考古学特論Ⅶでは、考古学全般および古代を中心とする歴史考古学を対象とした資料論をテキストとする。	
	考古学特論Ⅷ	考古学研究の基礎である考古資料論に関する論文の精読を通じて、考古資料の基本的な性格、考古資料に対する視点、考え方について整理し、理解を深める。考古学特論Ⅷでは、中世以降の歴史考古学を対象とした資料論をテキストとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	考古学特論演習Ⅰ	<p>(概要) 考古学に関する文献を講読し、発表、議論をすることで、考古学における専門的理解を深める。</p> <p>(39 次山 淳) 遺跡を取り巻く環境や調査・研究史、層序や検出遺構、また出土遺物の組合せや用途、分類や型式学的変遷、製作技術や生産、分布や地域性、伝播や交易、歴史的背景など、遺跡や考古資料を検討するうえで重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、遺跡の地理的環境や歴史的環境、調査のあゆみや研究史などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、材質、技術、性格等によって異なる遺跡や考古資料の特徴などを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。</p> <p>(32 高橋 浩二) 本演習では、旧石器時代を対象とし、考古学による最新の研究成果を項目別に受講生が整理し、演習発表をおこなう。その内容について検討を加え議論することで、考古学の専門的理解を深めるとともに、研究の現状に対する理解を深め、課題を確認する。</p>	
	考古学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 考古学に関する文献を講読し、発表、議論をすることで、考古学における専門的理解を深める。</p> <p>(39 次山 淳) 遺跡を取り巻く環境や調査・研究史、層序や検出遺構、また出土遺物の組合せや用途、分類や型式学的変遷、製作技術や生産、分布や地域性、伝播や交易、歴史的背景など、遺跡や考古資料を検討するうえで重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、遺跡の地理的環境や歴史的環境、調査のあゆみや研究史などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、材質、技術、性格等によって異なる遺跡や考古資料の特徴などを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。</p> <p>(32 高橋 浩二) 縄文時代を対象とし、考古学による最新の研究成果を項目別に受講生が整理し、演習発表をおこなう。その内容について検討を加え議論することで、考古学の専門的理解を深めるとともに、研究の現状に対する理解を深め、課題を確認する。</p>	
	考古学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 考古学に関する文献を講読し、発表、議論をすることで、考古学における専門的理解を深める。</p> <p>(39 次山 淳) 遺跡を取り巻く環境や調査・研究史、層序や検出遺構、また出土遺物の組合せや用途、分類や型式学的変遷、製作技術や生産、分布や地域性、伝播や交易、歴史的背景など、遺跡や考古資料を検討するうえで重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、遺跡の地理的環境や歴史的環境、調査のあゆみや研究史などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、材質、技術、性格等によって異なる遺跡や考古資料の特徴などを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。</p> <p>(32 高橋 浩二) 本演習では、弥生時代を対象とし、考古学による最新の研究成果を項目別に受講生が整理し、演習発表をおこなう。その内容について検討を加え議論することで、考古学の専門的理解を深めるとともに、研究の現状に対する理解を深め、課題を確認する。</p>	
	考古学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 考古学に関する文献を講読し、発表、議論をすることで、考古学における専門的理解を深める。</p> <p>(39 次山 淳) 遺跡を取り巻く環境や調査・研究史、層序や検出遺構、また出土遺物の組合せや用途、分類や型式学的変遷、製作技術や生産、分布や地域性、伝播や交易、歴史的背景など、遺跡や考古資料を検討するうえで重要な文献を読んで議論しながら、その内容を的確に把握して分析し、研究意義や問題点、課題などに関して自分なりの評価を述べる。そしてこれらを通じて、遺跡の地理的環境や歴史的環境、調査のあゆみや研究史などに関する考え方の変遷について理解を深める。また、時代や時期、地域、材質、技術、性格等によって異なる遺跡や考古資料の特徴などを知ることによって、さまざまな考古学の方法論について専門的理解を深めていく。</p> <p>(32 高橋 浩二) 古墳時代を対象とし、考古学による最新の研究成果を項目別に受講生が整理し、演習発表をおこなう。その内容について検討を加え議論することで、考古学の専門的理解を深めるとともに、研究の現状に対する理解を深め、課題を確認する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	言語学特論Ⅰ	第二言語習得理論（対照分析，誤用分析，中間言語） 言語学習を「教える」ことから「学ぶ」こと（人は教わるのではなく，自ら学びとっていくという立場）にシフトする時，様々な観点からの分析，考察が必要になる。人はどのように言葉を学ぶのかについて，第二言語習得理論（対照分析，誤用分析，中間言語）に関する多岐にわたる文献を読むことで紐解く。	
	言語学特論Ⅱ	第二言語習得理論（習得分析，学習者言語の多様性，学習者言語の語用論的特徴） 言語学習を「教える」ことから「学ぶ」こと（人は教わるのではなく，自ら学びとっていくという立場）にシフトする時，様々な観点からの分析，考察が必要になる。人はどのように言葉を学ぶのかについて，第二言語習得理論（習得分析，学習者言語の多様性，学習者言語の語用論的特徴）に関する多岐にわたる文献を読むことで紐解く。	
	言語学特論Ⅲ	社会文化的アプローチ（認知心理学，社会文化的アプローチ，学習論） 人間の学習は個人内で行われるものではなく，周りの様々な状況（文化やその時代の環境，周りの人々）との関わりの中で行われるという立場に焦点を当て，認知心理学，社会文化的アプローチ，学習論に関する文献を読み進める。認知的な立場の学習論から，社会的な関わりの中での学習論へと論を進め，言語学習との関わりを論じていく。	
	言語学特論Ⅳ	社会文化的アプローチ（学習論，サポート，リソース，状況論的学習論） 人間の学習は個人内で行われるものではなく，周りの様々な状況（文化やその時代の環境，周りの人々）との関わりの中で行われるという立場に焦点を当て，学習論，サポート，リソース，状況論的学習論に関する文献を読み進める。認知的な立場の学習論から，社会的な関わりの中での学習論へと論を進め，言語学習との関わりを論じていく。	
	言語学特論Ⅴ	日本語と受講者の母語あるいは既習外国語を対象に音韻論の議論を行う。前半では構造主義的な音素の概念について確認しつつ，言語資料や先行研究をもとに対象言語の音韻体系について整理し，問題点を把握する。後半では各音素の異音の分布や同化現象などの条件を整理し，前半の議論を修正していく。	
	言語学特論Ⅵ	音声学の基本に基づいて，日本語と受講者の母語あるいは外国語を対象に対照音声学の議論を行う。複数の対象言語の音韻体系を整理した後で，対照音声学の観点から整理しなおし，理論と実際の音声との関係を把握する。そのうえで，言語の学習への応用を議論する。	
	言語学特論Ⅶ	プロソディの基本的な概念の理解に基づいて，母語および第二言語のプロソディの分析方法を紹介したうえで，音声データを収集し，実際に分析して結果を発表するまでの作業を行う。これにより，音声の可視化の基本的な技術を習得し，音声や画像，図表を組み込んだ効果的な発表方法を習得することを目指す。	
	言語学特論Ⅷ	プロソディを中心とした方言研究の様々なトピックについて，論文の精読と資料の検討を通して考察する。その中で，共通語との対照言語学的な検討や他の方言を合わせた類型論的な検討といった広がりのある視点から一つの方言を分析する姿勢を涵養することを目指す。	
	言語学特論演習Ⅰ	（概要）言語学に関する論文等を講読し，発表，議論を通じ，言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。 （63 山崎 けい子） （談話分析，会話分析，相互行為分析） 会話の分析手法を参考文献等から学びつつ，加えて，実際に日本語の自然会話を録音／録画し，トランスクリプションを作成，分析を試みる。相互行為とはどのような仕組みで動いているかを実践的に記述していく。 発展的に，その中で日本語学習者はどのように会話に組み込まれているのか，言語能力と会話の組織化にはどのような関係があるのか等についても考える。 （69 安藤 智子） 複数の論文を精読する中で，言語研究において用いられている専門用語を理解し，先行研究を比較検討する技術を身につけることを目指す。論文の内容を鵜呑みにするのではなく科学的に検証していく姿勢を涵養するとともに，先行研究の引用の仕方や複数の先行研究の関係の示し方など，取り扱い方について検討していく。取り上げる論文は，受講者の関心を考慮して選定する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	言語学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 言語学に関する論文等を講読し、発表、議論を通じ、言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。</p> <p>(63 山崎 けい子) (相互行為分析, 相互行為分析の実践と考察) 会話の分析手法を参考文献等から学びつつ、加えて、実際に日本語の自然会話を録音/録画し、トランスクリプションを作成、分析を試みる。相互行為とはどのような仕組みで動いているかを実践的に記述していく。 発展的に、その中で日本語学習者はどのように会話に組み込まれているのか、言語能力と会話の組織化にはどのような関係があるのか等についても考える。</p> <p>(69 安藤 智子) 言語研究において用いられている高度に専門的な用語を理解したうえで、論文を正確に読みこなして紹介する技術を身につける。論文の内容を具体的な言語事実に照らして批判的に検証していく姿勢を涵養するとともに、データに立脚した自身の見解のまとめ方について考察する。取り上げる論文は、受講者の関心を考慮して選定する。</p>	
	言語学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 言語学に関する論文等を講読し、発表、議論を通じ、言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。</p> <p>(63 山崎 けい子) (相互行為分析, 相互行為分析の実践と考察) (アンケート調査, アクションリサーチ, エスノグラフィー, フィールドノート) どのような環境が日本語学習者の学習を促進するかについて、参考文献等から理論的枠組みや必要な知識を得る。調査研究のための理論的骨格を得た上で、具体的な調査目的、調査方法、分析方法を計画し、調査を試みる。</p> <p>(69 安藤 智子) 履修者自身の特定のテーマに沿った先行研究を探索し、紹介する。その中で、テーマにふさわしいデータの収集方法を検討し、実際に履修者自身で収集の計画を練る作業を行う。</p>	
	言語学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 言語学に関する論文等を講読し、発表、議論を通じ、言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。</p> <p>(63 山崎 けい子) (調査と分析の実際, データ分析方法, 結果の考察) 調査研究のための理論的骨格を得た上で、具体的な調査目的、調査方法、分析方法を計画し、調査を行う。またその結果の分析・考察を行い、一定の結論を導き出す。</p> <p>(69 安藤 智子) 分節音の調音音声学的知識と音声の物理的特徴に関する基礎知識に基づいて、母語および第二言語の分節音の分析方法を紹介したうえで、音声データを実際に分析して結果を発表するまでの作業を行う。これにより、音声の可視化の基本的な技術を習得し、音声や画像、図表を組み込んだ効果的な発表方法を習得することを目指す。</p>	
	社会学特論Ⅰ	<p>私たちは社会生活を送る上で、様々な「ルール」に従っているが、その「ルール」とはどのようなものなのだろうか。本授業では、まず「ルール」とは何かについて徹底的に考察し、そのうえで、ルールを守り守らせ、さらには「ルールを破る」技術でもある、「ルールリテラシー」を身につけることを目指す。</p>	
	社会学特論Ⅱ	<p>社会学特論Ⅰに引き続き、「ルール」について徹底的に考察し、そのうえで、ルールを守り守らせ、さらには「ルールを破る」技術でもある、「ルールリテラシー」を身につけることを目指す。</p>	
	社会学特論Ⅲ	<p>社会学の基礎理論について一般的な知識を習得するとともに、自らが問題意識を持って社会理論を検討できるようになることを目指す。本講義では、「機能主義」と「構築主義」についての理解を深めるとともに、それらに対し批判的な検討を行う。</p>	
	社会学特論Ⅳ	<p>社会学特論Ⅲに引き続き、社会学の基礎理論について一般的な知識を習得するとともに、自らが問題意識を持って社会理論を検討できるようになることを目指す。本講義では、合理的選択理論と計量社会学についての理解を深めるとともに、それらに対し批判的な検討を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	社会科学特論V	社会学における近代論やシステム論の視点が有意義であることをふまえて、それと同様に相互作用・相互行為、個人の自己の水準でも有意義な社会学研究が可能であることを講義することによって、社会学の学問的特性について理解し、社会学の基盤的能力の一部を養成する。	
	社会科学特論VI	社会学における近代および近代以降の社会を問う知の系譜について、その一部分にふれ、社会学史の伝統に連なる問いの地平が現在も受け継がれていることを解説する。その一方で、社会学には「社会をいかに形作っていくか」という規範論的な視点を内部に組み込んでおり、近代論的な観点とともに重要であることを説明する。後半では、特に医療と、社会保障・社会福祉の領域に目を向け、そこにおいて近代論的な視点と規範論的な視点がどのように活かせるのかを討究する。	
	社会科学特論VII	現代社会における医療と福祉、および犯罪に関するトピックおよび動向についてふれたうえで、これらの領域でも支援の重要性がますます高まっていることを解説する。その中で、専門職が弱者を支援するという枠組みを脱しながら、セルフヘルプ・グループあるいはピア・サポートへの注目を社会現象として示し、その有効性と可能性、および留意すべき限界や陥穽についても討究する。	
	社会科学特論VIII	社会現象としてのセルフヘルプ・グループ、ピア・サポートについて概観したうえで、これらの領域における社会調査研究の重要性と方法について解説する。特に、ナラティブ・アプローチの先端的な理論枠組みについて、形態分析、聞き手との相互行為という両面から諸概念を説明する。応用研究としての難病および高次脳機能障害への適用例を示しながら、多様な支援の現場への応用可能性について討究する。社会調査としてのナラティブ・アプローチにおける最先端について、研究に必要な幅広い専門的学識を得る。	
	社会科学特論IX	現代社会は複雑多様化し、個々の生活はとらえることが難しくなっている。社会福祉の対象者の生活問題も多様化する中で、それぞれの生活のあり方とそれに合った支援を考える。支援対象者の生活に即しながら個人と環境のそれぞれの課題を明確にし問題解決に導くためには、社会生活ニーズとそれに即した支援計画・目標が重要である。社会福祉援助実践を参考にしながら、生活構造の理解に基づいた課題解決を検討する力を涵養する。	
	社会科学特論X	社会科学特論IXに引き続き、社会福祉の対象者の生活問題に着目し、それぞれの生活に合った支援のあり方を考える。支援の効果を上げるためには、単に支援の計画等を実施すれば足りるのではなく、常に効果を上げているかに注目しながら適切な変化を加えることも必要である。支援対象者をアセスメントして作成した計画等の実施をモニタリングし、その成果を評価しながらよりよい自立につなげるフィードバックを行うことに注目し支援の実効力を伴う実践の力を涵養する。	
	社会科学特論演習I	(概要) 社会学に関する文献を講読し、発表、議論を通じ、社会学や社会調査に関する専門的な理解を深める。 (28 佐藤 裕) 教員が指定した文献を順次読んでいくことによって、社会学における調査の方法論に関する理解を深めながら、自分でそれを用いる準備をする。 (5 伊藤 智樹) 社会学における社会調査の基本的な性質と意義を解説したうえで、その中で質的調査の歴史と特性について説明する。「質問紙調査による数量的分析＝科学的研究、質的調査＝主観的で非科学的研究」というステレオタイプを解体しつつ、それぞれの方法がもつ強みについて理解を深める。具体的にはシカゴ学派によるフィールドワーク研究を例として取り上げる。 (87 志賀 文哉) 本演習においては、高齢者の社会心理発達に注目し、「世代継承性」のあり方や「老年の超越」などの実態の把握をこころみを中心として、文献を購読したり、高齢当事者とのかかわり(高齢者対象の相談会等への参加)から調べたりするものとする。演習内ではそれらの学習を発表共有したり批判的に議論したりしながら高齢者の実像に迫る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	社会学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 社会学に関する文献を講読し、発表、議論を通じ、言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。</p> <p>(28 佐藤 裕) 教員が指定した文献を順次読んでいくことによって、社会学における調査の方法論に関する理解を深めながら、自分でそれを用いる準備をする。</p> <p>(5 伊藤 智樹) 社会調査のバリエーションを示しながら、質的調査の特性について詳しく解説する。質問紙調査との基本的な共通項にもふれながら、フィールド・ワークやインタビューでの計画性、インタビュー・ガイドの作成、フィールドノートや録音資料の作成・整理の仕方など、実例を示しながらより実践的に説明する。質的方法の具体的なノウハウを身につけることを通して、専門的社会調査の基盤的能力の一部を養成する。</p> <p>(87 志賀 文哉) 本演習においては、高齢者の社会心理発達の中でとらえられてきた「年齢相応」が充たされない場合にはどうすればよいのか（相応である必要があるのか）を、新しい知見を取り入れながら、高齢当事者とともに考えていくものとする。 演習内ではそれらの学習を発表共有したり批判的に議論したりしながら高齢者の実像に迫る。</p>	
	社会学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 社会学に関する文献を講読し、発表、議論を通じ、言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。</p> <p>(28 佐藤 裕) 教員が指定した文献を順次読んでいくことによって、社会学における調査の方法論に関する理解を深めながら、自分でそれを用いる準備をする。</p> <p>(5 伊藤 智樹) 質的調査の計画から実査までを復習しつつ、分析方法についてのバリエーションを解説する。質的調査には多様なスタイルがあり、それを知っておくことは、選択肢としての研究内容、研究方法に直接かかわる。それを学ぶためには、それぞれのアウトプット（研究成果）にふれながら、なぜそのような見え方（プレゼンテーション）になるのか、そのような方法によってどのようなことが明らかになるのかについて、おおよその理解を得ておくことが重要である。本授業では、それらに関する視野を広げることで、専門的社会調査の基盤的能力を得る。</p>	
	社会学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 社会学に関する文献を講読し、発表、議論を通じ、言語学に関する方法論の専門的な理解を深める。</p> <p>(28 佐藤 裕) 教員が指定した文献を順次読んでいくことによって、社会学における調査の方法論に関する理解を深めながら、自分でそれを用いる準備をする。</p> <p>(5 伊藤 智樹) この授業では、ナラティブ・アプローチに焦点を絞り、それに適した調査の進め方や分析方法について解説する。ナラティブ・アプローチの場合は、トピック設定は行いつつ構造化しない傾向がという点でライフ・ヒストリー研究に近いところがあるが、インタビュー自体を物語構成の場として分析する点で特徴的ともいえる。データ引用のスタイルも、オーソドックスなケースから会話分析に近いケースまでバリエーションがあり、一律に固定したものとはとらえない方がよい。このように、ひとつのスタイルに精通することで、それ以外の調査ないし分析のスタイルについても理解を深め、専門的社会調査の学識を高める。</p>	
	国際関係特論Ⅰ	<p>この授業の前半では、基礎的な諸概念（国家、主権、国益、パワー、戦争など）、古典的リアリズムの基本的な分析枠組みについて、テキストや参考書等を参照しながら対話を重ねることにより、受講者各自が自らの理解度を確認し、必要に応じて知識の補完を行えるように教員が講義・解説を行う。授業の中盤からは、「平和とは何か」という問いを導入し、ガルトウングの議論を踏まえながら、教員と受講生との討論を通して理解を深める。授業の後半では、現代国民国家の動態を観察し議論する上で欠かせない「国民統合」についての導入的な議論を行い、国際関係論Ⅱ以降の授業への接続に備える。なお、授業期間中は随時、国際情勢のリアルタイムな動態にも常に意識を払い、授業の内容とリンクさせた議論を行って、より実践的な理解を促すこととする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	国際関係特論Ⅱ	この授業では、まず国家安全保障と集団安全保障という2つの概念について概観する。次いで、安全保障分野における国際組織の役割とその限界について、国際連合、および欧州における地域統合を例に検討し、最後に20世紀後半以降の国際社会において安全保障上の深刻な懸念となってきた大量破壊兵器やテロリズム、そしてそれらへ対抗するための制度的アプローチについて検討する。いずれも、近現代の国際関係史と密接不可分な作業であるため、受講者には常に具体的な歴史的事象をふまえながら学修すること、および、リアルタイムな国際時事情勢にも幅広く目配りをし、授業で学ぶ内容と関連付けて考察してみることを強く求める。	
	国際関係特論Ⅲ	授業の前半では、国際経済情勢について理解する上で欠かせない、国際貿易・国際金融に関する知識の整理を行う。次いで、20世紀後半以降の世界で「貧困」という問題がどのように立ち現われ、国際社会がどのような「援助」を行ってきたのか、またその過程で「開発」という概念がどのように変遷してきたのかについて、歴史的経緯を踏まえながら概観する。その上で、21世紀の国際社会のなかで形成されたSDGsというアプローチについて、クリティカルな視点も交えながら検討を加えることとする。	
	国際関係特論Ⅳ	欧米地域の近現代史との密接なかかわりの中で形成されてきた国際関係理論は、アジア太平洋や日本をとりまく現実に対して、どのように適用することができるのか。この授業ではまず、アジア太平洋における地域統合の現実を、国際関係特論Ⅱで扱った欧州の地域統合と対比させながら整理する。次に、現代の東アジア地域が、特に民主主義や人道的介入などに関して「複数の規範が併存する状況」にある等の特徴をふまえた上で、現在の日本および東アジアの諸国家・地域から見た国際関係の現実について、受講生各人の関心に沿う形でケーススタディを行い、報告と討論を行って、授業をしめくくこととする。	
	国際関係特論演習Ⅰ	この授業では富山大学が位置する富山県を現代日本の地域社会の一例としてとりあげ、この地域に暮らす人々の①民族的ルーツや文化の多様性、②性（ジェンダー/セクシュアリティ）の多様性、③結婚・出産とジェンダーに関する規範の多様性について、各種報道で紹介された当事者へのインタビューの記録等を活用しながら、順に概観していく。また、授業では、具体的な事例の紹介のあとに、各事例や類似性・共通性をもつ事例について考察を深める際に不可欠な概念やキーワードについても教員が概説を行い、実際にそれらの概念等を用いた意見交換や討論も、授業時間内に実施することとする。	
	国際関係特論演習Ⅱ	授業の前半では、性の多様性に関連する基礎的な概念（セクシュアリティの構成要素等）を説明した上で、現代日本社会において性的少数者が直面している困難、その背景に存在する数々の規範、および近年の日本の政府・自治体による対応の実例を概観する。その上で、授業の後半では、性的指向と性自認に関する世界の国々の法制度が「SOGIに基づく差別からの法的保護」と「犯罪化」という2つのベクトルの間での「両極化」に向かっているという趨勢を概観し、国連をはじめとする国際組織でSOGIに関するどのような取り組みが行われてきたのか（または、行われなかったのか）を、実際に受講生とともに国連人権理事会のデータベース等を操作して確認しながら検討する。	
	国際関係特論演習Ⅲ	日本社会では、20世紀前半から中盤にかけ、朝鮮半島から多くのヒトの移動があったことに加え、1980-90年代の労働力不足の時期には中南米諸国から日系人に限定したヒトの受け入れ政策の施行、そしてその後も「高度技能人材」や「技能実習生」といったさまざまな名目で限定的なヒトの受け入れの促進策がとられてきた。しかし、富山大学が位置する富山県では、1990年代からパキスタン人を中心とするムスリム・コミュニティが徐々に規模を拡大する中で、時に地域社会の日本人コミュニティとの間で軋轢を生じる、という出来事があったほか、日本全国で見ても、日本の外にルーツを持つ人々へのヘイト・スピーチや、難民申請者の長期収容が問題視されつつあるなど、幅広い領域にわたって検討を要する課題が存在している。そこでこの授業では、いくつかのトピックを「サブテーマ」として大まかに分類し、受講者の関心の分布に応じて受講者による調査や報告を盛り込みながら、議論を深めることとしたい。	
	国際関係特論演習Ⅳ	人権を擁護する思想の歴史を概略的にふりかえった上で、20世紀後半に関しては、国連の人権メカニズムを中心に、具体的な人権条約や条約機関、および特別報告者/独立専門家の取り組みや、UPRに際して実際にやりとりされた文書等を、国連の文書システムを活用し参照しながら検討を進めていく。また、授業の後半では、国際関係論特論演習Ⅰ～Ⅳを通して学んできたことの集大成として、受講生各人による報告も交え、それぞれの問題関心に根差した視点からの議論を行うこととする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	人文地理学特論 I	人文地理学において、90年代までの研究史上の動向を代表的な論文などを取り上げる。そして90年代以降の、Cultural Turn前後の研究を取り上げ、研究の視点の変化を検討する。さらに、その影響が日本の地理学にどのような形で取り込まれているのかを議論する。	
	人文地理学特論 II	人文地理学において、90年代以降の研究史上の動向を代表的な論文などを取り上げる。そして90年代以降の、Cultural Turn前後の研究を取り上げ、研究の視点の変化を検討する。さらに、その影響が日本の地理学にどのような形で取り込まれているのかを議論する。	
	人文地理学特論 III	市民参加型のGIS (PPGIS: Public Participation GIS) について欧米で研究が進んでいる。どのような経緯でそのような研究が登場したのか、欧米の学術論文などを紹介しながら、その動向の詳細を追う。人々がどのように地図を理解しているのかといった認知地図の研究や社会課題の探求への活用について検討する。	
	人文地理学特論 IV	市民参加型のGIS (PPGIS: Public Participation GIS) について欧米で研究が進んでいる。クリティカルGISや市民参加GIS (PPGIS) といった社会に開かれた地図活用に関する研究と教育分野への応用について検討する。市民の地図活用に関して欧米でどのような研究が進められてきたのかを理解し、それを踏まえて日本の状況を検討する。	
	人文地理学特論 V	行動地理学を取り上げる。受講生は毎回、指定されたキーワードで文献検索を行い英語論文を選定する（その際、引用件数をもとに、信頼性の高い論文を選定する）。それを、講読の前週までに受講生全員と教員に配布し、要約したレジュメを作成して持参すること。教員と受講者はそれを当日までに読了し、授業はその既読を前提とした質疑応答と、教員による必要な背景知識の解題・補足によって行われる。	
	人文地理学特論 VI	カルチュラル・ターン以降の行動地理学を取り上げる。受講生は毎回、指定されたキーワードで文献検索を行い英語論文を選定する（その際、引用件数をもとに、信頼性の高い論文を選定する）。それを、講読の前週までに受講生全員と教員に配布し、要約したレジュメを作成して持参すること。教員と受講者はそれを当日までに読了し、授業はその既読を前提とした質疑応答と、教員による必要な背景知識の解題・補足によって行われる。	
	人文地理学特論 VII	地理情報科学を取り上げる。受講生は毎回、指定されたキーワードで文献検索を行い英語論文を選定する（その際、引用件数をもとに、信頼性の高い論文を選定する）。それを、講読の前週までに受講生全員と教員に配布し、要約したレジュメを作成して持参すること。教員と受講者はそれを当日までに読了し、授業はその既読を前提とした質疑応答と、教員による必要な背景知識の解題・補足によって行われる。	
	人文地理学特論 VIII	人文地理学特論 VIIに引き続き、地理情報科学を取り上げる。受講生は毎回、指定されたキーワードで文献検索を行い英語論文を選定する（その際、引用件数をもとに、信頼性の高い論文を選定する）。それを、講読の前週までに受講生全員と教員に配布し、要約したレジュメを作成して持参すること。教員と受講者はそれを当日までに読了し、授業はその既読を前提とした質疑応答と、教員による必要な背景知識の解題・補足によって行われる。	
	人文地理学特論 IX	地理学、特に人文地理学における内外の最新の研究動向を学び、それに対する理解を深めるため、地理学研究（特に人文地理学と地誌学）の学史に関する講義等を行う。講義内容は、（人文）地理学の歴史について、ヨーロッパにおけるアカデミックな近代地理学の成立期を起点とし、欧米と日本における地理学研究史を辿ってゆくことになる。特に、20世紀後半以降の様々な視角・立場が乱立する地理学史を整理することは難しいが、Johnston and Sidaway (2015)や人文地理学会 (2015)を参照しながら整理し概観する。最後に受講者の地理学観が深化することを期待する。	
	人文地理学特論 X	講義と基本文献の講読を織り交ぜながら、欧米と日本の地誌学・歴史地理学の学史と基礎概念および最新の動向について学ぶ。本科目では、地誌学、歴史地理学の順に、欧米・日本の学史・基礎概念について学ぶ。さらに両分野の最新の動向について学び、最後に地理学における地誌学と歴史地理学の位置付けとその意義を考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系 人文地理学特論演習Ⅰ	<p>(概要) 人文地理学に関する論文や文献を講読することにより、地理学の研究動向に触れ、その専門的理解を深める。</p> <p>(13 大西 宏治) 90年代以降の地理学はポストモダンを代表する様々な思想の影響を受けながら多様化していった。地図や景観写真から地域の変容に対する解釈を試みたり、情報技術の発展が地域データの分析や可視化をしたりしながら、最近の地理学の視点を理解するのが本授業である。そして、地図や景観分析の発展に対する批判や問題点を整理する。さらに、GISの社会への影響を検討する。</p> <p>(90 鈴木 晃志郎) 学生の興味関心や構想から、議論を通じて切り口を作り、その切り口が学術的に意味のあるものであるかどうかを確認する方法を学ぶ。毎回、前週までに示された課題を踏まえた議論の材料(レジュメ)を準備し、発表、議論を行う。</p> <p>(64 山根 拓) 地理学研究の実践過程を体験し、地理学的研究能力を身につける。地理学の先行研究を自ら広範にレビューし(文献研究)、地理思想や近年の地理学研究の内容についての理解を図る。</p>	
	人文地理学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 人文地理学特論演習Ⅰに引き続き、人文地理学に関する論文や文献の講読、フィールドワークを行うことにより、地理学の研究動向に触れ、その専門的理解を深める。</p> <p>(13 大西 宏治) 地図や景観写真から様々な地域の様々な時代の景観に対して現代の視点から解釈を試みるのが本授業である。そこで、そのような景観分析や地図を用いた地域の分析の発展に対する批判や問題点がこれまで指摘されてきたが、それらの研究を整理するために、各授業回であげた分野の論文を精読してその研究を批判的に検討する。</p> <p>(90 鈴木 晃志郎) 文献調査や資料収集を通じて把握し吟味した仮説をもとに、フィールドに出て予備調査を行い、本調査の方向性が間違っていないかを確認する。</p> <p>(64 山根 拓) 人文地理学特論演習Ⅰで学修したことを活かし、地域地理学的な研究の実践を行う。それはすなわち、研究目的・計画(研究対象地域・調査法)の立案を設定し、現場での地域観察調査(フィールドワーク)を実施し、調査に基づくデータの分析・解釈を行う。</p>	
	人文地理学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 人文地理学特論演習Ⅱに引き続き、人文地理学に関する論文や文献の講読、フィールドワークを行うことにより、地理学の研究動向に触れ、その専門的理解を深める。</p> <p>(13 大西 宏治) 1980年代以降の欧米の社会地理学は様々な方向へと展開している。そこで、その研究動向を代表するような原著論文を精読し、その研究動向を把握する。学界の動向を代表するような地理学の英語論文について、欧米でよく使われるReadingsを参考にして取り上げる。</p> <p>(90 鈴木 晃志郎) 人文地理学特論演習Ⅰ・Ⅱを通じて得た情報、データの分析・解釈を行い、可視化を図る。</p>	
	人文地理学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 人文地理学特論演習Ⅲに引き続き、人文地理学に関する論文や文献の講読、フィールドワークを行うことにより、地理学の研究動向に触れ、その専門的理解を深める。</p> <p>(13 大西 宏治) 1980年代以降の欧米の社会地理学は様々な方向へと展開している。そこで、その研究動向を代表するような原著論文を精読し、その研究動向を把握する。学界の動向を代表するような地理学の英語論文について、欧米でよく使われるReadingsを参考にして取り上げる。</p> <p>(90 鈴木 晃志郎) 人文地理学特論演習Ⅲで整理したデータを基に、議論を通じ、成果をまとめる。</p>	
	文化人類学特論Ⅰ	<p>人類が育んできた多様な文化を研究する文化人類学において、食は重要なテーマであった。グローバル化が進展し、食をめぐる状況が変わりつつある現在、文化人類学の視点から食をとらえることにはより大きな意味がある。本講義においては環境利用との関連から主に議論を行う。狩猟採集、農耕、牧畜などの食料の獲得、生産に関わる問題、食物の調理・保存技術などについてとりあげ、食に関する文化人類学的な見方を修得することを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	文化人類学特論Ⅱ	人類が育んできた多様な文化を研究する文化人類学において、食は重要なテーマであった。グローバル化が進展し、食をめぐる状況が変わりつつある現在、文化人類学の視点から食をとらえることにはより大きな意味がある。本講義においては社会・文化との関連から主に議論を行う。食物の分かち合いと共食、祝宴、食物の贈与交換など経済人類学に関わる問題、および食物禁忌や供儀など象徴人類学に関わる問題を取り上げる。これらを通じて、食に関する文化人類学的な見方を修得することを目指す。	
	文化人類学特論Ⅲ	本授業は、文化人類学のなかの環境人類学と呼ばれる領域を主に扱う。現代世界に生起するさまざまな環境問題に対して、文化人類学がこれまでどのように取り組んできたか、そして今後どのように取り組んでいくことが求められるかについて議論するものである。文化人類学と環境問題との接点は幅広く、その見方も一様ではない。講義では三回ごとにひとまとまりの内容とし、そのそれぞれで複数の見方を提示していく。環境人類学は新しい分野であるが、今後よりさまざまな問題をとりあげながら発展していく可能性を秘めた領域でもある。その基本的な理解をもつことを目指す。	
	文化人類学特論Ⅳ	本授業は、文化人類学特論Ⅲに引き続き、文化人類学のなかの環境人類学と呼ばれる領域を主に扱う。現代世界に生起するさまざまな環境問題に対して、文化人類学がこれまでどのように取り組んできたか、そして今後どのように取り組んでいくことが求められるかについて議論するものである。文化人類学と環境問題との接点は幅広く、その見方も一様ではない。講義では二回ごとにひとまとまりの内容とし、そのそれぞれで複数の見方を提示していく。環境人類学は新しい分野であるが、今後よりさまざまな問題をとりあげながら発展していく可能性を秘めた領域でもある。その基本的な理解をもつことを目指す。	
	文化人類学特論Ⅴ	本講義は、文化人類学において「身体」がどのようにとらえられてきたのか、また、「身体」のパースペクティブから文化人類学的な研究がどのように見渡せるのかについて議論する。とりわけ、従来の文化人類学で多くの事例が集められた「儀礼」を主に取り上げ、そこから文化人類学的な身体論の可能性を、受講者の研究計画と照らし合わせつつ理解することを目指す。	
	文化人類学特論Ⅵ	本講義は、文化人類学において「身体」がどのようにとらえられてきたのか、また、「身体」のパースペクティブから文化人類学的な研究がどのように見渡せるのかについて議論する。とりわけ、「コミュニケーション」という鍵概念から出発して、それに関連する諸研究と「身体」とがどのようにつながっているのか、受講者の研究計画と照らし合わせつつ理解することを目指す。	
	文化人類学特論Ⅶ	本講義は、「音楽的出来事」および「ダンス的出来事」を文化人類学的に研究する可能性について議論する。フィールドワークによる音楽文化の研究は長く行われてきたが、それらの研究は西洋的な概念である「音楽」から自由ではなかった。本講義では、「音楽」概念を乗り越えるためのいくつかの思考のツールを紹介する。それによって、音楽およびその周辺行動を文化人類学の視点で研究することの可能性について、受講者の研究計画との関連から明らかにすることを目指す。	
	文化人類学特論Ⅷ	本講義は文化人類学特論Ⅶに引き続き、ミュージッキングについて文化人類学的に研究する際にカギとなってくるいくつかの概念について検討する。具体的には「憑依」「霊」「囃す(ということ)」「主体」等がミュージッキングとどのような関係にあるかを議論する。それをふまえて「音楽」の近代性について再考する。	
	文化人類学特論演習Ⅰ	文化人類学は世界各地に暮らす人びとの文化・社会を研究対象とし、その多様性を理解することを通じて人間とは何かについて探求していく学問分野である。今日の文化人類学ではフィールドワークがもっとも重要な手法といえるが、同時にその成果をエスノグラフィー(民族誌)として発表していくことも大きな特徴である。本授業では、文化人類学の主要な研究成果である民族誌の精読を通じて文化人類学の考え方や分析方法を具体的に学んでいくことを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	文化人類学特論演習Ⅱ	文化人類学は世界各地に暮らす人びとの文化・社会を研究対象とし、その多様性を理解することを通じて人間とは何かについて探求していく学問分野である。今日の文化人類学ではフィールドワークがもっとも重要な手法といえるが、同時にその成果をエスノグラフィー（民族誌）として発表していくことも大きな特徴である。本授業では、文化人類学の主要な研究成果である民族誌の精読を通じて文化人類学の考え方や分析方法を具体的に学んでいくことを目指す。文化人類学の研究は日本語の文献でもすでに豊富な蓄積がある。とはいえ英語文献の蓄積はその比でなく、文化人類学の研究をまっとうに行うには英語文献の読解は不可欠である。そのためこの授業では基礎的な英語文献の読解を行っていく。	
	文化人類学特論演習Ⅲ	世界の音楽文化は人類学者の関心をひいてきたものの、その記述の困難さから体系的には研究されてきたとは言い難い。この授業では、そうした状況を打開しうるいくつかの理論的研究を精読し、文化人類学的な音楽（および芸能）研究の可能性を探ることを目的とする。	
	文化人類学特論演習Ⅳ	文化人類学特論演習Ⅲに引き続き、世界の音楽文化について人類学の観点から検討する。世界の音楽文化は、その記述の困難さから体系的には研究されてきたとは言い難い。この授業では、そうした状況を打開しうるいくつかの理論的研究を精読し、文化人類学的な音楽（および芸能）研究の可能性についての理解を深める。	
	スポーツ文化史特論Ⅰ	現代社会においてスポーツとは何か。また、人類史的スパンからスポーツ文化をとらえた場合、そこに見えてくるものは何か。時代や地域、さらには民族によってスポーツはどのように変容してきたのか。この授業では、これらの問題について考えるためのヒントを提示する。スポーツの歴史に関する講義を中心に行い、スポーツの通史（人類史）に関する認識を深めてもらう。	
	スポーツ文化史特論Ⅱ	現代社会においてスポーツとは何か。また、人類史的スパンからスポーツ文化をとらえた場合、そこに見えてくるものは何か。時代や地域、さらには民族によってスポーツはどのように変容してきたのか。この授業では、これらの問題について考えるためのヒントを提示する。スポーツ文化史特論Ⅰをうけ、本講義ではアクティブ・ラーニングの形式をとり、授業計画で掲げた7つの項目について文献調査し、時間ごとに発表とディスカッションを行う。	
	スポーツ文化史特論演習Ⅰ	ここでは体育・スポーツの歴史的研究方法について演習形式で学修する。体育・スポーツ史研究の動向や研究対象とその領域、先行研究批判など具体的な方法について講義する。	
	スポーツ文化史特論演習Ⅱ	スポーツ文化史特論演習Ⅰにおいて学修した方法を駆使して、1つのテーマについてレポート作成を行ってもらう。その際の主な観点は、「何が問題点なのか認識していること」、「その解明のために必要な手法の着想ができること」、「問題解明のための史・資料の収集ができること」、「それらの史・資料に基づく理論展開から、問題の解決を図ることができること」である。	
	スポーツ人類学特論Ⅰ	本講義ではスポーツを文化と捉え、文化人類学およびスポーツ科学の方法論を用いて研究活動を行うための基礎知識の習得を目的とする。スポーツ人類学特論Ⅰでは、特に人類文化史というマクロな視点と、特定の社会におけるフィールドワークというミクロの視点からどのように立論を行い、また問題を見つけ出ししていくかという、歴史人類学的視点からスポーツについて立論を行う方法について示す。また、それらを通じてスポーツ人類学において用いられる諸理論について、具体的事例を示しつつ講義を行い、理解を深めていく。	
	スポーツ人類学特論Ⅱ	本講義では、スポーツ人類学の問題系、諸概念を学習することで、スポーツ人類学的視点から諸現象について分析・考察が行えるようになることを目指す。特に、「身体」を通じた実践を対象とするスポーツ人類学では、「身体」や「わざ」についていかに論じてきたか。スポーツ人類学からみた際に、それらについて、どういった視点を示すことが可能であるのかを議論していきたい。具体的には、スポーツ人類学の問題系について、これまでスポーツ人類学がどのような議論を行ってきたのかについて講義を行う。	
	スポーツ人類学特論演習Ⅰ	スポーツ人類学特論Ⅰ・Ⅱでの学修を基に、受講者それぞれが講義毎に民族誌を選択し、それらの精読、発表、ディスカッションを通じて、フィールドワークや民族誌を描くという方法論を学習していく。また、各民族誌において様々な理論がどのように使用されているかを理解することで、具体的な実践に対するアプローチの仕方を学んでいく。最終的には民族誌を描くことを目指すが、本演習ではその前段階として、各自がフィールドでの実践に対してどのような視点から分析していくかを、ディスカッションを通じて身に付けていくことを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系		
	スポーツ人類学特論演習Ⅱ	スポーツ人類学特論演習Ⅰでの学修を引継ぎ、受講者それぞれが講義毎に民族誌を選択し、それらの精読、発表、ディスカッションを通じて、フィールドワークや民族誌を描くという方法論を学習していく。特に、スポーツ人類学特論演習Ⅱでは、フィールドにおける「リアリティ」をいかに民族誌として描いていくかを考えていく。また、同時に民族誌を描くという実践自体がどういった意味を持つのかについても同時に学んでいく。	
	日本語学特論Ⅰ	「日本語書記史の研究(前)」 現代日本語の文字および書記について、どのような経緯で成立したかを究明する。 現代日本語の文字、そして、それをを用いて言語を標示することを「書記」と呼ぶが、書記がどのような歴史の積み重ねの上に定着してきたかを究明する。とりわけ、古代前期から後期までの時期に焦点を絞って考える。また、文字に関する基本的概念も確認する。(上記の前半部分)	
	日本語学特論Ⅱ	「日本語書記史の研究(後)」 現代日本語の文字および書記について、どのような経緯で成立したかを究明する。 現代日本語の文字、そして、それをを用いて言語を標示することを「書記」と呼ぶが、書記がどのような歴史の積み重ねの上に定着してきたかを究明する。とりわけ、古代前期から後期までの時期に焦点を絞って考える。また、文字に関する基本的概念も確認する。(上記の後半部分)	
	日本語学特論Ⅲ	「オ段長音の開合の研究(前)」 日本語の音韻体系の変遷を考える。とりわけ、中世から近世へと移りゆく中で混乱を生じて、その対立の消滅していった〈オ段長音の開合〉について、研究史を参照しながら問題点を確認する。〈オ段長音の開合〉とは、現代日本語におけるオ段の長母音[オー/コー/ソー/...]が中世末期まで2つの対立する音韻であったものが、日本語の音韻変化の中で合流して1つの音韻となった事象を指す。それらは〈開音/合音〉と呼ばれる。	
	日本語学特論Ⅳ	「オ段長音の開合の研究(後)」 日本語の音韻体系の変遷を考える。とりわけ、中世から近世へと移りゆく中で混乱を生じて、その対立の消滅していった〈オ段長音の開合〉について、研究史を参照しながら問題点を確認した上で、自身の考察を展開する。また、同時に文献資料の取り扱い方を修得する。	
	日本語学特論Ⅴ	本講義では、現代の日本語学の研究成果を踏まえて、可能な限り網羅的に文法事項を扱うことを目指す。テーマごとに問題事例を確認し、それに関する分析、反例や分析の不備の指摘など、どこまで文法的に説明できるのかを受講者と一緒を考えていく授業である。日本語が中心であるが、一部の外国語についても対照して言及する。授業内容の概要は、【現代語文法詳説】、【日本語の歴史】、【副詞的修飾成分の諸相】、の3点で、現代語から古典語へ、また、概論から各論へと話題を広げていく。	
	日本語学特論Ⅵ	本講義では、現代の日本語学の研究成果を踏まえて、可能な限り網羅的に文法事項を扱うことを目指す。テーマごとに問題事例を確認し、それに関する分析、反例や分析の不備の指摘など、どこまで文法的に説明できるのかを受講者と一緒と考えていく授業である。日本語が中心であるが、一部の外国語についても対照して言及する。授業内容の概要は、【現代語文法詳説】、【日本語の歴史】、【副詞的修飾成分の諸相】、の3点で、現代語から古典語へ、また、概論から各論へと話題を広げていく。	
日本語学特論Ⅶ	本講義では、現代の日本語学の研究成果を踏まえて、可能な限り網羅的に文法事項を扱うことを目指す。テーマごとに問題事例を確認し、それに関する分析、反例や分析の不備の指摘など、どこまで文法的に説明できるのかを受講者と一緒と考えていく授業である。日本語が中心であるが、一部の外国語についても対照して言及する。授業内容の概要は、【現代語文法詳説】、【日本語の歴史】、【副詞的修飾成分の諸相】、の3点で、現代語から古典語へ、また、概論から各論へと話題を広げていく。		
日本語学特論Ⅷ	本講義では、現代の日本語学の研究成果を踏まえて、可能な限り網羅的に文法事項を扱うことを目指す。テーマごとに問題事例を確認し、それに関する分析、反例や分析の不備の指摘など、どこまで文法的に説明できるのかを受講者と一緒と考えていく授業である。日本語が中心であるが、一部の外国語についても対照して言及する。授業内容の概要は、【現代語文法詳説】、【日本語の歴史】、【副詞的修飾成分の諸相】、の3点で、現代語から古典語へ、また、概論から各論へと話題を広げていく。受講者は、講義内容の連続性や共通性に気づき、興味をもって、言語分析の技術を磨いて欲しい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人文・芸術プログラム専門科目	人文科学系	日本語学特論演習Ⅰ	<p>(概要) 日本語学に関する文献を講読することにより、日本語学に関する専門的知識を深める。</p> <p>(52 樋野 幸男) 「文献の正確な読解をめざす古字書の研究(前)」 日本語史の研究の基礎となる、文献をより正確に読み取る能力を習得する。日本語の歴史を究明しようとするとき、その根拠となるのは文字に書き残された文献が中心となる。この授業では、その文献をより正確に読み取る能力を身につけることを目的とする。古代から中世の文献のうち、辞書を主な対象とする。実際の作業としては、『類聚名義抄』鎮国守国神社蔵本を読み進める。当然ながら『類聚名義抄』諸本や他の古辞書および訓点資料にも目を配ることになる。本演習では、古字書に関する基本的知識の習得から始める。</p> <p>(105 宮城 信) 日本語文法に関する様々な文献や論文を講読し、発表、議論することにより、日本語学研究に必要な知識、技能を修得する。</p>	
		日本語学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 日本語学特論演習Ⅰに引き続き、日本語学に関する文献を講読することにより、日本語学に関する専門的知識を深める。</p> <p>(52 樋野 幸男) 「文献の正確な読解をめざす古字書の研究(後)」 日本語史の研究の基礎となる、文献をより正確に読み取る能力を習得する。日本語の歴史を究明しようとするとき、その根拠となるのは文字に書き残された文献が中心となる。この授業では、その文献をより正確に読み取る能力を身につけることを目的とする。古代から中世の文献のうち、辞書を主な対象とする。実際の作業としては、『類聚名義抄』鎮国守国神社蔵本を読み進める。当然ながら『類聚名義抄』諸本や他の古辞書および訓点資料にも目を配ることになる。本演習では、記述内容の正確な把握とともに、新たな日本語史的事実の発見も目指したい。</p> <p>(105 宮城 信) 日本語学特論演習Ⅰに引き続き、日本語文法に関する様々な文献や論文を講読し、発表、議論することにより、日本語学研究に必要な知識、技能を修得する。</p>	
		日本語学特論演習Ⅲ	<p>「抄物による室町時代日本語の研究(前)」 言語の歴史について、その実態を探求する方法論を修得する。その上で、日本語の歴史について、適切な方法で文献を調査して考察する。室町時代の文献から抄物(ショウモノ)を主たる資料として取り上げて、当時の日本語を探究する。この授業は、日本語史の基礎知識を習得して、文献資料を分析・考察する研究への準備とする。</p>	
		日本語学特論演習Ⅳ	<p>「抄物による室町時代日本語の研究(後)」 言語の歴史について、その実態を探求する方法論を修得する。その上で、日本語の歴史について、適切な方法で文献を調査して考察する。室町時代の文献から抄物(ショウモノ)を主たる資料として取り上げて、当時の日本語を探究する。この授業は、日本語学特論演習Ⅲで整えた研究基盤によって、対象の文献を分析して日本語史の探究をめざしていく。</p>	
		日本文学特論Ⅰ	<p>サブタイトル：橋本『義経記』巻七 『義経記』全八巻は、巻一から巻六迄及び巻八については、第二系列本が、巻七については、第一系列本が善本だという研究結果が出ている。本講義では、第二系列に属する橋本で巻七を読み、本文研究と注釈を行う。崩し字の読みや文章の解釈について質問しつつ、授業を進めて行きたい。</p>	
		日本文学特論Ⅱ	<p>サブタイトル：橋本『義経記』巻七 『義経記』全八巻は、巻一から巻六迄及び巻八については、第二系列本が、巻七については、第一系列本が善本だという研究結果が出ている。本講義では、第二系列に属する橋本で巻七を読み、本文研究と注釈を行う。崩し字の読みや文章の解釈について質問しつつ、授業を進めて行きたい。</p>	
		日本文学特論Ⅲ	<p>サブタイトル：岩瀬文庫本『義経記』巻三から巻四 『義経記』全八巻は、巻一から巻六迄及び巻八については、第二系列本が、巻七については、第一系列本が善本だという研究結果が出ている。本講義では、第二系列に属する橋本で巻七を読み、本文研究と注釈を行う。崩し字の読みや文章の解釈について質問しつつ、授業を進めて行きたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	日本文学特論Ⅳ	サブタイトル：岩瀬文庫本『義経記』巻三から巻四 『義経記』全八巻は、巻一から巻六迄及び巻八については、第二系列本が、巻七については、第一系列本が善本だという研究結果が出ている。本講義では、第二系列に属する橋本で巻七を読み、本文研究と注釈を行う。崩し字の読みや文章の解釈について質問しつつ、授業を進めていきたい。	
	日本文学特論Ⅴ	本授業では特に近世前期～中期、上方で版行された笑話に焦点をあてて検討する。具体的な作品をとりあげ、注釈を加えつつ、その成立背景や描かれている事物、笑いの対象、テーマ、文化についても理解を深め、各作品の特質を理解し、立体的に把握してゆく。	
	日本文学特論Ⅵ	本授業では特に近世中期～後期、江戸で版行された笑話に焦点をあてて検討する。具体的な作品をとりあげ、注釈を加えつつ、その成立背景や描かれている事物、笑いの対象、テーマ、文化についても理解を深め、各作品の特質を理解し、立体的に把握してゆく。	
	日本文学特論Ⅶ	本授業ではとくに井原西鶴の『西鶴諸国はなし』（1685年）を取り上げ、各章の注釈と考察および先行研究の分析をおこない、その序における西鶴の言辞に隠された意図について読み解いてゆく。	
	日本文学特論Ⅷ	本授業では十返舎一九の『東海道中膝栗毛』（1802～1809年）を取り上げ、各章の注釈と本文の検討をおこない、当時の文化・風習・言葉・表現について理解を深めることで、ベストセラー誕生の背景とその要因について分析、検証してゆく。	
	日本文学特論Ⅸ	文学研究において今日知っておくべき基本的な方法論である文学理論・批評理論の基礎的な知識の習得を目指す。その際、当該理論の主張と有効射程、問題点、分析事例をもとに学ぶことで理論の定着をはかるとともに、具体的な作品分析として期末レポートで展開する。	
	日本文学特論Ⅹ	近現代文学研究の文学理論に基づいた優れた論文を事例として、その主張・論理展開・問題点を検討することで、近現代文学作品・事象の解釈と評価の方法を身につけ、受講者自身の解釈も提出させ、理論的・実践的な文学読解能力の向上を図る。	
	日本文学特論Ⅺ	近現代文学研究の方法や能力を養うために、村上春樹の文学作品を中心に丁寧に読解することで、近代文学研究に対する造詣を深め独自の見解を有し、現代文学表現の技法・知識の定着をはかるとともに、レポートで自らの見解を独自に提示する訓練を行う。	
	日本文学特論Ⅻ	文学研究の方法や能力を養うために、女性作家、特に小川洋子を中心とする作品を丁寧に読解することで、近代文学研究に対する造詣を深め独自の見解を有し、現代文学表現の技法・知識の定着をはかるとともに、レポートで自らの見解を独自に提示する訓練を行う。	
	日本文学特論演習Ⅰ	（概要）日本の文学作品や日本文学に関する論文を講読することにより、日本文学研究に必要な専門的知識を深める。 （38 田村 俊介） サブタイトル：尾州家本見せ消し補入前本文で総角巻前半を読む 『源氏物語』宇治十帖の一部については、現在一般に流布している新編日本古典文学全集本よりも、尾州家本見せ消し補入前本文のほうが善本だという見通しを私は持っている。発表する履修者は、尾州家本見せ消し補入前本文を判読し、これを釈文に改めた上で、語句の解釈、作中人物の心理などを、発表する。 （133 藤井 史果） 様々な黄表紙作品を取り上げ、各丁の注釈と本文および挿絵の検証をおこない、当時の文化・風習・言葉・表現等について理解を深めるとともに、そこに隠された趣向について読み解いてゆく。 （50 西田谷 洋） 詩の創作作法書を精読するとともに実際に自らも詩を分析・読解することで、先行論の理解の仕方、テキスト解釈の方法、批評理論、研究の基礎から近現代文学に関する専門的な知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	日本文学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 日本文学特論演習Ⅰに引き続き、日本文学作品を講読することにより、日本文学研究に必要な専門的知識を深める。</p> <p>(38 田村 俊介) サブタイトル：尾州家本見せ消ち補入前本文で総角巻後半を読む 『源氏物語』宇治十帖の一部については、現在一般に流布している新編日本古典文学全集本よりも、尾州家本見せ消ち補入前本文のほうが善本だという見通しを私は持っている。発表する履修者は、尾州家本見せ消ち補入前本文を判読し、これを積文に改めた上で、語句の解釈、作中人物の心理などを、発表する。</p> <p>(133 藤井 史果) 本授業では様々な洒落本作品を取り上げ、当時の文化・風習・言葉・表現・文体等について理解を深めるとともに、江戸時代の政治と文芸の関係性についても検討する。</p> <p>(50 西田谷 洋) 日本文学特論演習Ⅰに引き続き、詩の創作作法書を精読するとともに実際に自らも詩を分析・読解することで、制度、関係性、身体性など様々な角度から先行研究・背景の調査と本文分析を行い独自の見解を導く。</p>	
	日本文学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 日本文学特論演習Ⅱに引き続き、日本文学作品を講読することにより、日本文学研究に必要な専門的知識を深める。</p> <p>(38 田村 俊介) サブタイトル：尾州家本見せ消ち補入前本文で宿木巻前半を読む 『源氏物語』宇治十帖の一部については、現在一般に流布している新編日本古典文学全集本よりも、尾州家本見せ消ち補入前本文のほうが善本だという見通しを私は持っている。発表する履修者は、尾州家本見せ消ち補入前本文を判読し、これを積文に改めた上で、語句の解釈、作中人物の心理などを、発表する。</p> <p>(133 藤井 史果) 為永春水作『春色梅児誉美』の前日譚でもある『春色恵の花』を取り上げ、当時の文化・風習・言葉・表現・文体等について理解を深めるとともに、作品における人物描写から当時の美意識についても検討する。</p>	
	日本文学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 日本文学特論演習Ⅲに引き続き、日本文学作品を講読することにより、日本文学研究に必要な専門的知識を深める。</p> <p>(38 田村 俊介) サブタイトル：尾州家本見せ消ち補入前本文で宿木巻後半を読む 『源氏物語』宇治十帖の一部については、現在一般に流布している新編日本古典文学全集本よりも、尾州家本見せ消ち補入前本文のほうが善本だという見通しを私は持っている。発表する履修者は、尾州家本見せ消ち補入前本文を判読し、これを積文に改めた上で、語句の解釈、作中人物の心理などを、発表する。</p> <p>(133 藤井 史果) 夏目漱石の『吾輩は猫である』(1章～5章)を取り上げ、随所に見え隠れする笑いの要素に着目し、本作のヒットの要因のひとつに講談や落語、噺本をはじめとする近世文芸の影響があることを解明してゆく。</p>	
	漢文学特論Ⅰ	『論語』の注釈を読む。『論語』は、日本人に昔から親しまれてきた中国古典の代表格で、高校の教科書にもよく取り上げられる。この授業では、『論語』の古注(何晏『論語集解』、『經典釋文』、邢昺『論語正義』)、新注(朱熹『論語集注』)を併せて読むことにより、論語解釈の時代による変遷を知り、訓詁学を学び、読解力を高める。この授業ではそれぞれの注釈の叙を読み、その著作目的や経緯を知るとともに、基本的な助辞が正確に訓読できるようになることを目標とする。	
	漢文学特論Ⅱ	『漢文学特論Ⅰ』に引き続き、『論語』の注釈を読む。『論語』は、日本人に昔から親しまれてきた中国古典の代表格で、高校の教科書にもよく取り上げられる。この授業では、『論語』の古注(何晏『論語集解』、『經典釋文』、邢昺『論語正義』)、新注(朱熹『論語集注』)を併せて読むことにより、論語解釈の時代による変遷を知り、訓詁学を学び、読解力を高める。この授業では学而篇から順に本文を読み進め、注釈に引かれた文献を探して検証できるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	漢文学特論Ⅲ	中国の古典詩文を、中国語を知らなくても、その原形を損なわずに日本語で読むことができる「訓読」は、翻訳法としては世界にも類を見ないものである。しかし現代の日本人にとっては、訓読は決して「わかりやすい翻訳」とはいえない難しいものになってしまい、とかく敬遠されがちである。そして高校の授業では、与えられた訓読を読むための基礎知識は一応学ぶものの、大学などでの専門的な学習の場では、自ら訓点を施して訓読を行うための体系的な教育はほとんど行われていないし、それ以前に現代中国語の学習が容易になった現在において、中国古典を学ぶのに訓読は必要か否かという根本的な問題も、いまだ決着を見ておらず、個々人の裁量に任されているのが現状である。この授業は訓読がどのようにして生まれ、発展してきたのかをたどることを通して、現在行われている訓読の基本的な技法を再確認し、漢文教育のために必要な知識を確かなものとするを旨とする。	
	漢文学特論Ⅳ	中国の古典詩文を、中国語を知らなくても、その原形を損なわずに日本語で読むことができる「訓読」は、翻訳法としては世界にも類を見ないものである。しかし現代の日本人にとっては、訓読は決して「わかりやすい翻訳」とはいえない難しいものになってしまい、とかく敬遠されがちである。そして高校の授業では、与えられた訓読を読むための基礎知識は一応学ぶものの、大学などでの専門的な学習の場では、自ら訓点を施して訓読を行うための体系的な教育はほとんど行われていないし、それ以前に現代中国語の学習が容易になった現在において、中国古典を学ぶのに訓読は必要か否かという根本的な問題も、いまだ決着を見ておらず、個々人の裁量に任されているのが現状である。この授業は「漢文学特論Ⅲ」で学習した訓読の歴史を受けて、現在行われている訓読の技法を漢文法と合わせて検討し、漢文教育のために必要な知識を確かなものとするを旨とする。	
	朝鮮言語文化特論Ⅰ	朝鮮語の歴史的な変遷について把握すると同時に、朝鮮語史上の諸問題について検討する。研究の方法論や資料の取り扱いについて概観したのち、古代朝鮮語について、音韻・語彙・表記法・形態・統語などのさまざまな角度から接近し、総合的な知見を得るとともに、それらを時代の流れの中でとらえることができるようにする。	
	朝鮮言語文化特論Ⅱ	朝鮮語の歴史的な変遷について把握すると同時に、朝鮮語史上の諸問題について検討する。中期朝鮮語、および、近世朝鮮語について、音韻・語彙・表記・形態・統語などのさまざまな角度から接近し、総合的な知見を得るとともに、それらを時代の流れの中でとらえることができるようにする。	
	朝鮮言語文化特論Ⅲ	朝鮮語の歴史的な研究においてもっとも重要な位置にある中期朝鮮語の文法体系について検討する。研究の方法論や資料の取り扱いについて概観したのち、中期朝鮮語における体言の曲用、および、用言の活用について、総合的な知見を得るとともに、朝鮮語の歴史的な研究において占める中期朝鮮語の役割について理解し、それ以前の古代朝鮮語の体系の内的再構築、また、それ以後の近世朝鮮語や現代朝鮮語の体系を考察するための足掛かりとなるようにする。	
	朝鮮言語文化特論Ⅳ	朝鮮語の歴史的な研究においてもっとも重要な位置にある中期朝鮮語の文法体系について検討する。中期朝鮮語における文法現象、および、文章構造について、総合的な知見を得るとともに、朝鮮語の歴史的な研究において占める中期朝鮮語の役割について理解し、それ以前の古代朝鮮語の体系の内的再構築、また、それ以後の近世朝鮮語や現代朝鮮語の体系を考察するための足掛かりとなるようにする。	
	朝鮮言語文化特論Ⅴ	19世紀末から20世紀初頭にかけて朝鮮半島において多種多数が刊行された廉価版小説について検討する。まず現代韓国において研究されてきた近代朝鮮の作品を概観し、文学史の流れを把握する。その上で、文学史において重要視されていないが当時流行していた作品群について把握する。富山大学附属図書館に所蔵されている大衆小説原本コレクションを調査・閲覧し、その意義について考える。	
	朝鮮言語文化特論Ⅵ	19世紀末から20世紀初頭にかけて朝鮮半島において刊行された廉価版小説について検討するために、同時期の日本やアメリカにおける大衆小説の状況を参照する。特に日本で翻案として流通していた近代アメリカ大衆小説の状況について先行研究を参照する。また同様に日本で翻案として流通していたイギリス大衆小説の研究史も参照する。その上で英語圏からの翻案小説が近代日本と近代朝鮮の大衆小説に与えた影響について検討する。	
	朝鮮言語文化特論Ⅶ	19世紀末から20世紀初頭にかけて朝鮮半島において刊行された廉価版小説には日本の小説の翻案が多数存在し、その対応関係については多くの先行研究がある。日本の大衆小説との同質性・異質性について考察するために、現代韓国における研究史の流れを把握する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	朝鮮言語文化特論Ⅶ	19世紀末から20世紀初頭にかけて朝鮮半島において刊行された廉価版小説について、作品を講読しつつ具体的に検討する。同時期の日本で流通していた英米の大衆小説の翻案物との対応関係や、日本の大衆小説との対応関係に注目しつつ論じるための資料を収集し、検討する。	
	朝鮮言語文化特論演習Ⅰ	(概要) 朝鮮語や朝鮮文化に関する文献、文学作品を講読し、朝鮮語学、朝鮮文学研究に必要な専門的知識を深める。 (89 上保 敏) 朝鮮語の歴史的な研究においてもっとも重要な位置にある中期朝鮮語の正音(ハングル)資料の講読を演習形式で行う。15世紀の仏教関係資料について、毎回異なる資料に接することにより、それぞれの資料の違いや年代の違い等に留意しつつ、その全体像についても理解する。そのうえで、工具書等を用いながら一字一句丁寧に読み進め、中期朝鮮語資料を独力で読み解くための能力を養うと同時に、当時の朝鮮語の体系について理解を深める。あわせて、影印・影照の取り扱いや工具書等の取り扱いについても学んでいく。 (114 和田 とも美) 20世紀の朝鮮における大衆小説、大衆歌謡等、大衆文芸について資料を精読し、受講者が調査し、発表する。受講生と20世紀朝鮮半島の大衆文芸について討論する。	
	朝鮮言語文化特論演習Ⅱ	(概要) 朝鮮言語文化特論演習Ⅰに引き続き、朝鮮語や朝鮮文化に関する文献、文学作品を講読し、朝鮮語学、朝鮮文学研究に必要な専門的知識を深める。 (89 上保 敏) 高麗時代～李朝時代初期に書かれた漢文加点資料(口訣資料)の講読を演習形式で行う。まず口訣資料について概観し、漢文直読資料(音読口訣資料)と漢文訓読資料(積読口訣資料)の諸特徴について学んだのち、漢文を朝鮮漢字音でもって直読した音読口訣資料について、毎回異なる資料を読み解いていく。あわせて、訓民正音創制以前の朝鮮語について調べるための方法論を身につけるとともに、当時の朝鮮語について体系化できるようにする。また、こうした作業を通じて、当時の朝鮮人による漢文学習の在り方についても、理解を深めていく。 (114 和田 とも美) 20世紀の朝鮮における大衆小説、大衆歌謡等、大衆文芸について20世紀朝鮮半島の大衆文芸について受講生がテーマを決めて発表する。受講生の関心に合致する大衆文芸に関する朝鮮語の資料を選定し、資料の背景や性格について調査しその結果について報告する。	
	朝鮮言語文化特論演習Ⅲ	(概要) 朝鮮言語文化特論演習Ⅱに引き続き、朝鮮語や朝鮮文化に関する文献、文学作品を講読し、朝鮮語学、朝鮮文学研究に必要な専門的知識を深める。 (89 上保 敏) 古代朝鮮語の資料である高麗時代～李朝時代初期に書かれた漢文加点資料(口訣資料)の講読を演習形式で行う。まず口訣資料について概観し、漢文直読資料(音読口訣資料)と漢文訓読資料(積読口訣資料)の諸特徴について学んだのち、音読口訣資料について、毎回異なる資料を読み解いていく。あわせて、訓民正音創制以前の朝鮮語について調べるための方法論を身につけるとともに、当時の朝鮮語について体系化できるようにする。 (114 和田 とも美) 20世紀の朝鮮における大衆小説、大衆歌謡等、大衆文芸について資料を精読し、受講者が調査し、発表する。受講生と20世紀朝鮮半島の大衆文芸について討論する。	
	朝鮮言語文化特論演習Ⅳ	(概要) 朝鮮言語文化特論演習Ⅲに引き続き、朝鮮語や朝鮮文化に関する文献、文学作品を講読し、朝鮮語学、朝鮮文学研究に必要な専門的知識を深める。 (89 上保 敏) 高麗時代～李朝時代初期に書かれた漢文加点資料(口訣資料)の講読を演習形式で行う。日本の漢文訓読資料に類似した積読口訣資料について、毎回異なる資料を読み解いていく。あわせて、訓民正音創制以前の朝鮮語について調べるための方法論を身につけるとともに、当時の朝鮮語について体系化できるようにする。また、こうした作業を通じて、当時の朝鮮人による漢文学習の在り方についても、理解を深めていく。 (114 和田 とも美) 20世紀朝鮮半島の大衆文芸について受講生がテーマを決めて発表する。受講生の関心に合致する大衆文芸に関する朝鮮語の資料を選定し、資料の背景や性格について調査しその結果について報告する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	中国語学特論Ⅰ	漢字には意味が複数あり、意味によって音が異なるものがある。『經典釋文』は漢字の音を示すものなので、従来音韻学で扱われることの多かった書物であるが、実際は多音字の性質を利用した意義の注釈書ともなっている。この授業では、『經典釋文』を用いて、中国語の多音字とそれを利用した意義注釈について概説する。	
	中国語学特論Ⅱ	古代の中国語学ともいえる小学は儒教の経書を読むために発達した文献学的語学である。小学を理解するためには経書に対する基本的知識が不可欠である。この授業では中国で発達した文献学的な語学を理解するために必要な経書、経学について概説する。	
	中国語学特論演習Ⅰ	漢字のバイブル『説文解字』の最も優れた注釈であるとされる段玉裁『説文解字注』を読むことで、漢字に関する基礎的な概念を学ぶとともに、漢文読解力を向上させる。 最古の部首別漢字字典、後漢許慎の『説文解字』は字書として最高の権威でもあるが、その最も優れた注として知られる段玉裁『説文解字注』は清朝考証学の優れた成果の一つである。この授業では、その書を精読することにより、清朝考証学の精華を吸収するとともに、文字学の基礎知識を身につけ、漢文読解力を向上させる。この授業では段注を読むに当たって必要とされる基礎知識（『説文解字』の版本について、『十三經注疏』阮元校勘記と段玉裁についてなど）を身に付ける。	
	中国語学特論演習Ⅱ	中国語学特論演習Ⅰに引き続き、漢字のバイブル『説文解字』の最も優れた注釈であるとされる段玉裁『説文解字注』を読むことで、漢字に関する基礎的な概念を学ぶとともに、漢文読解力を向上させる。 最古の部首別漢字字典、後漢許慎の『説文解字』は字書として最高の権威でもあるが、その最も優れた注として知られる段玉裁『説文解字注』は清朝考証学の優れた成果の一つである。この授業では、その書を精読することにより、清朝考証学の精華を吸収するとともに、文字学の基礎知識を身につけ、漢文読解力を向上させる。この授業では、『説文解字注』第十五篇の叙の注釈を読み、文字の種類や六書についての理解を深める。	
	中国語学特論演習Ⅲ	中国語学特論演習Ⅱに続き、漢字のバイブル『説文解字』の最も優れた注釈であるとされる段玉裁『説文解字注』を読むことで、漢字に関する基礎的な概念を学ぶとともに、漢文読解力を向上させる。最古の部首別漢字字典、後漢許慎の『説文解字』は字書として最高の権威でもあるが、その最も優れた注として知られる段玉裁『説文解字注』は清朝考証学の優れた成果の一つである。この授業では、その書を精読することにより、清朝考証学の精華を吸収するとともに、文字学の基礎知識を身につけ、漢文読解力を向上させる。この授業では、『説文解字注』の凡例に当たる一篇上一部～示部にかけての部分じっくり読み込み、段玉裁の理解するところの許慎の文字説解法を知る。	
	中国語学特論演習Ⅳ	中国語学特論演習Ⅲに続き、漢字のバイブル『説文解字』の最も優れた注釈であるとされる段玉裁『説文解字注』を読むことで、漢字に関する基礎的な概念を学ぶとともに、漢文読解力を向上させる。最古の部首別漢字字典、後漢許慎の『説文解字』は字書として最高の権威でもあるが、その最も優れた注として知られる段玉裁『説文解字注』は清朝考証学の優れた成果の一つである。この授業では、その書を精読することにより、清朝考証学の精華を吸収するとともに、文字学の基礎知識を身につけ、漢文読解力を向上させる。この授業では、また『訓詁説文解字注』の訳注の出版されていない『説文解字注』第十四篇の注釈を読み、自分で力で正確に読み、出典を調べ、訳注を作ることを目的とする。	
	中国文学特論Ⅰ	経書や諸子百家をはじめとする中国古代の文献資料は、主に中国古代史や中国思想の資料として読まれるものであり、文学作品として読まれることは比較的少ないものであった。これらを文学の観点から眺めてみると、どのような読み方が可能であろうか。この授業では古代文学のありようについて考えることを目的とする。	
	中国文学特論Ⅱ	今日の我々は、正確な世界地図やマスメディアによって、世界の全容を手軽に認識できる。ではごく限られた情報しかなかった古代中国において、人々は「世界」をどのようなものと捉え、それをどう表現してきたのであろうか。この授業では先秦の文学作品や地理書を通して、古代中国人の世界観を探り、その文学や思想への影響を考える。	
	中国文学特論Ⅲ	この授業では、1917年の文学革命から1949年の中華人民共和国の建国までの文学である中国現代文学史の諸問題について、代表的な作家の事跡と小説を紹介することによって、分析・検討を行う。対象となる作家は、魯迅、郁達夫、茅盾を予定している。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	中国文学特論Ⅳ	この授業では、1917年の文学革命から1949年の中華人民共和国の建国までの文学である中国現代文学史の諸問題について、代表的な作家の事跡と小説を紹介することによって、分析・検討を行う。対象となる作家は、王統照、老舍、沈從文を予定している。	
	中国文学特論Ⅴ	この授業では、1917年の文学革命から1949年の中華人民共和国の建国までの文学である中国現代文学史の諸問題について、代表的な作家の事跡と小説を紹介することによって、分析・検討を行う。対象となる作家は、巴金、錢鍾書、路翎を予定している。	
	中国文学特論Ⅵ	この授業では、1917年の文学革命から1949年の中華人民共和国の建国までの文学である中国現代文学史の諸問題について、代表的な作家の事跡と小説を紹介することによって、分析・検討を行う。対象となる作家は、蔣光慈、柔石、胡也頻を予定している。	
	中国文学特論Ⅶ	本講義では、従来の研究史を整理した上で、各研究史を分析する。政治・社会的状況と切り離しては考えられにくい中国近代文学を、これまでの研究史を紐解きながら、イデオロギー等に束縛されない自由な立場から、今ある我々の視点でもって再検討する。	
	中国文学特論Ⅷ	中国文学特論Ⅶに引き続き、従来の研究史状況を整理した上で、各研究史を分析する。本講義では、政治・社会的状況と切り離しては考えられにくい中国現代文学を、これまでの研究史を紐解きながら、イデオロギー等に束縛されない自由な立場から、今ある我々の視点でもって再検討する。	
	中国文学特論Ⅸ	本講義では、これまでの研究手法を整理し、地域に注目し、最新の研究手法のあり方を探求する。政治・社会的状況と切り離しては考えられにくい中国近現代文学を、これまでの研究史を紐解きながら、イデオロギー等に束縛されない自由な立場から、今ある我々の視点でもって再検討する。	
	中国文学特論Ⅹ	中国文学特論Ⅸに引き続き、これまでの研究手法を整理し、最新の研究手法のあり方を探求する。本講義では、政治・社会的状況と切り離しては考えられにくい中国近現代文学について、これまでの研究史を紐解きながら、イデオロギー等に束縛されない自由な立場から、今ある我々の視点でもって再検討してみる。	
	中国文学特論演習Ⅰ	(概要) 中国文学に関する論文や作品自体を講読し、中国文学研究に必要な専門的知識を涵養する。 (14 大野 圭介) この授業は『[β 亥]余叢考』を精読することにより、清朝考証学の議論の文に慣れるとともに、古典の背景としての知識を広め深める (25 齊藤 大紀) 中国現代文学の代表的な作品を精読することを通し、作品分析の方法を学ぶ。本授業では、魯迅の「孔乙己」を講読し、作家の個人的な経歴、当時の思想的・社会的背景、さまざまな周辺資料も視野に入れながら、読解を進める。またの初版本の比較検討を通して、中国現代文学におけるテキスト・クリティックの問題についても検討する。あわせて、修士論文の執筆に必要な、辞書、事典、雑誌目録などの工具書の使用方法も学修する。 (112 梁 有紀) 台湾・香港・大陸をはじめとする中国語圏を視野に入れながら、二十世紀以降の中国文学の流派検討を試み、既成の文学史を再考する一助とする。 作品分析をおこない、西洋と日本、中国との関わりの中での上海文学の位置づけを考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目 人文科学系	中国文学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 中国文学特論演習Ⅰに引き続き、中国文学に関する論文や作品自体を講読し、中国文学研究に必要な専門的知識を涵養する。</p> <p>(14 大野 圭介) 中国文学特論演習Ⅰに引き続き、『[β亥]余叢考』を精読することにより、清朝考証学の議論の文に慣れるとともに、古典の背景としての知識を広め深める。</p> <p>(25 齊藤 大紀) 中国文学特論演習Ⅰに引き続き、中国現代文学の代表的な作品を精読することを通し、作品分析の方法を学ぶ。本演習では、郁達夫「沈痛」を講読し、作家の個人的な経歴、当時の思想的・社会的背景、さまざまな周辺資料も視野に入れながら、作品分析を行う。</p> <p>(112 梁 有紀) 台湾・香港・大陸をはじめとする中国語圏を視野に入れながら、二十世紀以降の中国文学の流派検討を試み、既成の文学史を再考する一助とする。 作品分析をおこない、西洋と日本、中国との関わりの中での上海文学の位置づけを考えていく。</p>	
	中国文学特論演習Ⅱ	<p>(概要) 中国文学特論演習Ⅱに引き続き、中国文学に関する論文や作品自体を講読し、中国文学研究に必要な専門的知識を涵養する。</p> <p>(14 大野 圭介) 中国文学特論演習Ⅰに引き続き、『[β亥]余叢考』を精読することにより、清朝考証学の議論の文に慣れるとともに、古典の背景としての知識を広め深める。</p> <p>(25 齊藤 大紀) 中国文学特論演習Ⅱに引き続き、中国現代文学の代表的な作品を精読することを通し、作品分析の方法を学ぶ。本演習では、郁達夫「沈淪」を講読し、作家の個人的な経歴、当時の思想的・社会的背景、さまざまな周辺資料も視野に入れながら、作品分析を行う。</p> <p>(112 梁 有紀) 台湾・香港・大陸をはじめとする中国語圏を視野に入れながら、二十世紀以降の中国文学の流派検討を試み、既成の文学史を再考する一助とする。 台湾文学の作品分析をおこない、日本と中国大陸との関わりの中での台湾文学の位置づけを考えていく。</p>	
	中国文学特論演習Ⅲ	<p>(概要) 中国文学特論演習Ⅱに引き続き、中国文学に関する論文や作品自体を講読し、中国文学研究に必要な専門的知識を涵養する。</p> <p>(14 大野 圭介) 『日本国志』から学術に関する章を選んで精読することにより、黄遵憲が日本の学術についてどのように考えていたのかを知るとともに、清末の文に慣れることを目的とする。</p> <p>(25 齊藤 大紀) 中国文学特論演習Ⅱに引き続き、中国現代文学の代表的な作品を精読することを通し、作品分析の方法を学ぶ。本演習では、沈從文『從文自伝』を講読し、作家の個人的な経歴、当時の思想的・社会的背景、さまざまな周辺資料も視野に入れながら、作品分析を行う。</p> <p>(112 梁 有紀) 台湾・香港・大陸をはじめとする中国語圏を視野に入れながら、二十世紀以降の中国文学の流派検討を試み、既成の文学史を再考する一助とする。 華文文学の作品分析をおこない、華文文学の位置づけを考えていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	中国文学特論演習Ⅳ	<p>(概要) 中国文学特論演習Ⅲに引き続き、中国文学に関する論文や作品自体を講読し、中国文学研究に必要な専門的知識を涵養する。</p> <p>(14 大野 圭介) 中国文学特論演習Ⅲに引き続き、『日本国志』から学術に関する章を選んで精読することにより、黄遵憲が日本の学術思想や、日本に導入された西洋の学術についてどのように考えていたのかを知るとともに、清末の文に慣れることを目的とする。</p> <p>(25 齊藤 大紀) 中国文学特論演習Ⅲに引き続き、中国現代文学の代表的な作品を精読することを通し、作品分析の方法を学ぶ。本演習では、沈從文『辺城』を講読し、作家の個人的な経歴、当時の思想的・社会的背景、さまざまな周辺資料も視野に入れながら、作品分析を行う。</p> <p>(112 梁 有紀) 台湾・香港・大陸をはじめとする中国語圏を視野に入れながら、二十世紀以降の中国文学の流派検討を試み、既成の文学史を再考する一助とする。 作品分析をおこない、イギリス(西洋)と中国との関わりの中での香港文学の位置づけを考えていく。</p>	
	英語学特論Ⅰ	項の具現化の問題を考えるために、所格交替(locative alternation)などの項の交替現象をいくつか取り上げ、語彙規則アプローチの考え方について講義する。またその前提となる概念意味論についても、必要に応じて講義する。同時に関連する主要文献を読み、この考え方を理解するとともに、問題点についても議論する。また論文の内容を英語で要約してもらい、英語による論文執筆の練習も行う。	
	英語学特論Ⅱ	構文文法理論(Construction Grammar)に関する主要文献を読み解説する。近年の語彙意味論研究では、構文文法理論が注目されているが研究者によって複数の考え方が存在する。この授業ではGoldberg(1995)流の構文文法とIwata(2008)流の語彙・構文文法アプローチを取り上げ、両者の考え方の共通点と相違点について講義する。また論文の内容を英語で要約してもらい、英語による論文執筆の練習も行う。	
	英語学特論Ⅲ	フレーム意味論(Frame Semantics)に関する論文を読み、言語分析でどのように適用できるか解説する。フレームとはある語彙を理解するのに必要とされる背景知識のことであり、構文文法理論とも密接に関連し、語彙意味論研究では非常に重要となる。二重目的語構文を取り上げ、Nemoto(1998)の分析を中心にフレーム意味論に基づく分析手法を身につけると同時に、論文を批判的に読む技術も身につける。また論文の内容を英語で要約してもらい、英語による論文執筆の練習も行う。	
	英語学特論Ⅳ	語彙意味論に関する複数の論文を読み、動詞と構文の関係について講義する。取り上げる現象は所格交替(locative alternation)と結果構文(resultative construction)である。動詞がこれらの現象に生起できるかどうかは、動詞の意味と構文の意味で決まるが、この関係は一枚岩ではない。これを明らかにするには動詞の意味を詳細に分析し、その意味を精緻に特徴づける必要がある。また論文の内容を英語で要約してもらい、英語による論文執筆の練習も行う。	
	英語学特論演習Ⅰ	特定のテーマについて発表してもらい、議論の方法や検証方法を身につける。学生には計2回発表してもらい、また英語学の議論の方法や書き方を学ぶため、語彙意味論に関する論文を精読する。取り上げる論文は、非対格動詞と自他交替(Causative Alternation)に関するもので、語彙規則アプローチによる分析と考え方を学ぶ。	
	英語学特論演習Ⅱ	特定のテーマについて発表してもらい、議論の方法や検証方法を身につける。学生には計2回発表してもらい、また英語学の議論の方法や書き方を学ぶため、語彙意味論に関する論文を精読する。取り上げる論文は、自他交替(Causative Alternation)に関するもので、項の交替現象に談話的要因がどのように関わってくるか考察する。英語学特論演習Ⅰを受講していれば、同じ現象に関する異なった分析方法を学ぶことで、この現象を多角的に分析することが可能になる。	
	英語学特論演習Ⅲ	特定のテーマについて発表してもらい、議論の方法や検証方法を身につける。学生には計2回発表してもらい、また英語学の議論の方法や書き方を学ぶため、語彙意味論に関する文献を精読する。文献としては、認知文法の入門書を取り上げ、特に基本的な概念や専門用語について解説し、その考え方に習熟してもらい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	英語学特論演習Ⅳ	特定のテーマについて発表してもらい、議論の方法や検証方法を身につける。学生には計2回発表してもらおう。また英語学の議論の方法や書き方を学ぶため、語彙意味論に関する文献を精読する。文献としては、認知文法の入門書を取り上げ、Langacker流のconstructionsの考え方に習熟してもらおう。	
	英語文学特論Ⅰ	この授業は、男性中心社会において、女性たちが創作を行うことに向き合い、何を書いたのか、それが文学史においてどのような意味をもつのかについて、理解することを目的とする。ジェンダーやフェミニズムについて理解を深め、創作において女性作家たちが経験したことを概観した上で、主に19世紀までの女性作家たちとその作品について考察を進める。授業は講義形態とし、英語で書かれた教科書を用いることで、英語の原文から知識を得る力も養成する。	
	英語文学特論Ⅱ	この授業は、男性中心社会において、女性たちが創作を行うことに向き合い、何を書いたのか、それが英文学史においてどのような意味をもつのかを理解することを目的とする。主に19世紀以降の女性作家たちとその作品について理解を深め、また、関連する批評等も取り上げて、女性文学をいかに理解すべきか考察し、女性文学の歴史を概観する。授業は講義形態とし、英語の原文から知識を得る力も養成する。	
	英語文学特論演習Ⅰ	この授業では、英語で書かれた女性作家の小説一作品を精読し、女性作家が創作をめぐって何を体験し、何を書いたのか、それが女性文学の歴史に照らしたときにどのような意味をもち、社会の変化とどのように関わっているのかを考察する。具体的には、Anita BrooknerのHotel du Lacの前半を精読し、作家と作品について理解を深め、他の作家の作品との比較や関連する批評なども交えながら、Brookner独自の視点を明らかにする。授業は演習形態とし、作品や批評を英語の原文で理解する力を養成することも目的とする。	
	英語文学特論演習Ⅱ	この授業では、英語で書かれた女性作家の小説一作品を精読し、女性作家が創作をめぐって何を体験し、何を書いたのか、それが女性文学の歴史に照らしたときにどのような意味をもち、社会の変化とどのように関わっているのかを考察する。具体的には、Anita BrooknerのHotel du Lacの後半を精読し、作家と作品について理解を深め、他の作家の作品との比較や関連する批評なども交えながら、Brookner独自の視点を明らかにする。最終的に、Brooknerを女性文学の歴史にどのように位置づけられるのかを検討する。授業は演習形態とし、作品や批評を英語の原文で理解する力を養成することも目的とする。	
	英文学特論Ⅰ	イギリスの17世紀までの代表的な文学作品のいくつかの抜粋を読み、併せて作品やテーマ等に関連する文献資料を探して読むことで、作品の理解を深めるとともに、文学における英語表現を理解する。また、英語圏および西洋文化をより深く理解し、イギリスの文学、文化や歴史について基礎的な知識を習得し、中学校・高等学校の外国語の授業に資する。	
	英文学特論Ⅱ	イギリスの18世紀以降の代表的な文学作品のいくつかの抜粋を読み、併せて作品やテーマ等に関連する文献資料を探して読むことで、作品の理解を深めるとともに、文学における英語表現を理解する。また、英語圏および西洋文化をより深く理解し、イギリスの文学、文化や歴史について基礎的な知識を習得し、中学校・高等学校の外国語の授業に資する。	
	英文学特論演習Ⅰ	文学を中心とする言語文化を理解するにあたり、とくに英米文学を通じて文学作品の特質および英米文化を考察することを目標とする。また英語という言語の特質をより深く理解し、英語の運用能力を高めることも目指す。 英米の文学作品や関連する資料の講読を通して、様々なジャンルや文体を理解するとともに、特定の作品を取り上げて、その作品の構造、キャラクター、イメージ、時代との関連、現代に通じるテーマなどを、関連する文献資料等と併せて分析する。	
	英文学特論演習Ⅱ	英文学特論演習Ⅰに引き続き、英米の文学作品や関連する資料の講読を通して、様々なジャンルや文体を理解するとともに、特定の作品を取り上げて、その作品の構造、キャラクター、イメージ、時代との関連、現代に通じるテーマなどを、関連する文献資料等と併せて分析し、言語文化を理解するために、英米文学を通じて文学作品の特質および英米文化を考察する。	
	イギリス言語文化特論Ⅰ	百年前のアイルランドは、イギリスの植民地であり、政治的にも経済的にもイギリスの支配を受けていた。そのような折、国家独立の役割を果たしたのが文学であった。そのため、この時代の文学運動を評して、「アイルランド文芸復興運動」と呼ばれている。本講義では、W. B. イェイツの作品を講読し、時代と文学の関わりを考察したい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	イギリス言語文化特論Ⅱ	百年前のアイルランドは、イギリスの植民地であり、政治的にも経済的にもイギリスの支配を受けていた。そのような折、国家独立の役割を果たしたのが文学であった。そのため、この時代の文学運動を評して、「アイルランド文芸復興運動」と呼ばれている。本講義では、イギリス言語文化特論Ⅰに引き続きW. B. イェイツの作品を講読するほか、J. M. シングの作品を講読し、時代と文学の関わりを考察したい。	
	イギリス言語文化特論Ⅲ	百年前のアイルランドは、イギリスの植民地であり、政治的にも経済的にもイギリスの支配を受けていた。そのような折、国家独立の役割を果たしたのが文学であった。そのため、この時代の文学運動を評して、「アイルランド文芸復興運動」と呼ばれている。本講義では、レイディ・グレゴリーやジョージ・ムア、ジェイムズ・ジョイスの作品を講読し、時代と文学の関わりを考察したい。	
	イギリス言語文化特論Ⅳ	イギリス小説の著名なJane AustenのPride and Prejudiceを読み、その背景となる事情も考慮し、当時の結婚事情を読み解きたい。女性の地位についてのフェミニスト的な思想も生まれつつあった時代でありながら、女性はいまだ家庭に束縛され、個人としての尊厳についても考えさせてくれる。現代的な視点で読みたい。そのため、この作品の後日談や現代の女性の意識なども考慮したい。物語の流れに即して進行しつつも、主要なテーマを取りあげたい。	
	イギリス言語文化特論Ⅴ	イギリス文学研究において重要な意味を持つ20世紀の代表的な批評理論を概観する。それぞれのアプローチの独自性を同定し、その考察をイギリス文学の個々の作品や作家研究の実践へと再び関連づけることを目指す。この授業では文学作品自体の分析に重点を置くフォーマリスト・アプローチのうち、おもにニュークリティシズムを取り扱う。	
	イギリス言語文化特論Ⅵ	イギリス文学研究において重要な意味を持つ20世紀の代表的な批評理論を概観する。それぞれのアプローチの独自性を同定し、その考察をイギリス文学の個々の作品や作家研究の実践へと再び関連づけることを目指す。この授業では構造主義的アプローチをおもに取り上げる。	
	イギリス言語文化特論Ⅶ	イギリス文学研究において重要な意味を持つ20世紀の代表的な批評理論を概観する。それぞれのアプローチの独自性を同定し、その考察をイギリス文学の個々の作品や作家研究の実践へと再び関連づけることを目指す。この授業では受容理論、ポスト構造主義、精神分析の各アプローチを取り上げる。	
	イギリス言語文化特論Ⅷ	イギリス文学研究において重要な意味を持つ20世紀の代表的な批評理論を概観する。それぞれのアプローチの独自性を同定し、その考察をイギリス文学の個々の作品や作家研究の実践へと再び関連づけることを目指す。この授業では歴史主義の視座から、マルクス主義、新歴史主義、ジェンダー研究、ポスト・コロニアリズムの各アプローチを取り上げる	
	イギリス言語文化特論演習Ⅰ	(概要) イギリス文学作品を講読し、発表、討論を通じ、学術活動にふさわしい専門知識の習得や研究方法、調査方法を涵養する。 (110 結城 史郎) 文学作品は読者次第で、また時代を異にすることで、違った解釈ができる。そのことを理解するとき、「現代を生きるわたしたち」の視点を再考する必要がある。受け身で作品を読むのではなく、批判的に、時とすると斬新な解釈を試みることも必要である。そのため、GrimmやLafcadio Hearnなどの作品をとりあげ、物語やコンテキストを学び、これまでの解釈に対抗する批判的な精神を養うことを目標とする。 (40 恒川 正巳) イアン・マキューアンの代表作Atonement の前半部分を主たる対象とし、1960年代以降の現代イギリス小説の特質を考察し、とくにメタフィクション的要素を理解する。	
	イギリス言語文化特論演習Ⅱ	(概要) イギリス文学作品を講読し、発表、討論を通じ、学術活動にふさわしい専門知識の習得や研究方法、調査方法を涵養する。 (110 結城 史郎) イギリス言語文化特論演習Ⅰに引き続き、Virginia WoolfやMichael Cunninghamなどの作品をとりあげ、物語やコンテキストを学び、これまでの解釈に対抗する批判的な精神を養うことを目標とする。 (40 恒川 正巳) イギリス言語文化特論演習Ⅰに引き続き、イアン・マキューアンの代表作Atonement の後半部分を主たる対象とし、1960年代以降の現代イギリス小説の特質を考察し、とくにメタフィクション的要素を理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	イギリス言語文化特論演習Ⅲ	<p>(概要) イギリス文学作品を講読し、発表、討論を通じ、学術活動にふさわしい専門知識の習得や研究方法、調査方法を涵養する。</p> <p>(110 結城 史郎) イギリス言語文化特論演習Ⅱに引き続き、Joseph ConradやEmily Brontëなどの作品をとりあげ、物語やコンテキストを学び、これまでの解釈に対抗する批判的な精神を養うことを目標とする。</p> <p>(40 恒川 正巳) イアン・マキューアンの代表作Sweet Tooth の前半部分を主たる対象とし、1960年代以降の現代イギリス小説の特質を考察し、とくにメタフィクション的要素を理解する。</p>	
	イギリス言語文化特論演習Ⅳ	<p>(概要) イギリス文学作品を講読し、発表、討論を通じ、学術活動にふさわしい専門知識の習得や研究方法、調査方法を涵養する。</p> <p>(110 結城 史郎) 19世紀末に活躍したアイルランド出身の作家Oscar Wilde (1854-1900)の作品を読み、世紀末の文学的動向やWildeが悲劇的な最期を迎えることになった社会事情を検討する。</p> <p>(40 恒川 正巳) イギリス言語文化特論演習Ⅰに引き続き、イアン・マキューアンの代表作Atonement の後半部分を主たる対象とし、1960年代以降の現代イギリス小説の特質を考察し、とくにメタフィクション的要素を理解する。</p>	
	アメリカ文化特論Ⅰ	<p>植民地時代からアメリカ建国期の知識人、思想、文化事象に関する英語文献や文学作品を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、アメリカの歴史や社会、そしてアメリカ文化、思想、多様性がどのように育まれ形成されたのか、そのプロセスについて学ぶとともに現状とその課題について考える。本講義では、ベンジャミン・フランクリンを中心に取り上げる。また留学生との英語でのディスカッションを通じて、文化の多様性を知るとともに異文化交流の意義を理解する。</p>	
	アメリカ文化特論Ⅱ	<p>植民地時代からアメリカ建国期の知識人、思想、文化事象に関する英語文献や文学作品を読んだり、映像を視聴したりすることを通して、アメリカの歴史や社会、そしてアメリカ文化、思想、多様性がどのように育まれ形成されたのか、そのプロセスについて学ぶとともに現状とその課題について考える。本講義では、トマス・ジェファソンを主に取り上げる。また留学生との英語でのディスカッションを通じて、文化の多様性を知るとともに異文化交流の意義を理解する。</p>	
	アメリカ文化特論演習Ⅰ	<p>アメリカ映画やアメリカ文学作品で描かれる様々な人種に焦点をあて、多様な人種が共存する現代アメリカ社会が抱える問題について、特に異文化、多様性、マイノリティ、差別をキーワードにそれらがこれまでどのように描かれてきたのか、描かれているのかを異文化理解、異文化コミュニケーションの視点および枠組みから考察する。</p>	
	アメリカ文化特論演習Ⅱ	<p>アメリカ文化特論演習Ⅰに引き続き、多様な人種が共存する現代アメリカ社会が抱える問題について、特に異文化、多様性、マイノリティ、差別をキーワードにそれらがこれまでどのように描かれてきたのか、描かれているのかを異文化理解、異文化コミュニケーションの視点および枠組みから考察する。映像視聴やグループ・ディスカッション、留学生を交えたディスカッション、専門英語文献の講読を通じて、さらなる専門的知識を深める。</p>	
	アメリカ言語文化特論Ⅰ	<p>この授業の目標は、アメリカ合衆国の黒人奴隷が著わしたスレイブ・ナラティブ(奴隷体験記、逃亡記)の作品を講読し、講義を受けて、このジャンルの概要、作品出版の社会背景及び歴史的意義について理解することである。授業の最後に、スレイブ・ナラティブに関する論文を執筆することも目標となる。毎回の授業では、ソロモン・ノーサップ著『12イヤーズ・ア・スレーブ』とハリエット・ジェイコブズ著『ハリエット・ジェイコブズ自伝』を原書講読する。また、これらの作品の特徴と、作品が出版された歴史的背景、及び作品が当時の社会に与えた影響について、先行研究を紹介しつつ講義を進める。受講生は各自でさらに参考文献リサーチを進め、独自の視点で学期末提出物(日本語論文)を作成、提出する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	アメリカ言語文化特論Ⅱ	この授業の目標は、19世紀のアメリカ合衆国で流行した大衆劇 minstrel・ショーについて、その概要と歴史的背景を理解することである。学期末に、minstrel・ショーに関する論文を執筆することも目標となる。毎回の授業では、ウエルズ恵子編『minstrel・ショーと音楽』、赤尾著『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』その他の資料を講読して、minstrel・ショーの基礎知識を得る。さらに、minstrel・ショーに登場するステレオタイプの黒人キャラクターとショーの歴史的・社会的背景について、教員による先行研究の紹介と講義を聞いて考察を進める。受講生は各自でさらに参考文献リサーチを進め、先行研究と講義を踏まえた上で独自の視点から期末提出物（日本語論文）を作成する。	
	アメリカ言語文化特論Ⅲ	この授業の目標は、フィリス・ホイートリーの詩を講読し、講義を受けて、作品とその社会背景・歴史的意義について理解することである。学期末に論文を執筆することも目標となる。毎回の授業では、アフリカから拉致されボストンで奴隷の詩人として活動したホイートリーのプロフィールと作品を検討していく。作品が出版された歴史的背景と作品が当時の社会に与えた影響について、教員は先行研究を紹介しつつ講義を進める。受講生は各自でさらに参考文献をリサーチし、学期末に提出	
	アメリカ言語文化特論Ⅳ	この授業の目標は、アメリカ黒人女性によるウーマニズム小説を講読し、講義を受けて、このジャンルの概要と社会背景、歴史的意義を理解することである。学期末に、ウーマニズム小説に関して英語論文を執筆することも目標となる。毎回の授業では、ウーマニズム文学の代表作として知られる、アリス・ウォーカーの小説『カラー・パープル』を原書講読する。教員は、この作品の特徴と、作品が出版された歴史的背景、及び作品が当時の社会に与えた影響について、先行研究を紹介しつつ講義を進める。受講生は各自でさらに参考文献リサーチを進め、独自の視点で学期末提出物（英語論文）を作成、提出する。	
	アメリカ言語文化特論Ⅴ	ユダヤ系文学の創成期の作品を読みながら、英語力・作品読解力を高めると共に、その背景となるアメリカの社会や歴史、ユダヤ民族の特異性についても学ぶ。具体的には、主にAnzia Yezierska (1885?-1970)の長編The Bread Givers (1925)の前半を扱い、19世紀後半頃のユダヤ移民の成功と苦悩について理解を深める。	
	アメリカ言語文化特論Ⅵ	ユダヤ系文学の創成期の作品を読みながら、英語力・作品読解力を高めると共に、その背景となるアメリカの社会や歴史、ユダヤ民族の特異性についても学ぶ。具体的には、主にAnzia Yezierska (1885?-1970)の長編The Bread Givers (1925)の後半を扱い、19世紀後半頃のユダヤ移民の成功と苦悩について理解を深める。	
	アメリカ言語文化特論Ⅶ	ユダヤ系アメリカ文学の最盛期といわれる第二次世界大戦以降の作品を読みながら、英語力・作品読解力を高めると共に、その背景となるアメリカの社会や歴史、ユダヤ民族の特異性についても学ぶ。具体的には、移民第2世代の作家Bernard Malamud (1914年-1986)の短編“The Magic Barrel”“Angel Levine”“The Jewbird”の3作品を扱い、民族的アイデンティティの問題を探る。	
	アメリカ言語文化特論Ⅷ	ユダヤ系アメリカ文学の最盛期といわれる第二次世界大戦以降の作品を読みながら、英語力・作品読解力を高めると共に、その背景となるアメリカの社会や歴史、ユダヤ民族の特異性についても学ぶ。ユダヤ系アメリカ人として初のノーベル文学賞作家Saul Bellow (1915-2005)の“Looking for Mr. Green” (1968)などの短編を読み、20世紀の現代文明におけるヒューマニズムと自己探求の問題を探る。	
	アメリカ言語文化特論演習Ⅰ	(概要) 文学作品、映像作品を取り上げ、作品自体や批評を講読することにより、作品の背景となった当時のアメリカにおける社会文化等についても考察する。 (3 赤尾 千波) この授業の目標は、アリス・ウォーカーの小説『カラー・パープル』（ウーマニズム文学の代表作）について演習形式で検討し、参考文献リサーチ、分析ポイントの取り方から研究発表の実際までを学んでいくことである。演習最終回に、学会発表形式に則って、受講生各々が20分程度の口頭発表をすることも目標となる。各受講生は授業前に小説『カラー・パープル』を原書講読し、参考文献資料リサーチも進める。授業においては、ウォーカーの提唱したウーマニズムの思想が作品のどの部分に認められるかを発表し、討論をする。同時に、教員による講義と先行研究の紹介を聴き、ウーマニズムの思想について理解を深める。最終回には、講義、文献リサーチ、授業の討論で分かったことを踏まえて、「『カラー・パープル』に見るウーマニズムの思想」というタイトルで20分程度の口頭発表をする。 (117 秋田 万里子) 作品の中でユダヤ性を前面に押し出すことが少なかった作家J. D. Salinger (1919-2010)の短編集Nine Stories (1953)を扱い、その独自性を探る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	アメリカ言語文化特論演習Ⅱ	<p>(概要) アメリカ言語文化特論演習Ⅰに引き続き、文学作品、映像作品を取り上げ、作品自体や批評を講読することにより、作品の背景となった当時のアメリカにおける社会文化等についても考察する。</p> <p>(3 赤尾 千波) この授業の目標は、ブラック・フェミニズム文学の代表作のひとつ、ヌトザキ・シャンゲの舞踏詩『フォー・カラード・ガールズ』を演習形式で講読し、同作品の映画版『フォー・カラード・ガールズ』と比較検証することである。参考文献リサーチ法から、分析ポイントの取り方、研究発表の仕方、研究論文の書き方までを学ぶ。特に原作とその映画版の比較研究をする際のテクニックを習得する。文献リサーチでは、両作品の歴史的背景を調べると同時に、作品論の先行研究について調べる。授業では、受講者は事前に原作を講読し、かつ相当する映画の場面を視聴しておく。毎回の授業で原作と映画を比較し、各々自由に違いを指摘し、その理由を分析し、討論する。各自のリサーチ及び教員による講義に基づき、原作の舞踏詩がブラック・フェミニズム思想に根ざす内容であるのに対し、映画版は通常のハリウッド娯楽映画として黒人ステレオタイプを多数登場させていることを理解していく。最終回には、講義内容と先行研究リサーチを踏まえた上で、独自の視点から20分程度の口頭発表を行う。また、期末論文(日本語または英語)としてまとめる。</p> <p>(117 秋田 万里子) 移民第3世代の作家ユダヤ系アメリカ人 Philip Roth (1933-2018) の短編『The Conversion of the Jews』(1958)などを扱い、ユダヤ人自身によるユダヤ教やユダヤ共同体への懐疑の問題を掘り下げる。</p>	
	アメリカ言語文化特論演習Ⅲ	<p>(概要) アメリカ言語文化特論演習Ⅱに引き続き、文学作品、映像作品を取り上げ、作品自体や批評を講読することにより、作品の背景となった当時のアメリカにおける社会文化等についても考察する。</p> <p>(3 赤尾 千波) この授業では、ネオ・スレイブ・ナラティブについて演習形式で理解して行くことを目標とする。文献リサーチの仕方、研究発表テーマの決定、口頭発表と論文の書き方の基礎を学ぶことも目標となる。受講生は、ネオ・スレイブ・ナラティブの代表作であるオクテイビア・バトラーの小説『キンドレッド』とトニ・モリソンの小説『ピラブド』のどちらかを選ぶ。毎回の授業準備として、受講者は、作品を原書講読し、ネオ・スレイブ・ナラティブの特徴について確認しておく。また、文献リサーチをし、作品の歴史的背景と作品の社会に与えた影響について調べておく。授業では、作品の意義と歴史的背景について自由に発表し、討論をする。最終回には、テーマを決めて学会発表形式に則って20分程度の口頭発表を行い、かつその内容を期末論文(日本語または英語)にまとめる。</p> <p>(117 秋田 万里子) 移民第3世代のユダヤ系アメリカ人女性作家Cynthia Ozick (1928-) の短編集『The Shawl』(1989)を扱い、ホロコーストの実態およびその生存者のその後の人生について理解を深める。</p>	
	アメリカ言語文化特論演習Ⅳ	<p>(概要) アメリカ言語文化特論演習Ⅲに引き続き、文学作品、映像作品を取り上げ、作品自体や批評を講読することにより、作品の背景となった当時のアメリカにおける社会文化等についても考察する。</p> <p>(3 赤尾 千波) この授業の目標は、アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプについて、演習形式で考察することである。文献リサーチ、研究テーマの決定、研究発表から論文執筆までの流れを学んでいく。受講生は、映画『パンプーズルド』『トレーニングデイ』『チョコレート』『風と共に去りぬ』の中から一つを選ぶ。授業準備として、各受講生は図書館所蔵のDVDで作品を見て、テキスト『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ』を参考に、分析ポイントを考える。また、先行研究のリサーチをする。毎回の授業では、先行研究を紹介しつつ、作品に登場する黒人ステレオタイプと歴史的背景、そのような黒人像を提示することの問題点について発表し、討論する。最終回には、授業で学んだこと及び先行研究を踏まえ、独自の視点から20分程度の口頭発表(英語)を行い、かつ、口頭発表内容をまとめた英語論文を作成する。</p> <p>(117 秋田 万里子) ポストモダン作家といわれるユダヤ系アメリカ人作家 Paul Auster (1947-) の初期のミステリー風作品群「ニューヨーク三部作」City of Glass (1985)、Ghosts (1986)、The Locked Room (1986)を扱い、自己と他者をめぐる問題を探る。比較的若い作家に着目することで、ユダヤ系アメリカ文学の新たな潮流を探ることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	ドイツ言語文化特論Ⅰ	ドイツ語の動詞と統語構造および文の意味構造に関するテーマについて学びつつ、ドイツ語学の問題を分析・批判する能力を養う。移動動詞を取り上げ、文の意味構造、統語構造、動詞の意味の関係を実際に分析・記述した事例を示す。同時にこの研究方法について理論的な検討を行い、問題を理解する力、批判する力を身につける。教員が講義し、質疑応答を行うという形で進める。毎回、扱ったテーマに関連する小課題を課し、次の授業で各受講者に課題について報告してもらい、検討する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅱ	ドイツ語の動詞と統語構造および文の意味構造に関して学ぶとともに、ドイツ語学の問題を分析・批判する能力を養う。分離動詞、非分離動詞を取り上げ、文の意味構造、統語構造、動詞の意味の関係を実際に分析・記述した事例を示す。同時にこの研究方法について理論的な検討を行い、問題を理解する力、批判する力を身につける。教員が講義し、質疑応答を行うという形で進める。毎回、扱ったテーマに関連する小課題を課し、次の授業で各受講者に課題について報告してもらい、検討する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅲ	ドイツ語学におけるコーパスを使った言語研究について、講義を行う。コーパス言語学の概要および基本的な用語等を確認し、コーパス以前のドイツ語研究とコーパス以後の研究の変化、コーパスの歴史的な発達および現在のドイツ語におけるコーパス言語学の動向について学ぶ。教員が講義し、質疑応答を行うという形で進める。毎回、扱ったテーマに関連する小課題を課し、次の授業で各受講者に課題について報告してもらい、議論する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅳ	ドイツ語学におけるコーパスを使った言語研究について、講義を行う。コーパスを使用した語彙、コロケーションの頻度分析および頻度による語義分析等の研究を対象とし、コーパス導入以前の場合と比較しつつ、その特徴を述べ、学習面への応用的観点からの課題を取り上げる。教員が講義し、質疑応答を行うという形で進める。毎回、扱ったテーマに関連する小課題を課し、次の授業で各受講者に課題について報告してもらい、全員で検討する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅴ	ドイツ語史関連の比較的新しい研究成果を含む図書、論文を講読して、受講者の関心の所在を明確にすることに努め、また同時に各受講者が自らドイツ語史研究を行える基礎を獲得することを目指す。 この授業では、19世紀の日常ドイツ語を記述したElspass (2005): Sprachgeschichte von unten. Untersuchungen zum geschriebenen Alltagsdeutsch im 19. Jahrhundert. Tuebingen. の第4章Grammatikの前半を精読しつつ、内容についての討論を行うことでドイツ語史研究において問題となっている様々なトピックや言語現象について学修する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅵ	ドイツ言語文化特論Ⅴに引き続き、Elspass (2005): Sprachgeschichte von unten. Untersuchungen zum geschriebenen Alltagsdeutsch im 19. Jahrhundert. Tuebingen. の第4章Grammatikの後半を精読しつつ、内容についての討論を行うことでドイツ語史研究において問題となっている様々なトピックや言語現象について学修する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅶ	この授業は、ドイツ語学を専門とする受講者全員にとって必読文献であるPeter Eisenbergの講読から始める。その後、1) 受講者自らが関心をもったテーマについて書かれた学術論文を精読し、その内容について授業で発表する、2) そしてその後で、受講者全員で問題点などについて議論する。	
	ドイツ言語文化特論Ⅷ	ドイツ言語文化特論Ⅶに引き続き、Peter Eisenbergを講読する。その後、1) 受講者自らが関心をもったテーマについて書かれた学術論文を精読し、その内容について授業で発表する、2) そしてその後で、受講者全員で問題点などについて議論する。	
	ドイツ言語文化特論演習Ⅰ	(概要) ドイツ語学に関する文献を講読し、ドイツ語研究に必要な専門的知識を深める。 (24 黒田 廉) ドイツ語学に関する専門文献を正確に理解する力を身につける。とくに以下の点を重視し、文献を精読していく。 ・文献の主張およびその背景にある考え方を正確に理解する。 ・ドイツ語学に関する基本的用語を理解する。 ・文献に書かれていることからの具体例を自分で考えることができる。 文献は履修者の研究テーマを考慮しつつ教員が選ぶ。履修者は、文献中で意味のわからない語および専門用語を辞書で十分に調べておき、文献の内容について毎回報告を行う。その後内容について討論を行うという形で進める。 (67 阿部 美規) 専門文献に関する60分程度の報告(内容の要約、問題点の指摘など)を行い、その後報告内容に関する質疑応答をして、最後に意見交換・討論を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	ドイツ言語文化特論演習Ⅱ	<p>(概要) ドイツ言語文化特論演習Ⅰに引き続き、ドイツ語学に関する文献を講読し、ドイツ語研究に必要な専門的知識を深める。</p> <p>(24 黒田 廉) ドイツ語学に関する専門文献を正確に読解する力を身につける。とくに以下の点を重視し、文献を精読していく。 ・文献の主張およびその背景にある考え方を正確に理解する。 ・文献で主張されていることについて、根拠を挙げつつ批判的に検討することができる。 ・自分の研究テーマに関する諸問題を知る。 文献は履修者の研究テーマを考慮しつつ教員が選ぶ。履修者は、文献中で意味のわからない語および専門用語を辞書で十分に調べておき、文献の内容について毎回報告を行う。その後内容について討論を行うという形で進めていく。</p> <p>(67 阿部 美規) ドイツ言語文化特論演習Ⅰに引き続き、専門文献に関する60分程度の報告(内容の要約、問題点の指摘など)を行い、その後報告内容に関する質疑応答をして、最後に意見交換・討論を行う。</p>	
	ドイツ言語文化特論演習Ⅲ	<p>(概要) ドイツ語学研究に関する文献を講読するほか、言語データの収集・分析を実践することにより、ドイツ語研究に必要な専門的知識を深める。</p> <p>(24 黒田 廉) コーパスにより言語データを収集し、分析する方法を実践的に学ぶ。履修者は各自テーマを設定し、実際にドイツ語の各種コーパスおよびコーパス処理ソフトウェアを使い、言語データを収集し、分析を行う。この授業ではとくにコロケーションを対象とする。最初に中心語を基礎語彙の中から選び、教員の指導の下にコロケーションをコーパスから適切に収集する方法について学ぶ。収集したコロケーションをコーパスごとと比較し、コーパスの特性についても知る。</p> <p>(67 阿部 美規) Elspass et al. (2007): Germanic Language Histories "from Below" (1700-2000). Berlin / New York. の中からドイツ語に関するものを受講者が精読してその内容をレジュメにまとめて発表し合うことで、ドイツ語史研究において問題となっている様々なトピックや言語現象についての概観を得る。</p>	
	ドイツ言語文化特論演習Ⅳ	<p>(概要) ドイツ言語文化特論演習Ⅲに引き続き、ドイツ語学研究に関する文献を講読するほか、言語データの収集・分析を実践することにより、ドイツ語研究に必要な専門的知識を深める。</p> <p>(24 黒田 廉) コーパスにより言語データを収集し、分析したデータを学習教材・辞書等に応用する方法を学ぶ。履修者は現在刊行されている学習教材、辞書などの、語の選定、語義記述、用例記述などについて、自分でテーマを設定し、語彙頻度表、コーパスなどで調査・分析を行う。結果を現行のものと比較して、問題点を指摘し、改善案を提示する。改善案について討論を行い、コーパスによる研究を学習面に応用する際の可能性と課題について検討する。</p> <p>(67 阿部 美規) ドイツ言語文化特論演習Ⅲに引き続き、Elspass et al. (2007): Germanic Language Histories "from Below" (1700-2000). Berlin / New York. の中からドイツ語に関するものを受講者が精読してその内容をレジュメにまとめて発表し合うことで、ドイツ語史研究において問題となっている様々なトピックや言語現象についての概観を得る。</p>	
	フランス言語文化特論Ⅰ	<p>エマニュエル・トッド『移民の運命』(Emmanuel Todd, Le destin des immigrants : Assimilation et ségrégation dans les démocraties occidentales, Seuil, coll. « Points / Essais » (no 345), 470 p. (ISBN 2-02-031450-9)) をフランス語で読みながら、世界における移民問題について基本的な知識を得る。本講義では、第1章および第2章を講読する。</p>	
	フランス言語文化特論Ⅱ	<p>フランス言語文化特論Ⅰに引き続き、エマニュエル・トッド『移民の運命』(Emmanuel Todd, Le destin des immigrants : Assimilation et ségrégation dans les démocraties occidentales, Seuil, coll. « Points / Essais » (no 345), 470 p. (ISBN 2-02-031450-9)) をフランス語で読みながら、世界における移民問題について基本的な理解を深める。本講義では、第3章および第5章までを講読する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	フランス言語文化特論Ⅲ	フランス言語文化特論Ⅱに引き続き、エマニュエル・トッド『移民の運命』(Emmanuel Todd, Le destin des immigrés : Assimilation et ségrégation dans les démocraties occidentales, Seuil, coll. « Points / Essais » (no 345), 470 p. (ISBN 2-02-031450-9)) をフランス語で読みながら、世界における移民問題について基本的な理解を深める。本講義では、第6章から第9章までを講読する。	
	フランス言語文化特論Ⅳ	フランス言語文化特論Ⅲに引き続き、エマニュエル・トッド『移民の運命』(Emmanuel Todd, Le destin des immigrés : Assimilation et ségrégation dans les démocraties occidentales, Seuil, coll. « Points / Essais » (no 345), 470 p. (ISBN 2-02-031450-9)) をフランス語で読みながら、世界における移民問題について基本的な理解を深める。本講義では、第10章から第13章までを講読する。	
	フランス言語文化特論Ⅴ	本講義は、Eugène Sue, Les Mystères de Paris (1842-43)を取り上げ、原文を正確に読み、美しく訳すことを目的とする。フランス言語文化研究に必須となる原文を読む能力を養うとともに、論文執筆時にフランス語の引用を訳すにあたっての訓練となる。本講義では、本作品の「パリの描写」、「登場人物の描写」に着目し、授業を進める。	
	フランス言語文化特論Ⅵ	フランス言語文化特論Ⅴに引き続き、Eugène Sue, Les Mystères de Paris (1842-43)を取り上げ、原文を正確に読み、美しく訳すこと目的とする。本講義では、本作品の「会話」、「出来事の描写」に着目し、授業を進める。	
	フランス言語文化特論Ⅶ	フランス言語文化特論Ⅵに引き続き、Eugène Sue, Les Mystères de Paris (1842-43)を取り上げる。本講義では、「出来事の描写」、「作者の介入箇所」に着目し、授業を進める。	
	フランス言語文化特論Ⅷ	フランス言語文化特論Ⅶに引き続き、Eugène Sue, Les Mystères de Paris (1842-43)を取り上げる。本講義では、「読者からの手紙」、「手紙に対する反応」を中心に、授業を進める。	
	フランス言語文化特論演習Ⅰ	(概要) フランス語で書かれた作品や論文を講読、検討することにより、研究の基礎的知識、技能を涵養する。 (46 中島 淑恵) 教員が指示するフランスの移民問題に関する論文を講読し、考察と議論を深める。 (77 梅澤 礼) 新聞の歴史について書かれたフランス語論文 (Dominique Kalifa et al., La civilisation du journal, Nouveau Monde éditions, 2011の中から抜粋) を読み、関連する文学作品について調査・発表を行う。本演習では、「文芸紙」を中心に授業を進める。	
	フランス言語文化特論演習Ⅱ	(概要) フランス言語文化特論演習Ⅰに引き続き、フランス語で書かれた作品や論文を講読、検討することにより、研究の基礎的知識、技能を涵養する。 (46 中島 淑恵) フランス言語文化特論演習Ⅰに引き続き、教員が指示するフランスの移民問題に関する論文を講読し、考察と議論を深める。 (77 梅澤 礼) フランス言語文化特論演習Ⅰに引き続き、新聞の歴史について書かれたフランス語論文 (Dominique Kalifa et al., La civilisation du journal, Nouveau Monde éditions, 2011の中から抜粋) を読み、関連する文学作品について調査・発表します。本演習では、「日刊紙」、「紀要」を中心に演習を進めます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	フランス言語文化特論演習Ⅲ	(概要) フランス言語文化特論演習Ⅱに引き続き、フランス語で書かれた作品や論文を講読、検討することにより、フランス語やフランス文化研究の基礎的知識、技能を涵養する。	
		(46 中島 淑恵) ジュール・ミシュレの『フランス史』(Julest Michelet, Histoire de France) 全7巻を通読する予定である。この授業では、第1巻から第3巻まで、すなわち、第1巻『黎明期から中世までのフランス史』(Histoire de France des Origines au Moyen Âge, Paris : L. Hachette, 1833-1844), 第2巻『16世紀フランス史』(Histoire de France au XVIe siècle, Paris : Chamerot, 1855-1856), 第3巻『17世紀フランス史』(Histoire de France au XVIIe siècle (Paris : Chamerot, 1857-1860)を通観し、とりわけミシュレが近代的解釈によって忘却の淵から救い出したとされるジャンヌ・ダルクがどのように描かれているかを精査する。	
	フランス言語文化特論演習Ⅳ	(77 梅澤 礼) フランス言語文化特論演習Ⅱに引き続き、(Dominique Kalifa et al., La civilisation du journal, Nouveau Monde éditions, 2011の中から抜粋)を読み、関連する文学作品について調査・発表を行う。本演習では、「風刺新聞」を中心に授業を進める。	
		(概要) フランス言語文化特論演習Ⅲに引き続き、フランス語で書かれた作品や論文を講読、検討することにより、研究の基礎的知識、技能を涵養する。	
	フランス言語文化特論演習Ⅳ	(46 中島 淑恵) フランス言語文化特論演習Ⅳに引き続き、ジュール・ミシュレの『フランス史』(Julest Michelet, Histoire de France) 全巻を通読します。今回は第4巻から第6巻まで、すなわち、第4巻『18世紀フランス史』(Histoire de France au XVIIIe siècle (Paris : L. Hachette, 1862-1866 ; puis Chamerot et Lauwereyns, 1867), およ第5巻『19世紀フランス史』Histoire du XIXe siècle (Paris : G. Baillièrre, 1872 ; puis Michel Lévy frères, 1875), 第6巻『フランス革命の歴史』(Histoire de la Révolution française (Paris : Chamerot, 1847-1853))を通観し、とりわけフランス革命についての19世紀的解釈の基礎となった、ミシュレの理解について考察を深める。	
		(77 梅澤 礼) フランス言語文化特論演習Ⅲに引き続き、新聞の歴史について書かれたフランス語論文 (Dominique Kalifa et al., La civilisation du journal, Nouveau Monde éditions, 2011の中から抜粋)を読み、関連する文学作品について調査・発表します。本演習では、「挿絵新聞」、「旅行新聞」を中心に授業を進める。	
	ロシア言語文化特論Ⅰ	(19世紀ロシア文学史Ⅰ・プーシキン研究) プーシキンとその作品に関する評論(ロシア語)を講読し、ロシア文学史の知識と文学研究の方法論を学ぶ。評論中の引用作品をはじめとするプーシキンの代表作の抜粋を講読し、複数の邦訳と比較して文体的特徴を考察する。その上で、プーシキンの詩作品または短篇小説を一つ選んでロシア語で通読し、「ロシア語で読むプーシキン」という観点から研究レポートを作成する。	
	ロシア言語文化特論Ⅱ	(19世紀ロシア文学史Ⅱ・ゴーゴリ研究) ゴーゴリとその作品に関する評論(ロシア語)を講読し、ロシア文学史の知識と文学研究の方法論を学ぶ。評論中の引用作品をはじめとするゴーゴリの代表作の抜粋を講読し、複数の邦訳と比較して文体的特徴を考察する。その上で、ゴーゴリの短篇小説を一つ選んでロシア語で通読し、「ロシア語で読むゴーゴリ」という観点から研究レポートを作成する。	
ロシア言語文化特論Ⅲ	(19世紀ロシア文学史Ⅲ・ドストエフスキー研究) ドストエフスキーとその作品に関する評論(ロシア語)を講読し、ロシア文学史の知識と文学研究の方法論を学ぶ。評論中の引用作品をはじめとするドストエフスキーの代表作の抜粋を講読し、複数の邦訳と比較して文体的特徴を考察する。その上で、ドストエフスキーの短篇小説を一つ選んでロシア語で通読し、「ロシア語で読むドストエフスキー」という観点から研究レポートを作成する。		
ロシア言語文化特論Ⅳ	(19世紀ロシア文学史Ⅳ・トルストイ研究) トルストイとその作品に関する評論(ロシア語)を講読し、ロシア文学史の知識と文学研究の方法論を学ぶ。評論中の引用作品をはじめとするトルストイの代表作の抜粋を講読し、複数の邦訳と比較して文体的特徴を考察する。その上で、トルストイの短篇小説を一つ選んでロシア語で通読し、「ロシア語で読むトルストイ」という観点から研究レポートを作成する。		
ロシア言語文化特論演習Ⅰ	修士論文の構想にかかわるロシア語の文学テキストと研究資料の正確で深い読解力を養う。本演習では、①テキストと研究資料の収集、②テキストの精読と翻訳、及びコメントの作成を行う。目標としては、修士論文の構想にかかわるテキストと研究資料を十分に調査して収集することができる。文学テキストを正確な日本語に翻訳して、学術的なコメントを作成することができる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	ロシア言語文化特論演習Ⅱ	修士論文の構想にかかわるロシア語の文学テキストと研究資料の正確で深い読解力を養う。本演習では、①テキストの精読と翻訳、及びコメントの作成に加えて、②研究資料の精読とコメントの作成を行う。目標としては、文学テキストを正確な日本語に翻訳して、学術的なコメントを作成することができる。同様に、研究資料の正確に読解し、学術的なコメントを作成することができる。	
	ロシア言語文化特論演習Ⅲ	本演習では、①研究テーマを設定し、②先行研究を調べて関連資料を収集、③先行研究リストの作成、及び要約の作業に着手する。目標としては、修士論文の研究テーマを設定する。先行研究の資料を収集してリストを作成し、要約作業を進めることができる。文学テキスト及び先行研究を正確な日本語に翻訳して、学術的なコメントを作成することができる。	
	ロシア言語文化特論演習Ⅳ	本演習では、①ロシア言語文化特論演習Ⅲで設定した研究テーマに批判的検討を加えて最終的なテーマに絞り込み、引き続き②先行研究資料の収集、③先行研究リストの作成、及び要約の作業を行う。目標としては、修士論文の研究テーマを確定する。先行研究の資料を収集してリストを作成し、要約作業を進めることができる。文学テキスト及び先行研究を正確な日本語に翻訳して、学術的なコメントを作成することができる。	
芸術文化学系	平面表現特別演習A	本授業は学部での4年間で培った技法を基に、説得力のある表現を模索するための演習形式の授業である。 基底材、描画材料は特に限定せず、履修生のテーマにあった素材を探り、その特性を活かした各自の表現を試みる。 特に各自のテーマを掘り下げるべく、履修生と目的とする研究制作の検討を行った後、エスキース制作及びタブロー制作を行う。 ・エスキース制作：ガッシュ、アクリル絵具等を主体とした制作を15～20点程度 ・タブロー作品サイズ：原則として100号程度 1点	
	平面表現特別演習B	本授業は学部での制作活動を基にして、日本画の画材、技法をより深く研究するための演習形式の科目である。 本授業では岩絵具、箔、和紙といった日本画画材を用いて、各自のテーマと表現を探究、試行する。また、制作の中で、日本画における技法と画材についての知識と理解を深め、考察する。 ・作品サイズ：100号程度 1点（日本画画材での制作が望ましいが他の画材も認める） ・エスキース制作：水彩絵具、アクリル絵具、色鉛筆等を主体とした下図制作	
	平面表現特別演習C	本授業は、1年次のテーマを更に展開し、修了制作に備えるための演習形式の授業である。 基底材、描画材料は特に限定せず、履修生のテーマにあった素材を探り、その特性を活かした各自の表現を試みる。イメージを説得力ある表現に結びつけるためには、客観性を持つことが重要となる。客観性は他者に説明することで身に付く。テーマや素材についてより深く理解し、発展させるため、他者に説明する術を身に付けてもらう。 制作に先立ち、履修生とで目的とする研究制作の検討を行った後、エスキース制作及びタブロー制作を行う。 ・エスキース制作：ガッシュ、アクリル絵具等を主体とした制作を15～20点程度 ・タブロー作品サイズ：原則として100号～150号 1点	
	平面表現特別演習D	本授業は1年次での制作活動を基にして、日本画の画材、技法をより深く研究するための演習形式の科目である。 本授業では絵画および日本画という表現の特性や理解を深めながら、技法や画材について試行する。また、自身の絵画表現による可能性を発展させる。 ・作品サイズ：100号程度 1点（日本画画材での制作が望ましいが他の画材も認める） ・エスキース制作：水彩絵具、アクリル絵具、色鉛筆等を主体とした下図制作	
	立体表現特別演習A	本授業は3Dデジタルモデリング技術を用いた3Dデジタル造形制作を行う演習科目である。最終的に一人で全ての制作フローをこなせることを授業の狙いとする。制作フローについては、3Dスキャニングによるデータ取得、3Dモデリングソフトでのデータ編集及びデジタルモデリング、3Dプリンター等の3D造形機器を介した3D造形出力までとし、それら一連の3Dデジタル造形技術に触れながら、デジタルならではの造形表現を身に付け、彫刻もしくは工芸分野への応用を目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	芸術文化学系		
	立体表現特別演習 B	彫刻立体表現は、独特な歴史的な展開を経ており、独特な文脈をもつ。本科目では、クレメント・グリーンバーグの「新しい彫刻」を読みモダニズム彫刻の理解を深め、ロザリンド・クラウスの「展開された場における彫刻」を読み、ポスト・モダニズムの彫刻の理解を深める。こうした歴史的な、あるいは文脈としての彫刻立体表現の理解の上に、自らの制作における問題意識を重ね、ディスカッションや制作を通して自らの問題意識の深化や制作の展開を図る。	
	立体表現特別演習 C	本授業は、立体表現特別演習 A で学んだ内容をもとに、3D デジタル技術を用いた実践的な造形制作演習を行う。3D デジタル造形技術を用いることで初めて実現可能となる造形表現や、3D デジタル技術を使用しなくてはならない理由を考え、彫刻もしくは工芸とデジタルの融合した造形表現を創造する。特に、データの出力方法や出力後の素材のフィニッシュワークに力を入れ、純粋な美術表現としても十分に成立する作品づくりを目指す。	
	立体表現特別演習 D	本科目は、彫刻立体表現の要素として空間と素材に焦点を絞り、これらについての理解や考えを深め、空間に作品を成立させる精度を高めることをねらいとする。作家の実践や東洋思想などの事例の説明、あるいは履修者による調査を踏まえたディスカッションを行い、理解の深化、知識の内化を図る。彫刻立体表現の重要な部分のひとつとして、言語化しがたい領域や理解しがたい領域の絞り込みを試み、それを現出させる作品制作を試みる。	
	像情報処理特論	像情報処理特論では、画像、動画、音などの像情報に対する入出力の説明から始める。そして、コンピュータやインターネット上でのデータの扱いや立体などのデータについても説明を行う。画像については、画像生成 (Computer Graphics) のアルゴリズムを使ってカメラ等から得た画像の処理を行い認識するまでのアルゴリズムを講義する。同様に、動画像や音についても、使用されるアルゴリズムを説明する。そして、像情報の検出、表現、認識、理解、生成、評価などから応用できるようにする。	
	像情報処理特論演習	像情報処理特論では、画像、動画、音などの像情報に対する表現方法を理解し、作品を制作できるようになる。具体的には、レイトレーシングソフトを使い対象物体、光源、カメラの設定により画像を生成し、コンピュータグラフィックスの原理やアルゴリズムを理解しながら制作する。また、3D 映像の仕組みを理解しステレオ映像を制作する。そして、構図、表現、ストーリーや音などの指導を行い、一人で映像制作できることを授業の狙いとする。	
	デジタルアート特論演習 A	現代社会におけるデジタルアートのあり方と諸問題を思考と技術の側面から考察する。思考を具現化する試みとして、任意のデジタルテクノロジーを用いて、これまでに習得した各専門領域 (絵画、伝統工芸、立体、インスタレーション、歴史研究、各種研究論文など) の研究内容を礎に、現代美術としての表現の可能性を探る。	
	デジタルアート特論演習 B	これまでに制作してきた作品・研究成果のデータベース化を行い、主体と客体に分類することからスタートする。データ化されたリソースを使用して、既存概念にとらわれない未踏の創造活動を目指す。具体的な試みとして、研究成果をデジタルアート作品に変換する。またそこから派生する創作の意味を問う。作品を適切に言語化し、プレゼンテーションすることでより実践的な制作と発表活動を体現する。	
	漆工芸特別演習 A	過去の優れた文物にある、蒔絵や平文、螺鈿などの技法を用いて施された作品の加飾部分模造を行う。加飾模造にはあらかじめ用意した手板を用いる。各人の選んだ過去の作品から、素材のあしらい方や技術、意匠などを読み解き、実験などを含め詳細に検討し、伝統的な技術をに基つき、現代という時代性も考慮しながら研究制作をす	
	漆工芸特別演習 B	漆工芸は、素地制作から始まり、漆塗装、加飾という工程で成り立っている。本授業では、様々な技法のある素地制作の中から、乾漆と称される技法を取り上げる。乾漆技法についての先行事例の調査、研究を基に、様々な技法の中から一つの技法を選定し、その技法を使った制作工程を組み立て、実際に作品を制作する事により、漆工芸における技法、材料、文化への理解を深める。	
漆工芸特別演習 C	漆工芸の為の木胎木地製作を指導する。100年以上かけて育った上等な木材の板から、仕口を作り、削り出しをおこない甲盛り、胴張りを作り、緻密に組み上げることで箱を作る。だがこれをあまりにも真正面から取り組むと、一つの授業では学び切ることができないので、その要点を学び、木胎の箱の理解の糸口を作ることを目的とする。作家として、木の性質を理解し木胎器物の製図が引けることを目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	芸術文化学系		
	漆工芸特別演習D	現在の漆工芸の置かれている価値を、社会情勢、市場、文献などの調査、研究から把握する事を主な目的とし、その調査研究結果に基づき、現状にとって有益である漆工芸品のあり方を、試作品制作及び公的発表により提案する。試作品制作実習、コンペや展示会出品等の発表活動の経験により、漆文化に対する理解を深める。	
	木材工芸特別演習A	本授業は演習形式である。人間が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、問題解決への提案を「もののデザイン」を通して行う。具体的には、地域材（地場産の木材）の利活用をテーマとしたプロダクトデザイン分野によるデザイン提案を行う。市場調査、問題点の抽出、企画・立案、素材・加工方法の検討等を通し、プロトタイプモデルの制作を行う。	
	木材工芸特別演習B	木材を主素材とした家具の設計・制作に必要な知識と技術について演習課題を通して学ぶ。授業では、住環境あるいは公共空間における家具の役割について、機能やデザインの視点でもって再確認しながら、新たな家具の提案を行ってもらう。課題は実践的な内容とするため、具体的な条件やクライアントを設定したなかで行う。課題に沿って各自のアイデアを展開するとともに、最終的にプロトタイプモデルの制作をする。	
	木材工芸特別演習C	本授業は演習形式である。人間が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、問題解決への提案を「もののデザイン」を通して行う。具体的には、富山県内企業（木工関係）へ、新商品開発をテーマとしたプロダクトデザイン分野によるデザイン提案を行う。市場調査、問題点の抽出、企画・立案、素材・加工方法の検討等を通し、プロトタイプモデルを制作し、対象企業に対してデザイン提案を行う。	
	金属工芸特別演習A	金属工芸技法を複合的に用い、作品制作、あるいは、その制作を通して金属工芸技法を研究する。使用する金属材料は、学生自ら組成を計画・作成し、着色効果等も含め総合的に取り組む。制作研究、技法研究のテーマは学生が指導教員との協議のうえ設定し、技法を選択して完成させるまでの工程を具体的に計画する能力を修得する。失敗や計画変更を余儀なくされる状況に対し、自力で乗り越えて今後の新しい造形やものづくりに反映できる応用力を養うことを本授業のテーマとする。	
	金属工芸特別演習B	本授業は演習形式で行う。金属工芸は彫金、鋳金、鍛金という3技法に分けられるとされている。本授業では、明治期（東京美術学校）に鍛金及び彫金分野で指導されていた地金作りを演習するとともに、3技法に分けられた史実を確認する。産業の発達とともに金属工芸技術の特色が顕著になっていくことを理解し、人間の生活に果たす金属工芸の役割の変化について、主体的に捉えられるようになることをねらいとする。	
	金属工芸特別演習C	鑄造技法による作品制作、あるいは、その制作を通して鑄造技法を研究する。対象とする技法は、伝統技法としての真土型鑄造をはじめ、生型鑄造、石膏鑄造、精密鑄造など、またこれらの複合的な技法も含める。制作研究、技法研究のテーマは学生が教員との協議のうえ設定し、技法を選択し、完成させるまでの工程を具体的に計画する能力を修得する。失敗や計画変更を余儀なくされる状況に対し、自力で乗り越えて今後の新しい造形やものづくりに反映できる応用力を養うことを本授業のテーマとする。	
	金属工芸特別演習D	本授業は演習形式で行う。人間は暮らしの中でいろいろな出来事に遭遇するが、金属工芸はその技術で生活の安定と安心を構築することを目指す。明治期（東京美術学校）～昭和初期の鍛金教育で実施していた変形紋りを基に演習しながら、当時の金属工芸がこの技術を通して社会に示した問題の理解と技術修得を目指す。	
	材料共生学特論	文化財保護に関心のある学生や、安全、安心な社会づくりに関心のある学生を対象に、金属、無機材料における破壊や腐食の種類、メカニズムについて、講義を行なう。また、実際の文化財損壊事例等を紹介し、どのような対策が有効なのかを考える。さらに、破壊試験、非破壊試験による材料の評価手法について最新の研究成果を交えて講義を行なう。	
材料共生学特論演習	文化財保護に関心のある学生や安全、安心な社会づくりに関心のある学生を対象に、文化財、景観材料、建築材料などの保存、分析、事故事例等に関する文献を講読し原因や対策について討論する。さらに、素材や腐食生成物の分析方法を演習によって習得する。特に、非破壊での分析調査は重要であり、特にX線を用いた成分分析法についてはその原理を理解するとともに、演習によって正しい手順やデータの扱い方について学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	デザインマネジメント 特論演習	<p>【授業の狙いとカリキュラム上の位置付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインマネジメントはデザインを幅広く総合的に捉え、企業や組織において、戦略的に活用・統合を図る概念である。一般的には企業のコーポレートアイデンティティ、商品戦略の確立するためのデザイン組織としてのマネジメント能力について言及されることが多いが、デザインを一つの活動の軸として捉えることで、企業や組織に限らず、個人々の活動としても応用できる考え方である。 ・演習では、デザインマネジメントの事例研究とともに、履修者の研究科における研究内容を踏まえて個別に課題を設定、デザインマネジメントを実践するにあたっての考え方や表現力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の更なる向上を図る。 <p>【達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインマネジメントの概念を理解する。 ・デザインマネジメントを実社会の活動に適用する準備ができる。 	
	デザイン特別演習A	<p>〈概要〉 視覚情報を用いたコミュニケーション手法について学ぶ。</p> <p>〈目標〉 作品の発想・設計・制作と、完成後の成果が有する狙いや特徴が論理的に一貫する制作姿勢を身につけることが目標である。</p> <p>〈授業の流れ〉 視覚情報の基本要素である文様について文献調査を行い、伝統的意匠について理解を深める。地域の歴史的文化施設を調査し、文様を収集・分析する。調査をもとに基本エレメントを作成、線の太さや配置関係などのパラメーターを変化させてオリジナル文様を作成する。最後にこれを具体的な商品に展開する。</p>	
	デザイン特別演習B	<p>〈概要〉 デザインの本質を見据えた、プロダクト（トランスポート）研究を推進する。</p> <p>〈目標〉 修士課程修了制作準備のため、その前段階として、現代において進化するデザイン（プロダクト&トランスポート）探求とデザインの本質を見据えた、実践的かつ社会価値のあるプロダクト（トランスポートも含む）研究を推進する。 本授業は演習科目。 修士課程修了制作準備のための基盤となるプロダクトアプローチを学ぶ。</p>	
	デザイン特別演習C	<p>すべてのクリエイティブ行為は、自分のメッセージを相手に伝えることをともなう。そこで大切なことは『何を伝えるか?』『どう伝えるか?』。課題研究で取り組んでいる研究・制作においても、社会においても、有益な結論へ着地するために様々なファクターやキーワードを整理・分析し、客観的なエビデンスを導く調査・実験が繰り返されるが、この演習では、その分析・考査結果を、効果的に伝えるためのデザイン思考とプレゼンテーション構築を行う。</p>	
	建築計画特論	<p>建築計画は人間の生活と建築空間の関係を構築することを中心的な課題として研究されてきた学問で、建築設計に必要不可欠である。本講義では、現代社会における多様な課題に対する建築計画的アプローチについて先端的事例を取り上げて論じ、課題についての論点整理とそれに対する計画技術について学ぶ。あわせて受講者による事例・文献調査分析、および発表・討議を行うことで、建築計画的な研究手法について学ぶ。</p>	
建築計画特論演習	<p>建築計画は人間の生活と建築空間の関係を構築することを中心的な課題として研究されてきた学問で、建築設計に必要不可欠である。本演習では、地方都市や集落が抱える建築計画的課題について独自の視点から仮説を立て、建築計画的視点から調査・分析・考察を行い、客観的データに基づいて課題を明確化し、課題解決のための知見を得る。それにより、実社会における建築計画学の有用性を体験的に理解し、建築計画特論で学習した研究手法の習得を目指す。</p>		
建築設計特論	<p>〈概要〉本授業は講義形式で行う。国内の建築家とその作品、海外の建築家の中で特に重要な現代建築を一般に出版し広く高い評価を得ている論文を基盤に使い、その作品を分担し、戦後展開した現代建築の潮流を講義する。 (オムニバス方式/全15回) (111 横山天心/7回) 戦後の日本の現代建築や現代建築家を題材として、その設計思想や設計手法を読み解くことで、建築設計実務演習に必要な知識及び技能を修得する。 (7 上原雄史/8回) 現代の建築を形成したレムコールハースの作業を読み解きより現代的な建築意匠の前線に関する理解を深める。日本と海外の著名な建築設計事務所や建築家として就業し、海外において自らの建築設計事務所を経営し建築家としての法的責任を10年以上遂行した教員が指導に当たる。</p>	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	建築設計特論演習 A	構成員が高齢化することでコミュニティの活力が衰え、また、後継者不足により構成員も少なくなる等、少子高齢化によって地方コミュニティの存続が年々危ぶまれている。ここでは、衰退をポジティブに捉え、現存する地域や街とそのコミュニティをフィールドワークにて多角的にリサーチし、その現状を的確に把握しを明らかにする。さらに、持続可能な地域コミュニティを実現するために建築に何が可能かについて、仮説を提示しその有効性を検証する。	
	建築設計特論演習 B	本授業は演習形式で行う。各回の授業は、ディスカッションとエスキースからなる。本授業は、現代的な雰囲気や建築コンセプトとして位置付ける。現代的な住居建築は、独特な雰囲気を有する人の居場所を現代的な建築構法で実現すると言う考え方にに基づき、第一に、学生が目指す現代的な場所の雰囲気に関する目標をディスカッションし設定する。第二に、これに近い雰囲気を有する既存建築物、特に住宅スケールの事例、を一軒選びこれと学生が設定した目標の相違を分析する。第三に、よりの確に目標を達成するための方策を、新しい建築構法で実現する考察を行い設計する。	
	建築設計特論演習 C	本授業は演習形式で行う。各回の授業は、ディスカッションとエスキースからなる。現代的な公の建築は、公の用に付すことができる建物の使い方をプログラム手法によって記述し、これを建築構法を用いて構築すると言う考え方にに基づき、学生それぞれの公の用を選択しこれを実現する方策を事例に基づき検討し設計演習する。学生が選択した建物が有するプログラムを第一に分析する。第二に、選択した建築事例において、学生が目標とする建物の使い方との相違点を分析し、目標の実現方法を探る。第三に、事例を実現している建築物の構法をより現代的な構法で置き換えることで、目標を達成する方策を探究し、設計演習をおこなう。	共同
	構造設計特論	建築構造設計および地域づくり、建築行政等の実務経験がある教員が以下の項目に関して講義および指導を行う。 ○構造設計の在り方について、実際の設計の流れを追いながら解説する。 ○構造デザインの系譜について資料を参考に学び取る。 ○都市および建築に関する社会調査の方法についても学習する。 ○構造設計の過程を通して、建築設計実務演習に必要な構造設計に関わる知識及び技能を修得する。	
	構造設計特論演習	建築構造設計実務経験を有する教員と共に、構造設計の目的把握・手法修得・効果検証を演習する。 ○橋や架構デザインを自ら計画し設計・提案する過程を通じて、木質構造およびその他の各種構造の特徴をより深く知る。 ○設計の前提として社会や地域の調査を行い、構造物の地域とのかかわりについても論理的に学び、かつより高いレベルでのプレゼン用資料の作成を経験する。	
	働態学特論	本授業は講義形式である。急速に変化し続ける人間の生活環境の中で、人間がその環境にどのように適応しているのかを研究する学問には、例えば、人類学、生理学、心理学、人間工学、労働科学などがあり、働態学もそのひとつである。働態学の特徴は、人間の生物としての本性を理解した上で人間の労働と生活を構築していくところにある。人間工学が生活の効率化を目的とするのに対し、働態学はそれに加えて人間生活の多様性と持続可能性を重んじる。この価値観を理解し、これからの生活をデザインすることを議論する。	
	働態学特論演習	本授業は演習形式である。働態学は人間の生物としての特性、とくに適応現象を理解した上で、人間の労働と生活の効率化と生活文化の多様性、持続可能性の維持向上を目指す。この視点から現在の労働と生活のなかにある問題点を発見し、解決案を示すまでを演習する。以下の手順で演習する。 1. 働態学の視点を理解した上で、生活や労働の問題点を抽出。 2. 先行研究を収集、整理し、問題点を明確化。 3. 簡単な実験、調査により、文献調査以外に自分でデータ収集。 4. 得られたデータに基づき問題解決策を提案。	
	建築再生設計特論	この授業では、今日ますます重要性が増している建築の保存再生設計に必要な知識・技術の習得を目指している。 具体的には、日本国内の土蔵、古民家、町屋、近代建築、海外の様々な歴史的建築物など、多様な保存改修事例について調査・学修する。また重要文化財、登録文化財、重要伝統的建造物群、文化的景観などの日本の文化財保存手法、および海外の保存手法も実例を調査して学ぶ。 適宜現地見学も行い、建築再生の手法や技術を、具体的事例に即して探っていく。 課題として具体的な建築再生プロジェクトに焦点を絞り、その背景や具体的手法について調査・研究し、小論にまとめ、発表する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目 芸術文化学系	建築再生設計特論演習	この授業では、建築再生設計特論で学んだことを生かし、具体的な建築再生設計に取り組む。 保存や再生が必要とされる実際の建物や地域、例えば古い街並みが残る地域の町家（住宅）、あるいは空き店舗などが目立つ商店街の店舗（商業施設）など、具体的なプロジェクトを設定し、既存建築の実測、作図から、周辺環境や歴史的背景の調査・分析、具体的な設計を行い、基本計画から基本設計を立案する。その過程で、関係する人々や地域の方々へのヒアリングやプレゼンテーションを行う。 このプロセスを通じて、構造・構法・材料なども学び、保存再生の実施設計図面の作成およびプレゼンテーション手法を学ぶ。 上記内容について保存改修設計の経験が豊富であり、一級建築士の資格を有する教員が指導を行い、建築再生設計の実務に必要な知識及び技能を修得する。	共同
	建築設計実務実習Ⅰ	設計事務所での就業体験プログラムにより、建築設計の実務経験豊富な一級建築士の事務所所員の指導のもとで、主として基本計画・基本設計のプロセスを通して、計画手法、実務の作図方法、及び計画・作図に関わる知識と技術を修得する。また、建設費や敷地条件、建築法規への適合など基本計画・基本設計特有の設計と件をクリアするための知識とノウハウへの理解を深める。	共同
	建築設計実務実習Ⅱ	設計事務所での就業体験プログラムにより、建築設計の実務経験豊富な一級建築士の事務所所員の指導のもとで、「建築設計実務演習Ⅰ」での基本計画・基本設計の経験を活かして、主として実施設計のプロセスに取り組むことで、実施図の作図方法、作図に関わる知識と技術を修得する。また、建設費や構造・構法・設備など実施設計特有の設計と件をクリアするための知識とノウハウへの理解を深める。	共同
	建築設計実務実習Ⅲ	設計事務所での就業体験プログラムにより、建築設計の実務経験豊富な一級建築士の事務所所員の指導のもとで、「建築設計実務演習Ⅰ」「建築設計実務演習Ⅱ」での基本設計・実施設計の経験を活かして、主として工事監理プロセスに取り組む。具体的な工種や作業工程を踏まえて、より実践的な施工図の承認補助作業や施工検査補助等を通して、施工の実践的な知識を習得する。	共同
	美学特論演習Ⅰ	美学の専門的な論文を読みこなし、美学に関する考察を深めながら、参加者各人が自由に意見をたたかわせることができることが目標となる。そのためには、まず論理的に書かれた文章を読み、討論し、論理的に文章を書くことを学んでもらう必要があるし、またそのことが第一段階の目的である。この訓練が、2年間をかけて美学で修士論文を書くことの土台をつくりあげることになる。演習形式の授業である、美学特論演習Ⅰにおいては、美学のトピカルなテーマを選び、いくつかの論文を読み、討論を行う。参加者にはこのほかに、扱われる主要テーマにつながる多の論文について適宜、報告を求め、それをもとに討議する。扱われるテーマはその都度設定するが、「自然美」「美的なもの」「物語」などを最初に扱う。	
	美学特論演習Ⅱ	美学の専門的な論文を読みこなし、美学に関する考察を深めながら、参加者各人が自由に意見をたたかわせることができることが目標となる。そのためには、まず論理的に書かれた文章を読み、討論し、論理的に文章を書くことを学んでもらう必要があるし、またそのことが第一段階の目的である。この訓練が、2年間をかけて美学で修士論文を書くことの土台をつくりあげることになる。演習形式の授業である、美学特論演習Ⅱにおいては、美学特論演習Ⅰに引き続き、美学のトピカルなテーマを選び、いくつかの論文を読み、討論を行う。参加者にはこのほかに、扱われる主要テーマにつながる他の論文について適宜、報告を求め、それをもとに討議する。扱われるテーマはその都度設定する。扱われるテーマはその都度設定するが、「芸術的価値」「芸術のカテゴリー」「美と倫理」などを扱う。	
	伝統文化特論	本授業は講義形式で行う。授業では伝統文化のなかでも、日本の民俗芸能・民謡を中心に取り上げる。伝統文化の中でも、特に民俗芸能・民謡に関する研究は、民俗学、歴史学、文化人類学、音楽学、演劇学、舞踊学など多岐にわたり、一つの学問として体系的に論ずることが難しい。また、民俗芸能・民謡は、数も多く、地域によって多様である。そこで、民俗芸能・民謡の特徴や多様性について、具体的な事例を挙げながら、理解を深めると同時に、先行研究を紹介しながら、研究の歴史や方法論についての基礎的知識を得る。	
	伝統文化特論演習	本授業は演習形式で行う。伝統文化に関する研究にとって重要なアプローチの一つにフィールドワークと民俗誌（民族誌）の作成が挙げられる。この演習では、日本の伝統文化の具体例の一つあるいは、複数を取り上げて、実際に、フィールドワークを行い、民俗誌（民族誌）を作成することを目標とする。まず、フィールドワークを実際に行うにあたって、必要な予備知識として、民俗誌（民族誌）を作成する目的とその内容を概観し、プロトコル（調査計画）をたてる。次に、フィールドワークを行い、資料を収集する。収集した資料の整理と分析方法を学ぶ。分析資料をもとに民俗誌（民族誌）を作成する。最後に作成された民俗誌（民族誌）についての口頭発表とディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	文化資源特論	文化資源特論では、文化資源と地域社会との相互作用について考察する。そこで文化を支える制度や主体（行政、企業、NPOなど）に着目し、その意義と役割を明らかにする。そして地域課題の解決に向けた、地元住民による文化資源の認識、評価、活用プロセスを概観し、地域活性化へのダイナミズムと関わらせながら検討する。	
	文化資源特論演習	文化資源特論で学んだことを基礎として、文化資源を活用した具体的な企画手法を学ぶ演習を行う。特定地域のフィールドワークによって、地域に存在する主体とその地域の文化を支える制度を概観しながら、文化資源を表出化し、活用策を探る。理論と実践の両面から理解を深め、文化資源を活かした地域活性化の実践的能力の修得を目指す。	
	風景資源特論	風景資源をマネジメントするために必要な評価・分析手法とその背景となる理論について「風景価値の基盤・基準としての環境史」「風景の心理的評価」「植生の調査と評価」「ライフデザイン」の4つの観点から詳説する。また、風景保全の実務に関する講義参加者相互による議論をととして、風景資源保全の「総合化」が目指すべき方向について検討する。	
	風景資源特論演習	ある特定の地域の風景を対象として、多面的な視点からの風景の分析・評価を実践し、実務的な技術として身につけるとともに、地域の自然・文化資源の保全にかかわる人材に求められる総合的な感覚を養うことを狙いとす。また、近年風景資源のマネジメント実務に必須となっている地理情報システム（GIS）について、その理論とともに実践的な演習を通して利用法を修得する。	
	日本・東洋美術史特論	奈良を中心とした仏教美術、また富山を含む環日本海地域美術は、日本だけではなく東アジアの美術との関わりの中で成立する。このことについて日本・東洋美術史研究で論じられてきたトピックを取り上げ、先行研究を検証しながら研究手法を学んでいく。各研究者が、ある問題において何に注目しどのような論理を展開したのか、そして他の研究者にどの部分を批判され新たな論証に至ったのかを理解し、自身の研究につなげていく。	
	日本・東洋美術史特論演習	本授業では、日本・東洋美術史研究や環日本海美術研究の以下の各トピックに関して、学生がテーマを考え、プレゼンテーションをしてもらい皆で議論をしながら検討していく。仏像、絵画、工芸など、取り上げる作品の時代、ジャンルは様々である。それぞれの作品の先行研究において、研究者が何に注目しどのような論理を展開したのか、その議論の問題点を明確にし、それを解決するために有効な研究方法を探る。歴史や造形の解釈について正確に評価し、また新しい研究を展開していく力を養う。	
	現代美術特論	本授業は講義形式である。現代美術と社会の関係に焦点をあて、さまざまなキーワードをもとに考察する。とくに、美術表現そのものが多様化し始める1960年代以降～現代までの美術動向に着目し、歴史的変遷や社会状況、背景となる理論を押さえた上で、現代美術の多様な表現と実践について、今日の社会や政治など様々な事象とのつながりから、有機的・横断的に把握し、美術のもつ今日的意義と可能性を深く考察できる力を養う。	
	現代美術特論演習	本授業は演習形式である。前半は、主要な現代美術理論の関連文献資料の講読・分析を行い、「現代美術と社会」の関係を考察する上で、必要な読解力と批判的分析能力を習得する。後半は、具体的な美術動向や作品の調査・分析を通じて、現代美術の研究方法を身につける。欧文・和文による文献資料の読解、美術作品やアートプロジェクト、美術動向等の実地調査を進め、現代美術の多様な表現と実践を社会動向との関連で把握し、美術史的に研究・記述するための調査・研究方法を習得する。	
	芸術文化学研究 I	<p>(全体の概要)</p> <p>本授業は、課題研究へ移行するための基礎力を養うための科目であり、1年次の目標設定と研究計画立案、研究・制作の実施を指導するものである。</p> <p>(7 上原 雄史)</p> <p>本授業は、修士課程における研究の全貌に関し、全般的かつ段階的な展望を確立し、計画的な意図を持って研究を遂行可能にするための授業である。修士課程における建築芸術に関する研究を制作と副論文執筆の両方においてこれを推し進める。</p> <p>(9 内田和美)</p> <p>修士課程修了制作準備のため、その前段階として、現代において進化するデザイン（トランスポート/モビリティ&プロダクト）探求を目標とする。本授業は演習科目。修士課程修了制作準備のための基盤となるデザインアプローチ全般（トランスポート/モビリティ&プロダクト）基礎を総合的に学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	芸術文化学研究Ⅰ	<p>(11 大氏正嗣) 以下の分野に関する研究テーマを決定し、関連分野に関する基礎的な調査を行う。 ・構造デザインに関する研究 ・公共施設を利用した地域づくりに関する研究 ・木質架構に関する研究 ・その他、建築デザインにや設計に関する研究</p> <p>(15 奥敬一) 風景資源のマネジメントに関わる社会的な課題を探索、抽出し、その解明、解決を通して新たな知見や方法論を提示するための研究課題を構成する。関連する研究や事例、社会的背景のレビューに重点を置き、その成果にもとづいて問題構造や目的意識、研究仮説を明確化し、社会的に意義のある研究課題へと構成を固めていく。</p> <p>(21 河原雅典) 人間の生活のあり方を動態学の視点で研究する。動態学は、人間の生物としての特性、とくに適応現象を理解した上で、人間の労働と生活の効率化と生活文化の多様性、持続可能性の維持向上を目指すものである。生活、労働に関するテーマを設定し、一連の研究手法を身につける。芸術文化学研究Ⅰでは、文献調査により先行研究を検討したのち、問題抽出、課題設定、解決方法の検討、調査または実験の実施、データの解析、結果の考察を行い、プレゼンテーションののち、論文形式でまとめる。</p> <p>(29 島添貴美子) 伝統文化に関する課題についてテーマを発見し、絞り込むために必要な基礎知識と方法を身につける。そのために、以下の2つの内容について指導を行う。 1 テーマの発見：文献リストの作り方、文献調査の方法、文献の読み方を身につける 2 テーマの絞込み：テーマのキーワードの設定の仕方を学び、設定したキーワードに基づいて、さらに緻密な文献調査や文献の解読方法を学ぶ</p> <p>(33 高橋誠一) 漆工芸品制作に必要不可欠である企画、デザイン、造形、素材、漆工技法の能力を高めるため、学生個人の能力、状況を自身で把握し、弱点を克服するための作品制作課題を、教員とミーティングを重ねて設定し、その課題を通して漆工芸品制作の能力を高める。</p> <p>(45 長柄毅一) 歴史上重要な文化財の科学的な手法による分析の重要性を理解し、適切な方法で文化財の分析ができるようになることを目指す。 達成目標 文化財の科学分析の意義を説明できる。各種の分析技術の原理を理解し、説明できる。目的に応じた文化財分析方法を選択し、安全に精密な分析ができるようになる。分析データを解析し、目的に応じた考察ができるようになる。</p> <p>(49 西島治樹) デジタルアート特論演習で習得した専門分野に必要とされる知識と方法論を軸に修了制作に向けた研究目標を設定する。作品の制作と発表を実施して、作品の成長を促し、設定した課題・テーマが適切に表現できているか検証する。更に社会に向けた適切なアプローチ・出力方法を模索することで、社会との関わりを理解する。</p> <p>(68 有田行男) 統合的なデザイン事例や方法論に関する知見を増やし、デザインを幅広く捉えることを試みる。芸術文化学研究Ⅰ/Ⅱおよび、課題研究Ⅰ/Ⅱを通して取り組む研究/制作のテーマを明確化すると共に、研究/制作を進める上での基礎的な調査を実施することで、次ステップの礎を築く。</p> <p>(72 伊東多佳子) 芸術文化学研究Ⅰは、美学の分野で修士論文を作成する学生を対象に行う。それまでに履修した美学特論演習Ⅰ、美学特論演習Ⅱの授業において、論理的に書かれた文章を読み、討論し、論理的に文章を書くことを学んだが、そこで身につけた能力（すなわち美学の専門的な論文を読みこなし、美学に関する考察を深めながら、自由に論じること）を土台にして、それぞれのテーマに応じた研究計画を練る。りながら、修士論文作成に向けて研究指導を行う。ここでの成果は修士論文の予備段階としての中間論文の作成である。</p> <p>(74 今淵純子) 金属工芸のうち鍛金及び彫金技法について、各自の獲得する知識・技術について整理し、実技体験に裏付けされた技術理解や表現に関する問題を抽出する。さらに先行研究調査を行い、研究計画を立て、第1段階目の調査、実験、制作等を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	芸術文化学研究Ⅰ	<p>(79 沖和宏) 〈目標〉 実践と理論をバランスよく両立させた研究を通して、全てのデザイン領域における、コミュニケーション・デザインの企画立案手法手法を掘り下げることが目的とする。 〈授業の流れ〉 共通の大きなテーマを設け、広告、パッケージ、ブランディング、プロダクト、空間演出など、学生個々はその時点で志向するデザイン領域を軸足にして、固有のアプローチでそのテーマを掘り下げていく。情報と人との関係の洗い出しを、むしろ広い領域に関連づけながら掘り下げ、成果を蓄積していく。それらを通して自己の専門分野の確立をめざす。最終的には固有の問題提起や仮説を確定し、後期の「芸術文化学研究Ⅱ」につなげる。</p> <p>(86 三宮千佳) 本授業では、美術史研究において、1年次の研究テーマを設定し、研究手法を学ぶことを目的とする。特に、先行研究の読解とその問題点の抽出について、重点的にトレーニングする。多くの先行研究を読み、当該分野の研究史を、漏れがないように把握し、自身の着目点を明らかにする。毎週、研究した内容について、履修者にプレゼンテーションしてもらい、それに対する指導を行う。基礎研究を積み上げ、次年度の修士論文執筆につなげる。</p> <p>(88 清水克朗) 金工、特に鋳金による作品制作、もしくは金属工芸に関する造形、技法、歴史等の課題を実験によって解明する研究を行う。学生個々が研究課題を立案、計画し、試行と評価を繰り返して問題を克服し成果を得る能力と、造形力、審美眼を涵養する。 金工技法の範囲は、伝統的な鋳造技法である真土型各種と、その仕上げ、着色技法や、近現代の精密鋳造、CAD/CAMなど幅広く対応する。 本講義では、取材と試作や実験に時間をかけ、作品の主題もしくは研究課題を確定する。</p> <p>(97 萩野紀一郎) 芸術文化学研究Ⅰ・Ⅱ、課題研究Ⅰ・Ⅱを通じて、建築意匠、インテリアデザイン、建築の保存・再生、デザイン/ビルドなどについて、具体的な事例を対象に、調査研究を行い、その結果を分析して副論文にまとめる。そして、その成果をもとにデザインや制作を行う。 芸術文化学研究Ⅰは、その第一段階として、上記に関する既往研究、参考文献を収集・参照し、参考となる実作資料を集め、可能な限り実際に訪問・現地調査を行う。これらの成果をまとめて、分析することで、各自の研究および制作テーマを絞り込むことを目指す。</p> <p>(108 安嶋是晴) 文化資源に関する修士論文を作成するため、テーマの確定を目標とする。先行研究・関連研究などを通じ、広く概論的な知識を習得する。これらの成果に基づき、文化資源に関わる問題意識を顕在化させる。</p> <p>(111 横山天心) 建築をとりまく環境を多角的な視点で捉え、建築の社会性を押し広げるような切り口を見出している先行研究や先行事例を調査・分析する。各々が如何なる水準で建築の社会性を捉え、どのようにして今までにない新たな価値や魅力を生み出したのかを徹底的に分析し比較・検討することで、現在の建築の社会性の拡がり捉える。そのプロセスを通して、自己の興味の対象を把握することで、修士製作・修士論文のテーマの方向性を見出す。</p> <p>(115 渡邊雅志) 各自がデザインテーマを発見するところから始まる。 人が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、その中から、無理のない新しいデザインを発見し、具体化させる授業。ものを生み出す側の立場の視界と思考が、ものを使用する側の感覚とは違うということを体感しながら、ものに対する適正解を見つけ出す能力を養うことを目標とする。 具体的には、周囲のものや環境からテーマを発見、新しいデザインを生み出すための実験モデル制作や検証を繰り返し、コンセプトモデルから展開モデルまで制作する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目 芸術文化学系	芸術文化学研究Ⅰ	<p>(119 岡本知久) デザインの最終目標は、人を動かし、モノを動かし、いまより良い状況をつくり出すこと、つまりデザインとは「課題を発見し、解決すること。」となる。 一方、いま、いろいろな領域でイノベーションが求められている。そこでは、これまでの延長ではなくユニークな視点で課題を発見し、ゼロから発想して課題解決のコトが必要とされている。そして、さらに地球規模のサステナビリティと多様性のアプローチも求められている。このニーズへの解決策が、まさにデザインといえるが、そのデザインとはこれまでのモノを中心としたデザインだけではなく体験や経験といったモノ語りを提供するコトのデザインとなる。それを企画・立案し、グローバルに提案できるデザイン力構築を行う。 芸術文化学研究Ⅰでは、様々なファクターやキーワードを整理・分析し、客観的なエビデンスを導くための調査・実験に向けた仮説の構築、情報収集の企画立案を行う。</p> <p>(120 小川太郎) 課題研究Ⅰ、Ⅱで取り組む修了制作の前段として行う作品制作。 中間発表までのテーマ決定から、調査、案出し、原型制作/素地制作を行う。 現代における、工芸、漆芸のニーズも探りながら、現代の要素を取り入れた作品のあり方を考える。外部での発表も視野に入れ制作を行う。</p> <p>(129 長田堅二郎) 各自がこれまでテーマとしてきた事柄を一度解体し、現況調査を行いながら、改めて研究テーマの設定を行う。表現メディアおよび素材については実験的製作を行いながら、作品表現に適したものを選択する。表現方法については現代美術や空間インスタレーション表現を手掛かりに、コンテキストと同時代性を踏まえ、独自の切り口での表現を試みる。</p> <p>(132 平田昌輝) 自身のテーマを基に制作を行い、発表する。制作を通して彫刻の本質を問う。特に制作のための調査・取材、あるいは実験を行って、自身の制作において必然性のある素材、技法(手法)を深めることに重点を置く。</p> <p>(134 松田愛) 「美術と社会」の関係に着目しつつ、19世紀後半から現代までを中心とする近現代美術史や美術理論、キュレーション理論、アートマネジメントの実践研究についての修士論文作成に向けて、基本となる調査・研究方法について学ぶ。まずは具体的な研究テーマを設定し、それに応じた研究計画を策定した上で、関連資料や先行研究の調査を進める。また、先行研究調査に必要な文献読解方法と研究史作成について学ぶ。成果を中間論文にまとめる。</p> <p>(135 松村浩之) 修了制作にむけ、制作・研究のテーマや画材・技法について学生とともに協議しながら進めていく。自らの制作の原点と今後の展開を探りながら制作を進めるとともに、各自の制作テーマに沿った画材や技法についての研究を行う。 適宜参考資料の提示や指導を行うとともに、検討会や講評会を行い、制作・研究の内容を深めていく。</p> <p>(136 藪谷祐介) 都市や建築に関わる現代的・社会的課題を抽出し、それに関する事例研究や既往研究の整理を行う。それにより、建築計画学の立場から修士論文あるいは修士制作に取り組むための研究課題と仮説を設定し、それを検証するための研究計画を立てる。 授業はゼミ形式で行う。すなわち、本研究室に所属する学生全員が各自の研究内容について発表し、各発表について全員で討議する方法を進める。研究スケジュールについては、各自がテーマや方法に応じて適切に設定する。</p> <p>(137 幸亮太) 本授業は修了制作に向けて、日本画の画材、技法、表現の制作研究を行う授業である。学生各自が設定したテーマを基に、取材から下図制作、本画制作など、各々に合った作業計画を検討し、制作研究に取り組む。制作中に適宜、検討会や講評会を実施しながら、研究内容を深めていく。</p>	
	芸術文化学研究Ⅱ	<p>(全体の概要) 本授業は、芸術文化学研究Ⅰから継続して、課題研究へ移行するための基礎力を養うための科目であり、1年次の目標設定と研究計画立案、研究・制作の実施を指導するものである。</p> <p>(7 上原雄史) 芸術文化学研究Ⅰにおいて確立した枠組みに従い、修士研究全体のための基礎資料収集を進める。かつ、制作の枠組みを構成するために比較的小さな規模の建築設計を通して、副論文における構成や目標設定の有効性を検討する方法を学び指導し、調整しこれを決定する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目 芸術文化学系	芸術文化学研究Ⅱ	<p>(9 内田和美) 修士課程修了制作準備のため、その前段階として、現代において進化するデザイン（トランスポート/モビリティ&プロダクト）探求を目標とする。 本授業は演習科目。 修士課程修了制作準備のための基盤となるデザインアプローチ全般（トランスポート/モビリティ&プロダクト）の基礎を総合的に学ぶ。（芸術文化学研究Ⅰから継続科目）</p> <p>(11 大氏正嗣) 決定した内容に関し問題の論点整理を行い、先行研究の分析および対処方法に関し、実地調査、計画提案、実験等により研究内容に関する理解を深める。1年間進めてきた研究内容を整理し、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>(15 奥敬一) 風景資源のマネジメントに関わる社会的な課題に関して、事前調査を含む調査試行や予備調査に重点を置き、その成果にもとづいて研究の方法論の精度を高めるとともに、研究仮説や目的意識を修正し、修士論文執筆に向けた基礎を固める。課題研究の実施に向けた調査設計とスケジュール管理の能力を身につける。</p> <p>(21 河原雅典) 人間の生活のあり方を働態学の視点で研究する。働態学は、人間の生物としての特性、とくに適応現象を理解した上で、人間の労働と生活の効率化と生活文化の多様性、持続可能性の維持向上を目指すものである。生活、労働に関するテーマを設定し、一連の研究手法を学修する。芸術文化学研究Ⅰで得られた研究成果に基づき、新たに課題設定を行う。解決方法の検討、調査または実験の実施、データの解析、結果の考察、課題の再設定という手順を繰り返し、課題解決にいたる方法を修得する。</p> <p>(29 島添貴美子) 芸術文化学研究Ⅰに引き続き、伝統文化に関する課題について研究し、芸術文化学研究Ⅱで、絞り込んだ、あるいは絞り込む途上にあるテーマを調査研究するために必要な基礎知識と方法を身につけ、実際に調査を開始する。そのために、以下の2つの内容について指導を行う。 1 テーマに応じた調査方法の発見：文献調査やフィールドワークの方法、調査資料の整理や分析方法を学ぶ 2 調査の開始：調査計画をたて、事前調査を行う。</p> <p>(33 高橋誠一) 芸術文化学研究Ⅰの結果を受けて、さらに漆工芸品制作に必要不可欠である企画、デザイン、造形、素材、漆工技法の能力を高めるため、学生個人の能力、状況を自身で把握し、弱点を克服するための作品制作課題を設定し、その課題を通して漆工芸品制作の能力を高める。</p> <p>(45 長柄毅一) 歴史上重要な文化財の科学的な手法による分析の重要性を理解し、適切な方法で文化財の分析ができるようになることを目指す。 達成目標 文化財の科学分析の意義を説明できる。各種の分析技術の原理を理解し、説明できる。目的に応じた文化財分析方法を選択し、安全に精密な分析ができるようになる。分析データを解析し、目的に応じた考察ができるようになる。</p> <p>(49 西島治樹) 芸術文化学研究Ⅰで設定した研究テーマを基に、大学院1年次に習得した専門的な知識や発見を取り入れながら、作品制作を行う。また、適切な公共空間などの出力先を選定し発表を行う。他者の評価を得ながら、客観的に自作を見直すことで、社会的な意義を問う。現代美術のシーンと比較し、自らの創作活動の位置付けを確認する。</p> <p>(68 有田行男) 研究/制作の対象領域において、統合的なデザインや方法論を試み、研究/制作へフィードバックすることでデザインの精度の引き上げる。芸術文化学研究Ⅰ/Ⅱおよび、課題研究Ⅰ/Ⅱを通して取り組む研究/制作のテーマを具体化すると共に、研究/制作を進める上での基礎的な研究/制作を実施する。</p> <p>(72 伊東多佳子) 芸術文化学研究Ⅱは、芸術文化学研究Ⅰに引き続き美学の分野で修士論文を作成する学生を対象に行う。それまでに履修した美学特論演習Ⅰ、美学特論演習Ⅱの授業において、論理的に書かれた文章を読み、討論し、論理的に文章を書くことを学んだが、そこで身につけた能力（すなわち美学の専門的な論文を読みこなし、美学に関する考察を深めながら、自由に論じること）を土台にして、それぞれのテーマに応じた研究計画を練る。りながら、修士論文作成に向けて研究指導を行う。ここでの成果は修士論文の予備段階としての中間論文の作成である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	芸術文化学研究Ⅱ	<p>(74 今淵純子) 芸術文化学研究Ⅰで行った研究成果をふまえ、第1段階目の研究成果としてまとめる。</p> <p>(79 沖和宏) 〈目標〉 前期「芸術文化学研究Ⅰ」で構築したデザインコンセプト、または研究テーマにおける仮説に対し、発案と試作による解決手法、または仮説に対する確固たる論証を掘り下げることを目的とする。 〈授業の流れ〉 前期「芸術文化学研究Ⅰ」から継続する一連のアクションを通して、固有の社会的課題やユニークな着眼によるテーマ抽出と概念化の手法を身につけ、次年度の「課題研究Ⅰ、Ⅱ」において、もうワンランク上の課題設定と取り組みにつなげていく。</p> <p>(86 三宮千佳) 本授業では、美術史研究において、1年次の研究テーマを設定し、研究方法を学ぶことを目的とする。前期で先行研究の読解とその問題点の抽出を行ったことをうけ、後期ではその問題点の解決のために自分自身で新たな研究の切り口をみつけ、文献史料や実物作品の研究をもとに新たな解釈を提示することを目指す。毎週、研究した内容について、履修者にプレゼンテーションしてもらい、それに対する指導を行う。研究結果を論文（原稿用紙20枚程度）としてまとめ、次年度の修士論文執筆につなげる。</p> <p>(88 清水克朗) 芸術文化学研究Ⅰで決定された制作もしくは研究課題を進める。計画、試行、評価、改善を繰り返すことで内容を充実させていく。</p> <p>(97 萩野紀一郎) 芸術文化学研究Ⅰ・Ⅱ、課題研究Ⅰ・Ⅱを通じて、建築意匠、インテリアデザイン、建築の保存・再生、デザイン/ビルドなどについて、具体的な事例を対象に、調査研究を行い、その結果を分析して副論文にまとめる。そして、その成果をもとにデザインや制作を行う。 芸術文化学研究Ⅱは、その第二段階として、芸術文化学研究Ⅰで定めた研究・制作テーマについて、再度、既往研究・文献調査・現地調査を詳細に実施し、この段階におけるまとめとして、研究概要計画をまとめ、またデザインや制作の試作を実施し、その成果を口頭発表および展示発表する。</p> <p>(108 安嶋是晴) 芸術文化学研究Ⅰで確定したテーマについて、研究計画を作成するとともに、文献調査や具体的な研究の方法論を学ぶ。さらに文化資源の発掘や活用に関する具体的な調査対象の調査・研究に取り掛かる。調査内容は独自性を重視しつつ、学術的な意義を持った研究にする。調査結果を分析し、研究成果をとりまとめる。</p> <p>(111 横山天心) 「芸術文化学研究Ⅰ」での先行事例を参考に、修士製作・修士論文のテーマを設定する。設定されたテーマの学術的価値や社会的な意義を明確にするため、テーマと関連する先行研究や先行事例を調査し、それらの目的、手法、成果を比較する。さらに、先行研究や先行事例の検証から、修士製作・修士論文のテーマを限定し、精度を上げて、その手法を検討するなど、論文の枠組みを構想する。</p> <p>(115 渡邊雅志) 芸術文化学研究Ⅰで取り組んだ展開モデルをブラッシュアップする。人が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、その中から、無理のない新しいデザインを発見し、具体化させる授業。ものを生み出す側の立場の視界と思考が、ものを使用する側の感覚とは違うということを体感しながら、ものに対する適正解を見つけ出す能力を養うことを目標とする。 具体的には、芸術文化学研究Ⅰで制作した展開モデルをさらに進め、プロトタイプモデルを制作する。成果物は積極的に学外評価を得る機会を設定する。</p> <p>(119 岡本知久) 芸術文化学研究Ⅱでは、芸術文化学研究Ⅰで企画立案した調査・実験の実施及び、実施過程で発生した現象に対応するための企画立案とそれによる調査・実験の実施、検証を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	芸術文化学研究Ⅱ	<p>(120 小川太郎) 課題研究Ⅰ、Ⅱで取り組む修了制作の前段として行う作品制作。中間発表後の原型制作／素地制作から中塗り，加飾までを行う。最終発表に向け，次につながる素材理解と技法習得を目指す。現代における，工芸，漆芸のニーズも探りながら，現代の要素を取り入れた作品のあり方を考える。外部での発表も視野に入れ制作を行う。</p> <p>(129 長田堅二郎) 芸術文化学研究Ⅰでの研究成果を検討し，その表現方法や内容を深めていき，独自の表現としての基盤を形成していく。表現方法については，特にコンテキストにおいて自身の表現がどう位置付けられるのか，客観的にその意味や意義を問いながら実践的に取り組む。</p> <p>(132 平田昌輝) 芸術文化学研究Ⅰに続き，自身のテーマを基に制作を行い，発表する。制作を通して彫刻の本質を問う。特に調査や実験を踏まえ，作品の完成度を高めることに重点を置く。</p> <p>(134 松田愛) 芸術文化学研究Ⅰをふまえ，具体的な事例の調査，分析，関係機関等の現地調査を行う。修士論文を完成させる第一段階として，必要な基礎知識と読解・分析能力，記述力等，基本的な調査・研究能力を習得することを目標とする。まず，事例調査の結果を検討し，研究テーマにおける問題点の検証を行う。その後，問題と構想の提示，検討を経た上で，修士論文のための第1年次中間論文を作成。さらに，中間論文の分析と問題点の整理を進め，第2年次の課題研究へとつなげていく。</p> <p>(135 松村浩之) 修了制作にむけ，制作・研究のテーマや画材・技法について学生とともに協議しながら進めていく。サンプル作りや制作過程の記録を取るなど，各自の制作テーマに沿った画材や技法についての研究を行う。適宜参考資料の提示や指導を行うとともに，検討会や講評会を行い，制作・研究の内容を深めていく。</p> <p>(136 藪谷祐介) 芸術文化学研究Ⅰで設定した都市や建築に関わる仮説の検証のために，調査方法の検討および予備調査を実施し，研究計画の妥当性を検証する。それらの内容を梗概にまとめる。授業はゼミ形式で行う。すなわち，本研究室に所属する学生全員が各自の研究内容について発表し，各発表について全員で討議する方法を進める。研究スケジュールについては，各自がテーマや方法に応じて適切に設定する。</p> <p>(137 幸亮太) 本授業は修了制作に向けて，日本画の画材，技法，表現の制作研究を行う授業である。芸術文化学研究Ⅰでの研究を踏まえて学生各自が設定したテーマをより深め，技法・材料の面からも制作研究の発展に取り組む。制作中に適宜，検討会や講評会を実施しながら，研究内容の充実を図る。</p>	
特別研究	課題研究Ⅰ	<p>(概要) 人文科学，芸術文化学を専攻する学生に対し，各々の主指導教員が研究テーマに沿った修士論文の執筆や課題制作を行う上で必要となる基礎的な研究指導を行う。</p> <p>(70 池田 真治) 哲学における修士論文の作成に向けて，テーマ設定，資料の収集・精読，先行研究の分析などを行う。</p> <p>(37 田畑 真実) 倫理思想史における研究指導を行う。修士論文を執筆するために必要なスキルを身につけることを主な目的とする。資料の収集・整理の方法，データのとりまとめ方とともに，分析の仕方をも訓練する。テーマ設定の方法，文献の選定について学ぶ。テーマと主要文献の決定の後，必要となる先行研究の探し方とそのまとめ方を学ぶ。先行研究と自身の行おうとしている研究との関連性を明確にし，自身の研究の意義を位置づける。そのため，修士論文に関連する先行研究論文の講読も取り入れる。</p> <p>(85 澤田 哲生) 現代哲学における研究指導を行う。修士論文の作成のために，学生が(1) 必要な文献を収集し，(2) その内容を精査・解読し，(3) 教員および学生たちと議論することで，修士論文作成にフィードバックする。</p> <p>(31 鈴木 景二) 日本史における研究指導を行う。受講生の研究テーマ即して，研究史および研究の方法を概観するとともに，関連する史料・研究論文の内容について検討し，修士論文作成を促進する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究	課題研究 I	<p>(130 長村 祥知) 日本史における研究指導を行う。受講生の研究テーマ即して、研究史および研究の方法を概観するとともに、関連する史料・研究論文の内容について検討し、修士論文作成を促進する。</p> <p>(94 中村 只吾) 日本史学の研究論文（修士論文）を執筆する。 ①扱うテーマに関する先行研究の成果と課題を整理する。 ②扱うテーマに関する史料を収集し、それらの分析・考察を行う。 上記の①②をもとに論理を構成し、一本の論文としてまとめる作業を進める。</p> <p>(41 徳永 洋介) 中国史に関する研究指導を行う。研究テーマの設定を行ったのち、先行研究の収集・整理を進めながら、史料の収集・分析を行う。</p> <p>(2 青木 恭子) ロシア文化論における修士論文の執筆に向けて、具体的な指導を行う。 修士論文の構想を立て、修士論文の執筆に向けて、資料分析および調査の内容をまとめることを目的とし、研究史の整理、資料分析、研究発表を行う。</p> <p>(16 小野 直子) アメリカ文化論における研究指導を行う。修士論文のテーマを決定し、それに関する先行研究を読んで研究史を整理する。論文の構成を考え、必要な文献や史料を探して読み、議論によって得られる知見を反映して、論文を書き進める。</p> <p>(75 入江 幸二) 受講生の研究テーマをふまえ、西洋史に関する最新の研究動向をおさえるとともに、研究史を整理する。また研究文献の内容について発表・レポート作成をおこなう。その作業を通して、修士論文執筆の基礎的な作業とする。</p> <p>(104 南 祐三) 西洋史における研究指導を行う。受講生の個別研究テーマに沿って、その修士論文完成に向けた指導を行う。研究史の整理、史料の分析、論文の構成などに関して、専門的な手法や知識を身につけてもらうことをねらいとする。達成目標としては、①研究テーマに関する研究史の説明、②研究テーマに適した研究方法の選択、③研究テーマに関する史料の分析とその解釈、の3つが挙げられる。これらを踏まえて、修士論文の構想を具体的に提示することが受講生の目標となる。</p> <p>(42 徳橋 曜) 修士論文の研究テーマを想定しつつ、関連する西洋史の研究動向・研究史を把握させ、また研究文献の内容に関する発表を行わせる。こうした作業を通して、修士論文執筆の基礎的な知識やスキルを修得させる。</p> <p>(39 次山 淳) 考古学における研究指導を行う。受講生による具体的な資料の分析事例について、研究方法と手続きに重点をおいて検討を加え討議する。その過程で、問題の所在と課題を確認し、修士論文執筆作業の方向性を確認する。</p> <p>(32 高橋 浩二) 考古学における研究指導を行う。テーマの設定、研究計画の作成、全体構想の発表、研究史の執筆と確認、問題点や課題等の執筆と確認など修士論文を執筆し発表するために必要な基礎的な作業についての指導を行う。また、調査資料の確認、調査データの分析方法と検討方法、図表の作成と分析など修士論文執筆のための資料調査をすすめる上での助言を行う。そして、これらを通じて受講生は、修士論文の執筆及び図表の作成等をすすめる。</p> <p>(63 山崎 けい子) 日本語教育学における研究指導を行う。論文のテーマ設定（問題の切り口の発見方法）、文献の分析能力、調査方法やデータの分析能力を培うことで、最終的に修士論文執筆に結びつける。</p> <p>(69 安藤 智子) 言語学における研究指導を行う。修士論文の執筆のために必要な、データ収集の方法、データの分析方法、結論の提示の仕方、論文にふさわしい文体などを学ぶ。</p> <p>(28 佐藤 裕) 社会学における調査の方法論に関する理解をさらに深めながら、自分でそれを用いる準備をする。</p> <p>(5 伊藤 智樹) 社会学研究による修士論文の指導を行う。</p> <p>(87 志賀 文哉) 修士論文の執筆のために、研究テーマや研究方法の選定、各種調査の実施に関して指導する。また、そのプロセスでは研究倫理に関する指導も行う。研究テーマについては受講者の背景を考慮するが、基本的には地域共生社会づくりに関連するものを対象とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	課題研究 I	<p>(13 大西 宏治) 人文地理学での修士論文作成に際して必要となる受講者の行う研究テーマの設定とその人文地理学における位置づけ、枠組みなどを検討する。そこで、これから行う研究テーマの明確化、研究に用いる調査データや調査方法に関して検討する。次のその研究を実証するために適切な地域を設定することがここまでの到達目標である。</p> <p>(90 鈴木 晃志郎) 人文地理学での修士論文作成に際して必要となる受講者の行う研究テーマの設定とその人文地理学における位置づけ、枠組みなどを検討する。</p> <p>(64 山根 拓) 本授業において、受講者は地理学の修士論文の執筆に向けて、研究の進捗状況について随時報告を行う。関連文献の紹介、実地調査の内容（調査地、調査項目、調査の成果（事実やデータ））およびデータ分析からの知見や調査分析方法の妥当性、さらに今後の研究計画等について、ディスカッションを行う。</p> <p>(54 藤本 武) 文化人類学は世界各地に暮らす人びとの文化・社会を研究対象とし、その多様性を理解することを通じて人間とは何かについて探求していく学問分野である。その修士論文を作成するにあたっては、文化人類学全般についての理解が求められるだけでなく、特定のテーマに関する先行研究に関する検討・分析に加え、フィールドワークを通じて得られた知見を総合して独自の見解を導き出すことが求められる。本授業はその一連の作業を受講者が円滑に行っていく能力を養うことを目標とする。</p> <p>(96 野澤 豊一) 文化人類学の論文を作成するにあたっては、調査する地域やテーマに関する先行研究を咀嚼したうえで、フィールドワークで得られた知見を的確に記述し、独自の見解を導き出すことが求められる。本授業ではそれら（先行研究の整理・分析、調査データの記述）の成果を受講者が発表し、それに対して他者からの助言を受けることで論文作成能力を養うことを目指す。</p> <p>(12 大川 信行) スポーツ文化論における研究指導を行う。修士論文の作成に向けて、知識理解を深め、考察のできる能力を養成する。</p> <p>(127 田邊 元) 修士論文執筆のための下地を形成することを目指す。スポーツ人類学の問題系を理解した上で、対象の設定や関連研究の検討、調査計画を行い、またフィールドワークを通じて思考することを学習する。また、それらを言語化（文章化）、もしくはイメージ化することを通じて、自己再帰的に思考を進めることを身に付ける。</p> <p>(52 樋野 幸男) 日本語史における研究指導を行う。修士論文の研究テーマを模索して確定する。次に、そのテーマで問題がないか慎重に検討した後、関連する先行研究を収集して、当該テーマの研究史を整理および分析しつつ、新たな探究の端緒を突き止める。</p> <p>(105 宮城 信) 日本語学の分野における研究指導を行う。課題に関わる調査の企画、実施、分析などを行い、論文作成までの一連の研究活動の基本的な技術を身に付け、修士論文の作成に向けて検討・修正を行う。</p> <p>(38 田村 俊介) 日本古典文学における研究指導を行う。研究対象の作品を素性の正しい活字テキストで熟読するとともに、関連作品の精読・分析を行う。</p> <p>(133 藤井 史果) 日本文学における修士論文の作成に向けて、テーマ設定、全体の構成、先行研究や研究対象資料の収集・精読などを行う。</p> <p>(50 西田谷 洋) 修士論文をまとめるために必要な能力を身につけるため、国文学作品を対象に、作品演習を行い、文学研究の発展的な方法と具体的な課題等について、多面的な視点から考え、まとめる能力を身につけさせることを目指す。</p> <p>(89 上保 敏) 朝鮮語学、特に朝鮮語史の分野で修士論文を執筆する学生を対象に、研究主題の探索、先行研究の批判的検討、言語データの収集・分析などの指導を行う。</p> <p>(114 和田 とも美) 20世紀の朝鮮における大衆小説、大衆歌謡等、大衆文芸について資料調査の実践、論文指導を行う。</p> <p>(59 森賀 一恵) 中国語学における研究指導を行う。修士論文の執筆に向けて、研究テーマを定め、先行研究を検討し、資料収集を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究	課題研究 I	<p>(14 大野 圭介) 中国文学に関する研究指導を行う。この授業では、テーマの設定、全体の構想、先行研究の文献調査・検討など修士論文執筆のために必要な基礎的作業についての指導を行う。また先行論文の講読を通じて、文献の分析方法、問題の切り口の発見方法など修士論文を執筆するための指導及び、作品精読上での助言をおこなう。</p> <p>(25 齋藤 大紀) 中国文学における研究指導を行う。日本で発表された、中国現代文学に関する代表的な論文を読み、研究の水準を知るとともに、論文の書き方を習熟する。</p> <p>(100 藤川 勝也) 英語学に関する研究指導を行う。修士論文の研究テーマに関する先行研究の精読・批判的検討を通じて、当該言語現象に関する問題点を整理する。受講生が収集した言語データを検討し、反例や新たな言語事実の発掘のための助言・指導を行う。</p> <p>(40 恒川 正巳) イギリス文学における研究指導を行う。修士論文執筆を念頭に、教員の指導のもとに先行研究を調査・吟味し、文学テキストの分析方法、分析の観点設定の方法などについての理解を深める。</p> <p>(110 結城 史郎) イギリス文学に関する研究指導を行う。学生が論じようとする作品を精読し、着眼点となる問題を取り出し、それについての私見を積み重ねるようにする。こうした作業を基礎として、テーマを析出し、各論と総論がバランスのとれた論文の構想へとつなげる。</p> <p>(44 内藤 亮一) 英文学に関連する論文の書き方を習得するために、MLA論文の手引きを参照し、また実際の日本語、英語で書かれた代表的な学術論文を読み、授業において学生が報告するとともに、それについて議論する。</p> <p>(3 赤尾 千波) アメリカ文学における研究指導を行う。修士論文のテーマを確認し、文献リサーチを進め、アウトラインを完成し、第一稿を執筆することである。毎回の授業までに論文を少しずつ作成し、授業において論文添削を受ける。1年次の学修を生かし、先行研究を踏まえた上で、独自の論点で研究論文を執筆することが狙いである。</p> <p>(117 秋田 万里子) アメリカ文学に関する研究指導を行う。修士論文執筆のための文章の組み立て方、説得力のある論の展開について学修させる。専門分野に関する高度な論文を読み、自ら課題を発見するための能力を養う。自分の研究を口頭で論理的かつ明快に伝える訓練をする。</p> <p>(91 竹腰 佳誉子) 修士論文作成のために必要な知識や技術の習得を目指す。具体的には、アメリカ文化に関連する様々な文献を精読したり、討論をしながら、自分自身の研究テーマを明確にし、研究計画をしっかりと立て、研究論文にまとめるために必要な手法を考える。</p> <p>(24 黒田 廉) ドイツ語学で修士論文を書くための指導を行う。この授業ではとくに研究テーマの設定の仕方、資料収集の仕方、調査・分析の仕方を扱う。最初に履修者が考えていた研究テーマを今一度検討する。関連する先行研究を収集、その内容について報告してもらい、先行研究の問題点を明確にする。次に適切な調査方法を検討し、それに基づいた調査・分析を行い、結果を中間報告としてまとめてもらう。最後に報告について討論し、今後の課題と方向性を明らかにする。</p> <p>(67 阿部 美規) ドイツ語学における研究指導を行う。修士論文執筆に向けて、テーマの設定方法、関係文献収集方法、データ収集・分析方法、プレゼンテーション方法（口頭・文書）などを身につける。</p> <p>(46 中島 淑恵) フランス文学における研究指導を行う。修士論文執筆のために必要な事項、すなわち、研究テーマの設定方法、参考文献の検索方法、先行研究の批判的読み方と問題発見方法などについて学ぶ。</p> <p>(77 梅澤 礼) フランス文学における研究指導を行う。研究テーマの設定の仕方、参考文献の検証の仕方、仮説の立て方、章立てなどについて説明したあとで実際に修士論文の章立てをおこなない、各章の執筆を開始する。執筆途中で新たにでてきた問題点などは、調査研究を通して、逐次解決する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究	課題研究 I	<p>(35 武田 昭文) ロシア文学における研究指導を行う。これまでの研究及び収集した資料を整理して、明確な研究テーマとアウトラインを設定する。主要なテキストと資料の正確で深い読解を通して、問題提起性のある学術論文を執筆すること。課題研究 I では、先行研究の要約・整理、文学テキスト及び引用資料の翻訳・コメントの検討を中心とした論文作成の指導を行う。修士論文のテーマの先行研究に対する位置づけを明らかにする章を執筆し、本論の前半部分にあたる章の第一稿を書き上げることを目標とする。</p> <p>(7 上原雄史) 本授業は、芸術文化学研究 I, II で進めてきた基礎研究に基づき、制作と副論文を融合的に構成し、特に副論文について指導する。建築構法と目的とする雰囲気的具体化に向けて、基礎研究を独自の枠組みで体系化する発展的試みを遂行し、これを通して制作において建築の形式性を変革する操作方法の確立を体系的に記述する副論文の骨格を形成する。</p> <p>(9 内田和美) 修士課程修了へ向けた、修士研究最終段階としたインパクトあるデザイン（トランスポート/モビリティ&プロダクト）の事前研究を目標とする。（課題研究 II へ継続科目）。 本授業は演習科目。 課題研究 II へ繋げていくため事前段階のアドバンス・デザインスタディ①（トランスポート/モビリティ&プロダクト）を調査及び研究を行う。</p> <p>(11 大氏正嗣) 1年次に進めた研究成果を対外的な発表に耐えうる熟度まで深め、社会的問題における明確な問題点の提示、対処法の考案と提示、説得力ある説明資料の作成を行う。</p> <p>(15 奥敬一) 風景資源のマネージメントに関わる新知見を提供する修士論文を執筆する。課題研究 I では主に本調査の実施と結果部分のとりまとめに重点を置き、調査結果をわかりやすく読者に伝えるための学術的表現や図版・表等の表現能力を身につけるとともに、結果に基づく論理的な考察のスキルを身につける。</p> <p>(21 河原雅典) 本授業は論文指導である。人間の生活のあり方を働態学の視点で研究する。働態学は、人間の生物としての特性、とくに適応現象を理解した上で、人間の労働と生活の効率化と生活文化の多様性、持続可能性の維持向上を目指すものである。人間の生活、労働に関するテーマを設定し、実験や調査により実証的に研究する。課題研究 I, II を通して、修士論文を完成させる。芸術文化学研究 I, II に引き続き、実験や調査など適切な研究方法を選定し、研究を遂行する。研究成果を人に伝えることを重視し、成果をまとめる。</p> <p>(29 島添貴美子) 本授業は論文指導である。芸術文化学研究 I・II で設定したテーマに基づいて調査を行う。調査で収集した資料の整理と分析を行う。以下の2つの内容について指導を行う。 1 テーマの見直しと本調査の開始：芸術文化学研究 II で収集し分析した資料に基づきテーマを見直し、本調査を開始する。 2 調査資料の整理と分析：これまでの調査で収集した資料の整理・分析を行い、論文執筆に向けて準備する。</p> <p>(33 高橋誠一) 社会情勢、市場、文献などの調査を行い、現代生活にとって有効な漆工芸品を企画し、作品制作をする。そしてその作品を、広く社会に発表することにより、現代社会における漆工芸のあり方を提案し、一般社会からの評価を受ける。最終成果物を修了制作（特定の課題についての研究の成果）とし、その課題に関わるテーマの副論文とあわせて単位認定する課題研究 II の前半部分。</p> <p>(45 長柄毅一) 歴史上重要な文化財を対象に、科学的な手法による分析を行い、新しい知見を得る。 テーマ例：古代青銅器の非破壊分析法の開発、古代青銅物の鑄造シミュレーション 等</p> <p>(49 西島治樹) 本授業は作品制作である。現代におけるメディア表現を中心に課題を設け、研究テーマを整理総括する。より高度な表現力の獲得に向けた制作と発表を繰り返し、表現者としての自立と自覚を養う。コンセプトとマテリアルの関係性に注視しつつ、作品から発生するノイズの除去作業を行い、完成を目指す。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究	課題研究 I	<p>(68 有田行男) 芸術文化学研究 I / II および、課題研究 I / II を通じて取り組む研究/制作の最終的なアウトプットを具体的に設定、研究であれば概要と構成を組み立て、制作であれば試作を行う。</p> <p>(72 伊東多佳子) 課題研究 I は、美学の分野で修士論文を作成する学生を対象に行う。芸術文化学研究 I および芸術文化学研究 II の授業において、それぞれのテーマに応じた研究計画を練り、修士論文の予備段階としての中間論文を作成したが、ここではそれをさらに発展させて、実際の修士論文作成に向けて研究指導を行う。</p> <p>(74 今淵純子) 芸術文化学研究 I 及び II の研究成果をふまえ、第2段階目として取り組むべき調査、実験、制作等を行う。</p> <p>(79 沖和宏) (概要) 本授業は制作企画書および試作モデルまたは、論文草稿指導である。 (目標) あらゆる領域における、プロジェクト遂行手法に関して、コンセプトメイキングに係る自らの方法論を獲得することを目的とする。 (授業の流れ) 前年度の「芸術文化学研究 I」と同様のプロセスを踏み、実践と理論をバランスよく両立させた調査、分析、問題抽出、コンセプトメイキングまたは企画立案、あるいは仮説の構築を行う。</p> <p>(86 三宮千佳) 本授業では、美術史研究における修士論文執筆を行う。1年次の研究テーマを参考に、改めて修士論文のテーマを設定する。先行研究の問題点の抽出し、問題点の解決のために自分自身で新たな研究の切り口をみつけ、文献史料や実物作品の研究をもとに新たな解釈を提示し、論文として仕上げていく。特に前期では、当該分野の研究史を漏れがないように把握し、自身の着眼点を明らかにすること、また問題解決のための文献研究、実物研究を展開する。毎週、研究した内容について、履修者にプレゼンテーションしてもらい、それに対する指導を行う。また、進捗状況によっては論文執筆を開始する。</p> <p>(88 清水克朗) 大学院の集大成として、芸術文化学研究 I・II で培った成果を踏まえ、より深く質の高い制作と、これに付随する研究を行う。金属工芸による造形、技法、歴史を含めた課題を、これまでの経験から得られた技能や問題解決能力を十分に発揮して独創的で魅力的な作品制作と洞察力に富む副論文を目指す。 本講義では、取材と試作、実験に時間をかけ、作品の主題及び研究課題を確定する。試作においても極力、実素材を用い、技術の向上も心がける。</p> <p>(97 萩野紀一郎) 芸術文化学研究 I・II、課題研究 I・II を通じて、建築意匠、インテリアデザイン、建築の保存・再生、デザイン/ビルドなどについて、具体的な事例を対象に、調査研究を行い、その結果を分析して副論文にまとめる。そして、その成果をもとにデザインや制作を行う。 課題研究 I は、その第三段階として、芸術文化学研究 I・II で実施した成果をもとに、収集した資料の整理および分析を進め、副論文をまとめる。デザインや制作についても、芸術文化学研究 II でまとめた作品をもとに、副論文の内容に合わせて適宜、修正や改善を加え、最終作品の計画を練り、中間発表を行う。</p> <p>(108 安嶋是晴) 芸術文化学研究でまとめた研究成果を基本とし、修士論文の位置づけを再確認しスケジュールを作成する。まずは文化資源の発掘や活用のアプローチ方法と手順を確定し、論文の骨格づくりを進める。新しい知見を加味した論理的かつ説得力のある結論になるように、先行研究・関連研究の検討は継続しつつ内容構成を固めていく。</p> <p>(111 横山天心) 「芸術文化学研究 II」で設定した修士論文・修士制作のテーマに即して、関連する資料を収集し、論理的思考に基づいて調査・分析する。そして、資料対象を体系化しながら、分析手法を設定し、その結果を比較するといった、仮説と検証のサイクルを何度も繰り返すことで、修士論文・修士制作の論理的枠組みを確定する。また、それを確実に遂行するための具体的な研究・制作計画を立てる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究 課題研究 I	<p>(115 渡邊雅志) 各自の専門をさらに進めた、新しい価値について研究する。人が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、その中から、無理のない新しいデザインを発見し、具体化させる授業。ものを生み出す側の立場の視界と思考が、ものを使用する側の感覚とは違うということを体感しながら、ものに対する適正解を見つけ出す能力を養うことを目標とする。具体的には、芸術文化学研究 I・II と同様に様々な諸条件、既成概念、ものの本質を見極めながら、新しいデザインを生み出すための実験モデルや検証を繰り返し、コンセプトモデルから展開モデルまで制作する。</p> <p>(119 岡本知久) 課題研究 I では、芸術文化学研究で得られた結果を、整理・分析し、客観的なエビデンスを導き出すと共に、そのエビデンスを基にした、デザインによる新しい課題解決策の立案と、ユーザーに体験や経験を提供するストーリーメイキングを行う。</p> <p>(120 小川太郎) 今まで大学院で履修して来た授業を踏まえ、課題研究 II と共に修了制作に挑む。大学院での学びの集大成となる作品の制作、またその前段階である、テーマの選定、アイディア出しから作品の原型作りを行う。</p> <p>(129 長田堅二郎) 現代美術や空間インスタレーションについての知識を身につけながら、自分の表現の方向性を固め、芸術文化学研究 I・II の研究制作をさらに深化させる。研究制作から発表までを切り離すことなく、全てのプロセスと空間を自己責任において芸術表現として提示できる力を身につけ作品で示す。</p> <p>(132 平田昌輝) 芸術文化学研究 I, II で行なった研究制作をもとに、さらに実践的・応用的な研究制作を行う。学生自身の状況に応じ、技法研究や調査・実験など、修了制作の内容を高めるための取り組みを深める。</p> <p>(134 松田愛) 本授業は修士論文の作成指導である。第1年次に引き続き、「美術と社会」の関係に着目しつつ、近現代美術史や美術理論、キュレーション理論、アートマネジメントの実践研究についての修士論文作成に向けて研究指導を行う。修士論文を完成させる最終段階として、芸術文化学研究 I, II の成果に基づき、より綿密な文献資料調査と事例調査を実施し、先行研究の批判的検証をもとに、問題の論証と検討を進める。その成果を第2年次中間報告として発表する。</p> <p>(135 松村浩之) 芸術文化学研究 I・II で行った制作・研究をもとに、修了制作・研究にむけ、学生とともに協議しながら進めていく。各自の制作テーマや、それに沿った画材や技法について理論的にまとめる。適宜参考資料の提示や指導を行うとともに、検討会や講評会を行い、制作・研究の内容を深めていく。</p> <p>(136 藪谷祐介) 芸術文化学研究 I で設定し、芸術文化学研究 II で妥当性を検討した都市や建築に関わる仮説を検証するために、建築計画的視点から調査研究を行い、論理的思考に基づいて社会的・学術的意義を有した知見を導出する。さらに、導出した結果の検証を行い、さらなる課題の解明とその課題を解決するための研究計画を立てる。以上の得られた成果を修士論文の執筆あるいは修士制作につなげるために、梗概としてまとめる。授業はゼミ形式で行う。すなわち、本研究室に所属する学生全員が各自の研究内容について発表し、各発表について全員で討議する方法で進める。研究スケジュールについては、各自がテーマや方法に応じて適切に設定する。</p> <p>(137 幸亮太) 本授業は日本画などの画材や技法を使って修了制作に向けた制作を行う課題研究授業である。これまでの研究を踏まえ、日本画制作において、画材の選択、技法の実験など制作研究の中で表現の可能性を探索する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究 課題研究Ⅱ	<p>(概要) 課題研究Ⅰに引き続き、人文科学、芸術文化学を専攻する学生に対し、各々の主指導教員が研究テーマに沿った修士論文や課題制作の完成に向けて、必要な研究指導を行う。</p> <p>(70 池田 真治) 哲学における研究指導を行う。先行研究や研究対象資料の精読・分析などを行い、修士論文を執筆する。</p> <p>(37 田畑 真実) 倫理思想史における研究指導を行う。修士論文を本格的にまとめていくための実践的なスキルの訓練を行う。特に口頭で発表するスキルと、文章でまとめて発表するスキルを磨く。前者については、学会発表を念頭に置き、規定時間内にまとめた発表が行えるよう、また質疑応答の仕方も訓練する。後者については、修士論文のテーマ、構成を踏まえ、ひとまとまりごとにレポート作成してもらう。それを積み上げていくことで、修士論文を完成させていく。</p> <p>(85 澤田 哲生) 現代哲学における研究指導を行う。修士論文の作成のために、学生が(1)必要な文献を収集し、(2)その内容を精査・解読し、(3)教員および学生たちと議論することで、修士論文作成にフィードバックする。</p> <p>(31 鈴木景二) 日本史における研究指導を行う。受講生の研究テーマについて、関連する史料・研究論文の内容について検討し、修士論文の完成を目指して研究をより促進する。</p> <p>(130 長村 祥知) 日本史における研究指導を行う。受講生の研究テーマについて、関連する史料・研究論文の内容について検討し、修士論文の完成を目指して研究をより促進する。</p> <p>(94 中村 只吾) 日本史学の研究論文(修士論文)を執筆する。 ①扱うテーマに関する先行研究の成果と課題を整理する。 ②扱うテーマに関する史料を収集し、それらの分析・考察を行う。 上記の①②をもとに論理を構成し、一本の論文としてまとめる。</p> <p>(41 徳永 洋介) 中国史に関する研究指導を行う。先行研究の収集・整理を進めながら、史料の収集・分析を行い、修士論文を執筆する。</p> <p>(2 青木 恭子) ロシア文化論における研究指導を行う。修士論文を書き進めつつ、内容や形式に関する助言指導を行い、修士論文の完成を目指す。</p> <p>(16 小野 直子) アメリカ文化論における研究指導を行う。修士論文執筆に必要な文献や史料を探して読み、議論によって得られる知見を反映して、最終的に論文を完成させる。</p> <p>(75 入江 幸二) 西洋史における研究指導を行う。受講生の研究テーマをふまえ、一次史料を読解・分析してまとめる。 その作業を通して、修士論文を執筆する。</p> <p>(104 南 祐三) 西洋史における研究指導を行う。受講生の個別研究テーマに沿って、その修士論文完成に向けた指導を行う。研究史の整理、史料の分析、論文の構成などに関して、専門的な手法や知識を身につけてもらうことをねらいとする。</p> <p>(42 徳橋 曜) 修士論文のテーマ・枠組を決定し、課題研究Ⅰで修得した知識・スキルを活用して当該テーマの研究動向・研究史の整理を行わせつつ、課題の焦点化と関連文献・史料の分析を指導し、随時、進捗状況の発表やディスカッションを通じて、論文を完成させていく。</p> <p>(39 次山 淳) 考古学における研究指導を行う。受講生による具体的な資料の分析事例とその結果に対する考察について検討を加え討議する。その過程で、問題点と課題を再度確認し、修士論文としての完成をめざす。</p> <p>(32 高橋 浩二) 考古学における研究指導を行う。課題研究Ⅰに引き続いて、遺跡概要や調査資料等に関する執筆と確認など修士論文を執筆し発表するために必要な基礎的作業についての指導を行う。また、調査データの分析方法と検討方法、図表の作成と分析など修士論文執筆のための資料調査を進める上での助言を行う。論文構成や分析方法、結論など論文全体に関わる確認を行う。そして、これらを通じて受講生は、修士論文の執筆及び図表の作成等を行う。</p> <p>(63 山崎 けい子) 日本語教育学における研究指導を行う。文献の分析能力、調査方法やデータの分析能力、論文構成力・執筆力を培うことで、修士論文作成を行う。</p> <p>(69 安藤 智子) 言語学における研究指導を行う。先行研究の検証と自らの調査をふまえて修士論文を完成させる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究	課題研究Ⅱ	<p>(28 佐藤 裕) 社会学における調査の方法論に関する理解をさらに深めながら、自分でそれを用い、修士論文を執筆する。</p> <p>(5 伊藤 智樹) 社会学研究による修士論文の指導を行う。</p> <p>(87 志賀 文哉) 課題研究Ⅰを踏まえ、基本的な論文の構成を指導し、受講生には論文の各章の内容を報告・発表等をさせながら計画的に指導する。調査研究については倫理的な配慮をどのように行ったかを明記させる。また、研究の成果について学会等で発表し研究内容に対する専門的な助言をえて研究を精査するものとする。</p> <p>(13 大西 宏治) 人文地理学での修士論文作成に際して必要となる受講者の行う研究テーマの設定とその人文地理学における位置づけ、枠組みなどを検討する。そこで、フィールドワークの実施とその成果の分析結果に関して議論を行うとともに、そこから得られた知見を整理する。さらに、これまでの研究成果の人文地理学の中での位置づけを明確化するための議論を行う。これらを踏まえ、論文にまとめるため、成果の体系化を行う。</p> <p>(90 鈴木 晃志郎) 人文地理学やその手法を用いた研究を実施し、調査成果を修士論文にまとめるための指導を行う。内容は受講生の問題関心によって修正されることがあり得るが、基本的に修士論文の執筆段階であるから、フィールドワークや文献研究を実施しその成果の分析結果に関する議論を行い、そこから得られた知見を整理したうえで、修士論文の作成を行う。</p> <p>(64 山根 拓) 地理学の修士論文の完成に向けて、受講者は研究の進捗状況について報告し、それに関して事実関係の再検証を行い、教員と受講者でディスカッションを行う。終盤には修士論文作成の最後の詰めとして、修論原稿の下書きを基に、最終的な改善点を教員が指摘・指示して、より良い修士論文の完成を目指す。</p> <p>(54 藤本 武) 文化人類学は世界各地に暮らす人びとの文化・社会を研究対象とし、その多様性を理解することを通じて人間とは何かについて探求していく学問分野である。その修士論文を作成するにあたっては、文化人類学全般についての理解が求められるだけでなく、特定のテーマに関する先行研究に関する検討・分析に加え、フィールドワークを通じて得られた知見を総合して独自の見解を導き出すことが求められる。本授業はその一連の作業を受講者が円滑に行っていく能力を養うことを目標とする。</p> <p>(96 野澤 豊一) 文化人類学の論文を作成するにあたっては、調査する地域やテーマに関する先行研究を咀嚼したうえで、フィールドワークで得られた知見を的確に記述し、独自の見解を導き出すことが求められる。本授業ではそれら（先行研究の整理・分析、調査データの記述）の成果を受講者が発表し、それに対して他者からの助言を受けることで論文作成能力を養うことを目指す。</p> <p>(12 大川 信行) スポーツ文化論における研究指導を行う。修士論文の完成に向けて、知識理解を深め、考察のできる能力を養成する。</p> <p>(127 田邊 元) 課題研究Ⅰを通じて設定したテーマに沿い、実際のフィールドワークを通じて得られた視点、そこからの思考を踏まえて、修士論文として文章化していくことを目指す。また修士論文執筆を通じて、スポーツ人類学のどのような問題系に対して自身の問いがインパクトを持ちうるのかを理解する。</p> <p>(52 樋野 幸男) 日本語学における研究指導を行う。課題研究Ⅰに引き続き、当該テーマに使用する研究資料を適切に定めて、その性格を考慮しながら論述に必要なデータを蓄積していく。研究史を確認しつつ、問題の核心へ向かって論文の執筆を進める。</p> <p>(105 宮城 信) 日本語学における研究指導を行う。課題に関わる調査の企画、実施、分析などを行い、論文作成までの一連の研究活動の基本的な技術を確認し、自分なりの探求方法を開発する。 修士論文の作成に向けて検討・修正を行う。</p> <p>(38 田村 俊介) 日本古典文学における研究指導を行う。先行論文や関連資料を分析し、修士論文を執筆する。</p> <p>(133 藤井 史果) 日本文学における研究指導を行う。課題研究Ⅰで収集・精読した先行研究や研究対象資料を分析・考察し、修士論文を完成させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目 特別研究	課題研究Ⅱ	<p>(50 西田谷 洋) 修士論文をまとめるために必要な能力を身につけるため、国文学作品を対象に、作品演習を行い、文学研究の発展的な方法と具体的な課題等について、多面的な視点から考え、まとめる能力を身につけさせることを目指す。</p> <p>(89 上保 敏) 朝鮮語学、特に朝鮮語史の分野で修士論文を執筆する学生を対象に、論文の構成、論文の執筆、執筆内容の再検討・修正などの指導を行う。</p> <p>(114 和田 とも美) 20世紀の朝鮮における大衆小説、大衆歌謡等、大衆文芸について資料調査の実践、論文指導を行う。</p> <p>(59 森賀 一恵) 中国語学における研究指導を行う。修士論文の完成に向けて、研究テーマを定め、先行研究を検討し、資料収集を行う。</p> <p>(14 大野 圭介) 中国文学に関する研究指導を行う。この授業では、課題研究Ⅰでおこなった予備研究にもとづき、修士論文を執筆するための文献の整理・分析、作品の精読を行う。この作業を通じて、文献の分析方法や研究の視点など研究のための指導及び助言を行い、研究の過程で生じた問題を解決し、修士論文を完成させる。</p> <p>(25 齋藤 大紀) 中国文学における研究指導を行う。受講者の修士論文に関して、具体的な執筆指導を行う。</p> <p>(100 藤川 勝也) 英語学に関する研究指導を行う。修士論文の構成・執筆計画を練り、執筆を開始させる。課題研究Ⅰに引き続き、受講生が収集した言語データの分析、理論的貢献の可能性について議論する。また、各章の論旨の展開・一貫性等について助言・指導を行う。</p> <p>(40 恒川 正巳) イギリス文学における研究指導を行う。修士論文の完成を念頭に、論文の執筆と改訂のプロセスについて学び、実践する。</p> <p>(110 結城 史郎) イギリス文学に関する研究指導を行う。論文は客観的かつ独創的であることが大切である。学生を対象としている作品について、これまでの研究や最新の研究動向を検証し、書こうとする論文の国内外での位置づけを確認することにより、結論の明確な論文を執筆する。</p> <p>(44 内藤 亮一) 学生が自分の研究テーマに関する先行研究論文を読み、論点を明確にし、論文のアウトラインを書く指導を行う。その後、アウトラインに沿って論文を書かせ、適宜、それについて議論をしながら論文を完成させるための指導を行う。</p> <p>(3 赤尾 千波) アメリカ文学に関する修士論文を執筆する。毎回の授業までに論文を少しずつ作成し、授業において論文添削を受ける。1年次の学修および課題研究Ⅰを生かし、先行研究を踏まえた上で、独自の論点で研究論文を執筆することが狙いである。第4ターム末には、修士論文について口頭発表と質疑応答を行う。</p> <p>(117 秋田 万里子) アメリカ文学に関する研究指導を行う。学術論文として適切な論文テーマ、研究方法、構成を徹底させる。修士論文執筆に必要な、情報収集と問題解決の方法を獲得させる。先行研究を踏まえたうえで、独自性のある論文が書けるよう、個人指導を行う。</p> <p>(91 竹腰 佳誉子) 課題研究Ⅰを踏まえ、修士論文の完成を目指す。履修学生は自分自身の研究計画に即して、研究に必要な資料・データ収集をしたり、分析をしたり、発表や討論をしたりして、教員の指導のもと修士論文をまとめる。</p> <p>(24 黒田 廉) ドイツ語学で修士論文を書くための指導を行う。この授業ではとくに分析結果についての議論、論文執筆の問題を扱う。まず「課題研究Ⅰ」で行った調査・分析について考察し、議論を行い、修士論文執筆に入ることができる状況かを確認する。準備状況が不十分な場合は、必要な調査・分析を行ってもらおう。次に修士論文の構成を検討し、実際に履修者に執筆に入ってもらおう。毎回の授業で履修者は進捗状況を報告し、それについて議論を行う。最後に論文全体の確認および校正を行い、口頭発表を実施してもらおう。</p> <p>(67 阿部 美規) ドイツ語学における研究指導を行う。修士論文の完成に向けて、テーマの設定方法、関係文献収集方法、データ収集・分析方法、プレゼンテーション方法（口頭・文書）などを身につける。</p> <p>(46 中島 淑恵) フランス文学における研究指導を行う。研究テーマの設定の仕方、参考文献の検証の仕方、仮説の立て方、章立てなどについて説明したあとで実際に修士論文の章立てを行い、各章の執筆を開始する。執筆途中で新たにでてきた問題点などは、調査研究を通して、逐次解決する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究	課題研究Ⅱ	<p>(77 梅澤 礼) フランス文学における研究指導を行う。研究テーマの設定の仕方、参考文献の検証の仕方、仮説の立て方、章立てなどについて説明したあとで実際に修士論文の章立てを行い、各章の執筆を開始する。執筆途中で新たに出てきた問題点などは、調査研究を通して、逐次解決する。</p> <p>(35 武田 昭文) ロシア文学における研究指導を行う。課題研究Ⅰで行った研究に基づき、引き続き、主要なテキストと資料の正確で深い読解を通して、問題提起性のある学術論文を執筆すること。課題研究Ⅱでは、先行研究の要約・整理、文学テキスト及び引用資料の翻訳・コメント、注と文献リストの検討の最終的確認を行い、論文の各章の検討を中心とした論文作成の指導を行う。本論の後半部分にあたる章の第一稿を書き上げ、本論の各章について批判的検討を行ったうえで加筆修正を行い、完成稿を仕上げることを目標とする。</p> <p>(7 上原雄史) 本授業では、課題研究Ⅰで設定した枠組みによる制作指導であり、制作を通して副論文を纏める指導をする。建築設計特論演習Bでの習作と建築設計特論演習Cでの成果を鑑み、敷地やプログラム、建築構法など建築設計の具体的な条件を設定し、芸術文化科学研究Ⅰで設定した方法により具体的な設計を進め、副論文をまとめてゆく。</p> <p>(9 内田和美) 課題研究Ⅰから続く、修士課程修了へ向けた修士研究最終段階としてインパクトあるデザイン（トランスポート/モビリティ&プロダクト）の製作と最終研究発表を目標とする。 本授業は演習科目。 修士課程修了制作のためのアドバンス・デザインスタディ②（トランスポート/モビリティ&プロダクト）モデル制作及び研究発表を行う。 （研究課題Ⅰから継続科目）</p> <p>(11 大氏正嗣) 研究テーマに関する新規性や汎用性等を明確にし、学会発表や関連団体への公表等を見据え、最終論文及び制作を行う。</p> <p>(15 奥敬一) 風景資源のマネジメントに関わる新知見を提供する修士論文を執筆する。課題研究Ⅱでは主に複数の調査結果を統合して、より普遍的な結論を導き出す構成力を学ぶとともに、学術的なルールに則って論文を執筆し完成させる。また、学術的成果として学会等での発表へのステップアップについても指導する。</p> <p>(21 河原雅典) 本授業は論文指導である。人間の生活のあり方を働態学の視点で研究する。働態学は、人間の生物としての特性、とくに適応現象を理解した上で、人間の労働と生活の効率化と生活文化の多様性、持続可能性の維持向上を目指すものである。人間の生活、労働に関するテーマを設定し、実験や調査により実証的に研究する。課題研究Ⅰ、Ⅱを通して、修士論文を完成させる。課題研究Ⅰに引き続き、実験や調査など適切な研究方法を選定し、研究を遂行する。最終的に修士論文にまとめる。</p> <p>(29 島添貴美子) 本授業は論文指導である。課題研究Ⅰで整理・分析した資料をもとに、論文を執筆する。執筆にあたって必要に応じて補足調査も行う。論文の構成を再検討し、構成に基づいた資料整理を行い、論理が明白で、わかりやすい文章の書き方を学ぶことを目標とする。以下の4つの内容について指導を行う。 1 論文の構成：目次と各章で執筆する内容の概要を作成する 2 論文の執筆：論理が明白で、わかりやすい文章の書き方を学ぶ 3 補足調査：不足している資料を点検し、資料収集を行う 4 執筆した文章や図版等を推敲し、完成させる</p> <p>(33 高橋誠一) 社会情勢、市場、文献などの調査を行い、現代生活にとって有効な漆工芸品を企画し、作品制作をする。そしてその作品を、広く社会に発表することにより、現代社会における漆工芸のあり方を提案し、一般社会からの評価を受ける。最終成果物を修了制作（特定の課題についての研究の成果）とし、その課題に関わるテーマの副論文とあわせて単位認定する。</p> <p>(45 長柄毅一) 歴史上重要な文化財を対象に、科学的な手法による分析を行い、新しい知見を得る。 テーマ例：古代青銅器の非破壊分析法の開発、古代青銅鑄物の鑄造シミュレーション 等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	課題研究Ⅱ	<p>(49 西島治樹) 課題研究Ⅰで実践した内容を整理し、作品の背景や思考のプロセスを言語化し既存の先行研究などと比較しながら副論文にまとめる。自らの創作の目的や意義を適切に他者に伝える方法を発見する。国際的なフィールドで展開できるプレゼンテーション能力を身につけ、創作者として活動するための基盤を固める。</p> <p>(68 有田行男) 芸術文化学研究Ⅰ/Ⅱおよび、課題研究Ⅰ/Ⅱを通して取り組む研究/制作を完成させる。</p> <p>(72 伊東多佳子) 課題研究Ⅱは、美学の分野で修士論文を作成する学生を対象に行う。課題研究Ⅰに引き続き、芸術文化学研究Ⅰおよび芸術文化学研究Ⅱの授業の成果である修士論文の予備段階としての中間論文の内容をさらに発展、深化させ、実際の修士論文として仕上げていくための研究指導を行う。ここでの成果は、修士論文の作成である。</p> <p>(74 今淵純子) 芸術文化学研究Ⅰ、Ⅱ及び課題研究Ⅰの研究成果をふまえ、実技体験に裏付けされた技術理解や表現に関する問題提起または、解決した問題についてまとめる。</p> <p>(79 沖和宏) 〈概要〉 本授業は制作物と副論文。または論文執筆指導である。 〈目標〉 あらゆる領域における、プロジェクト遂行手法に関して、具体的成果の完成に係る自らの方法論を獲得することを目的とする。 〈授業の流れ〉 前期「課題研究Ⅰ」で構築したデザインコンセプト、または研究テーマにおける仮説に対し、発案と試作による解決手法、または仮説に対する確固たる論証を掘り下げる。前年度「芸術文化学研究Ⅰ、Ⅱ」での研究過程を基本的に踏襲するが、それを踏まえ、プロジェクト遂行を強固にするマネジメント力を意識的に捉えながら、制作、あるいは論文執筆を通して課題に対する結論を具体化する。</p> <p>(86 三宮千佳) 本授業では、美術史研究における修士論文執筆を行う。研究テーマの先行研究の問題点を抽出し、問題点の解決のために自分自身で新たな研究の切り口を見つけ、文献史料や実物作品の研究をもとに新たな解釈を提示し、論文として仕上げていく。前期で研究史を把握し、自身の着眼点をもとに問題解決のための文献研究、実物研究を展開したので、後期ではその精度を高めながら執筆していく。毎週、研究し執筆した内容について、添削指導を行う。</p> <p>(88 清水克朗) 課題研究Ⅰで決定された制作・研究課題を進める。計画、試行、評価、改善を繰り返すことで内容を充実させていく。</p> <p>(97 萩野紀一郎) 芸術文化学研究Ⅰ・Ⅱ、課題研究Ⅰ・Ⅱを通じて、建築意匠、インテリアデザイン、建築の保存・再生、デザイン/ビルドなどについて、具体的な事例を対象に、調査研究を行い、その結果を分析して副論文にまとめる。そして、その成果をもとにデザインや制作を行う。 課題研究Ⅱは、その最終段階として、課題研究Ⅰで作成した副論文をブラッシュアップして最終的な副論文をまとめ、デザインや制作についても、課題研究Ⅰでまとめた計画を、より具体的に、より詳細に計画を進め、またプレゼンテーション方法も練り、最終的な作品をまとめ、口頭発表および作品展示を行う。テーマ次第ではあるが、可能な限り、実際の建築や空間の原寸大のサンプルの作成、あるいは、細部について大きなスケールでのプレゼンテーションを期待する。</p> <p>(108 安嶋是晴) 課題研究Ⅰの内容に基づき、文化資源に関する修士論文を完成させる。これまでまとめてきた内容を精緻化するとともに、追加調査などがあれば実施する。修士論文の作成によって、課題発見力および課題解決力の向上を図り、その成果が地域に有用なものになることを目指す。</p> <p>(111 横山天心) 「課題研究Ⅰ」で作成した研究・制作計画に則り、その成果を修士論文あるいは修士制作としてまとめる。どちらの場合においても論理性と新規性が認められ、建築の社会性を押し広げる一端となるものとする。修士制作においては、「芸術文化学研究Ⅱ」で得られた成果を基に、コンセプトや設計手法に関わる事例を論理的に調査・分析した副論文を作成し、そこで見出された知見や手法を用いてプロジェクトを計画・設計する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文・芸術プログラム専門科目	特別研究 課題研究Ⅱ	<p>(115 渡邊雅志) 課題研究Ⅰで取り組んだ展開モデルをブラッシュアップする。人が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、その中から、無理のない新しいデザインを発見し、具体化させる授業。ものを生み出す側の立場の視界と思考が、ものを使用する側の感覚とは違うということを感じながら、ものに対する適正解を見つけ出す能力を養うことを目標とする。具体的には、課題研究Ⅰで制作した展開モデルをさらに進め、プロトタイプモデルを制作する。成果物は積極的に学外評価を得る機会を設定する。</p> <p>(119 岡本知久) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰで構築したデザイン案を具体的なカタチとしていくことで、ユーザーやクライアントが気づいていない新しい可能性をデザイン的なアプローチで具体化すると共に、結果の有効性についての検証を行う。</p> <p>(120 小川太郎) 今まで大学院で履修して来た授業を踏まえた大学院での学びの集大成となる作品の制作。真に修了制作に値する作品制作。 課題研究Ⅰで制作した作品の完成を目指し、素地制作から加飾までを行う。学外での発表も念頭に国内外で発表可能な作品作りに挑む。</p> <p>(129 長田堅二郎) 課題研究Ⅰでの研究成果を検討し、修了制作としての研究制作を実現する。また同時に、これまで制作研究の中で、身につけた現代美術や空間インスタレーションについての知識、調査研究資料、制作記録などを論理的にまとめ特別研究を完成させる。</p> <p>(132 平田昌輝) 課題研究Ⅰで実践した研究成果をもとに彫刻の本質を再検証して、研究成果を発表する。空間に作品を成立させる意味と方法を追求し、作品として現出させることを試みる。</p> <p>(134 松田愛) 本授業は修士論文の作成指導である。課題研究Ⅰの成果を受け、研究テーマを検証し、先行研究の綿密な調査を経て、問題を明確化する。また、事例調査の成果をまとめつつ、修士論文を執筆していく。執筆を通して、論理的に論を記述・展開していく力を身につける。問題と課題の検討、修正を進めながら、より専門的かつ高度な調査・研究能力を習得することを目指す。修士論文を完成させ、発表を行い、その反省・課題の検証までを行う。</p> <p>(135 松村浩之) 課題研究Ⅰで行った制作・研究をもとに、修了制作・研究完成にむけ、学生とともに協議しながら進めていく。アーティストとして、研究者として社会に出るための礎を築く。 適宜参考資料の提示や指導を行うとともに、検討会や講評会を行い、研究・制作の内容を深めていく。</p> <p>(136 藪谷祐介) <修士論文の場合>課題研究Ⅰで計画した研究計画に基づいて、建築計画学的視点からさらなる調査研究を行い、論理的思考に基づいて社会的・学術的意義を有した知見を導出する。得られた成果を修士論文としてまとめる。 <修士制作の場合>課題研究Ⅰで計画した研究計画と得られた研究成果を用いて、芸術文化学研究Ⅰで設定した現代的・社会的課題を解決するための新たな計画手法の可能性を提示する建築を提案する。得られた成果を修士制作および副論文としてまとめる。 授業はゼミ形式で行う。すなわち、本研究室に所属する学生全員が各自の研究内容について発表し、各発表について全員で討議する方法を進める。研究スケジュールについては、各自がテーマや方法に応じて適切に設定する。</p> <p>(137 幸亮太) 本授業は課題研究指導である。日本画などの画材や技法を使い、これまでの集大成としての制作研究を行う。また、これまでの自身の研究を振り返り、研究内容の自己分析やプロセスを副論文としてまとめることで制作研究を体系的に考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経済学系		
	政治経済学特論 I	政治経済学特論Iでは、資本主義という経済システムの仕組みについて、その社会的・政治的構造に焦点をあて、A・Smith, K.Marx, J.M.Keynesの政治経済学、および彼らの流れをくむ経済学を学ぶ。とりわけ、本年の特論Iでは、経済学の父と言われるA・Smithをメインに据え、「経済、倫理、人間」をスミスはどのように考え、捉えようとしたのかを、関連する文献を通じて学修する。	
	政治経済学特論 II	政治経済学特論IIでは、特論Iで学修した基本的知識をもとに、アダム・スミスの諸著作（『道徳感情論』、『法学講義』、『国富論』など）の輪読を通じて、彼の時代にもあったであろう不平等や貧困といった経済社会の基本問題にスミスはどのようにアプローチしたのかを理解する。このようなエクササイズを通じて、道徳科学の経済学の視点から、理論的および実証的に考察する力を養うことを目標とする。	
	現代経済理論特論 I	多段階の意思決定を伴うマイクロ寡占理論について学ぶ。理論上多段階の意思決定を伴う寡占の分析には、手番を明示した展開型ゲーム理論が用いられる。そこで必要とされる道具はグラフ理論における木構造、あるいは抽象的な順序集合論と最適化解析学である。説明に当たっては、集合論公理系としてZermelo-Fraenkel集合論公理系から選択公理を除いたZFを一応の前提とするが、その理由は講義で説明する。本講義では、このような道具を用いて、経済行動における経済主体の相互依存関係を分析する能力を身につけることを目的とする	
	現代経済理論特論 II	差分方程式を用いたマクロ経済変動の理論モデルを学ぶ。最初に離散力学系の理論を紹介するが、そこで必要とされる解析学、位相空間論の知識は既知とする。特に重要なのは不動点と周期点の理論で、これについては1次元力学系の結果を紹介する。差分系においては微分系と異なり、1次元において既に解軌道が十分複雑な振る舞いを示すことを学ぶことになる。経済変動モデルとしては、2次元線形系として記述される古典的な Paul Samuelson の加速度乗数モデルを紹介した後、N. Kaldor, R.M. Goodwin の非線形モデルを検討する。また、マクロ経済全体を無限時間生存する経済主体の意思決定の結果として捉える、代表的消費者モデルについても検討を加える。	
	日本経済史特論 I	日本経済史特論 I II では、日本の高度成長期に関する諸研究を読み、論点を把握し検討していく。日本経済史特論 I では、原朗編（2010）『高度成長始動期の日本経済』（日本経済評論社）を中心に授業を進める。同書をもとに1950年代の日本の産業構造を把握し、各産業における政策や企業行動を検討する。また同書に収められた諸論考における論点の設定、実証方法などを学び、分析力を培う。	
	日本経済史特論 II	日本経済史特論 I II では、日本の高度成長期に関する諸研究を読み、論点を把握し検討していく。日本経済史特論 II では、原朗編（2012）『高度成長展開期の日本経済』（日本経済評論社）を中心に授業を進める。同書をもとに高度成長の展開期である1960年代における経済政策、産業構造、地域社会について検討する。履修者が研究テーマとする政策や産業との比較から重要事項や相違点を析出する能力を伸ばす。その上で、修士論文での研究を進展させることを目指す。	
	計量経済学特論 I	計量経済学特論 I では古典的な線形回帰モデルの推定・検定手法を取り上げる。第1の目標は、代表的な統計手法である回帰分析について学び、線形回帰モデルの最小2乗推定量が良い性質を持つためのさまざまな前提条件を理解することである。第2の目標は、前提条件が崩れた場合の適切な対処方法について理解することである。特に、誤差項の分散不均一や系列相関、説明変数の内生性バイアスなどへの対処法を取り上げる。以上について統計パッケージRを利用して分析能力を養う。	
	計量経済学特論 II	計量経済学特論 II では、さまざまな形式のデータ（時系列データ、パネルデータ、質的データなど）に対応した計量経済分析の手法を取り上げる。第1の目標は、時系列データの定常性と非定常性の違いについて把握し、それぞれの予測メカニズムについて学ぶことである。第2の目標は、パネルデータや連立方程式モデルに対する推定手法を理解することである。第3の目標は、目的変数が質的な情報を持つ場合や途中で打ち切られたデータの場合の推定方法について理解することである。以上について統計パッケージRを利用して分析能力を養う。	
	応用経済学特論 I	応用経済学特論IIや他のマイクロ経済学、マクロ経済学の履修の基礎となる経済数学の基礎を学ぶ。A.C. チャン, K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎』あるいは、同等の水準のテキストをマスターすることを目標とする。 線形代数、多変数の微積分、ラグランジュ乗数法、非線形計画法、微分方程式などをあつかう。このレベルの数学は大学院レベルの経済学の学習で必須であるので、テキストの完全な理解とともに、テキストの練習問題を自力で解けるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目 経済学系	応用経済学特論Ⅱ	特論Ⅰで学んだ数学を土台として、受講生の関心のある分野の論文をとりあげつつ、ゲーム分析、経済動学、情報の経済学のいずれかの分野の基礎的な技法を学ぶ。ゲーム理論、情報の経済学に関しては、ギボンズ『経済学のためのゲーム理論』、微分方程式に関しては、A.C. チャン、K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎』第5部などの練習問題を自力で解けるようになり、それを土台に経済学の論文を読めるようになることを目標とする。	
	環境産業特論Ⅰ	調和型循環社会の構築道程においては、環境産業の拡大による産業構造の転換が主導的なアプローチとして着実に進んでいる。本授業ではこの動向を見据えて、人間・経済・自然に関わる公平性・持続性・効率性の視座から、①環境産業形成と産業構造転換のメカニズム、②環境産業因子を導入した産業連関分析モデル、③環境技術国際移転、循環型国際分業と国際生態補償の展開などをテーマに検討する。	
	環境産業特論Ⅱ	調和型循環社会の構築道程においては、環境産業の拡大による産業構造の転換が主導的なアプローチとして着実に進んでいる。本授業ではこの動向を見据えて、人間・経済・自然に関わる公平性・持続性・効率性の視座から、①環境産業形成と産業構造転換のメカニズム、②環境産業因子を導入した産業連関分析モデル、③環境技術国際移転、循環型国際分業と国際生態補償の展開などをテーマに検討する。	
	地域社会学特論Ⅰ	地域社会学特論ⅠとⅡは一体的に行う。前半の地域社会学特論Ⅰでは、学校外で子どもが育つ場を地域社会のなかに民間でつくっていく活動を取り上げる。特に不登校の子どものたちの居場所づくりを中心に検討する。具体的には、フリースクールといった民間施設や、子どもの権利に関する条例に基づく公設民営の施設などを検討する予定である。これらの場の活動や歴史について、社会情勢や教育制度などのより広い社会的文脈から、具体的に考察していく。地域社会学特論Ⅰでは、学校以外で子どもが育つ地域の場づくりの実際を知り、地域の課題と社会制度の関わりについて基本的な認識を得ることを目指す。	
	地域社会学特論Ⅱ	地域社会学特論ⅠとⅡは一体的に行う。前半の地域社会学特論Ⅰで検討した事例を念頭に、後半の地域社会学特論Ⅱでは、俯瞰的な観点からこれらの事例の理論的位置づけを考える。特に、2016年12月に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（教育機会確保法）について考察する。不登校支援を目的の一つとするこの法律は、教育パウチャーの実現へ道を開く。それは、特別なニーズを持つ子どもに対する個別最適化された義務教育を学校以外の場も含めて公費で広く行う可能性をもたらす。しかし、その一方で、選択の自由にもなつて公平性を損なったり、公教育が担ってきた社会統合の機能を弱体化させたりするかもしれない。地域社会学特論ⅠとⅡの全体を通して、こうしたジレンマの解決に向けて、具体的かつ理論的な考察を深めていく。	
	社会調査法特論Ⅰ	社会調査法特論ⅠとⅡでは、量的および質的な社会調査の基礎について学ぶ。調査の設計・実施から最終報告までの手順や方法について、作業などを実際に行いながら学習する。社会調査法特論Ⅰでは、まず企画・設計段階の知識として、各自の問題意識を調査の問いへと変えていくための手続きと、適切な調査方法を選択する仕方について学ぶ。その後、まずアンケート調査（量的調査）のプロセスに注目し、①対象者の選定とサンプリング法と②調査票作成の技術について学ぶ。調査票はそれぞれが自分のテーマに従い実際に作成し、授業中に相互評価しブラッシュアップを行う。	講義：11時間 演習：4時間
	社会調査法特論Ⅱ	社会調査法特論ⅠとⅡでは、量的および質的な社会調査の基礎について学ぶ。社会調査の設計・実施から最終報告までの手順や方法について、作業などを実際に行いながら学習する。社会調査法特論Ⅰに続き、社会調査法特論Ⅱでは、調査の手続きや方法について学んでいく。③アンケート調査の調査実施上の注意、④回収したアンケート調査データの処理法、⑤アンケート調査データの統計的分析法⑥調査結果報告の方法という順で学んでいく。さらにその後、調査票調査と対比させながら、質的調査（インタビュー、参与観察、ドキュメント分析など）の特徴と諸方法について学ぶ。	
	地域の産業と企業特論Ⅰ	北陸地域を中心とした日本の地域の産業構造、その変遷、その中の企業の事業展開を分析する。対象とする具体的な地域、産業、企業は年度ごとに決定する。製造業とサービス業を対象とする。農業は扱わない。 例：福井県の繊維企業の非衣料分野への事業展開 ①福井県の産業構造の変遷 ②福井県の繊維産業の構造変化 ③福井県繊維企業（セーレン、日華化学）の事業展開	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経済学系		
	地域の産業と企業特論Ⅱ	地域の産業と企業特論Ⅰと、対象とする地域・産業・企業を変えて同様の分析を行う。製造業・サービス業の中から、受講生の血球テーマに応じてⅠと異なる地域・産業を選んで学習する。 例：富山県のアルミ関連企業の事業展開 ①富山県の産業構造の変遷 ②富山県のアルミ関連産業の構造変化 ③富山県アルミ関連企業（アイシン軽金属、スズキ部品）の事業展開	
	地域経済のマクロ分析特論Ⅰ	国民経済の一部としての地域経済の持つ特徴を①OBSNAに移行した地域経済計算の仕組みとデータから理解し、②地域経済の財政政策の効果に伴う課題、③それに伴う地域間所得（生産性）格差と人口移動の発生、④これらの把握方法について考察する。こうした目的に沿ってテキストは、黒田達朗・田淵隆俊・中村良平著『都市と地域の経済学（新版）』有斐閣（2008）から、マクロ分析に該当する第9章～第12章を取り上げ、概念の理解を重視して進める。	
	地域経済のマクロ分析特論Ⅱ	県の『産業連関表』、『工業統計表』等を用いて県の経済構造の分析方法を学ぶ。すなわち①県の『産業連関表』から産業構造と波及効果の変化、②『地域間産業連関表』から地域間交易の特徴、③県の『工業統計表』から製造業の内容及び労働生産性の算出と付加価値分析について、それぞれ理解する。こうした目的に沿ってテキストは、小川一夫・得津一郎（2002）『日本経済：実証分析のすすめ』有斐閣、より第1章、第10章、第11章を取り上げ、概念の理解を重視して進める。	
	中国対外経済政策特論Ⅰ	中国の経済的プレゼンスの急拡大とグローバル経済との統合に伴って、中国経済、経済政策の動向が他国の経済と企業の海外事業活動に及ぼす影響の度合いが急速に強まっている。 中国対外経済政策特論Ⅰでは改革開放以来の中国の貿易政策、外資管理、為替管理等対外経済部門の政策変容と制度改革について分析する。また、開発経済学、貿易論の関連理論を学びながら、貿易と直接投資の発展は経済成長、産業構造、通商環境等にもたらした影響について検討する。	
	中国対外経済政策特論Ⅱ	WTOの多角的交渉が停滞する中、近年主要経済国と新興国では実態経済面での相互依存・相互補完関係を制度的かつ多面的に担保しようとする機運が高まっている。各地域内・地域間等様々なレベルでは経済連携の枠組みが模索され、とりわけFTA、投資協定の締結など経済統合の動きが活発化している。 中国対外経済政策特論Ⅱでは中国の国際通商システム（GATT/WTO）への統合・関与及び地域経済統合（FTA等）に向けての対外経済政策・経済外交に焦点を当てて検討する。また、内外の環境変化に対応するための対外経済政策の形成及びその成果、影響、課題を考察していく。	
	社会保障特論Ⅰ	社会保障特論Ⅰでは、医療経済学の基本的な考え方を学ぶ。具体的には、医療経済学に必要なミクロ経済学の基礎的な知識（需要曲線、供給曲線、効用関数、生産関数、保険理論など）、医療サービスの特徴、医療経済学の経済理論（グロスマン・モデルなど）を理解する。その上で、現実の医療問題や医療政策への応用力を身につけることを目標とする。	
	社会保障特論Ⅱ	社会保障特論Ⅱでは、医療経済学の研究で実際に用いられているいくつかの分析手法を学ぶ。具体的には、統計学的手法（統計的因果推論など）や経済評価の方法、格差の計測方法（ジニ係数など）、行動経済学的アプローチについての理解を深める。その上で、現実の医療問題や医療政策への応用力を身につけることを目標とする。	
応用計量経済学特論Ⅰ	応用計量経済学特論Ⅰの主な目的は、応用計量経済分析における主要なアプローチを紹介し、近年発展しつつある機械学習の関連分野と比較することである。本コースは2つの部分から構成される。第1に、応用計量経済学分析の主要なアプローチを紹介し、特にクロスセクションデータの回帰分析に焦点を当てる。その上で、回帰分析の主要な仮定と、その仮定がデータにより立証されない場合に、分析結果がどのように影響を受けるかについて議論する。第2に、機械学習の最新動向、特に応用計量経済学的分析に関連するものについて議論する。これらのアプローチには、回帰木、アンサンブル法（バギング、ランダムフォレスト、ブースティング）、自動化された機械学習が含まれる。最後に、いくつかのロスセクションデータセットに適用することで、応用計量経済学的アプローチと機械学習のアプローチの利点と限界を示し、これら2つのアプローチが驚くほど異なる結果をもたらす理由を説明する。	講義：10時間 演習：5時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目 経済学系	応用計量経済学特論Ⅱ	応用計量経済学特論Ⅱでは、応用計量経済学特論Ⅰにおける議論をさらに継続し発展させる。具体的には、機械学習と比較した上での応用計量経済学分析の相対的な利点と限界について議論する。第一に、応用計量経済学モデルの主要な仮定を確認する方法と、仮定がデータで立証されない場合に考えられる解決策を説明する。第二に、実証分析における応用計量経済学的分析と機械学習のアプローチの違いを説明する。R統計パッケージを用いて、両方のアプローチの分析方法を練習する。応用経済学的分析では通常最小二乗法を、また機械学習モデルではLeast Absolute Shrinkage and Selection Operator (LASSO)、回帰木、バギング、ランダムフォレスト、Gradient Boosting Machine (GBM)、Extreme Gradient Boosting Machine (XGBoost)、自動機械学習(AutoML)などを紹介する。	講義：5時間 演習：10時間
	金融の計量経済分析特論Ⅰ	この講義は金融の計量経済分析特論Ⅱの基礎となるものである。両講義を通して、理論と実証の双方に配慮しながら、定評のある資産価格理論 (Asset Pricing Theory) もしくは金融経済学 (Financial Economics) のテキストを読み、これらの基礎理論とその計量経済学的手法を学ぶ。本講義では、資産価格理論の基礎である消費に基づく資産価格モデル (Consumption-Based Asset Pricing Model) について学びながら、それを応用するためのGMM (Generalized Method of Moments) を中心とした計量経済学的手法の基礎を学ぶ。	
	金融の計量経済分析特論Ⅱ	この講義は金融の計量経済分析特論Ⅰを前提としたものであり、その応用となるものである。両講義を通して、理論と実証の双方に配慮しながら、定評のある資産価格理論 (Asset Pricing Theory) もしくは金融経済学 (Financial Economics) のテキストを読み、これらの基礎理論とその計量経済学的手法を学ぶ。本講義では、金融の計量経済分析特論Ⅰで学んだ消費に基づく資産価格モデル (Consumption-Based Asset Pricing Model) を応用するためのGMM (Generalized Method of Moments) を中心とした計量経済学的手法を学ぶ。	
	金融論特論Ⅰ	金融論特論では金融論の基礎を学ぶ。金融論特論Ⅰでは主にミクロ経済学に基づいた金融について講義する。まず金融が果たす役割を紹介した後、金融取引に関連するリスクについて学ぶ。そのリスクを軽減するために金融がどのような機能を提供しているのかを整理する。第1の狙いは、金融の機能を紹介することで金融取引が行われる理由を理解することである。第2の狙いは金融取引が行われる際のリスクを紹介し、それを軽減する仕組みとして金融機関等が提供している機能を理解することである。	
	金融論特論Ⅱ	金融論特論では金融論の基礎を学ぶ。金融論特論Ⅱでは主にマクロ経済学に基づいた金融について講義する。まず金融機関や金融市場について整理したのち、マクロ金融に関連する政策として金融政策とブルーデンス政策を紹介する。第1の狙いは日本の金融機関を紹介してその役割を理解することで、第2の狙いはマクロ金融の政策についてその目的と効果を理解することである。	
	財政学特論Ⅰ	水平的或いは垂直的に関係付けられている政府間の財政に関する諸問題を経済学の分析ツールを用いて理論的、実証的に検討する。ミクロ経済学の基礎的な分析手法の復習を兼ねて完全競争市場における資源配分の帰結、市場の失敗と公共部門の経済活動 (財政) に期待される役割を考えたのち、分権化定理や財政的外部性、租税競争の理論など、分権的な財政制度、国と地方の財政関係、地域間の財政競争といったテーマに関するいくつかの研究を紹介する。	
	財政学特論Ⅱ	公共部門が生産する多くの財・サービスは非市場的な仕組みで供給され、集合的に消費されるため、価格メカニズムによる効率的な資源配分が期待できず、その成果を適切に評価して社会的な意思決定に反映させることが重要となる。この講義では、公共部門のパフォーマンスを公平性と効率性の観点から評価するための考え方や分析手法を紹介する。具体的には、費用関数や生産関数からみた地方公共サービスの技術特性、所得格差と租税や補助金による再分配効果、産業連関モデルを用いた地域経済の分析手法などを学ぶ。	
	公共・政治経済学特論Ⅰ	現実の経済活動は市場での個人や企業の活動と経済活動に関連する様々な制度・政策の影響を受けるが、この2つは独立しているわけではなく様々な相互作用をもっている。公共・政治経済学特論Ⅰ、Ⅱでは、標準的なミクロ経済学や公共経済学で扱われるトピックにおいて、各経済主体の政治的行動が市場均衡に与える影響について講義を行う。特論Ⅰではゲーム理論を含むミクロ経済学の基本的事項を概観した後、政治的行動の分析 (有権者・政党の行動、選挙競争モデル、ロビー活動など) について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目 経済学系	公共・政治経済学特論Ⅱ	公共・政治経済学特論Ⅰ, Ⅱでは、標準的なミクロ経済学で扱われるトピックにおいて、各経済主体の政治的行動が市場均衡に与える影響について講義を行う。特論Ⅱでは教育制度、再分配、健康保険制度といったトピックを扱う。なお、本講義は特論Ⅰの内容を理解していることを前提とするため、特論Ⅰも同時に履修することを推奨する。	
	国際経済学特論Ⅰ	国際経済学特論Ⅰでは、国際貿易理論の分析ツールを学び、主として貿易利益が発生するメカニズムと貿易政策の諸効果を理解する。家計と企業の最適な行動を背景とする市場が開放されることにより貿易が発生するが、リカードやヘクシャー、オーリーンなどの経済学者によって解明された、貿易の方向を決定する伝統的な理論を学ぶ。さらに、輸入関税のような自由貿易の障害となる政策が、当該国、及び貿易相手国に与える影響を考察する。ここでは貿易の障害となる政策は支持されるものではなく、自由貿易が最も優れていることが分かる。	
	国際経済学特論Ⅱ	国際経済学特論Ⅱでは、主として不完全競争や規模の経済という設定で、国際経済学特論Ⅰで学んだことがどのように異なるのかを学ぶ。経済学では完全競争という都合の良い仮定で分析されることが多いが、現実には実験室で起こるようにはならない。企業数が少数であると、企業は価格支配力を持ち、工業製品のような財は生産量が増えると平均費用が低下する。こうした、より現実的な設定で国際貿易のメカニズムを考察する。さらに、現実のデータを用いて、比較優位を明らかにする顕示比較優位指数などの貿易指数を、エクセルで計算し、解釈するエクササイズも行う。	
	政治制度・政策過程特論Ⅰ	本講座では、政治・行政領域における「制度 (institutions)」概念をめぐる各種理論について学習する。特に、1980年代以降に台頭した、いわゆる「新制度論 (new institutionalism)」に依拠した分析視座の下、民主的統治構造下における政府組織間の相互作用や、政策過程における権力作用および政治・行政的な集約的意思決定・合意形成作用のあり方について論議する。	
	政治制度・政策過程特論Ⅱ	「政治制度・政策過程特論Ⅰ」の履修を前提として、政治学および政策過程論領域における「新制度論」の射程や有用性について理解の深化をはかる。これにより、非市場領域における公共問題や政策課題をめぐる制度的動態 (insitutional dynamics) を分析する際の理論的パースペクティブと、そこで論ずべき問題点が何であるのかを捕捉するための観点の体系的獲得を目指す。	
	刑事法特論Ⅰ	刑事法の現代的課題のうち、刑罰制度のあり方 (国家刑罰権、死刑制度、保安処分制度、刑事責任能力)、および医療と生命科学技術に関わる諸問題 (終末期医療、尊厳死、治療拒否権、脳死と臓器移植、再生医療、生殖補助医療、出生前診断、幹細胞研究、精神科医療、脳神経科学など) を題材に、現代社会における刑事法の役割を、国際法的、比較法的見地から考察する。併せて、グローバル時代におけるパンデミック対策および経済政策と刑事政策の関わりについても考察を行う。	
	刑事法特論Ⅱ	刑事法特論Ⅰに引き続き、刑罰制度のあり方、および医療と生命科学技術に関わる諸問題を題材に、また、グローバル時代におけるパンデミック対策と経済政策との関わりについて、国内外の議論の状況を正確に把握し、現代社会における刑事法の役割を、国際法的、比較法的見地から考察する。さらに、法哲学および倫理学の次元に遡って、考察を行う。	
	刑事訴訟法特論Ⅰ	刑事訴訟法特論Ⅰは、刑事事件の手続を定める刑事訴訟法を中心に、刑事手続の各段階における法理論的な問題について考察を深める講義科目となり、主に捜査手続・公訴提起手続を取り上げ、学説判例を中心に理論的分析を加える。 犯人処罰の要求と人権擁護の確保との合理的調整を任務とする刑事訴訟法学においては、法の体系的理解とバランス感覚のある判断が必要とされる。とくに捜査手続においては被疑者の人権が侵害されやすく、ややもすれば犯人処罰に大きく傾くことになることに注意が必要である。 履修者には本講義を通して、法理論と法政策の相克を目標に刑事手続をめぐる課題について法的かつ主体的に考察する能力を身につけてもらいたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共創経済プログラム専門科目	経済学系	刑事訴訟法特論Ⅱ	刑事訴訟法特論Ⅱは、刑事訴訟法特論Ⅰの履修を前提に、主に公判手続・証拠法を取り上げ、学説判例を中心に理論的分析を加える。 犯人処罰の要求と人権擁護の確保との合理的調整を任務とする刑事訴訟法学においては、法の体系的理解とバランス感覚のある判断が必要とされる。証拠法においては捜査手続において収集された様々な証拠について、刑事裁判で使用するべきか否かが慎重に検討されることになり、均衡の取れた判断が求められる。 履修者には本講義を通して、法理論と法政策の相克を目標に刑事手続をめぐる課題について法的かつ主体的に考察する能力を身につけてもらいたい。	
	刑法特論Ⅰ	近年、企業等の組織体における内部統制システムのなかに、犯罪ないし刑事事件に発展しうる不祥事を防止するためのプログラム、すなわち刑事コンプライアンス・プログラムを組み入れることが意識されるようになってきた。この授業では、こういった動向が生じた歴史的経緯を踏まえつつ、刑事コンプライアンスの意義、および現状と課題について解説していく。		
	刑法特論Ⅱ	特論Ⅰで学んだ事柄を踏まえて、具体的な重大企業不祥事等（刑事裁判例に関連するもの）をとりあげ、ケーススタディをおこなう。このことを通して刑法総論と刑法各論の奥深い理論をより深く身に着けること、およびより網羅的で精確な判例分析をするちからをつけることを目的とする。また、可能であれば、組織体固有の犯罪原因論にも触れつつ講義を進めたい。		
	政治経済学演習Ⅰ	政治経済学演習Ⅰでは、政治経済学の関連する専門書および論文等を輪読することを通じて、当該内容についての理解を深める。文献については、教員の興味・関心によっておおそ方向づけられるものの、政治経済学に関連する文献と幅広く想定している。希望するテーマについては受講生と話し合いの上で決める。また、受講生が関連文献の内容の理解および習得することができるよう、適宜PCによる演習も行う予定である。		
	政治経済学演習Ⅱ	政治経済学演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き、政治経済学の関連する専門書および論文等を輪読することを通じて、当該内容についての理解を深める。文献については、政治経済学の理論および実証に関連する文献と幅広く想定する。また、受講生が関連文献の内容の理解および習得することができるよう、適宜PCによる演習も行う予定である。		
	応用経済学演習Ⅰ	日本の企業システムを理解するところを目標とする。企業理論、日本の企業システム、労働市場論に関する文献を読む。この分野には、制度の知識、あるいは制度論的な実証研究にふれることが有益である。また、日本の企業システムは、外部の社会的環境と共進的に発展してきたことに特徴をもつ。したがって、社会保障、教育制度との関わりも重要である。経済学的な文献に並行して、これらの周辺分野の文献にもふれる。このように、広い範囲の文献にふれ、広い視野をもつことを目標とする。		
	応用経済学演習Ⅱ	応用経済学演習Ⅰでの文献講義を前提にしつつ、それらを受講生自身が現実のデータに基づき吟味することを目標とする。受講生の関心にあわせ、引き続き、日本の企業システム、経済システムとしての特徴を理解するために必要な文献を読みつつ、これに平行して、産業連関表、国民所得統計、労働統計にもつついて、現実のデータに照して、諸議論の妥当性を検討する作業を行なう。		
	現代経済理論演習Ⅰ	講義において説明した展開型ゲームの純戦略での標準化および、部分ゲーム完全均衡を具体的なゲームについて求める作業を行う。幾つかの例では最初の超限順序数までの高さを持つ木を用いた位相ゲームや、有限の高さを持つ超点数が連続体濃度であるような例を扱う。また、時間的に余裕があれば勝ち負けが確定する組み合わせゲームについて、その必勝戦略や引き分け戦略について検討する。ただし、具体的なアルゴリズムの構成については触れない。		
	現代経済理論演習Ⅱ	講義における理論を用いて、具体的な経済モデルを構成する作業を行う。各自課題をこなしてそれを発表してもらおう。発表の際には必ず資料を予め作成しておくこと。特に標準化されたNash均衡とその一部である部分ゲーム完全均衡との違いを具体的な経済モデルで認識することを目指す。例としては古典的なStackelberg複占や参入阻止理論を扱う。時間的な余裕があれば、国際貿易への応用やA. Dixitの参入阻止投資理論を検討することにする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経済学系	日本経済史演習 I	
		日本経済史演習 II	
		環境産業演習 I	
		環境産業演習 II	
		地域社会学演習 I	
	地域社会学演習 II		講義：11時間 演習：4時間
	社会調査法演習 I		
	社会調査法演習 II		
	地域の産業と企業演習 I		

日本経済史演習 I IIでは経済学研究における歴史学的実証方法を学び、修士論文の執筆のために必要な準備を進める。日本経済史演習 I では、修士論文におけるテーマの選定、研究史の理解、先行研究の批判的検討、論点の設定により、実証的考察の準備を進める。先行研究をたどりながら、これまでの議論を体系的に理解した上で新たな論点を設定すること、そして論点の検討を可能にする史料の調査・蒐集・批判を行う。

日本経済史演習 I IIでは経済学研究における歴史学的実証方法を学び、修士論文の執筆のために必要な準備を進める。日本経済史演習 II では、史料の調査・蒐集・批判を行なった上で、史料をもとに分析を進め、実証に基づく考察および結論付け、その意義の思惟を反復し修士論文を完成に必要な準備作業を進める。特に蒐集・分析した史料をもとに先行研究の論点と照応して、批判的検討を行う。

本演習では、主として代表的な学術論文などの文献輪読を通じて、産業構造の転換と環境問題の変容とリンクした環境経済学へのアプローチ、環境産業論構築向けの課題を学説史的に整理・把握する。受講者の研究問題意識を確認し、その研究テーマに関する理論的・実証的な代表的な先行研究をレビューしつつ、研究の先端的な動態と多様なアプローチについての理解を深める。

本演習では、主として代表的な学術論文などの文献輪読を通じて、産業構造の転換と環境問題の変容とリンクした環境経済学へのアプローチ、環境産業論構築向けの課題を学説史的に整理・把握する。受講者の研究問題意識を確認し、その研究テーマに関する理論的・実証的な代表的な先行研究をレビューしつつ、研究の先端的な動態と多様なアプローチについての理解を深める。

地域社会学演習 I と II は一体的に行っていく。この演習では、履修者全員で分担して、都市や地域社会に関する欧米の古典的な基本文献（翻訳）を通して読んでいく。19世紀後半から20世紀初頭は世界的に人口が急増し、近代的大都市が次々と生まれた時代である。他所から来た大量の見知らぬ人が狭い空間に暮らす都市は、人々のコミュニケーションのあり方を大きく変えた。それまで同質的で安定していた小規模な社会は、都市化によって異質で流動的な大規模社会へ変わっていく。こうした時代背景のなか誕生した社会学は、多様な個性を尊重しつつ社会の統合を可能にする仕組みの追究に邁進した。地域社会学演習 I では、このような19世紀後半から20世紀初頭の社会変化を捉えた20世紀前半の基本文献を取り上げていく。具体的には、ジンメル、パーヴェス、パーク、ワース、ショバーク、ハリスとウルマンなどの文献を予定している。

地域社会学演習 I と II は一体的に行っていく。この演習では、履修者全員で分担して、都市や地域社会に関する欧米の古典的な基本文献（翻訳）を通して読んでいく。地域社会学演習 I では、都市化に伴う社会の変化に関する基本的な見方を確立した文献を読んだ。それを受けて、域社会学演習 II では、こうした基本的な見方に収まらない社会状況や、都市化の貫徹やグローバル化に伴う新しい社会状況について考察した文献を取り上げていく。具体的には、ファイアレ、ガンズ、ウェルマンとレイトン、フィッシャー、サッセン、カステル、ハーヴェイなどの文献を予定している。地域社会学演習 I と II を通して、都市や地域社会に関する基本視角の多様性を学び、21世紀の地域社会について柔軟な見方ができるようになることを目指す。

社会調査法演習 I および II では、社会調査（質的調査および量的調査）を学生が個人で調査を企画・実施できる能力を身につけることを目標とする。また、修士論文執筆のための文献・データ収集、分析、執筆を支援しながら一緒に進めていく。社会調査法演習 I では、修士論文の研究に必要な基本を学び、仮説を立て、仮説検証に必要な調査を設計するなど研究のスタートを支援する。

社会調査法演習 I および II では、社会調査（質的調査および量的調査）を学生が個人で調査を企画・実施できる能力を身につけることを目標とする。また、修士論文執筆のための文献・データ収集、分析、執筆を支援しながら一緒に進めていく。社会調査法演習 II では調査の実施や分析、執筆を支援し、修士論文の分析や執筆の支援をする。

受講生の研究テーマに応じて課題図書を決め、産業論・地域経済論の視点からアドバイスを与える。
例：研究テーマ「CASE革命の中での自動車ディーラー業の役割」
課題図書『CASE革命』
議論のテーマ：C (Connected, A (Autonomous) S (Shared&Service) , E (Electric) それぞれの現状と今後の進展の予について課題図書から学び、それがディーラーとどう関わることを受講生に考えてもらう。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共創経済プログラム専門科目	経済学系	地域の産業と企業演習Ⅱ	「地域の産業と企業演習Ⅰ」に引き続き、受講生の研究テーマに応じて、産業論・地域経済論の視点からアドバイスを与える。研究が単なる個別事例の羅列に終わらないよう、先行研究との関わりを明確にするよう指導する。 例：研究テーマ「北陸諸都市における対事業所サービスの立地動向」 検討すべき先行研究分野は経済地理学・産業立地論における第3次産業の立地分析、都市システム論、地域の産業連関分析などである。	
	地域システム演習Ⅰ	「地域システム演習Ⅰ」においては、我が国の人口減少の克服に資する大小様々な手法を身につけることを狙いとする。授業においては、「人口減少の要因」や「地方創生の政策と成功事例」等が、それぞれ一つの地域システムであると捉え、その構成要素と全体の関係を明らかにした上で、効果的な手法について考えていく。なお、本授業における「地域」とは、都道府県から町内会等の様々な大きさを対象とし、また、「システム」については、地域に人が居住し、働き、暮らし続けるための領域を対象とする。		
	地域システム演習Ⅱ	「地域システム演習Ⅰ」に引き続き、「地域システム演習Ⅱ」においては、我が国の人口減少の克服に資する大小様々な手法を身につけることを狙いとする。授業においては、「人口減少の要因」や「地方創生の政策と成功事例」等が、それぞれ一つの地域システムであると捉え、その構成要素と全体の関係を明らかにした上で、効果的な手法について考えていく。なお、本授業における「地域」とは、都道府県から町内会等の様々な大きさを対象とし、また、「システム」については、地域に人が居住し、働き、暮らし続けるための領域を対象とする。		
	地域活性化演習Ⅰ	現在の我が国の重要政策テーマである地方創生における「稼ぐ地域づくり・地域の雇用創出」の視点から、地域における企業の役割りを考える。地域活性化に関わる理論を学び基礎知識を形成した上で、企業等による具体的な取組み事例を紹介する。一方向的な講義だけではなく、履修生によるグループワーク等の能動的な学修機会を設ける。 地域活性化演習Ⅰでは、日本全体の課題や政策を学び、企業がそうした課題に対してどのように取り組んでいるか事例を交えて学修する。		
	地域活性化演習Ⅱ	現在の我が国の重要政策テーマである地方創生における「稼ぐ地域づくり・地域の雇用創出」の視点から、地域における企業の役割りを考える。地域活性化に関わる理論を学び基礎知識を形成した上で、企業等による具体的な取組み事例を紹介する。一方向的な講義だけではなく、履修生によるグループワーク等の能動的な学修機会を設ける。 地域活性化演習Ⅱでは地域活性化演習Ⅰに引き続き、地域の課題や特性を学び、地域企業の採用や人材定着への取り組みを学修する。		
	地域経済のマクロ分析演習Ⅰ	地域経済のマクロ分析に関する中級テキストを読み、微積分を利用した様々な抽象的モデルを学ぶ。こうした目的から、フィリップ・マクカン著『都市・地域の経済学』日本評論社(2008)より“地域特化、交易、乗数分析”の章や“地域の経済成長理論(ケインズ派と新古典派)”を検討した章など、地域経済のマクロ分析に関する部分を履修者が分担して報告する形式で進める。		
	地域経済のマクロ分析演習Ⅱ	日本の地域間生産性格差を主に『工業統計表』データから実証分析を行った、徳井丞次編『日本の地域別生産性と格差』東京大学出版会(2019)と海外の生産性格差の実証分析を参照しながら日本の地方圏の課題を分析した、諸富徹著『地域再生の新戦略』中公叢書(2010)の関連した章を取り上げる。履修者は分担して報告、その後に履修者全体で論点を明確化し、自分なりの見解を形成していく形で進める。		
	中国対外経済政策演習Ⅰ	中国対外経済政策演習Ⅰでは中国対外経済政策とその関連分野に関する研究を指導する。具体的には国際経済学、開発経済学、貿易論、中国経済、中国対外経済政策等の関連分野の文献の講読、報告、ディスカッションを通じて、研究活動に必要な専門知識、基礎理論及び研究手法、スキルを習得すると同時に、今後の研究における問題意識と研究課題を明確化していく。		
	中国対外経済政策演習Ⅱ	中国対外経済政策演習Ⅱでは演習Ⅰでの学習、研究成果をふまえて、関心のある分野の文献、先行研究のサーベイを行い、報告、討論などを通して、研究課題、修士論文のテーマを明確化する。また、修士論文のテーマと関連する資料、データ等を収集し、分析を行う。さらに、定期的に研究成果、今後の課題について報告することを通して修士論文の完成度と研究能力を高めていく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目 経済学系	社会保障演習 I	社会保障演習 I では、社会保障分野の最新の研究の理解を深めるとともに、さらなる検討を行う。具体的には、履修者は興味対象に合うもので、トップジャーナルまたはフィールド（社会保障・医療経済学・労働経済学）のトップジャーナルに掲載された論文を報告し、報告とディスカッションを通じて、社会保障分野の最新の研究の理解を深めるとともに、新たなリサーチクエスチョンや分析の可能性を検討する。なお、最初一回で文献検索の方法を説明をする。	
	社会保障演習 II	社会保障演習 II では、社会保障分野の最新の研究の理解を深めるとともに、さらなる検討を行う。具体的には、履修者は興味対象に合うもので、トップジャーナルまたはフィールド（社会保障・医療経済学・労働経済学）のトップジャーナルに掲載された論文を報告し、報告とディスカッションを通じて、社会保障分野の最新の研究の理解を深めるとともに、新たなリサーチクエスチョンや分析の可能性を検討する。なお、最初一回で論文執筆に必要なアカデミックライティングについての説明をする。	
	計量経済学演習 I	計量経済モデルの理論的研究や応用研究のための演習である。受講生が関心のあるテーマ（自身の修士論文の中間的な報告、参考となる論文のレビュー報告など）について議論を行う。計量経済学演習 I では、自身の研究に関連する代表的な論文を読み、研究手法、データ解析手順、および考察内容などについて手堅く報告を行う訓練を行う。文献のレビューやディスカッションを通じて計量経済分析の手法を身につけ、論文執筆のための基礎的能力を伸ばすことが本演習の目標である。	
	計量経済学演習 II	計量経済モデルの理論的研究や応用研究のための演習である。受講生が関心のあるテーマ（自身の修士論文の中間的な報告、参考となる論文のレビュー報告など）について議論を行う。計量経済学演習 II では、自身の修士論文の進捗状況を報告し、分析目的、データ収集のためのデザイン、計量経済分析方法の選択について明確に理解するための訓練を行う。文献のレビューやディスカッションを通じて計量経済分析の手法を身につけ、論文執筆のための基礎的能力を伸ばすことが本演習の目標である。	
	応用計量経済学演習 I	学生が希望するテーマについて応用計量経済分析を行う。演習では、希望テーマについて応用計量分析の代表的な先行研究を検討する。これら先行研究で利用されているデータが入手可能ならば、計量ソフトを利用して論文中の分析結果を学生と共に再現する。そして、その推計結果が論文でどのように解釈されているかを学ぶ。	
	応用計量経済学演習 II	この演習により、応用計量経済学演習 I で学んだ知識とスキルに従って、学生は応用回帰分析を利用した研究方法を習得することが可能となる。具体的には、学生が興味のあるテーマを選択し、当該分野の代表的な論文の中で行われているデータ収集方法と計量分析方法を検討する予定である。受講後、学生は学習した知識を自らのレポートに応用することが可能となる。	
	金融の計量経済分析演習 I	この演習は金融の計量経済分析演習 II の基礎となるものである。両演習を通して、銀行業の産業組織論的研究に関する内外の文献を読み、我が国の銀行業が抱える問題とその理論及び実証的解明の手立てを探る。特に、銀行行動を確率動学的な生産者理論の視点から捉え、従来の実証モデルを不確実性動学化するとともに、情報の非対称性や信用リスク及び金利の内生性を明示的に考慮した金融財・サービス価格や不完全競争度指標について考える。本演習では、主に銀行業の産業組織論の基礎理論を学びながら、それを応用するための計量経済学的手法の基礎を学ぶ。	
	金融の計量経済分析演習 II	この演習は金融の計量経済分析演習 I を前提としたものであり、その応用となるものである。両演習を通して、銀行業の産業組織論的研究に関する内外の文献を読み、我が国の銀行業が抱える問題とその理論及び実証的解明の手立てを探る。特に、銀行行動を確率動学的な生産者理論の視点から捉え、従来の実証モデルを不確実性動学化するとともに、情報の非対称性や信用リスク及び金利の内生性を明示的に考慮した金融財・サービス価格や不完全競争度指標について考える。本演習では、主に銀行業の産業組織論に関する最新理論を学びながら、それを応用するための計量経済学的手法の基礎を学ぶ。	
金融論演習 I	金融論演習では、金融論特論で学んだ基礎理論を応用して、金融に関連する文献を輪読する。金融論演習 I では、金融論特論 I で学んだマイクロ金融に関連する文献のうち、受講者の関心のあるものを選び輪読を行う。文献を読みレジュメを作成しディスカッションを行うという形式をとる。第1の狙いはマイクロ金融に関する応用レベルの知識を身につけることであり、第2の狙いはレジュメの作成やディスカッションを通して論文執筆や発表に必要なスキルを身につけることである。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経済学系	金融論演習 II	金融論演習では、金融論特論で学んだ基礎理論を応用して、金融に関連する文献を輪読する。金融論演習 II では、金融論特論 II で学んだマクロ金融に関連する文献のうち、受講者の関心のあるものを選び輪読を行う。文献を読みレジюмеを作成しディスカッションを行うという形式をとる。第1の狙いは金融政策やブルードレンス政策に関する応用レベルの理論を理解することで、第2の狙いはレジюмеの作成やディスカッションを通して論文執筆や発表に必要なスキルを身に付けることである。
	財政学演習 I	公共経済学や財政学に関する重要文献のうち、受講生の研究テーマと関連するものを輪読する。特に、財政学演習 I では受講生の研究テーマに関する重要文献を読み、理解することを目指す。授業は演習形式で行い、受講生自身による報告と討論、教員によるコメントにより進める。論文やレポートの執筆に必要な技術、例えば、レジюмеの作成法、資料・論文検索の方法、研究に必要なソフトウェアの利用方法などはOJTで指導する。授業は日本語で行なうが、参考文献やテキストには英語の文献も含まれる。	
	財政学演習 II	公共経済学や財政学に関する重要文献のうち、受講生の研究テーマと関連するものを輪読する。特に、財政学演習 II では受講生の研究テーマに関する重要文献を読み、当該分野における展望レポートを作成することを目指す。授業は演習形式で行い、受講生自身による報告と討論、教員によるコメントにより進める。論文やレポートの執筆に必要な技術、例えば、レジюмеの作成法、資料・論文検索の方法、研究に必要なソフトウェアの利用方法などはOJTで指導する。授業は日本語で行なうが、参考文献やテキストには英語の文献も含まれる。	
	公共・政治経済学演習 I	公共政策は、政策に関心を持つ様々な人々の行動の結果、決定・実行される。この科目では、政策に関する様々な基礎知識の習得と代表的なトピックについて初歩的なゲーム理論を用いて理論的に分析・考察できるようになることを目的とする。具体的には、テキストや論文の輪読を通じて外部性、協調問題、コミットメント問題などについて理解を深める。	
	公共・政治経済学演習 II	公共政策は、政策に関心を持つ様々な人々の行動の結果、決定・実行される。この科目では、政策に関する様々な基礎知識の習得と代表的なトピックについて初歩的なゲーム理論を用いて理論的に分析・考察できるようになることを目的とする。具体的には、テキストや論文の輪読を通じて動学的非効率性、情報の重要性、政治家への影響力、制度と権力構造などについて理解を深める。	
	国際経済学演習 I	国際経済学演習 I では、受講生の関心が何かを明確にして、受講生の関心のある英語論文を講読することが基本になる。演習において、受講生はレジюмеを作成し文献の内容を分かりやすく解説しなければなりません。必要に応じてプロジェクターを用いたプレゼン形式も行う。なお、演習での使用言語は受講生の語学レベルに応じて日本語または英語を使う。	
	国際経済学演習 II	国際経済学演習 II では、国際経済学演習 I に引き続き、受講生の関心のある論文を講読する。演習において、受講生はレジюмеを作成し文献の内容を分かりやすく解説しなければなりません。必要に応じてプロジェクターを用いたプレゼン形式も行う。最後に、読み進めた論文全体から共通となる大きなテーマと結論の把握に努める。なお、演習での使用言語は受講生の語学レベルに応じて日本語または英語を使う。	
	政治学・政策過程論演習 I	本演習では、「政治制度・政策過程特論I」および「政治制度・政策過程特論II」で学習する、政治学・政策過程論領域における「制度(institutions)」概念をめぐる諸理論の援用・適用に取り組む。履修者の調査研究上の問題関心に照らしつつ、当該理論を展開して事象の分析・説明を行うための手法、および、それを裏付けるための経験的知見・データおよび関連情報等の収集・処理方法などを学ぶ。	
	政治学・政策過程論演習 II	履修条件となる「政治学・政策過程論演習I」を通じて得た理解を前提に、学術論文の執筆に必要な各種スキルや能力の獲得をはかる。特に、既習した「制度」概念および当該理論の援用・適用を通じて、その利点・可能性とともに制約・限界をも見定めることを通じて、履修者の調査研究課題を遂行する上で、「新制度論(new institutionalism)」がいかなる射程において活用できるものなのかを検討する。このような作業を通じて、執筆する学術論文の論旨の精緻化および体系性の向上をはかることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経済学系 刑事法演習 I	刑事法特論 I の対象領域から、受講生の関心に応じてテーマを選択し、それについて、可能な限り、学際的、比較法的見地からの研究、調査、考察を行う。本演習の達成目標として、現代社会における刑事法の役割、グローバル時代における医療福祉政策、経済政策、刑事政策の関わりを理解し、その課題を発見し、以後、この課題に取り組んでいく能力を身につけることができることを目指す。	
	刑事法演習 II	刑事法演習 I に引き続き、刑事法特論 II の対象領域から、受講生の関心に応じて選択したテーマについての研究、調査、考察を行い、研究論文を作成するための具体的な準備作業を行う。本演習の達成目標として、上記の理解を深めると共に、修士論文の執筆に必要な能力、すなわち、外国文献を読解する能力；国際法的、比較法的見地から日本の刑事法が抱える課題を把握する能力；そして、それを法哲学的、倫理的次元に遡って考察する統合的方法論を身につけることを目指す。	
	刑事訴訟法演習 I	刑事訴訟法演習 I は、比較法的知見を踏まえながら、我が国の刑事手続に関する重要問題について捜査法の観点から検討を加えていく演習科目となる。捜査法の各種論点を取り上げ、それが抱える困難な課題について、現行刑事訴訟法の母法とされるアメリカ法の同種議論を参照しながら考察を進める。とりわけ身柄拘束や取調べといった深刻な人権侵害・誤判を招きやすい場面における日米の相違を取り上げる。 アメリカ法との比較によって、我が国固有の問題を解決するための手がかりを得ることのみならず、刑事手続に本来的に内在する問題点を抽出することも可能となるであろう。また、刑事訴訟法学が任務とする「犯人処罰の要求と人権擁護の確保との合理的調整」といったバランス感覚を伴う体系的思考を取得することによって、法理論と法政策を相克する能力も涵養されよう。	
	刑事訴訟法演習 II	刑事訴訟法演習 II は、刑事訴訟法演習 I の履修を前提に、比較法的知見を踏まえながら、我が国の刑事手続に関する重要問題について証拠法の観点から検討を加えていく演習科目となる。証拠法の各種論点を取り上げ、それが抱える困難な課題について、現行刑事訴訟法の母法とされるアメリカ法の同種議論を参照しながら考察を進める。証拠法においてはアメリカ法と日本法の違いが明確に現れており、その理由を歴史的・社会的背景から導出する。 アメリカ法との比較によって、我が国固有の問題を解決するための手がかりを得ることのみならず、刑事手続に本来的に内在する問題点を抽出することも可能となるであろう。また、刑事訴訟法学が任務とする「犯人処罰の要求と人権擁護の確保との合理的調整」といったバランス感覚を伴う体系的思考を取得することによって、法理論と法政策を相克する能力も涵養されよう。	
	刑法演習 I	この演習では、受講者が興味のあるトピックにまつわる重要な判例を選び、それを理論、学説史、および歴史的・社会的背景の観点から分析することを通して、理論と実用に耐えうる知識を習得することを目指す。刑法総論・刑法各論の知識があることが前提にはなるが、刑法（学）は、経済刑法、医事刑法、労働刑法等といった細分化された分野があることからわかるように、幅広い生活領域に関わるものであるから、身近な問題に関するケーススタディからはじめて基礎理論へと遡るような方法も考えられる。	
	刑法演習 II	I で得た知識を深め・広げ、確かなものとすることを目的とする。具体的な形式は受講者と話し合いながら決めたいが、例えば、これまでに公刊されてきた重要なモノグラフを一冊選び、これを輪読しながら検討するという形式で読了することを通して、幅広い考慮事項を視野に入れつつも一貫したものの見方により事案を処理していく思考形式を身に着けることなどが考えられる。	
経営学系 経営学特論 I	この授業では、基本的な概念や理論についての学修とケース・スタディとを結合して、まず経営戦略に関する基本的な考えを学んでから、持続的成長を実現するために、実際の企業がどのように成長戦略と競争戦略を立てるべきかについて修得することを目的とする。 以上の目的を達成するため、まず現代企業を取り巻く外部環境を理解したうえで、これまでの理論研究から得られた代表的な成長戦略や競争戦略に関する理論を学修する。そのうえで、ビジネス・ケースを用いて、現実の企業では成長戦略と競争戦略をどのように立てて、そして実現してきたか、また現在どのような問題を抱えているか、そしてその問題をどう解決すべきかについて検討する。さらにビジネスのグローバル化が進んでいる今日、企業がどう戦略的に対応していくべきかについても議論する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系		
	経営学特論Ⅱ	この授業では、基本的な概念や理論についての学修とケース・スタディとを結合して、現代企業の組織と人材のマネジメントに関する基本的な考えを学んだうえ、現実の企業組織が、持続的成長を実現するために、いかに組織をデザインするか、そして従業員の働く意欲を高めるためのインセンティブ仕組みをどうデザインするかについて修得することを目的とする。 以上の目的を達成するため、まず現代社会における経済組織としての企業はどのような特徴があるか、従業員の働く意欲を高めるためにどのようなインセンティブ仕組みをデザインするか、そして企業の持続的成長を維持するために、どのようにイノベティブな組織を創るかというイシューについて、経済学や経営学の基本的理論を学んだうえ、実際のビジネス・ケースを用いて、現実の企業において、組織や人材マネジメントがこれまでそれぞれどのように進化してきたか、現在どのような問題を抱えているか、そしてその問題を解決するためにどのような考えで仕組みをデザインすべきかについて検討する。さらに国際競争の複雑化や企業の国際化が進んでいる今日、組織と人材のマネジメントにおける国際化の問題をどう解決するかについても議論する。	
	経営組織特論Ⅰ	経営組織特論ⅠおよびⅡでは、2人以上の人々からなる目的志向的行動体系としての組織概念をもとに、経営に関する体系的な知識修得を目的とする。様々な協働体系はシステムとして把握する必要があり、組織概念は経営に関する主要概念を体系的に結びつけることを可能にする。組織の概念を中心に、経営組織論の専門書や文献を輪読し、経営に関する基本的な概念やそれらの関連性を把握し、問題発見および分析する能力の修得を目指す。	
	経営組織特論Ⅱ	経営組織特論ⅠおよびⅡでは、2人以上の人々からなる目的志向的行動体系としての組織概念をもとに、経営に関する体系的な知識修得を目的とする。様々な協働体系はシステムとして把握する必要があり、組織概念は経営に関する主要概念を体系的に結びつけることを可能にする。経営に関する諸概念を体系的に把握したうえで、経営組織論の専門書や文献の輪読および議論を行い、組織論的観点からの経営及び経営現象の理解および分析能力の修得を目指す。	
	マーケティング特論Ⅰ	マーケティングの基礎理論を体系的に修得し、現実問題の学際的な考察に取り組む。最初に、アメリカ合衆国におけるマーケティングの誕生と発展の歴史について説明する。次いで、マーケティングにおける「市場の概念」や「マーケティング・コンセプト」について説明し、環境条件の分析や標的市場の設定の方法について紹介する。そして、「マーケティング・ミックス」の創造を軸とするマーケティング・マネジメントの基礎理論を講義する。具体的には、「製品政策」と「販売促進政策」について説明したい。歴史的事実や最新事例を用いた議論を経験することで受講生の能動的な理解を深める。	
	マーケティング特論Ⅱ	マーケティング・ミックスの創造を軸とする「マーケティング・マネジメント」の基礎理論を講義する。具体的には、「価格政策」と「流通（チャネル）政策」について説明したい。歴史的事実や最新事例に目を向けることで、これらの理解を深める。次いで、マーケティングの応用理論に目を向ける。この講義では「グローバル・マーケティング」や「ソーシャル・マーケティング」に学修範囲を広げ、最新事例を用いた議論を経験することで能動的な理解を深めたい。	
	財務会計特論Ⅰ	本科目では、企業における外部報告会計としての財務会計の意義や目的に加え、その主な伝達手段である財務諸表を作成するための技術としての複式簿記の構造を理解していることを前提として、会計基準に規定された内容とともに、その基礎にある考え方を理解する。また、それとは異なる別の考え方も比較検討し、企業の財務会計に関する制度的な諸問題について議論する。	
	財務会計特論Ⅱ	本科目では、財務会計特論Ⅰで学修したことを踏まえ、様々な経済主体における財務会計の現状と課題を把握し、様々な観点から考察する。例えば、統合報告を取り上げたり、SDGsやESG投資などとの関連を意識して財務会計に求められる役割を検討したり、営利を目的とはしない法人などの財務会計に関する課題を取り上げたりする。これらを通して、財務会計に関する諸問題について議論する。	
	情報システム特論Ⅰ	本科目では、経営資源の1つである情報を適切に管理・活用するための基礎知識を前提として経営における情報の本質を考察すると共に、情報システムの導入が企業の情報管理と業務の流れに大きな影響を与えることを応用的に考察する。その際、特に、組織変革・組織行動・組織戦略・組織学習など組織活動の複数の視点で議論する。それを通して、情報システムが企業経営に与える影響を、歴史的な背景も交えつつ、これまでの歩みと今後の方向性についてを理論をもとに考察し、情報システムの状況を分析する力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系		
	情報システム特論Ⅱ	情報システム特論Ⅰを受けて、高度情報社会の企業経営における情報の管理と情報システムの構築について、AIやVRの利用も含めた技術的側面と倫理的側面との双方からの議論を行う。特に情報と情報システムのマネジメントについて、技術決定論や社会決定論を踏まえた最新の情報システム研究における考え方である社会物質性について触れながら、人間中心の情報システムのあり方を考察する。さらに理論的背景と現状の問題点を組織構造・組織戦略・組織行動の視点で考察することで、企業経営の情報と情報システムの応用的な利用を議論する。	
	国際経営特論Ⅰ	在アジア日系企業の国際経営行動について学習する。具体的には国際経営理論、多国籍企業理論をふまえて、グローバル戦略、組織構造、在アジアの海外子会社のマネジメントをみる。とりわけ、戦略については海外投資進出国の外資政策への適応戦略との関連事項についてもみることとする。マネジメントについても、進出国の外資政策との関連でのヒトとモノについてのマネジメントについてみる。また、国際経営環境の変化と為替変動について、適応戦略の視点からみる。	
	国際経営特論Ⅱ	在アジア日系企業の国際経営行動について学習する。具体的に国際経営環境としてのメガFTAが日本企業のアジア海外展開についてどのような変容をもたらすかについてみる。その後、メガFTAと日本企業のアジアにみる海外投資経営行動について学習する。補足的に国際経営環境としてのアジア諸国の外資政策についても学習する。	
	消費者行動特論Ⅰ	メーカーや小売店などの企業にとって、消費者が求める商品やサービスを提供しないと生き残ることが難しい時代である。そのため、今日のマーケティングにおいて、消費者行動についての理解が不可欠となっている。本特論Ⅰでは、マーケティングを行う企業の立場から、消費者行動の理解を深めることを目的とする。消費者行動調査実習を行うために、消費者行動についての基礎知識を学ぶ。	
	消費者行動特論Ⅱ	メーカーや小売店などの企業にとって、消費者が求める商品やサービスを提供しないと生き残ることが難しい時代である。そのため、今日のマーケティングにおいて、消費者行動についての理解が不可欠となっている。本特論Ⅱでは、マーケティングを行う企業の立場から、消費者行動の理解を深めることを目的とする。消費者行動理論を学んだ上で、消費者行動の調査実習に取り組む。	
	多国籍企業特論Ⅰ	RCEP、TPP11や日欧EPAなどの新たな地域連携協定発足による自由貿易の推進が期待される一方、米中貿易摩擦やWTOの機能不全など保護主義的な課題も山積している。その様な環境下で、グローバル競争が変容してきており、国際ビジネスの在り方が問い直されている。また、既存の競争優位が瞬時に喪失してしまうほど市場環境が変化しているといっても過言でない。そこで、国際ビジネスに関する現状や基本理論を習得し、さらに、国際ビジネスにおける問題発見・解決、ソリューション・プロセスを模索できる能力の習得を目的とする。	
	多国籍企業特論Ⅱ	本講義は、国際ビジネスの理論の応用と深化を目的に開講する。国際ビジネスに関する最近の理論を学習し、さらに、ケーススタディを通じて国際ビジネスにおける問題発見・解決、ソリューション・プロセスを模索できる能力の習得を目的とする。ゼミでは、学术论文の講読を行うと同時に、多国籍企業のケーススタディを行い、多国籍企業理論の応用力を身につける。	
	アントレプレナーシップ特論	実業でご活躍の起業家の方々より実践的なお話を伺い、受講者の事業構想力を一層高める。貴重な外部講師の講話・講義の聴講を基本とするが、必ず受講者自らがフィードバックして考え、受講者相互・受講者と教員等、双方向での能動的・発展的な学びの機会を設け、多角的な検討・理解を行う。起業の実践に役立つ講義とする。	
スポーツマネジメント特論Ⅰ	人とスポーツの関わり方や様々なスポーツ組織における事象を取り上げ、スポーツマネジメントの基本的な理論を踏まえ概説する。 NPB（プロ野球）やJリーグ、Bリーグ、Vリーグといったスペクテーター・スポーツ産業を代表に、社会に大きなインパクトを与え得るビジネス産業を事例に学習する。また、地域住民の生活に根ざしたスポーツ活動領域においては、総合型地域スポーツクラブの創設や、各リーグの地域貢献事業などコミュニティビジネスにも着目し、スポーツマネジメントの理論と具体的な実務について検討する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系		
	スポーツマネジメント特論Ⅱ	スポーツマネジメントの基礎理論を理解した上で、現代的なスポーツマネジメント研究の課題や具体的なスポーツ組織におけるマーケティングやリーダーシップ行動など、マネジメントの発展性について議論することを目的とする。様々なスポーツの場面やスポーツ組織を対象とした実践的なスポーツマネジメントのあり方について議論する力を身につけることを目標とする。 スポーツマネジメントの主要領域とそれに対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。	
	原価計算特論Ⅰ	本特論では、伝統的な原価計算の手法を再検討した後に、わが国固有の原価管理の手法である原価企画、新たな原価計算の手法として知られるABC（活動基準原価計算）、品質原価計算、ライフサイクルコストリング、BSC（バランスドスコアカード）などに焦点を当てて研究する。とくに特論Ⅰでは、伝統的な原価計算手法を再検討した後、原価企画、ABC（活動基準原価計算）などを取り扱う。授業は講義形式や発表形式など様々な方法をおりませで行う。	
	原価計算特論Ⅱ	本特論では、伝統的な原価計算の手法を再検討した後に、わが国固有の原価管理の手法である原価企画、新たな原価計算の手法として知られるABC（活動基準原価計算）、品質原価計算、ライフサイクルコストリング、BSC（バランスドスコアカード）などに焦点を当てて研究する。とくに特論Ⅱでは、品質原価計算、ライフサイクルコストリング、BSC（バランスドスコアカード）などを取り扱う。授業は講義形式や発表形式など様々な方法をおりませで行う。	
	管理会計特論Ⅰ	管理会計特論Ⅰ・Ⅱでは、経営目標／戦略を有効に実行するための業績評価システム／マネジメント・システムを中心テーマとして検討・考察することを目的としている。 管理会計特論Ⅰでは、「企業の経営目標と業績評価システム」を研究テーマとして取り上げる。企業が追及する経営目標は、企業がおかれた経営環境や時代背景、社会的要請などによって変わってくるものであり、それによって経営目標を達成するための業績評価システム／マネジメント・システムも時代とともに変わってきている。 そこで、業績評価システムの基礎概念ならびに企業における業績評価システムの枠組みについて整理したうえで、企業の経営目標と業績評価システム／マネジメント・システムの変遷をたどり、両者の関係性について検討を行う。	
	管理会計特論Ⅱ	管理会計特論Ⅱでは、「企業価値創造とマネジメント・システム」を研究テーマとして取り上げる。今日、企業の経営目標として重視されているのは企業価値の創造／向上である。すなわち、各企業はいかに企業価値を創造し高めていく経営を行っていくかが重要な経営課題となっているのである。 そこで、企業価値の基礎概念を整理したうえで、企業価値創造／向上のための業績評価システム／マネジメント・システムとはどのようなものを、戦略マネジメント・システムとしてのバランスド・スコアカード（Balanced Scorecard: BSC）やアメイバ経営、さらには統合報告などの具体的な手法を取り上げ、企業価値創造の観点から検討を加えるものである。	
	コストマネジメント特論Ⅰ	コストマネジメント特論Ⅰ・特論Ⅱでは、会計（原価計算ないし管理会計）と結び付いたコストマネジメントについて検討する。その際、会計情報（原価情報ないし管理会計情報）が組織成員の心理と行動に与える影響、すなわちマネジメント・コントロールの視点を交えて考察する。 特論Ⅰでは、まず、原価、原価計算、およびコストマネジメントの概念と体系について整理する。また、コストマネジメント体系のなかで伝統的なコストマネジメントに位置づけられる、原価統制を目的とした標準原価管理を取り上げ、その特徴（考え方、測定・分析の方法）、問題点、および限界について考察する。	
	コストマネジメント特論Ⅱ	コストマネジメント特論Ⅱでは、伝統的なコストマネジメントの問題点と限界を克服するものとして新たに登場した、現代的なコストマネジメントの考え方、測定・分析の方法について検討する。具体的なコストマネジメントの手法として、活動基準原価計算／活動基準管理、制約理論／スループット会計、ミニプロフィットセンター、ライフサイクル・コストマネジメント、品質コストマネジメント、ならびに原価企画を取り上げる。	
オペレーションズ・リサーチ特論Ⅰ	広い分野で、所期の目標を最善な方法で達成したいと考えるケースが多々あり、このような問題を数学的に定式化し、問題解決を図る方法がオペレーションズリサーチと呼ばれる分野で発展し、最適化理論として研究された。例えば、輸送計画問題、最適価格問題、日程計画問題などである。本授業では、この中のポートフォリオ問題を扱う。投資対象である資産の組合せをポートフォリオといい、投資家はある特定の資産（株式）を売ったり買ったりすることによって、自己のポートフォリオを管理する。株式の組合せを考え、どのように組み合わせたら期待する利益が大きくなるか、リスクが小さくなるかを学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創 経済 プログラム 専門科目	経営学系 オペレーションズ・リサーチ特論Ⅱ	始点と終点が決まっている、危険地帯を避けるなどの制約がある飛行機がコストを最小にするにはどのような航路をとったらよいか？飛行機の軌道は連続であることから、連続空間（関数空間のひとつ）を扱う問題となる。まず関数空間の取り扱いを学び、問題の定式化、この問題を解くための理論的な基礎を学ぶ。	
	数理計画法特論Ⅰ	離散的数理計画について概説する。具体的には、グラフ上の最適化問題として、最小木（minimum spanning tree）問題に対するKruskal法とPrim法を、最短路（shortest pass）問題におけるDijkstra法、輸送問題における飛石法を、最大流最小カット問題におけるFord-Fulkerson法などを扱う。 あわせて、データ構造とアルゴリズムについて簡単な紹介をし、計算の複雑さについて解説する。	
	数理計画法特論Ⅱ	連続的数理最適化について概説する。主に線形計画法と非線形計画法を扱う。線形計画法では単体法を扱う。非線形計画法ではラグランジュの未定乗数法とKKT条件を扱う。 ファイナンスへの応用として線形計画法では今野のMADモデルを、非線形計画法ではマコービッツのMVモデルを扱う。 また線形計画法の応用として、非協力ゲームにおけるミニマックス定理を扱う。非線形計画問題の応用として、対数二乗最小化を扱いAHPにおける幾何平均法について解説する。	
	経営数学特論Ⅰ	一般にモデルを構築してより良い手段を見つける際に問題が単純であれば数学的に求める解析解を求める事も可能である。問題が複雑である場合、解を求めるには数値解析が必要となるが、数値解は計算機の発達と共に計算の高速化が可能となり急速に進歩した。ここでは古くからある問題ではあるが線形計画問題を取り上げ経営数学の基礎と応用に関する講義を行う。	
	経営数学特論Ⅱ	計画的に作業を進める為にはある程度将来を予測しておく必要がある。他人を納得させるには経験や勘だけに頼らず過去のデータからそれに基づいて客観的かつ合理的な予測をする事が求められる。まずは予測の基本的な手法の一つ因果分析を取り上げ基礎と応用に関する講義を行う。計算手法の原理と具体的な計算方法を順次説明解説していく。	
	民法Ⅰ特論-A	民法Ⅰ特論-A・Bでは、比較法的民法学研究の基礎を学ぶ。具体的には、フランス民法の時効制度に関する外国語文献を輪読し、フランス時効制度の全体像を明らかにし、かつ、わが国の時効制度と対比することで、わが国の民法学における課題を明らかにする。民法Ⅰ特論-Aでは、時効法改正に関するフランス語文献を参加者が翻訳し、通読する。翻訳担当者は毎回翻訳をレジュメにし、参加者全員に報告し、フランス法の内容を明らかにする。そして、上記検討を踏まえて、フランス法とわが国の時効制度と対比し、今後の課題を明らかにする。	
	民法Ⅰ特論-B	民法Ⅰ特論-A・Bでは、比較法的民法学研究の基礎を学ぶ。具体的には、フランス民法の時効制度に関する外国語文献を輪読し、フランス時効制度の全体像を明らかにし、かつ、わが国の時効制度と対比することで、わが国の民法学における課題を明らかにする。民法Ⅰ特論-Bでは、2008年のフランス時効法改正に関する立法資料を参加者が翻訳し、通読する。翻訳担当者は毎回翻訳をレジュメにし、参加者全員に報告する。上記検討を踏まえて、フランス法とわが国の時効制度と対比し、今後の課題を明らかにする。	
	民法Ⅱ特論-A	本講義は、今般大改正された民法（債権関係）の「主要な点」の把握を試みようとするものである。具体的には、「債務不履行・解除」、「詐害行為取消権」、「債権譲渡」および「保証」についてどのような問題意識のもと、どのような改正が行われたのか解説していく。なお、受講者には事前に配布する関連資料を予め読んできてもらい、適宜説明・意見を求めることとする。	
	民法Ⅱ特論-B	本講義は、今後のAI社会において新たに発生するとおぼしき法律問題（民事法領域のもの）につき考察を深めようとするものである。従来の法理論とのリンクを意識して、自動運転車やAI医療といった具体的なトピックも交えながら検討していきたい。基本的には講義形式で実施するが、受講者には事前に配布する関連資料を予め読んできてもらい、適宜説明・意見を求めることとする。	
	民法Ⅲ特論-A	日本契約法を海外の法律家・研究者に紹介する英語文献（Contract Law in Japan / Hiroo Sono: Kluwer Law Intl, 2019, ISBN:978-9403507415）の輪読を通じ、法律用語の英語表現を修得するとともに、日本契約法に対する多角的な視座を養うことを目的とする。また、アメリカ契約法の関連文献を用いて比較研究を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創 経済 プログラム 専門科目	経営学系		
	民法Ⅲ特論-B	日本契約法を海外の法律家・研究者に紹介する英語文献 (Contract Law in Japan / Hiroo Sono: Kluwer Law Intl, 2019, ISBN:978-9403507415) の輪読を通じ、法律用語の英語表現を修得するとともに、日本契約法に対する多角的な視座を養うことを目的とする。また、ウィーン売買条約 (CISG) の関連文献を用いて比較研究を行う。	
	国際私法特論 I	世界各国における家族法ないし家族を取り巻く慣習の多様性の維持・発展に対して、国際私法の寄与が期待される事項についての理解を深めることをこの授業の目的とする。主として、出自を知る権利や生殖補助医療、多様な婚姻法の各国の受容などをテーマとする。この講義を受講することで、国際私法の実践的活用を学ぶと共に、家族法の多様性を理解し、客観的に法制度の違いを意識できるようになることをその達成目標とする。	
	国際私法特論 II	民事分野における個人の司法アクセスの発展に際して、広義の国際私法の寄与が期待される事項についての理解を深めることをこの授業の目的とする。学部レベルで習得した外国判決の承認執行制度について、その実践的な司法アクセス確保のあり方をEU法と比較しつつ学んでいく。この講義を受講することで、国際民事訴訟法の実践的活用を学びつつ、渉外事案での司法アクセスの現状と課題を理解できるようになることをその達成目標とする。	
	労働法特論 I	経済のグローバル化や産業のICT・AI化などのもので、日本の雇用慣行が揺らぐとともに、労働法も急速に変容しつつある。本講義では、このような激動期にある労働法およびその行方を考察の対象とする。非正規雇用、格差問題、同一労働同一賃金、正社員論、自営的就労、キャリア権、人工知能による雇用の代替、ICT・AIの働き方・働き方への影響、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの今日的テーマについて、受講生の要望に応じて、日本語の文献を使って学習を進めることとする。	
	労働法特論 II	経済のグローバル化や産業のICT・AI化などのもので、日本の雇用慣行が揺らぐとともに、労働法も急速に変容しつつある。本講義では、このような激動期にある労働法およびその行方を考察の対象とする。非正規雇用、格差問題、同一労働同一賃金、正社員論、自営的就労、キャリア権、人工知能による雇用の代替、ICT・AIの働き方・働き方への影響、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの今日的テーマについて、受講生の要望に応じて、日本国の判例・裁判例を使って学習を進めることとする。	
	商法特論 I	本授業では、商法のなかでも会社法を扱う。具体的には、実際の事案を題材に会社法の適用や解釈を学ぶ。受講者の関心にもよるが、合併などの組織再編に関する事案を取り上げる。以上の取組みを通じて、会社法が企業の経済活動において有する意義や影響を具体的に理解する。 なお、本授業では、受講者の関心および必要な範囲で法の経済分析や計量経済学、コーポレート・ファイナンスなどについて解説する。会社法の意義や判例の内容を正確に理解するには、それらの知識が有益だからである。	
	商法特論 II	本授業では、商法の中でも会社法を扱う。具体的には、会社法に関する重要判例を取り上げて、受講者が報告を行う。以上の取組みを通じて、会社法が企業の経済活動において有する意義や影響を具体的に理解する。 なお、本授業では、受講者の関心および必要な範囲で法の経済分析や計量経済学、コーポレート・ファイナンスなどについて解説する。会社法の意義や判例の内容を正確に理解するには、それらの知識が有益だからである。	
	税法特論 I	日本の税制の根幹である所得税法の基礎を学ぶ。具体的には、包括的所得概念、未実現の所得、損害賠償金の取り扱い・違法所得課税、課税単位、利子所得・配当所得、譲渡所得、給与所得について学ぶ。 これらを学ぶことによって、「所得」とは何か、実際の課税方法はどうなっているのかの理論的背景を学んでいくことにしたい。	
	税法特論 II	所得税法の基礎を学ぶ。具体的には、FRINGE・ベネフィット、退職所得課税、事業所得、不動産所得、雑所得、収入金額と必要経費、所得の人的帰属、損益通算、所得控除、「租税手続法・租税争訟法・租税処罰法の概要」を学ぶ。 これらを学ぶことによって、具体的な個人に対する所得課税の全容をつかみ、我が国の税制の考え方をつかむことにしたい。	
会社法特論 I	会社法特論 I 及び II においては、会社法を全般的に学修する。本授業では、株式会社の設立、株式、株式会社の機関に関して学修する。 受講生は、授業計画に沿って各回の報告担当を決め、報告を行い、質疑応答を通して全体的に会社法を学ぶ。 なお、本授業では、会社法の基礎を学ぶことに重点を置き、応用的な項目に関しては、適宜加えることとする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系 会社法特論Ⅱ	会社法特論Ⅰ及びⅡにおいては、会社法を全般的に学修する。本授業では、計算、資金調達、会社の基礎の変更、外国会社・国債会社法、解散と清算、持分会社に関して学修する。 受講生は、授業計画に沿って各回の報告担当者を決め、報告を行い、質疑応答を通して全体的に会社法を学ぶ。 なお、本授業では、会社法の基礎を学ぶことに重点を置き、応用的な項目に関しては、適宜加えることとする。	
	金融取引法特論Ⅰ	社会生活に身近な銀行、信用金庫及び信用組合等との金融取引の基本的な法構造を学ぶと共に、民法、民事手続法、手形・小切手法等の各法を、実社会に照らし、機能的・実践的に、総合的に学ぶ。金融取引の実態が、法ルールから見たとき、如何なる具体的処理となるのか、授業内容をつうじ、法的思考力を滋養する。法的解決方法を知り、特に民事紛争での実体的な内容処理の考え方を修得する。特論Ⅰでは、特に、預金、融資を扱い、融資のなかでも、担保・保証等に力点を置く。	
	金融取引法特論Ⅱ	社会生活に身近な銀行、信用金庫及び信用組合等との金融取引の基本的な法構造を学ぶと共に、民法、民事手続法、手形・小切手法等の各法を、実社会に照らし、機能的・実践的に、総合的に学ぶ。金融取引の実態が、法ルールから見たとき、如何なる具体的処理となるのか、授業内容をつうじ、法的思考力を滋養する。法的解決方法を知り、特に民事紛争での実体的な内容処理の考え方を修得する。特論Ⅱでは、特に、融資、送金・代金取立て、手形・小切手等を扱い、融資のなかでも、債権回収・管理等に力点を置く。	
	経営組織演習Ⅰ	経営組織演習ⅠおよびⅡでは、経営組織特論で学んだ知識をもとに組織論に関する専門的な論文の輪読を行うことを通じてより高度な理解の獲得を目的とする。外部環境と組織の関係、戦略および組織設計、組織変革など組織のマネジメントにかかわる重要文献を網羅的に読むことと各院生のテーマにかかわる文献の報告を並行して行うこと、またそれらをもとに議論することを通じて、各院生が自身の取り組むテーマを多角的観点から立体的に把握できることを目指す。	
	経営組織演習Ⅱ	経営組織演習ⅠおよびⅡでは、経営組織特論で学んだ知識をもとに組織論に関する専門的な論文の輪読を行うことを通じてより高度な理解の獲得を目的とする。組織論に関する専門的な論文と並行して、院生自身の修士論文のテーマにかかわる文献の報告、および、修士論文に関する報告を行ってほしい修士論文の執筆に向けての指導を行う。	
	組織と人材のマネジメント演習Ⅰ	この演習では、主に次の2つの内容で進めていく予定である。 ①組織マネジメントに関する研究文献を読みながら、専門知識だけではなく、課題分析の論理性について学習する。 ②ケース・スタディを通して、持続的成長を実現するための組織戦略策定に関わる課題を検討する。 以上の内容を通して、次の目標を達成することとする。 ①理論知識を習得するだけではなく、実際の企業における組織マネジメントに関わる問題についての分析能力とプレゼンテーション・スキルを身につける。 ②持続的成長を実現するための組織戦略を策定する能力を身につける。	
	組織と人材のマネジメント演習Ⅱ	この演習では、主に次の2つの内容で進めていく予定である。 ①研究文献を読みながら、経済学や経営学の理論知識を駆使して人材マネジメントに関する問題を論理的に分析する。 ②ケース・スタディを通して、企業の持続的成長を実現するための人材マネジメントの戦略と仕組みについて学ぶ。 以上の内容を通して、次の目標を達成することとする。 ①人材マネジメントに関する課題についての論理的な分析能力とプレゼンテーション・スキルを高める。 ②組織における人材戦略の策定能力を身につける	
	国際経営演習Ⅰ	在ASEAN日系企業の国際経営活動について指導する。具体的には、日系多国籍企業と国際経営理論、多国籍企業理論との関連について学習した後、シンガポール、マレーシア、タイに進出している日本企業のケースをみる。その後、国別、産業別、業種態別に細分化し、より深く日系企業の国際経営活動と経営資源について指導する。演習Ⅰにおいては、国際経営活動と経営資源のうち人的資源にフォーカスして指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系		
	国際経営演習Ⅱ	在ASEAN日系企業の国際経営活動について指導する。具体的には、日系多国籍企業と国際経営理論、多国籍企業理論との関連について学習した後、シンガポール、マレーシア、タイに進出している日本企業のケースをみる。その後、国別、産業別、業種業態別に細分化し、より深く日系企業の国際経営活動と経営資源について指導する。演習Ⅱにおいては、国際経営活動と経営資源のうちモノにフォーカスして企業間連携と関連させながら指導を行う。	
	マーケティング演習Ⅰ	本演習では、マーケティングの学際的な研究に取り組む。研究方法の基礎知識を身に付けると同時に、マーケティングの専門知識を幅広く習得することを目標とする。マーケティングの基礎理論や方法論にかかわる文献の輪読を通じて体系的な知識を習得しながら問題意識や研究課題を明確にしている。基本的な知識が整理された教科書に留まらず、最新の専門書や古典を精読することが求められる。	
	マーケティング演習Ⅱ	本演習では、マーケティングの学際的な研究に取り組む。初年度に履修する「マーケティング演習Ⅰ」における取り組みを踏まえて、修士論文の完成を目標とする研究調査に取り組む。最初に、問題意識と研究課題を明確にする。次いで、問題意識に応じて先行研究の検討に取り組む。さらには研究課題に必要なデータや情報を収集して分析する。研究の進捗状況に応じて経過報告を実施し、ディスカッションを経験する。こうした取り組みを通じて、研究の精緻化とコミュニケーション能力の育成を図る。	
	消費者行動演習Ⅰ	メーカーや小売店などの企業にとって、消費者が求める商品やサービスを提供しないと生き残ることが難しい時代である。そのため、今日のマーケティングにおいて、消費者行動についての理解が不可欠となっている。本演習Ⅰでは、マーケティングを行う企業の立場から、消費者行動の理解を深めることを目的とする。マーケティング・リサーチ実習を行うために、マーケティング・リサーチについての基礎知識を学ぶ。	
	消費者行動演習Ⅱ	メーカーや小売店などの企業にとって、消費者が求める商品やサービスを提供しないと生き残ることが難しい時代である。そのため、今日のマーケティングにおいて、消費者行動についての理解が不可欠となっている。本演習Ⅱでは、マーケティングを行う企業の立場から、消費者行動の理解を深めることを目的とする。マーケティング・リサーチについての基礎知識に基づき、マーケティング・リサーチ実習に取り組む。	
	多国籍企業演習Ⅰ	市場がグローバル化している現在、多国籍企業の行動は、政治経済において非常に大きな影響力を有している。多国籍企業の研究はその歴史が浅いことから、部分理論の積み重ねという特徴が見られる。したがって、多国籍企業論の研究においては、既存理論の研究と体系化を通じて、対外直接投資や企業のグローバル化のメカニズムと意義を追究することが大切となる。本演習では、多国籍企業理論・国際ビジネス論の基礎である、取引コスト論およびサプライ・チェーン・マネジメントを追究するために、基本書を講読しながら、適宜外国語文献研究を行う。	
	多国籍企業演習Ⅱ	ダイナミックケイパビリティ論、リソース・バースト・ビュー（RBV）など近年の多国籍企業理論・国際ビジネス論の文献研究を行い、その上で、これらの理論の検証や今日の企業の海外進出や国際ビジネス上の課題を考察する。学術論文を講読しながら、適宜外国語文献研究も行う。	
	情報システム演習Ⅰ	現代社会の企業経営において、情報やシステムの扱いを現場の業務の実情と照らし合わせて検討することが重要である。本科目では、高度情報社会の企業経営における情報や情報システムが社会生活に及ぼす影響を理解して、各自の研究テーマに対応した理論的フレームワークの中で考察する能力を習得する。特に情報管理や知識管理およびその実践から生まれるイノベーションについて実際の企業の事例をもとにして各自が考察を行い、研究テーマに引き寄せた形で情報とシステムを関連させた問題意識を明確にさせる。	
情報システム演習Ⅱ	情報システム論演習Ⅰで明確にした問題意識をもとに、AIが不可欠となっている現代社会の企業経営における情報システムのあり方を具体的に考察する。各自の研究テーマにおいて情報や情報システムが関わる部分について、AIを利用する情報システムが社会生活に及ぼす影響をAI、ロボット、サイボーグの存在する場面とその価値を検討することを通して検討する。その際、情報システム研究の最近の捉え方である社会物質性のフレームワークを用いて主に質的研究手法を用いてその解決のシナリオを導き出して検証につなげるための理論的・実践的な能力を習得する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共創経済プログラム専門科目	経営学系	スポーツマネジメント演習Ⅰ	<p>スポーツマネジメント領域におけるスポーツ産業、スポーツビジネス、地域スポーツ振興に関する最新の動向を論文や文献等から把握する。ディスカッションにおいて課題整理等を行い、個々の課題に対するマネジメントプランを立案し、発表する。立案したプランは、連携・協働するスポーツ関連団体に対し、可能な範囲で評価をもらい、フィードバックを行う。</p> <p>スポーツマネジメント領域における研究論文や文献、刊行物等を精読し、議論する。また、議論を踏まえた自身のマネジメントプランを立案し、プレゼンテーションを行う。</p>	
		スポーツマネジメント演習Ⅱ	<p>スポーツ組織・団体と協働し、課題の共有やそれらの解決にむけたビジネスプランを作成する。実践的な活動に参画し、効果検証及び評価、プランの改善の検討を行う。</p> <p>スポーツのプロダクトやサービスの生成に特有の事象や課題について、消費行動論や組織経営論を理論背景とする実践的な理解を目標とする。スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理、ファイナンス）、スポーツ組織の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができるよう、論理と実践を総合的に学習する。</p>	
	原価計算演習Ⅰ	<p>演習では、特論のテーマ以外にも院生の関心にあわせて管理会計のテーマ全般の中から研究テーマを設定してもらおう。なお、その際に、特に実証的・経験的なアプローチで研究を行いたい学生を対象とする。したがって、特論のテーマやそれ以外のテーマに対して、サーベイリサーチ、ケースリサーチ、アクションリサーチなどの方法についても学ぶ。とくに演習Ⅰではとくにサーベイリサーチに焦点を当てる。</p>		
	原価計算演習Ⅱ	<p>演習では、特論のテーマ以外にも院生の関心にあわせて管理会計のテーマ全般の中から研究テーマを設定してもらおう。なお、その際に、特に実証的・経験的なアプローチで研究を行いたい学生を対象とする。したがって、特論のテーマやそれ以外のテーマに対して、サーベイリサーチ、ケースリサーチ、アクションリサーチなどの方法についても学ぶ。とくに演習Ⅱでは、ケースリサーチ、アクションリサーチなどの方法に焦点を当てる。</p>		
	管理会計演習Ⅰ	<p>管理会計演習Ⅰ・Ⅱでは、組織の有効かつ能率的な管理に対して主要な役割を果たすマネジメント・コントロール・システムについて研究を進める。</p> <p>近年、マネジメント・コントロール・システムは戦略の実施機構として体系づけられている。そこで、管理会計演習Ⅰでは、「戦略の有効な実行のためのコントロール・システム」という視点から、戦略の有効性を最大化するマネジメント・コントロール・システムとはどのようなものかを探っていくことを目的とする。またその中で管理会計技法が果たす役割についても検討していく。</p> <p>そのため、マネジメント・コントロール・システムや業績評価システム、管理会計システムについての近年の研究成果の文献講読を行うとともに、企業の事例や練習問題等の検討・討論を行っていく。</p>		
	管理会計演習Ⅱ	<p>今日、ESGやSDGsに対する注目が集まる中、企業もそうした問題に対する取り組みが不可避的に求められるようになってきている。しかし、そうした取り組みについては、これまでの営利中心としたものとは異なる考え方や仕組み、組織的対応が必要になると考えられる。</p> <p>そこで、管理会計演習Ⅱでは、ESGやSDGsといった取り組みを促進するためのマネジメント・コントロール・システムという視点から、近年、企業での導入が進む「統合報告」を取り上げ、企業の価値創造プロセスに対するその意義・役割について検討を加えていく。</p> <p>そのため、統合報告に関する近年の研究成果の文献講読を行うとともに、企業の導入事例についての検討・討論を通してより深く掘り下げた考察を行う。そのうえで、企業のESG等への取り組みの効果を高めていくためにマネジメント・コントロール・システムが果たすべき役割について検討を加えていく。</p>		
	財務会計演習Ⅰ	<p>本科目では、各自が設定した財務会計に関するテーマについて考察を行う。そのために、特定の経済主体における外部報告会計としての財務会計の意義と領域を理解し、財務会計に関する現状と課題を把握した上で、各自がテーマを設定し、現行の会計基準や様々な文献を調査することによって、多角的な検討を加える。これらを通して、財務会計に関する諸問題について考察する。</p>		
	財務会計演習Ⅱ	<p>本科目では、実際の企業などの財務諸表を分析することによって、財務諸表分析の方法を理解する。そのために、特定の経済主体における外部報告会計としての財務会計の意義と領域を理解し、財務諸表の役割と入手方法に加え、その体系と構造を理解する。また、実際の財務諸表を用いて、当該経済主体の収益性分析、生産性分析および安全性分析などを行い、考察する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系		
	コストマネジメント演習 I	コストマネジメント演習 I では、受講者の研究テーマに関連のある、国内主要ジャーナル（原価計算研究、管理会計学、会計プロGRESSなど）と海外主要ジャーナル（Accounting Review, Management Accounting Research, Journal of Management Accounting Researchなど）に掲載された論文を検討する。その際、ケースリサーチ、アクションリサーチに基づく論文を選定し、これらの研究方法の基礎を修得する。	
	コストマネジメント演習 II	コストマネジメント演習 II では、受講者の研究テーマに関連のある、国内主要ジャーナル（原価計算研究、管理会計学、会計プロGRESSなど）と海外主要ジャーナル（Accounting Review, Management Accounting Research, Journal of Management Accounting Researchなど）に掲載された論文を検討する。その際、サーベイリサーチ、混合研究法に基づく論文を選定し、これらの研究方法の基礎を修得する。	
	オペレーションズ・リサーチ演習 I	広い分野で、所期の目標を最善な方法で達成したいと考えるケースが多々あり、このような問題を数学的に定式化し、問題解決を図る方法がオペレーションズ・リサーチの一分野として研究されてきた。例えば、輸送計画問題、最適価格問題、日程計画問題、ポートフォリオ問題などである。この中でも非線形最適化問題を扱う。	
	オペレーションズ・リサーチ演習 II	無限次元空間上での非線形最適化を扱う。非線形であるとは、線形問題に仮定された、比例性、加法性が必ずしもないことをいう。無限次元空間とは、発着地点が決まっている飛行機の軌跡全体を集めた連続空間が例として挙げられる。このような軌跡全体の中で、様々な制約をクリアし、最適な軌跡を導き出すための理論を考える。	
	数理計画法演習 I	非線形最適化理論について研究する。特に、凸解析の理論について習熟する。KKT条件を自在に扱えるようにすることが狙いである。ファイナンスへの応用に当たっては、Rにおける基本パッケージから、関数optim()を使い、real dataに従って、マーコビッツのMVモデル、および今野のMADモデルを解く。	
	数理計画法演習 II	対数最小二乗法について習熟し、AHPにおける、幾何平均法について研究する。また一対比較行列の最大固有値の最小化問題を取り上げ、固有多項式を持つ性質について数値実験を交えながら、研究する。あらたな整合度指数を構築し、その公理的な性質を導出する。特にサイズは小さいが、応用上重要度の高い、3次と4次の一対比較行列を取り上げる。	
	経営数学演習 I	計画的に作業を進める為にはある程度将来を予測しておく必要がある。他人を納得させるには経験や勘だけに頼らず過去のデータからそれに基づいて客観的かつ合理的な予測をする事が求められる。まずは予測の基本的な手法の一つ因果分析を取り上げ基礎と応用に関する講義を行う。計算手法の原理と具体的な計算方法を順次説明解説していく。	
	経営数学演習 II	産業連関表を利用した産業経済の基礎と理論の基礎と応用に関する講義を行う為に、まずはそこで利用する数学的アイテムと基礎的な理論の学習から始めていく。一般理論を踏まえ、身近な地域経済の分析手法の解説を始める為には、まずはそこで使用する基礎的な計算方法の原理及び必要な具体的な計算方法を簡単な例を用いて順次説明解説するので、必要に応じソフトウェアを用いて計算出来る様これら含めて解説する。	
	民法 I 演習-A	民法I演習-A・Bでは、わが国の立法資料を輪読することで、立法者意思による法解釈の基礎を学ぶ。具体的には、ボワソナード民法草案の解説書を輪読する。もっとも、ボワソナード民法草案の全てを購読することは困難であるから、ボワソナード独自の視点が盛り込まれている時効制度に関する部分を参加者で輪読し、現代民法学の課題について検討する。民法I演習-Aでは、ボワソナード民法草案のうち、時効の存在理由、時効の援用・放棄、（自然債務論も含めた）時効の効果、時効の中断を取り上げる。これらの事項に関する現在の判例・学説を明らかにし、ボワソナードの解説を踏まえて、現行法の意味を明らかにし、あるべき解釈について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共創経済プログラム専門科目	経営学系	民法Ⅰ演習-B	民法Ⅰ演習-A・Bでは、わが国の立法資料を輪読することで、立法者意思による法解釈の基礎を学ぶ。具体的には、ボワソナード民法草案の解説書 (Gve Boissonade, <i>Projet de code civil pour l'empire du Japon : accompagne d'un commentaire</i>) を輪読する。もつとも、ボワソナード民法草案の全てを購読することは困難であるから、ボワソナード独自の視点が盛り込まれている時効制度に関する部分を参加者で輪読し、現代民法学の課題について検討する。 民法Ⅰ演習-Bでは、ボワソナード民法草案のうち、時効の停止、取得時効・消滅時効、相続回復請求権の消滅時効に関するボワソナードの解説を取り上げる。これらの事項に関する現在の判例・学説を明らかにし、ボワソナードの解説を踏まえて、現行法の意味を明らかにし、あるべき解釈について検討する。	
		民法Ⅱ演習-A	本演習は、「総則」および「物権」にウエイトを置き、最新の(裁)判例を検討しようとするものである。なるべく他の法律や「債権」の領域等が交錯するようなものをピックアップし、3コマ掛けて、当該評釈を手掛かりに、関連する(裁)判例や学説も踏まえながら、じっくり検討することとしたい。担当者には、作成してきたレジュメに即して報告をおこなってもらい、その後、それをもとに皆でディスカッションするという形式をとる。	
		民法Ⅱ演習-B	本演習は、「債権総論」や「債権各論」にウエイトを置き、最新の(裁)判例を検討しようとするものである。なるべく他の法律や「物権」の領域等が交錯するようなものをピックアップし、3コマ掛けて、当該評釈を手掛かりに、関連する(裁)判例や学説も踏まえながら、じっくり検討することとしたい。担当者には、作成してきたレジュメに即して報告をおこなってもらい、その後、それをもとに皆でディスカッションするという形式をとる。	
		民法Ⅲ演習-A	契約において当事者間を規律するのは第一義的に当事者間の合意そのものである。どのような合意が形成されるかは契約締結までの交渉にかかっており、契約実務においても交渉は非常に重要なものと考えられている。21世紀の契約法学では、適正な合意に至るための交渉(あるいは再交渉)をいかに規律するかが盛んに論じられてきた。そこでこの演習では、契約上の合意に至るための「交渉」に着目して比較法研究を行った英語文献を輪読し、交渉にまつわる法律英語表現を修得する。	
		民法Ⅲ演習-B	契約において当事者間を規律するのは第一義的に当事者間の合意そのものである。どのような合意が形成されるかは契約締結までの交渉にかかっており、契約実務においても交渉は非常に重要なものと考えられている。21世紀の契約法学では、適正な合意に至るための交渉(あるいは再交渉)をいかに規律するかが盛んに論じられてきた。そこでこの演習では、契約上の合意に至るための「交渉」に着目して比較法研究を行った英語文献を輪読するほか、日本法、アメリカ法、ウィーン売買条約(CISG)の関連資料を研究する。これらを通じ、日本契約法学における交渉を批判的に検討する。	
		国際私法演習Ⅰ	国境を越えた新たな民事問題に対応すべく、あるべき(狭義の)国際私法について研究する。本演習では、国際的な諸制度を理解することが前提となるため、原則として外国語文献を教材として用いる。本演習の達成目標として、国際私法の意義や制度について理解し、その課題を発見できるようになり、修了後も、この問題に取り組んでいける外国語文献読解力を身につけることができることを目指す。	
		国際私法演習Ⅱ	国際裁判管轄・外国判決の承認執行・国際仲裁・国際倒産といった、国際民事訴訟法の問題をテーマとし、本演習では世界レベルでの法的なトレンドについて、外国語文献(英・独など)の講読を中心に授業を進める。本演習の達成目標として、上記の理解を深めると共に、修士論文の執筆に必要な読解力も養うことをねらいとする。	
		労働法演習Ⅰ	経済のグローバル化や産業のICT・AI化などのもので、日本の雇用慣行が揺らぐとともに、労働法も急速に変容しつつある。本講義では、このような激動期にある労働法およびその行方を考察の対象とする。非正規雇用、格差問題、同一労働同一賃金、正社員論、自営的就労、キャリア権、人工知能による雇用の代替、ICT・AIの働き方・働きかたへの影響、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの今日的テーマについて、受講生の要望に応じて、外国語の文献を使って学習を進めることとする。	
		労働法演習Ⅱ	経済のグローバル化や産業のICT・AI化などのもので、日本の雇用慣行が揺らぐとともに、労働法も急速に変容しつつある。本講義では、このような激動期にある労働法およびその行方を考察の対象とする。非正規雇用、格差問題、同一労働同一賃金、正社員論、自営的就労、キャリア権、人工知能による雇用の代替、ICT・AIの働き方・働きかたへの影響、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどの今日的テーマについて、受講生の要望に応じて、欧米の判例などを使って学習を進めることとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	経営学系	商法演習Ⅰ	本演習では、会社法を機能的に理解するために必要な文献（外国語文献含む）の内容を受講者に報告・解説してもらう。法ルールが企業の経済活動に与える影響を正確に理解するためには、機能的な観点からのアプローチが必要になるからである。 具体的には、法の経済分析に関する文献を取り上げ、ある法ルールが人々の行動やインセンティブにどのような影響を与えるのかを考える。
		商法演習Ⅱ	本演習では、会社法に関する実証分析の論文（外国語文献含む）の内容を受講者に報告・解説してもらう。法ルールが企業の経済活動に与える影響を正確に理解するためには、実証的なアプローチが必要になるからである。 具体的には、コーポレート・ガバナンスや敵対的買収に関する論文を取り上げ、どのような法制度が望ましいのかを考えていく。
	税法演習Ⅰ	租税法という法学は、総合法学ないしは応用法学的性格を有している。租税法は憲法や民法等の基本的な法分野と密接に関係し、我々の生活に深く関わっており、避けて通ることは出来ない分野である。そうであるから故に独特の難しさがある。本講義では、わかりにくい法分野である租税法というものを題材として用いて、公法を中心にして（私法もちろん含むが）、「応用演習」を行う。そのような「応用演習」を行うことを通じて、我々の生活に大きな影響を与えるとともに、ほぼすべての人が当事者となる租税について、その基本的知識と思考方法の理解を図る。	
	税法演習Ⅱ	本演習では、税法演習Ⅰで学んだことを受けて、具体的な事例を踏まえて、租税争訟事例につき、どのような解決方法があるのかにつき納税者の側に立った立論が出来るようになることを学ぶ。 受講者と要相談の上、取り上げるテーマは最終的に決めたいと考えているが、タックスプランニングの一端を「税法の専門家」として出来るようになることを目指す。 テーマとしては、離婚における財産分与の課税問題、財産評価通達の問題点、税務調査と修正申告の問題点等々が挙げられる。	
	会社法演習Ⅰ	会社法演習Ⅰにおいては、会社法分野の諸問題について検討することで、当該分野に関する理解を深めていくことを目標とする。なお、会社法演習Ⅰでは、特に、当該分野における基本的な問題を取り扱う。 受講生は、各自報告するテーマを決め、報告、質疑応答等を通して当該テーマの議論を深める。	
	会社法演習Ⅱ	会社法演習Ⅱにおいては、会社法分野の諸問題について検討することで、当該分野に関する理解を深めていくことを目標とする。なお、会社法演習Ⅱでは、会社法演習Ⅰで取り上げなかった問題を取り扱う。 受講生は、各自報告するテーマを決め、報告、質疑応答等を通して当該テーマの議論を深める。	
	金融取引法演習Ⅰ	金融取引法に関する（最高裁）判例および（下級審）裁判例を素材に、発表と議論を行う。判例・裁判例に対する学修方法を学び、実践し、修得する。当該判例・裁判例の理論的な位置付け等を明確にし、適用範囲（射程）等も考えていく（当該判例・裁判例の事実特性等）。金融取引法演習Ⅰでは、特に、預金、融資を扱い、融資のなかでも、担保・保証等に力点を置く。	
	金融取引法演習Ⅱ	金融取引法に関する（最高裁）判例および（下級審）裁判例を素材に、発表と議論を行う。判例・裁判例に対する学修方法を学び、実践し、修得する。当該判例・裁判例の理論的な位置付け等を明確にし、適用範囲（射程）等も考えていく（当該判例・裁判例の事実特性等）。金融取引法演習Ⅱでは、特に、融資、送金・代金取立て、手形・小切手等を扱い、融資のなかでも、債権回収・管理等に力点を置く。	
	デザイン系	デザインマネジメント特論演習	・デザインマネジメントはデザインを幅広く総合的に捉え、企業や組織において、戦略的に活用・統合を図る概念である。一般的には企業のコーポレートアイデンティティ、商品戦略の確立するためのデザイン組織としてのマネジメント能力について言及されることが多いが、デザインを一つの活動の軸として捉えることで、企業や組織に限らず、個人々の活動としても応用できる考え方である。 ・演習では、デザインマネジメントの事例研究とともに、履修者の研究科における研究内容を踏まえて個別に課題を設定、デザインマネジメントを実践するにあたっての考え方や表現力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の更なる向上を図る。 【達成目標】 ・デザインマネジメントの概念を理解する。 ・デザインマネジメントを実社会の活動に適用する準備ができる。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共創経済プログラム専門科目	デザイン系	デザイン特別演習A	<p>〈概要〉 視覚情報を用いたコミュニケーション手法について学ぶ。</p> <p>〈目標〉 作品の発想・設計・制作と、完成後の成果が有する狙いや特徴が論理的に一貫する制作姿勢を身につけることが目標である。</p> <p>〈授業の流れ〉 視覚情報の基本要素である文様について文献調査を行い、伝統的意匠について理解を深める。地域の歴史的文化施設を調査し、文様を収集・分析する。調査をもとに基本エレメントを作成、線の太さや配置関係などのパラメーターを変化させてオリジナル文様を作成する。最後にこれを具体的な商品に展開する。</p>	
		デザイン特別演習B	<p>〈概要〉 デザインの本质を見据えた、プロダクト（トランスポート）研究を推進する。</p> <p>〈目標〉 修士課程修了制作準備のため、その前段階として、現代において進化するデザイン（プロダクト&トランスポート）探求とデザインの本质を見据えた、実践的かつ社会価値のあるプロダクト（トランスポートも含む）研究を推進する。</p> <p>本授業は演習科目。 修士課程修了制作準備のための基盤となるプロダクトアプローチを学ぶ。</p>	
		デザイン特別演習C	<p>すべてのクリエイティブ行為は、自分のメッセージを相手に伝えることをともなう。そこで大切なことは『何を伝えるか?』『どう伝えるか?』。課題研究で取り組んでいる研究・制作においても、社会においても、有益な結論へ着地するために様々なファクターやキーワードを整理・分析し、客観的なエビデンスを導く調査・実験が繰り返されるが、この演習では、その分析・考査結果を、効果的に伝えるためのデザイン思考とプレゼンテーション構築を行う。</p>	
		文化資源特論	<p>文化資源特論では、文化資源と地域社会との相互作用について考察する。そこで文化を支える制度や主体（行政、企業、NPOなど）に着目し、その意義と役割を明らかにする。そして地域課題の解決に向けた、地元住民による文化資源の認識、評価、活用プロセスを概観し、地域活性化へのダイナミズムと関わらせながら検討する。</p>	
		文化資源特論演習	<p>文化資源特論で学んだことを基礎として、文化資源を活用した具体的な企画手法を学ぶ演習を行う。特定地域のフィールドワークによって、地域に存在する主体とその地域の文化を支える制度を概観しながら、文化資源を表出化し、活用策を探る。理論と実践の両面から理解を深め、文化資源を活かした地域活性化の実践的能力の修得を目指す。</p>	
共創経済プログラム専門科目	特別研究	課題研究 I	<p>〈概要〉経済学、経営学を専攻する学生に対し、各々の指導教員が研究テーマに沿った修士論文の執筆に必要な研究指導を行う。</p> <p>(1 青木 一益) 課題研究 I では、政治学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(4 秋葉 悦子) 課題研究 I では、刑罰制度、および生命と医療に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(6 岩内 秀徳) 課題研究 I では、受講生の修士論文のテーマと関連した国際経営に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(8 上東 正和) 課題研究 I では、原価企画、ABC（活動基準原価計算）、品質原価計算、ライフサイクルコストリング、BSC（バランスドスコアカード）など管理会計に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(10 王 大鵬) 課題研究 I では、アジア経済論、中国経済論、通商政策論に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(17 小柳津 英知) 課題研究 I では、国民経済に比較した地域経済の特徴に関し、2008SNAや産業構造の決定要因を学びつつ、国と県・市のマクロデータの比較等によって把握する。さらに先行研究を踏まえ、特定の地域経済の特徴を明らかにする事で修士論文を作成する。</p> <p>(18 香川 崇) 課題研究 I では、フランス民法、わが国の民法の起草過程及びわが国における判例・学説の展開に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	特別研究 課題研究 I	<p>(19 垣田 直樹) 課題研究 I では、国際貿易理論あるいは国際貿易理論を基礎とした受講生の選択した研究テーマに沿った文献を、レジュメ作成、プレゼンテーション、質疑応答を通じて理解した上で、修士論文を作成する。</p> <p>(20 唐渡 広志) 課題研究 I では、受講生が関心のあるデータを基に計量経済的手法に関する課題設定、情報収集および調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(22 岸本 壽生) 課題研究 I では、国際ビジネスに関する文献研究をしながら、対外直接投資や多国籍企業に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(26 坂田 博美) 課題研究 I では、消費者行動に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。消費者行動研究に必要な基礎知識を修得し、受講者の問題意識に基づき、消費者行動に関するさまざまなデータ収集を行う。</p> <p>(30 白石 俊輔) 課題研究 I では、数理最適化に関する実務データの情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(34 高山 龍太郎) 課題研究 I では、地域社会と青少年育成の関係をめぐる諸問題に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(36 竹地 潔) 課題研究 I では、受講生が関心を抱く労働法のテーマに関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(43 鳥羽 達郎) 課題研究 I では、マーケティングの学際的な研究に取り組む。研究方法の基礎知識を身に付けると同時に、マーケティングの専門知識を幅広く習得することを目標とする。マーケティングの基礎理論や方法論にかかわる文献の輪読を通じて体系的な知識を習得しながら問題意識や研究課題を明確にし、修士論文を作成する。</p> <p>(47 中村 和之) 課題研究 I では、受講生の研究テーマを巡る最新の研究動向について情報収集を行うとともに、理論的・実証的な調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(48 中村 真由美) 課題研究 I では、社会学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(51 橋口 賢一) 課題研究 I では、2020年4月に大改正された民法（債権関係）の「主要な点」に関して、新規定が従来の法状況にいかなる変化をもたらすのか、またどのような理由からそのような改正がなされたのかという点を念頭において情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(53 平野 真由) 民事法を中心に、民法、倒産（破産・民事再生等）法、民事執行・保全法、民事訴訟法、手形・小切手法等、多様な法と関わります。発表と議論をつうじ得る、金融取引に関する情報収集や調査研究等から、修士論文を作成します。</p> <p>(55 本間 哲志) 課題研究 I では、銀行業の産業組織に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(56 馬 駿) 課題研究 I では、組織と人材のマネジメントに関する研究課題に関連する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(57 松井 隆幸) 課題研究 I では、日本産業論に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(58 モヴシュク オレクサンダー) 課題研究 I では、計量経済学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(60 森口 毅彦) 課題研究 I では、管理会計論に関する受講者の研究テーマに関連した情報・資料収集を行い、それに基づく基礎的研究・先行研究を通じて研究目的を明確にするとともに問題点の整理・明確化を図り、修士論文を作成する。</p> <p>(61 両角 良子) 課題研究 I では、社会保障分野のトピックスの中で学術的に考察するテーマを定め、定めたテーマについて情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	課題研究Ⅰ	<p>(62 柳原 佐智子) 課題研究Ⅰでは、先行研究の文献や具体的な事例を用いて、理論的または実証的実践的に情報システムとそこで扱う情報の管理・戦略および行動に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(65 横山 一憲) 課題研究Ⅰでは、オペレーションズ・リサーチの一分野である非線形最適化に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(66 龍 世祥) 課題研究Ⅰでは、環境産業の拡大に伴う産業構造の転換と環境産業論の構築などの研究課題に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(76 岩本 学) 課題研究Ⅰでは、国内外の国際民事訴訟法・国際私法に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(78 大坂 洋) 課題研究Ⅰでは、ミクロ経済学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(81 神野 賢治) 課題研究Ⅰでは、スポーツ社会学、スポーツ経営学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(83 小寺 剛) 課題研究Ⅰでは、関心のある公共政策について関連文献の精読・情報収集や経済学的な分析を行い、受講者の進捗・成果の報告およびそれに対する議論による指導を通じて修士論文を作成する。</p> <p>(84 櫻田 貴道) 課題研究Ⅰでは、組織論的視点から経営学および経営現象に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(101 増田 友樹) 課題研究Ⅰでは、会社法に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(102 松山 淳) 課題研究Ⅰでは、政治経済学に関する文献の情報収集や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(103 眞部 典久) 課題研究Ⅰでは、受講者の研究テーマに関連のある国内外の主要な管理会計および隣接分野のジャーナルおよび著書から情報を収集して先行研究を整理するとともに、研究テーマに適した研究方法（定性的研究、定量的研究）の検討と選定を行い、修士論文を作成する。</p> <p>(107 矢島 桂) 課題研究Ⅰでは、経済学研究における歴史学的実証を学び、一次史料を調査・収集・整理し史料批判を行なった上で、それをもとに修士論文を作成する。</p> <p>(109 山田 潤司) 課題研究Ⅰでは、マクロ経済学に基づいた金融に関する論文精読や調査研究等を行い、修士論文を作成する。</p>	
	課題研究Ⅱ	<p>(概要) 経済学、経営学を専攻する学生に対し、各々の主指導教員が研究テーマに沿った修士論文の完成に必要な研究指導を行う。</p> <p>(1 青木 一益) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、政治学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(4 秋葉 悦子) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、刑罰制度、および生命と医療に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(6 岩内 秀徳) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、テーマと関連して、より細分化された国際経営に関する指導サポートを行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(8 上東 正和) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、原価企画、ABC（活動基準原価計算）、品質原価計算、ライフサイクルコストリング、BSC（バランススコアカード）などの管理会計研究を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(10 王 大鵬) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、課題と関連する文献のサーベイ、調査研究、論文の報告を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(17 小柳津 英知) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰの成果を基に、さらに地域の産業連関表の利用や回帰分析等の実証作業によって修士論文を完成させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	特別研究 課題研究Ⅱ	<p>(18 香川 崇) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、フランス民法、わが国の民法の起草過程及びわが国における判例・学説の展開に関する調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(19 垣田 直樹) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、国際貿易理論あるいは国際貿易理論を基礎とした応用研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(20 唐渡 広志) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、論文目的の明確化と計量経済的手法の吟味を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(22 岸本 壽生) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、国際ビジネスならびに多国籍企業の分析を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(26 坂田 博美) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、消費者行動に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(30 白石 俊輔) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、実務データに基づく最適化の分析を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(34 高山 龍太郎) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、地域社会と青少年育成の関係をめぐる諸問題に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(36 竹地 潔) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、さらなる考察を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(43 鳥羽 達郎) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、マーケティング論、流通論に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(47 中村 和之) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、財政学、公共経済学に関する理論的・実証的な研究を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(48 中村 真由美) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、社会学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(51 橋口 賢一) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、改正された民法（債権関係）の「主要な点」に関して、法制審議会の議事録やそこで参照された他国の法状況などへも目配せしながらさらなる情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(53 平野 真由) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、引続き金融取引法に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(55 本間 哲志) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、銀行業の産業組織に関する理論及び実証研究を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(56 馬 駿) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、組織と人材のマネジメントに関する研究課題に沿って事例分析やデータ分析等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(57 松井 隆幸) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、日本産業論に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(58 モヴシュク オレクサンダー) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、計量経済学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(60 森口 毅彦) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰの研究成果を踏まえ、引き続き管理会計論に関する受講者の研究テーマに関連した資料・データ収集や調査研究等を行うとともに、修士論文の報告とディスカッションを通じて、問題点の整理・明確化を図り、修士論文を完成させる。</p> <p>(61 両角 良子) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、社会保障分野のトピックスの中で学術的に考察するテーマについて情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共創経済プログラム専門科目	特別研究 課題研究Ⅱ	<p>(62 柳原 佐智子) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、先行研究の文献や具体的な事例を用いて、理論的または実証的実践的に情報システムとそこで扱う情報の管理・戦略および行動に関する追加の情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(65 横山 一憲) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、非線形最適化の理論側面に修正を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(66 龍 世祥) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、環境産業のメカニズム分析を主眼とする研究テーマの設定、問題意識の整理、先行研究の把握、内容構成の整合と論文執筆の進行などの報告に対して、討議と指導を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(76 岩本 学) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、国際民事訴訟法・国際私法に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(78 大坂 洋) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、ミクロ経済学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(81 神野 賢治) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、スポーツ社会学、スポーツ経営学に関する情報収集や調査研究等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(83 小寺 剛) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、関心のある公共政策について関連文献の精読・情報収集や経済学的な分析を行い、受講者の進捗・成果の報告およびそれに対する議論による指導を通じて修士論文を完成させる。</p> <p>(84 櫻田 貴道) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、組織論的視点から経営学および経営現象に関する情報収集や調査研究、分析および考察等を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(101 増田 友樹) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、会社法の調査研究等を行い修士論文を完成させる。</p> <p>(102 松山 淳) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、先行研究の整理、分析および論文執筆を進め、修士論文を完成させる。</p> <p>(103 眞部 典久) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰに基づき調査研究を企画・計画・実施し、収集したデータの分析結果について議論を重ね、管理会計研究における理論的な貢献と管理会計実践へのインプリケーションの提示を行い、修士論文を完成させる。</p> <p>(107 矢島 桂) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、一次史料を調査・収集・整理し史料批判を行なった上で、それをもとに修士論文を完成させる。</p> <p>(109 山田 潤司) 課題研究Ⅱでは、課題研究Ⅰを元に引き続き、マクロ経済学に基づいた金融に関する研究を行い、修士論文を完成させる。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。